

JSS遠隔監視システム PRO



取扱説明書

JAPAN SECURITY SYSTEM
Safety and trust keep to the future

目次

第1章 – 概要	4
特徴.....	4
システムの構成図.....	6
第2章 – インストール	7
製品情報	7
システムの要求事項.....	7
インストール	9
自動アップグレード.....	18
アンインストール	21
第3章 – 開始	22
サービス実行.....	22
ログイン	22
サービス登録.....	23
デバイスの登録	24
デバイスの登録	28
録画.....	28
録画映像再生	31
第4章 – システムの概要	33
ライセンス.....	33
サービス管理者	37
設定	43
クライアント.....	53
第5章 – リアルタイム映像監視	71
映像監視	71
マップ監視.....	83
ブラウザ実行	84
カメラの制御	85
マップの制御.....	96
第6章 – 録画	99
ストレージ設定.....	99
一般録画スケジュールの設定.....	102
スマートフェールオーバー録画設定.....	112

第7章 – 録画映像再生及び動画で保存	113
録画映像再生	113
録画映像を動画で保存	121
第8章 – イベント処理	127
リアルタイムイベント	127
イベント録画映像.....	130
第9章 – デバイス状態の監視	131
システムの動作状態の監視.....	131
デバイス検査.....	132
デバイス状態の監視.....	133
自己診断	133
第10章 – ログ検索	135
第11章 – ストリーミング	137
第12章 – 映像分析	139
サービスの管理.....	139
映像分析検知イベント設定 (AI)	140
第13章 – デバイス管理	142
デバイスの登録	144
デバイスの管理	148
ONVIFプロトコルデバイスの遠隔設定	160
第14章 – ユーザー管理	163
第15章 – ストレージ管理	167
第16章 – イベント管理	174
イベント管理スケジュール設定	174
イベント管理	185
第17章 – マップエディター	188
マップの登録.....	188
マップ設定	190
第18章 – ビデオウォールサービス	194
ビデオウォールサービス登録.....	194
サービスの起動.....	194
ビデオウォールエージェントシステム登録.....	196
ビデオウォールエージェント	199
システム設定	199

ビデオウォールエージェント	199
システム接続	199
第19章 –録画映像バックアップ.....	201
サービス実行	201
バックアップサービス登録	201
バックアップサイト追加	203
バックアップサイト追加	203
ストレージを割り当てる	205
バックアップ映像再生及び動画で保存	208
第20章 –VAボックス.....	209
接続と検索	209
ピープルカウント	211
キューマネジメント	212
ヒートマップ	213
第21章 –RTPストリーミングサービス	214
サービス実行	214
サービス登録	214
RTSP URL のルール	215
RTSP クライアント接続時のご注意	215
第22章 –A-カット監視パネル.....	216
画面構成	216
第23章 –付録.....	225
ショートカットキー	225
イベント録画モードのスケジュール設定例	231
OSD情報	234
ハードディスクの状態表示	234
ネットワーク接続解除ログ	235
映像分析検知のための正しいカメラ設定	235
トラブルシューティング(Q&A).....	237

第1章 – 概要

本ユーザーマニュアルは、JSS遠隔監視システムPROの使用方法を記述しています。

- 本製品には一部オープンソースを使用したソフトウェアが含まれています。ライセンスポリシーに基づいたソース公開サポートの有無によって、当該ソフトウェアのソースコードをお求めの場合、ご提供いたします。詳細は、クライアントメニュー - 情報タブをご確認ください。本製品にはUniversity of California, Berkeleyが開発したソフトウェア及びOpenSSL Projectが開発したOpenSSL ツールキット用ソフトウェアが含まれています(<http://www.openssl.org/>)。また、本製品にはEric Young (eay@cryptsoft.com)が作成したソフトウェアとTim Hudson (tjh@cryptsoft.com)が作成したソフトウェアが含まれています。
- 本製品は下記URLに掲載されている特許の1つ以上の請求項の権利範囲に含まれています。
patentlist.accessadvance.com

特徴

JSS遠隔監視システムPROは、映像監視、監視映像の録画及び録画映像の再生のためのソフトウェアで、次のような特徴があります。

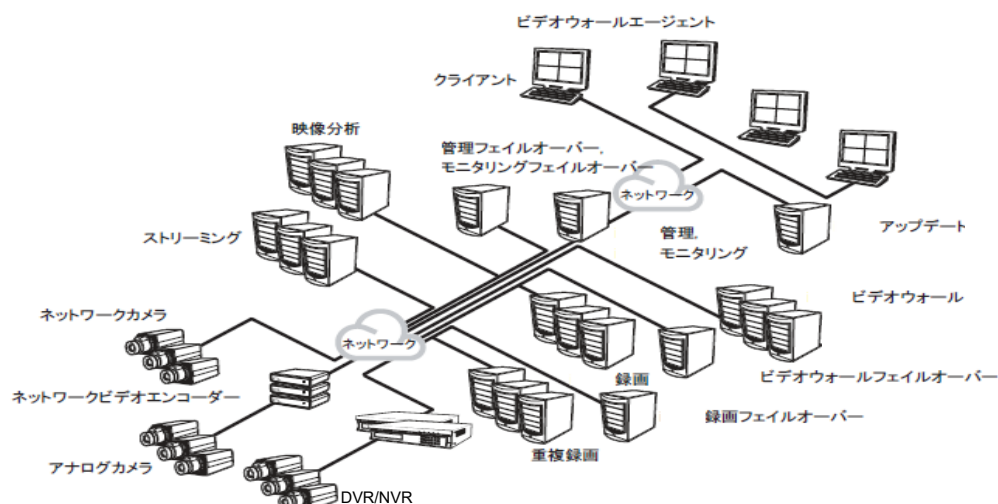
- リアルタイム映像の遠隔監視
- ストリーミングサービスを通じてリアルタイム映像を多数のクライアントシステムで遠隔監視(別のWIBUキーを追加していない場合、ストリーミングが可能なチャンネル数は録画可能なチャンネル数と同じ)
- ロードバランシング機能を通じて安定的なストリーミングサービス提供(ストリーミングサーバーが2個以上である場合)
- 映像分析サービスを通じてリアルタイム映像の映像分析機能支援
- JSS遠隔監視システムPROに同時接続機能(最大64名)
- ソフトウェアの遠隔アップグレード及びシステムの一括遠隔設定(該当機能を提供するデバイスの場合にのみ対応)
- システムログ表示(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)
- リアルタイム映像のマップ監視
- 制御システムでのシステム運営及び管理、イベント処理が容易
- H.265、H.264、MPEG-4、M-JPEG復元アルゴリズムをサポート
- セキュリティのためにSSL機能をサポート
- 双方向オーディオ通信をサポートし、遠隔対話が可能及びオーディオブロードキャスト対応
- セキュリティのためにユーザーグループ別に権限設定
- ネットワークキーボードを利用した制御
- TCPネットワークを通じたテキストイン及びアラーム機能対応
- 低帯域幅環境で動作
- ユーザー中心の直感的なGUIを提供
- 以下はネットワークカメラ及びネットワークビデオエンコーダ接続時にのみ提供されます。
- 映像録画及び録画映像再生
- 録画性能の向上のために複数の録画サーバーを利用した録画に対応
- 監視映像の瞬間録画/緊急録画機能
- オーディオ録音可能
- 独自の映像データベースファイルのシステムを用いた安定した録画
- 次の機能はDVR/NVR接続時にのみ提供されます。
- DVR/NVR録画映像の再生
- 緊急録画の遠隔制御

- 登録可能なサービス及びデバイス数と録画、ストリーミング、映像分析及びビデオウォール可能なチャンネル数は次の通りです。
- サービスの登録: モニタリングサービス1個、ストリーミングサービス64個、映像分析サービス64個、録画サービス64個、重複録画サービス64個、バックアップサービス64個、ビデオウォールサービス8個、フェイルオーバーサービスの場合、管理、モニタリング、録画、ビデオウォールサービス数の分、登録可能です。ストリーミングサービスの場合、WIBUキーの数及び種類によって登録可能なサービスの数が異なり、RTPストリーミング、バックアップ、ビデオウォール重複録画及びフェイルオーバーサービスの場合は別売りになります。
- デバイス登録: JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用しないデバイスを含め最大1,024個のデバイス(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用しない装置の場合、録画可能なカメラの台数とストリーミングが可能なカメラの台数のうち台数の多い値で登録が可能。例えば、録画可能なカメラが4台、ストリーミングカメラが8台である JSS遠隔監視システムPROを購入した場合、JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用しない装置は最大で8台まで登録可能)
- 録画(DVRの場合は対応しない): WIBUキーの数と種類によって異なり、最大4チャンネル~256チャンネル(録画サーバー当り最大256チャンネルの録画対応及び最大64の録画サーバー使用可能)
- ストリーミング: 別途のストリーミングWIBUキーを追加していない場合、ストリーミング可能なチャンネル数は録画可能なチャンネル数と同一(WIBUキーを追加する場合、WIBUキーの数および種類によって最大 512チャンネル ~ 2,048チャンネル)
- 映像分析: 映像分析サービス当り最大64チャンネル
- 録画及びストリーミングが可能なチャンネル数は購入先にお問い合わせ下さい。
- デバイスがJSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用する4チャンネルNVRである場合、カメラの使用と関係なく、4つのカメラが全て録画、ストリーミング及び映像分析できるチャンネルに含まれます。従って1つのデバイスを登録する時、録画、ストリーミング及び映像分析できるチャンネルの数が一回で4つずつ減ります。
- より安定的な録画をするためにフォーマットされていない新しいハードディスクドライブまたはフォーマットされた場合、パーティションおよびファイルシステムが削除されたハードディスクドライブを追加することをお勧めします。ハードディスクドライブのパーティションおよびファイルシステム削除に関する詳しい内容は、PC/サーバーのメーカーのユーザーマニュアルを参照してください。
- ストリーミング、録画またはバックアップ可能なチャンネル数によってWIBUキーは区分されます。可能なチャンネル数を増やすためには、WIBUキーを追加購入することで増やすことができます。
- より優れた監視システム構築のためにバックアップ及び連合ソフトウェアが支援されます。そのソフトウェアの購入及び詳しい内容は、ソフトウェアの購入先にお問い合わせください。
- 本文書に収められた情報の完結性と正確性を検証するため、最善を尽くしておりますが、保障はいたしかねます。本文書の使用結果による責任はユーザーにあります。また、事前の連絡なく情報が変更されることもあります。

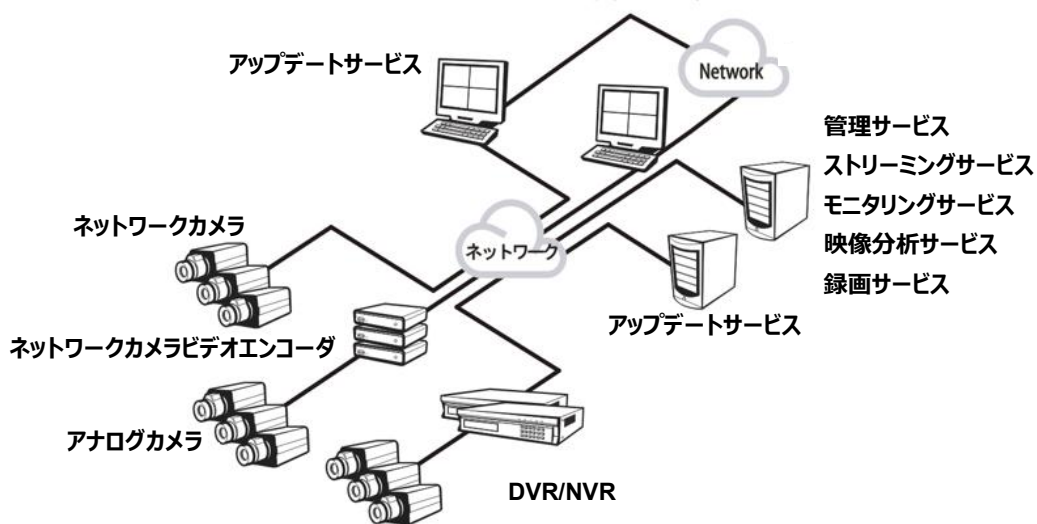
第1章 - 概要

システムの構成図

- マルチサーバー



- 管理サービス、モニタリングサービスをそれぞれ別のPCで実行することもできます。
- アップデートサービスはクライアントPCまたは他のJSS遠隔監視システムPROがインストールされているPCで実行することもできます。
- 単一サーバー



- 256個以上のデバイスが登録された場合、プログラムの設定変更に時間がかかることがあります。
- 録画、ストリーミング、映像分析サービスはそれぞれ違うPCで実行することを推奨します。
- アップデートサービスはクライアントPCまたは他のJSS遠隔監視システムPROがインストールされているPCで実行することもできます。

第2章 – インストール

製品情報

構成

- ユーザーマニュアル
- ライセンスキー(WIBUキーまたはシリアルナンバー)
 - WIBUキー(USB dongle)の場合管理サーバーに最大8つのWIBUキーが接続できます。
 - 管理サーバーからWIBUキーを取り除くと、JSS遠隔監視システムPROが正しく動作しません。
 - WIBUキーの接続または取り除く際、まず全てのサービスを終了してください。

システムの要求事項

サーバーシステム

	推奨仕様
OS	Microsoft Windows 11 (Home, Pro, IoT Enterprise LTSC)、 Microsoft Windows Server 2019
CPU	Intel Core i5-3570 3.30GHz /Intel Xeon E3級以上 (4cores 以上)
RAM	4GB 以上
ハードディスク	各サービスに対して2GB以上の空き容量(例: 管理サービス、モニタリングサービス設置時4GB以上)
LAN	Gigabit Ethernet以上

クライアントシステム

	推奨仕様	最低仕様	魚眼映像の歪み補正 推奨仕様	画像解析サーバー推 奨仕様
OS	Microsoft Windows11 (Home, Pro)、Windows Server 2019 以上	Microsoft Windows11 (Home, Pro)、Windows Server 2019 以上	Microsoft Windows11 (Home, Pro)、Windows Server 2019 以上	Microsoft Windows11 (Home, Pro)
CPU	Intel Core i7-7700 3.6GHz 以上	Intel Core i3-2100 3.1GHz 以上	Intel Core i7-3770K 3.40GHz以上	Intel Core i7-8770 3.20 GHz以上
RAM	8GB 以上	2GB以上	8GB以上	8GB以上
VGA	NVIDIA GeForce GTX1060 または Quadro P2000 以上 (1920x1080x32bpp 75Hz 以上)、マルチモニター	NVIDIA GeForce GT730 (1280x1024x24bpp 60Hz) または Intel HD Graphic 530 以上 (1280x1024x24bpp 60Hz) or Intel® HD Graphic 530 or higher	ADM Radeon HD 7700またはNVIDIA GeForce GTX650以上 (1280x1024、32bpp 以上)	NVIDIA GeForce GTX 1070Ti 8GB (1920x1080, 6Mbps, 30ips 16-チャンネル対応) / NVIDIA GeForce RTX 2060 Super 8GB (640x360, 0.1Mbps, 5ips 64-チャンネル対応)
ハードディスク	8GB 以上の空き容量	4GB 以上の空き容量	6GB以上の空き容量	6GB以上の空き容量
LAN	10/100Mbps Ethernet以上	10/100Mbps Ethernet以上	Gigabit Ethernet以上	Gigabit Ethernet以上
NOTE				画像解析サービス単独インストール

- ビデオウォールエージェントで6台のモニターを使用する場合、VGA 1GB以下の製品を使用するとメモリー不足によって問題が発生する可能性があります。詳しい内容は、ご購入の販売店までお問い合わせください。
- OSのバージョンによって、Internet Explorerを使用する一部機能が動作しない場合があります。詳しい内容は、ご購入の販売店までお問い合わせください。
- 本ユーザーマニュアルで“サーバー”または“サーバーシステム”とは、JSS遠隔監視システムPROサービスが実行中のPCのことであり、“クライアントシステム”とは“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムが実行中のPCのことです。
- JSS遠隔監視システムPROの各サービスは64-bitで設置および動作します。

インストール

- 映像の録画、監視及び再生時の性能をより良くするため、録画、ストリーミング及び映像分析サービスをそれぞれ別のPCにインストールすることをお勧めします。
- PCのWindows節電機能を使用しないように設定して下さい(コントロールパネル → “電源オプション” → “ディスプレイの電源を切る時間の指定”と“コンピュータがスリープ状態になる時間を変更”を“適用しない”に設定)

旧バージョンのJSS遠隔監視システムPROが既にインストールされている場合、ソフトウェアをアップグレードするかどうかを問うインストール画面が表示されます。その場合、インストール画面の指示に従ってソフトウェアをアップグレードしてください。

警告：ソフトウェアバージョンをアップグレードする場合、他社の製品との互換性の問題が発生することがあるため、ご注意ください。

Windowsのスタートメニューのコントロールパネルに移動後、“電源”オプションで、“モータ節電モード”と“ハードディスク節電モード”を“使わない”に設定してください。

サーバーシステム

管理サーバー

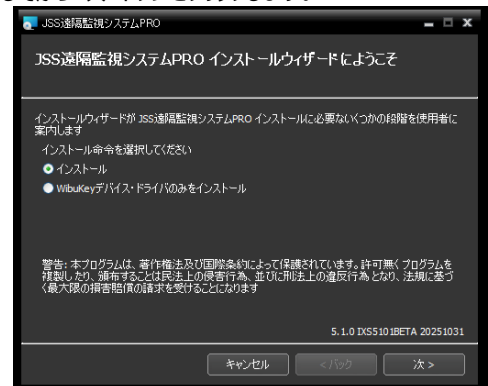
- 1 ソフトウェアのインストールを準備します。
- 2 管理サーバーでソフトウェアインストールCD の“Setup”のフォルダーの下にある“Setup.exe”ファイルを実行します。
ユーザーアカウント制御“画面が表示されることがあります。この場合、“許可”ボタンをクリックした後、設定画面の指示に従ってプログラムをインストールします。

- 3 プログラム稼働時に使用する言語を選んだ後、“OK”ボタンをクリックします。

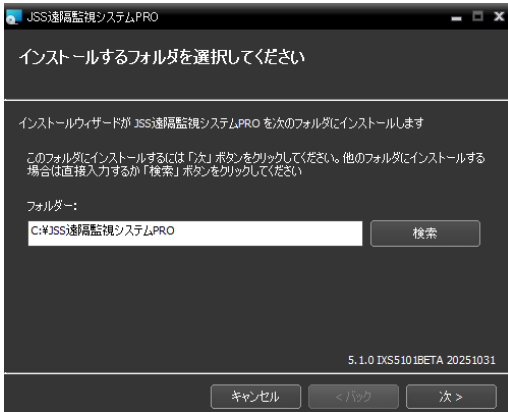


- 選択した言語が正しく表示されるためには、PCがその言語OSをサポートしていなければなりません。
- プログラムをインストールした後、言語を変更するには、プログラムを実行する前に“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO” → “Utility”フォルダーにある“Language Selector”を実行します。

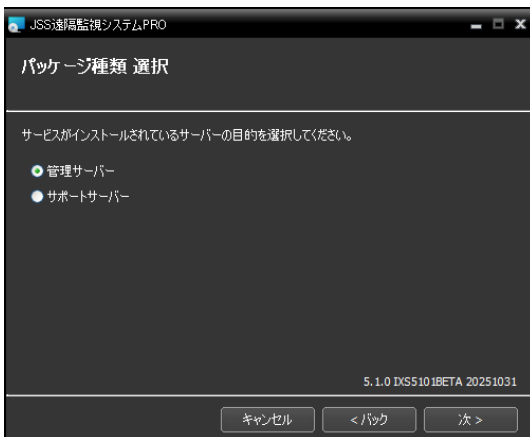
- 4 次のインストール画面が表示されたら、“”を選択してから“次”ボタンをクリックします。



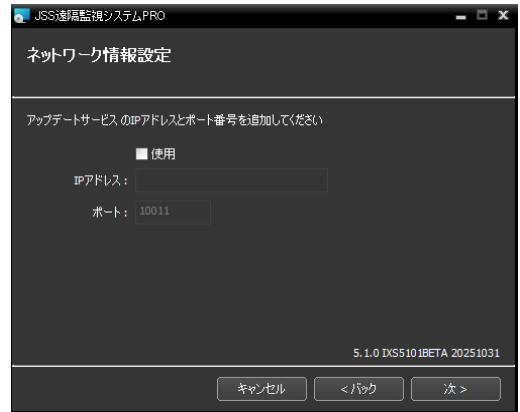
- 5 サービスがインストールされる経路を指定した後、“次”ボタンをクリックします。“ディスク使用量...”ボタンをクリックすると各ハードディスクドライブの空き容量及びプログラムインストールのために必要な最低容量が表示されます。



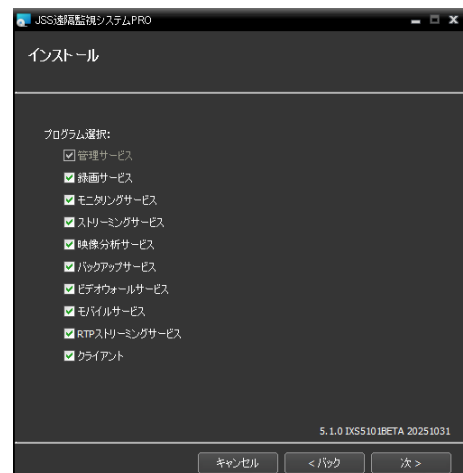
- 6 管理サーバーを選択し、次へボタンをクリックします。
モニタリングサービス、ウェブサービスは管理サーバーがインストールされた管理サーバーでのみインストール可能であり、サーバーおよびサポートサーバーからはインストールできません。



- 7 アップデートサービスを使用する場合、管理サービスをインストールする時、アップデートサーバーのIPアドレス及びポート番号の入力が要求されます。
 この設定はインストール完了してからサービス管理者プログラムで変更する事ができます。

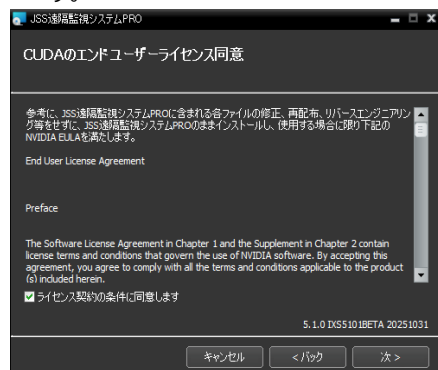


- 8 インストールしようとするサービスを選択した後、次

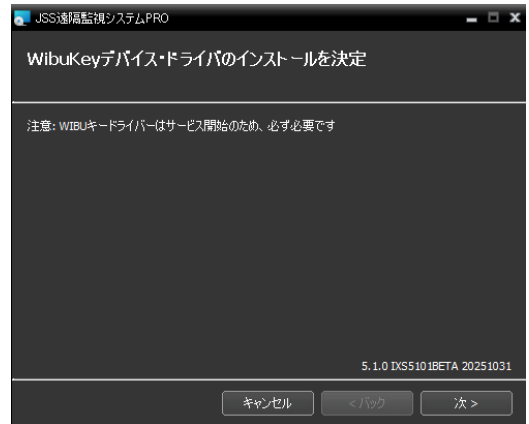
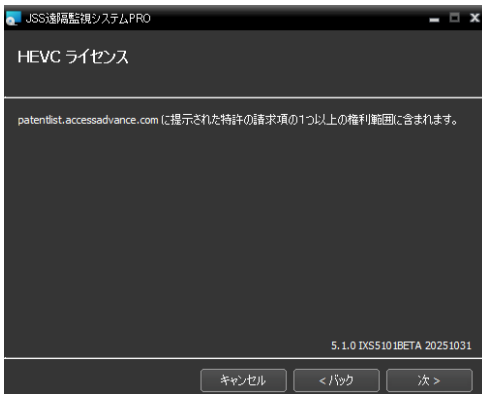


ボタンをクリックしてください。

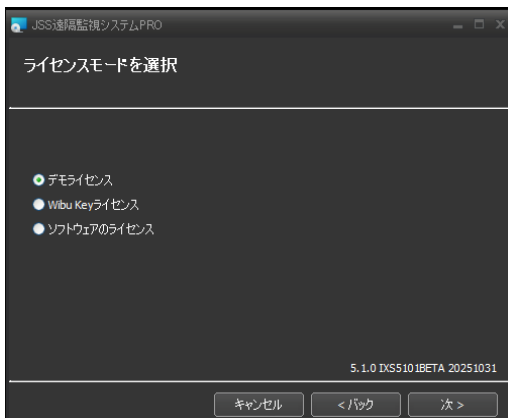
- 9 画像解析サービスとをインストールする場合は、CUDAエンドユーザーのライセンスを確認して“同意する”にチェックした後、次ボタンをクリックします。



- 10 HEVCライセンスを確認して、次ボタンをクリックします。

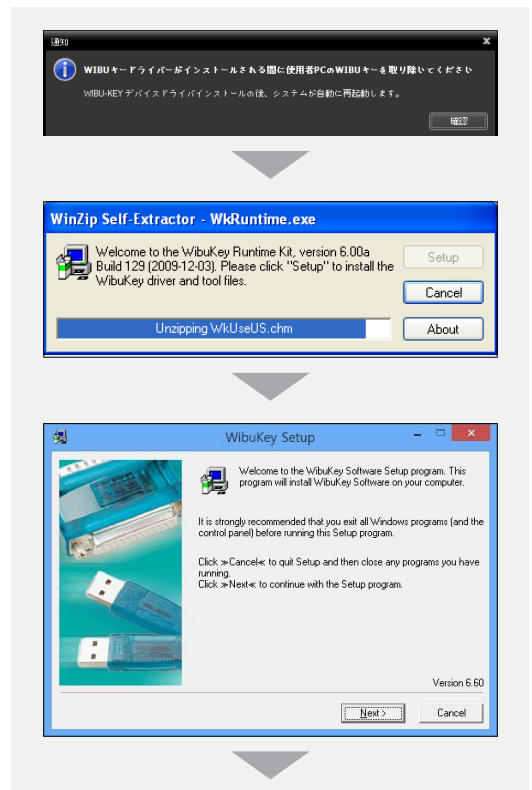


- 11 ライセンスモードを選択して次ボタンをクリックします。本設定は、インストール完了後にサービス管理者プログラムにおいても変更できます。詳しい

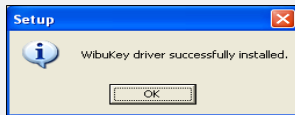
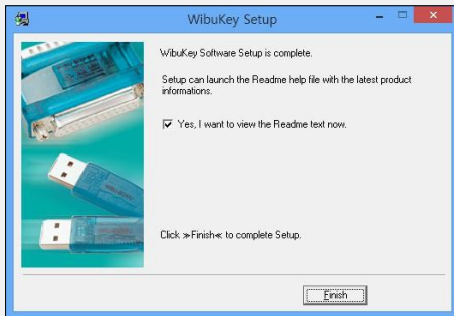


内容は、自動アップグレード項を参照してください。

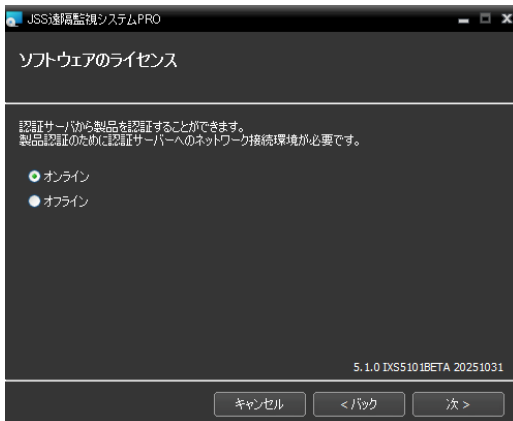
- 12 デモライセンス認証を使用するには“Demo License”を選択し、次ボタンをクリックします。デモライセンス認証を使用するを選択して進めば、ライセンス関連の追加作業は必要ありません。



- 15 ソフトウェアのシリアルナンバーを入力して“次”ボタンをクリックしてください。シリアルナンバーはご購入された販売店にお問い合わせください。

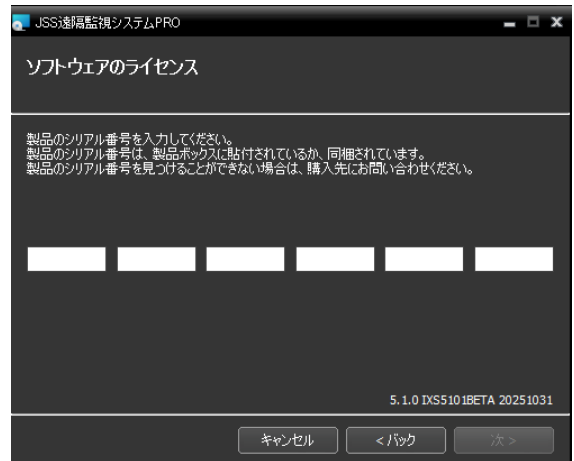


- 13 ソフトウェアライセンスの認証を使用するにはソフトウェアライセンスの認証方法を選択して“次”ボタンをクリックします。認証サーバーとのネットワーク接続が不可能な場合は、「オフライン」を選択してください。

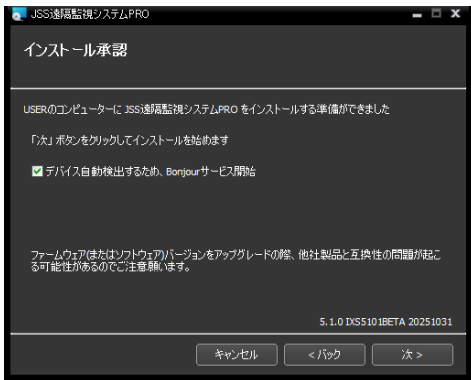


仮想化システムでは、VMware ESXiとHyper-Vファミリーのみ、ソフトウェアライセンス認証をサポートします。詳しい内容はお求めになった販売店までお問い合わせください。

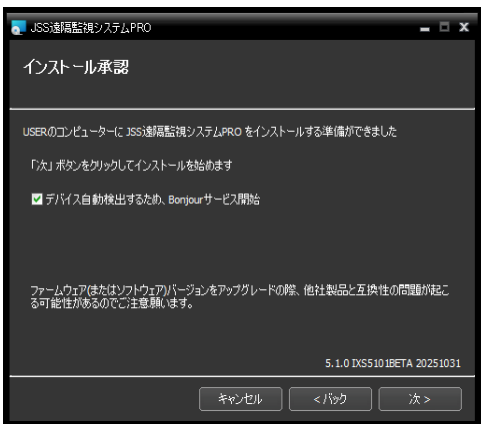
- 20 次のインストール画面が表示されたら、**デバイス自動検索のためのBonjourサービスの開始**設定した**後次**ボタンをクリックします。



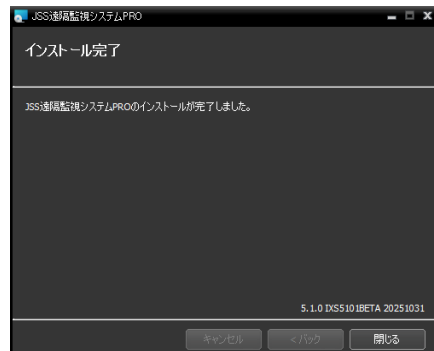
- 16 オンライン認証は、ネットワーク接続によって遠隔認証サーバーからライセンス認証ファイルを受け取り認証することができます。ネットワーク障害等により認証サーバーとのネットワーク接続ができない場合は、「スキップ」ボタンをクリックして認証過程を省略し、次のインストール段階に進んでください。インストール完了後にライセンスツールを利用して認証することができます。
- 17 オフライン認証では、製品情報を保存したファイルをご購入された販売店を通じてライセンス認証ファイルに交換した後に製品認証を行うことができます。
- 18 認証が完了したら現在のライセンス情報を表示します。
- 19 インストールする前にアプリケーションソフトを終了します。画面に表示されているアプリケーションソフトを終了しないと、**次**ボタンが有効になりません。“強制終了”ボタンをクリックしてそのソフトを強制で終了させることができます。強制終了する場合、保存していない内容が失われることがあります。



- 次のインストール画面が表示された場合、“WS-Discovery ウィンドウ サービス (fdPHost、FDResPub)非活性化”項目を選択することをお勧めします。項目を選択しなければ、デバイス登録時にONVIFプロトコルを使用するデバイスの場合、自動検索機能を使用することができません。



- 使用するサービスポートが既に使用されている場合、変更されるポート番号をお知らせします。インストール後サービスが動作する時に変更されたポート番号が適用されます。“NET Framework”と“Visual C++Runtime Libraries”が自動的にインストールされ、インストールする時、時間が少々掛かる場合があります。ユーザーのPCに“NET Framework”及び“VisualC++Runtime Libraries”が既にインストールされている場合、本インストールのプロセスは省略されます。



- 次のインストール画面が表示されたら、“閉じる”ボタンをクリックしてインストールを完了します。

WIBUキー装置ドライブのインストールが完了すると、PCを再起動するかどうかを確認します。

- 管理サーバーにWIBUキーを接続します。

サポートサーバー

- ソフトウェアのインストールCDを準備します。
- 各サーバーでソフトウェアインストールCDの“Setup”のフォルダーの下にある“Setup.exe”ファイルを実行します。

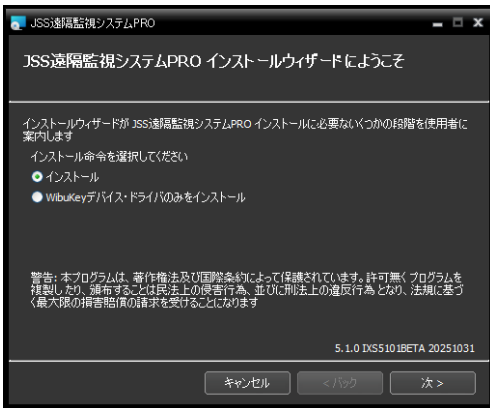
“ユーザーアカウント制御”画面が表示されることがあります。この場合、“許可”ボタンをクリックした後、設定画面の指示に従ってプログラムをインストールします。

- プログラム稼働時に使用する言語を選択した後、“OK”ボタンをクリックします。

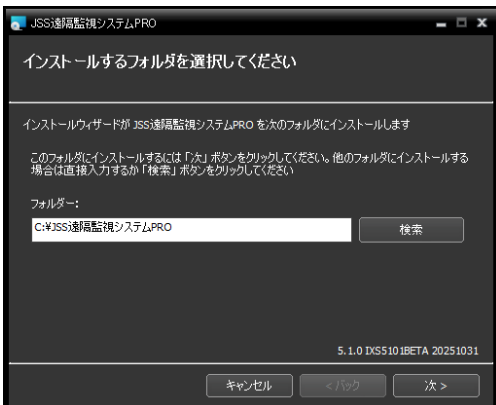


- 選択した言語が正しく表示されるためには、PCがその言語OSをサポートしていなければなりません。
- プログラムをインストールした後、言語を変更するには、プログラムを実行する前に“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO” → “Utility”フォルダーにある“Language Selector”を実行します。

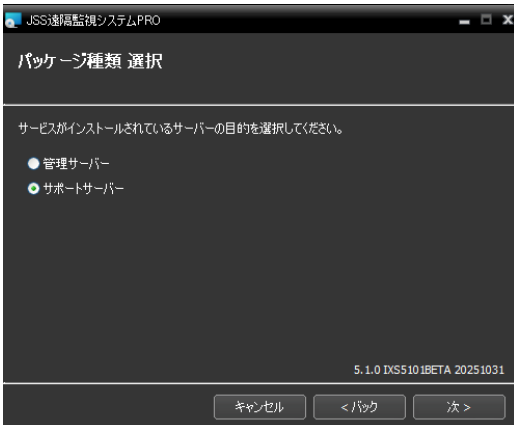
- 4 次のインストール画面が表示されたら、“Install”を選択してから“次”ボタンをクリックします。



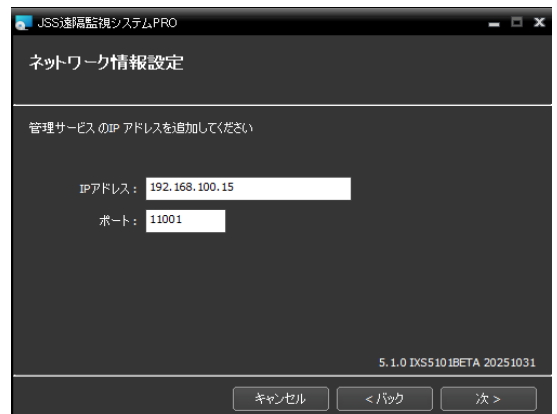
- 5 サービスがインストールされる 経路を指定します。“ディスク使用量…”ボタンをクリックすると各ハードディスクドライブの空き容量及びプログラムインストールのために必要な最低容量が表示されます。“次”ボタンをクリックします。



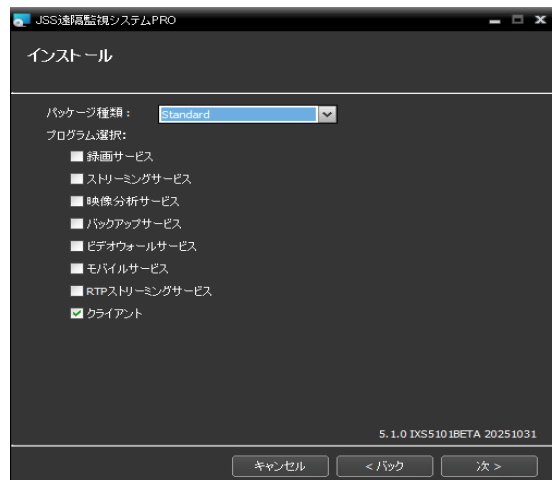
- 6 サポートサーバーを選択し、次ボタンをクリックします。



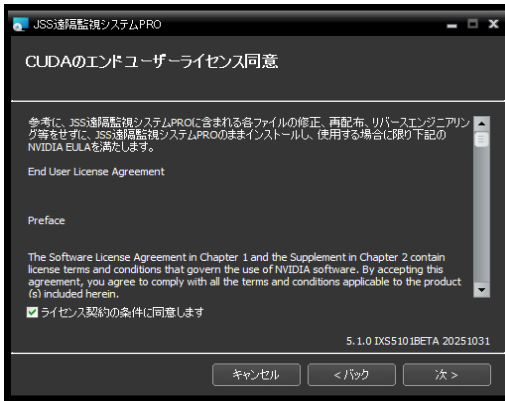
- 7 管理サーバーのIPアドレス及びポート番号を入力した後、“次”ボタンをクリックします。この設定はインストール完了してからサービス管理者プログラムで変更する事ができます。インストールが完了されると各サービスが実行中である場合、ネットワークの接続を通じてそのサービスが管理サービスに接続されます。



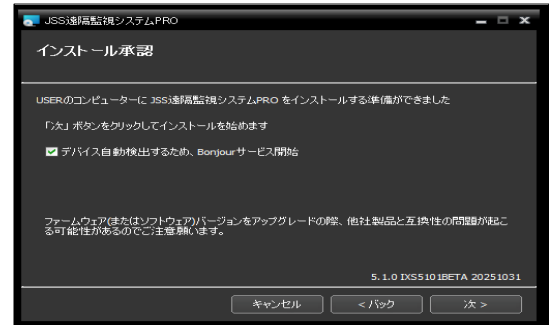
- 8 インストールするサービスを選択した後次ボタンをクリックします。



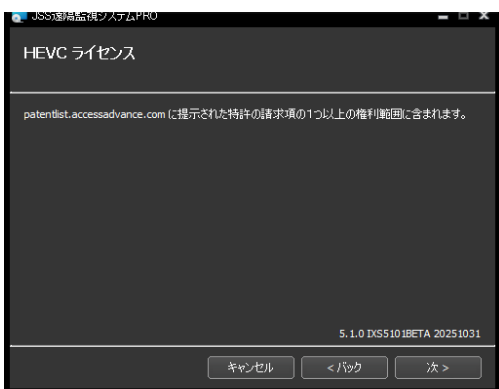
- 9 画像解析サービスとをインストールする場合は、CUDAエンドユーザーのライセンスを確認して“同意する”にチェックした後、次ボタンをクリックします。



- 次のインストール画面が表示された場合、“WS-Discoveryウィンドウサービス(fdPHost, FDResPub)非活性化”項目を選択することをお勧めします。デバイス登録時にONVIFプロトコルを使用するデバイスの場合、自動検索機能を使用することができません。

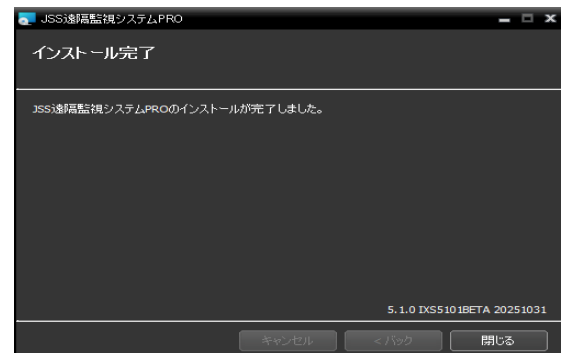


- 10 HEVCライセンスを確認して、次ボタンをクリックします。

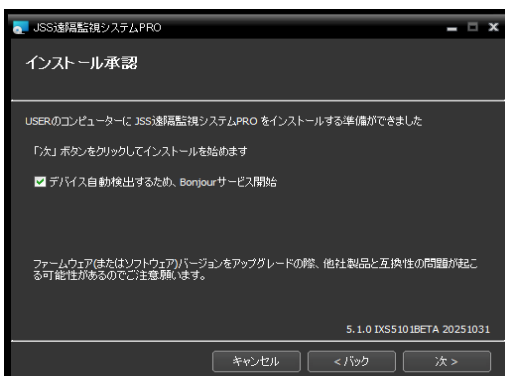



- 使用するサービスポートが既に使用されている場合、変更されるポート番号をお知らせします。インストール後サービスが動作する時に変更されたポート番号が適用されます。
- “NET Framework”と“Visual C++ Runtime Libraries”が自動的にインストールされ、インストールする時、時間が少々掛かる場合があります。ユーザーのPCIに“NET Framework”及び“Visual C++ Runtime Libraries”が既にインストールされている場合、本インストールのプロセスは省略されます。

- 12 次のインストール画面が表示されたら、“閉じる”ボタンをクリックしてインストールを完了します。



- 11 次のインストール画面が表示されたら、デバイス自動検索のためのBonjourサービスの開始設定した後、次ボタンをクリックします。



インストールが終わると、サービスとサービス管理者(タスクバーのタスクエリアに  アイコン表示)および“JSS遠隔監視システムPRO設定”プログラムが自動的に実行されます。

クライアントシステム

- 1 ソフトウェアのインストールCDを準備します。
- 2 クライアントPCでソフトウェアインストールCDの“Setup”のフォルダーの下にある“Setup.exe”ファイルを実行します。

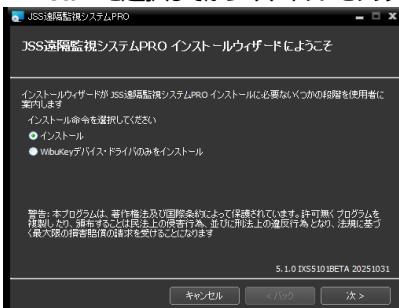
“ユーザーアカウント制御”画面が表示されることがあります。この場合、“許可”ボタンをクリックした後、設定画面の指示に従ってプログラムをインストールします。

- 3 プログラム稼働時に使用する言語を選択した後、“OK”ボタンをクリックします。

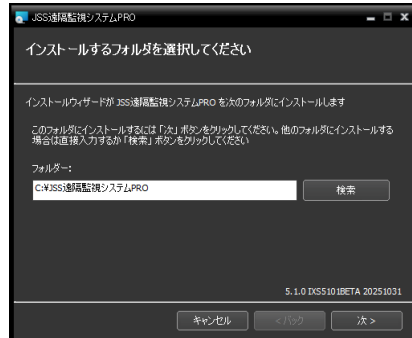


- 選択した言語が正しくディスプレイされるためには、PCがその言語OSをサポートしていなければなりません。
- プログラムをインストールした後、言語を変更するには、プログラムを実行する前に“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO” → “Utility”フォルダーにある“Language Selector”を実行します。

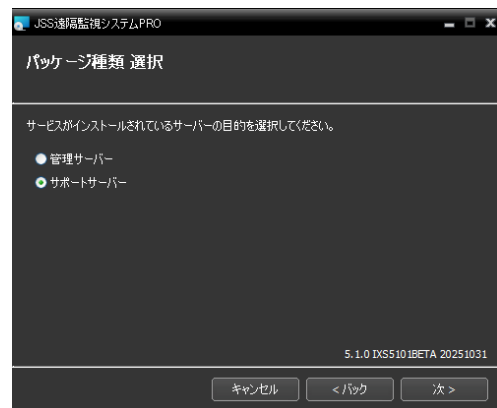
- 4 次のインストール画面が表示されたら、“Install”を選択してから“次”ボタンをクリックします。



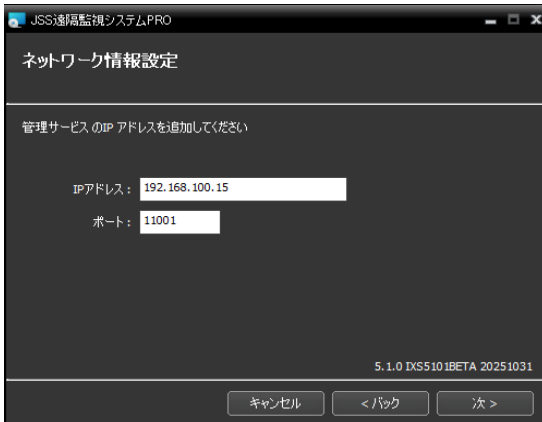
- 5 クライアントプログラムがインストールされる経路を指定した後、“次”ボタンをクリックします。“ディスク使用量…”ボタンをクリックすると各ハードディスクドライブの空き容量及びプログラムインストールのために必要な最低容量が表示されます。“次”ボタンをクリックします。



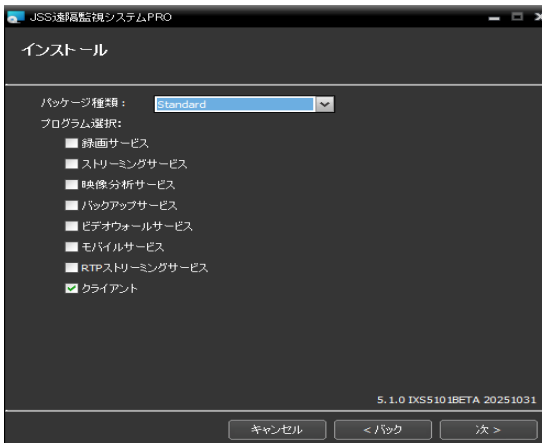
- 6 サポートサーバーを選択し、次ボタンをクリックします。



- 7 モニタリングサービスを別のPCIにインストールする場合、モニタリングサービスのインストール時に管理サーバーがインストールされたPCのIPアドレス及びポート番号の入力が要求されます。この設定はインストール完了してからサービス管理者プログラムで変更する事ができます。インストールが完了されると各サービスが実行中である場合、ネットワークの接続を通じてモニタリングサービスが管理サービスに接続されます。

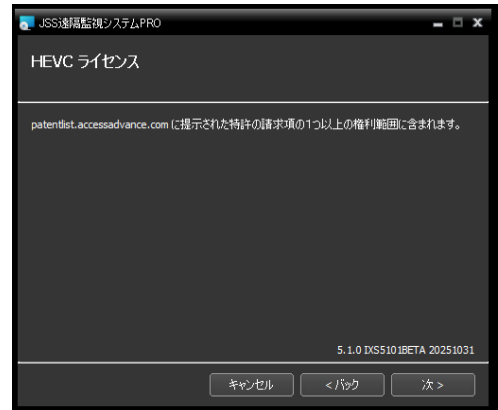


8 “クライアント”を選択した後**次**ボタンをクリックします。

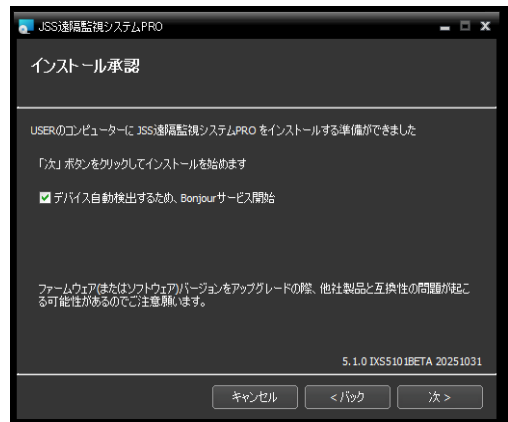


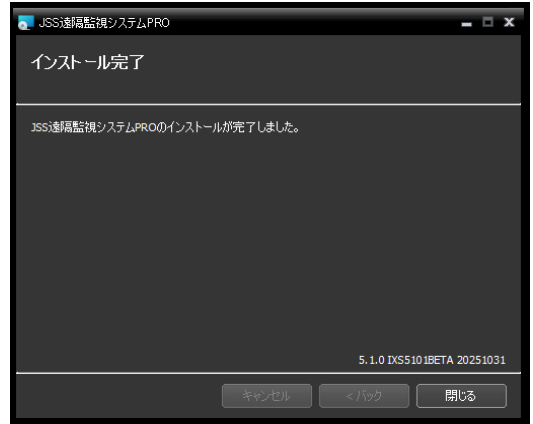
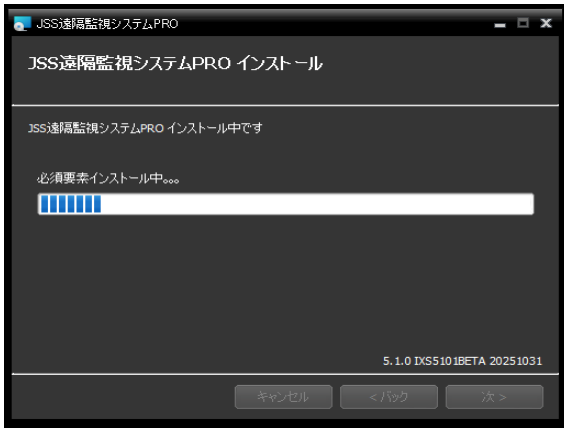
9 インストールする前にアプリケーションソフトを終了します。画面に表示されているアプリケーションソフトを終了しないと、“次”ボタンが有効になりません。“強制終了”ボタンをクリックしてそのソフトを強制で終了させることができます。強制終了する場合、保存していない内容が失われることがあります。

10 HEVCライセンスを確認して、“次”ボタンをクリックします。



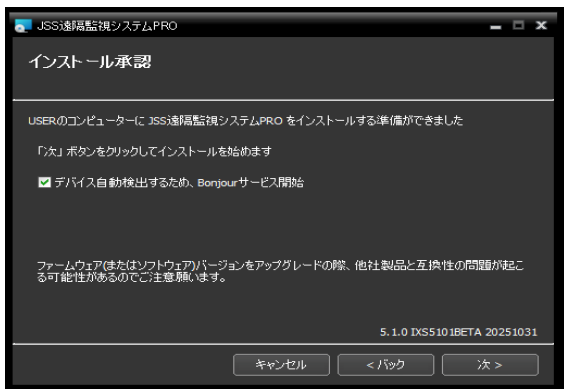
11 次のインストール画面が表示されたら、**デバイス自動検索のためのBonjourサービスの開始**を設定した後**次**ボタンをクリックします。





- 次のインストール画面が表示された場合、

“WS-Discoveryウィンドウサービス(fdPHost、FDResPub)非活性化”項目を選択することをお勧めします。項目を選択しなければ、デバイス登録時にONVIFプロトコルを使用するデバイスの場合、自動検索機能を使用することができません。



- “NET Framework”と“Visual C++Runtime Libraries”が自動的にインストールされ、インストールする時、時間が少々掛かる場合があります。

ユーザーのPCに“NET Framework”及び“VisualC++Runtime Libraries”が既にインストールされている場合、本インストールのプロセスは省略されます。

- 12 次のインストール画面が表示されたら、“閉じる”ボタンをクリックしてインストールを完了します。

自動アップグレード

アップデートサービスを実行してからアップグレードするソフトウェアバージョンのインストールファイルを用いて全てのサービスを自動的にアップグレードすることができます。

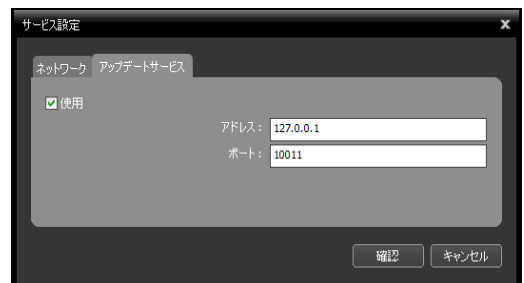
警告：ソフトウェアバージョンをアップグレードする場合、他社の製品との互換性の問題が発生することがあるため、ご注意ください。

アップデートサービスの設定

- 1 管理サーバーで“サービス管理者”プログラムを実行します。



- 2 管理サービスを選択して上段のメニューで“条件-サービス設定”をクリックしてから“アップデートサービス”タブを選択します。“使用”を選択してからアップデートサーバーのIPアドレス及びポート番号を入力します。



アップデートサービスのインストール

- 1 ソフトウェアのインストールCDを準備します。
- 2 アップデートサーバーでソフトウェアインストールCDの“Update”のフォルダーの下にある“Setup.exe”ファイルを実行します。

“ユーザーアカウント制御”画面が表示されることがあります。

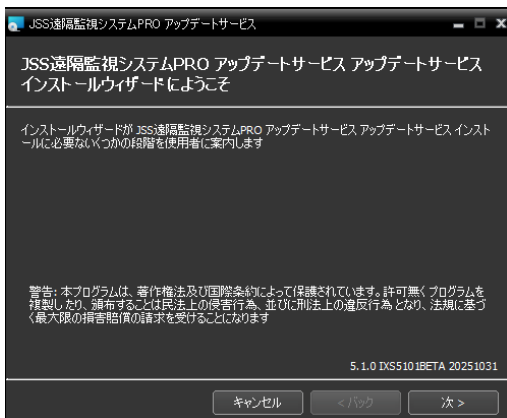
この場合、“許可”ボタンをクリックした後、設定画面の指示に従ってプログラムをインストールします。

- 3 プログラム稼働時に使用する言語を選択した後、“OK”ボタンをクリックします。

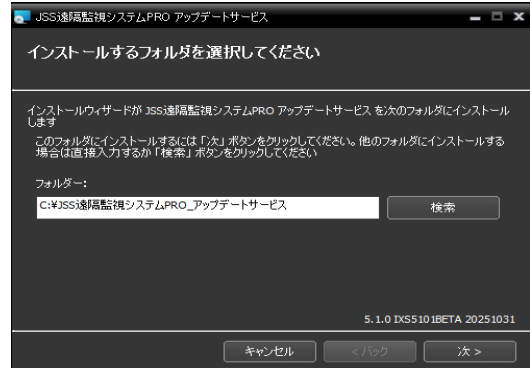


- 選択した言語が正しく表示されるためには、PCがその言語OSをサポートしていなければなりません。
- プログラムをインストールした後、言語を変更するには、プログラムを実行する前に“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO” → “Utility”フォルダーにある“Language Selector”を実行します。

- 4 次のインストール画面が表示されたら、“インストール”を選択してから“次”ボタンをクリックします。

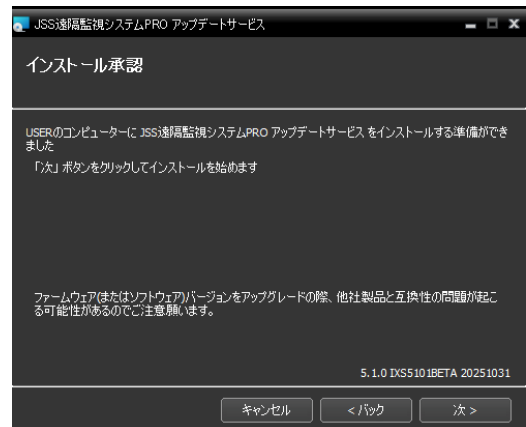


- 5 サービスがインストールされる経路を指定した後、“次”ボタンをクリックします。“ディスク使用量…”ボタンをクリックすると各ハードディスクドライブの空き容量及びプログラムインストールのために必要な最低容量が表示されます。



- 6 インストールする前にアプリケーションソフトを終了します。画面に表示されているアプリケーションソフトを終了しないと、“次”ボタンが有効になりません。“強制終了”ボタンをクリックしてそのソフトを強制で終了させることができます。強制終了する場合、保存していない内容が失われることがあります。

- 7 次のインストール画面が表示されたら、“次”ボタンをクリックします。



“NET Framework”と“Visual C++ Runtime Libraries”が自動的にインストールされ、インストールする時、時間が少々掛かる場合があります。ユーザーのPCに“NET Framework”及び“Visual C++ Runtime Libraries”が既にインストールされている場合、本インストールのプロセスは省略されます。

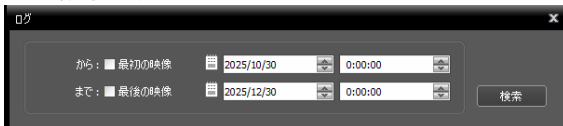
- 8 インストール完了画面が表示されたら、“閉じる”ボタンをクリックしてインストールを完了します。

アップグレード

- 1 アップデートサーバーで“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックしてから“アップデートマネージャー”(UpdateManager)ソフトを実行します。

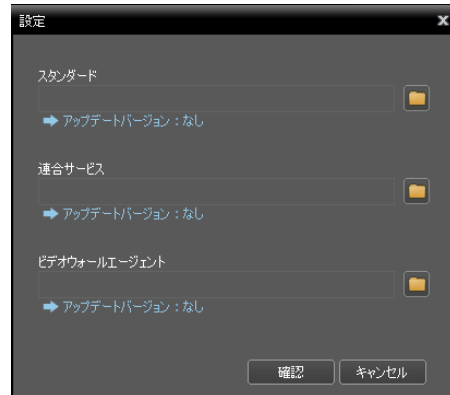


- **設定:** アップグレードファイルを指定したりアップデートサーバーのポート番号を設定します。
- **パッケージアップデート:** アップグレードするインストールファイルの経路を指定します。
- **ポート設定:** アップデートサーバーのポート番号を設定します。
- **ログ:** “ログを見る”から、システムログを確認したり検索することができます。



検索しようとするログの時間範囲を設定した後、“検索”ボタンをクリックすると、ログ情報を表示します。“最初の映像”オプションを選択すると、最初のログから、“最後の映像”オプションを選択すると、最後のログまで表示します。

- 2 “アップデートマネージャー”ソフトの上段のメニューで“設定 - パッケージアップデート”をクリックします。



- ボタンをクリックしてアップグレードするインストールファイルの経路を指定します。“確認”ボタンをクリックします。

- 3 “アップデートマネージャー”画面の下段の“アップデート”ボタンをクリックします。JSS遠隔監視システムPROサービスソフトがインストールされていない場合、“クライアント”システムの場合、“アップデート”ボタンをクリックする時“クライアント”ソフトのアップグレードが進行されます。サーバーシステムである場合、各サービスが周期的にアップデートサービスに接続して必要時アップグレードを進行します。

アンインストール

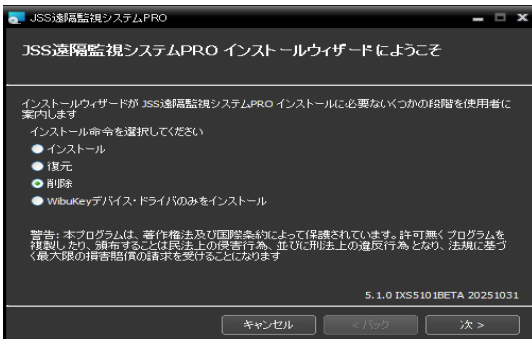
サービス及びプログラムの実行が終了していない状態でJSS遠隔監視システムPROのソフトウェアをアンインストールすると、正常に削除されないことがあります。

- 1 先に実行中のサービス及び“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムを全て終了します。

インストールフォルダーを強制的に削除する場合、ソフトウェア削除及び再インストールが不可能になるため、必ず次の手続きに従ってアンインストールしてください。

- 2 “スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。“Uninstall JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。

ソフトウェアのインストールCDを用いてソフトウェアを除去することもできます。サーバーまたはクライアントPCにソフトウェアインストールCDを入れてから“Setup.exe”ファイルを実行します。“削除”を選択してから“次”ボタンをクリックします。



- 3 次のアンインストール画面が表示されたら、“確認”ボタンをクリックします。



- 4 次のアンインストール画面が表示されたら、“全て削除”または“削除しない”ボタンをクリックします。録画映像及び既存の設定をはじめ、システムに保存されていたすべてのデータを削除するには“全て削除”ボタンを、データを削除せずに保存するには、“削除しない”ボタンをクリックします。録画サービスがインストールされている場合は、“録画データを含む”フレーズの下に表示されます。



削除されたデータは復元することができません。

- 5 アンインストール画面が表示されたら、“確認”ボタンをクリックしてアンインストールを完了します。

第3章 – 開始

JSS遠隔監視システムPROは“サービス管理者”、“設定”及び“クライアント”プログラムで構成されており、JSS遠隔監視システムPROを実行するためには、JSS遠隔監視システムPROサーバーで サービスが実行されていなければなりません。“サービス管理者”、“設定”及び“クライアント”プログラムに関する詳しい内容は、[第4章 – システムの概要](#)を参照してください。

本ユーザーマニュアルで“サーバー”または“サーバーシステム”とは、管理サービス、モニタリングサービスまたは録画サービスが実行中のPCのことであり、“JSS遠隔監視システムPROクライアントシステム”とは“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムが実行中のPCのことであり、“ネットワークビデオデバイス”とは、ネットワークビデオエンコーダまたはネットワークカメラのことです。

サービス実行

JSS遠隔監視システムPROで“サービス”とは、システムがONになっている間、終了せずにバックグラウンドプロセスの状態で機能を遂行するサーバープロセスのことです。

サービスのインストールが完了したら、各サービスが自動的に実行され、サービスを手動でスタートしたり停止することができます。“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックした後、“Service Manager”プログラムを実行します。

• 管理サーバー



サービス	動作状態	CPUの使用量	メモリー使用量
管理サービス	作動中	0%	87644 KB
録画サービス	作動中	0%	131508 KB
パワerviewサービス	作動中	0%	62000 KB
ストリーミングサービス	作動中	1%	284624 KB
モニタリングサービス	作動中	0%	237804 KB
リアルタイムモニタリングサービス	作動中	2%	146920 KB
ビデオウォールサービス	作動中	0%	37556 KB
モバイルモニタリングサービス	作動中	1%	100532 KB

• 録画 / ストリーミング / 映像分析サーバー



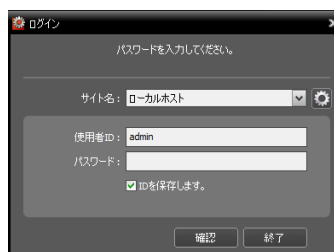
サービス	動作状態	CPUの使用量	メモリー使用量
管理サービス	作動中	0%	87644 KB
録画サービス	作動中	0%	131508 KB
パワerviewサービス	作動中	0%	62000 KB
ストリーミングサービス	作動中	1%	284624 KB
モニタリングサービス	作動中	0%	237804 KB
リアルタイムモニタリングサービス	作動中	2%	146920 KB
ビデオウォールサービス	作動中	0%	37556 KB
モバイルモニタリングサービス	作動中	1%	100532 KB

サービスの動作状態を確認します。サービスが動作中でない場合、手動でサービスを実行してください。“サービス管理者”プログラムに関する詳しい内容は、[サービス管理者](#)を参照してください。

ログイン

“設定”プログラム及び“クライアント”プログラム実行時、次のように管理サービスにログインしなければなりません。

“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→ “JSS遠隔監視システムPRO Setup”または“JSS遠隔監視システムPRO クライアント”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。



ログイン

パスワードを入力してください。

サイト名: ローカルホスト


ユーザーID: admin

パスワード:

IDを保存します。

確認 終了

- **サイト名:** 接続する管理サービスをリストから選択します。管理サービスが現在のシステムで実行されている場合は、デフォルト設定として「ローカルホスト」を選択します。
- **ユーザーID、パスワード:** 使用者ID及びパスワードを入力します。使用者IDの基本値は“admin”、パスワードの初期値は“12345678”です。ユーザーメニューで使用者ID及びパスワードが変更できます。詳しい内容は、[第14章 – ユーザー管理](#)を参照してください。

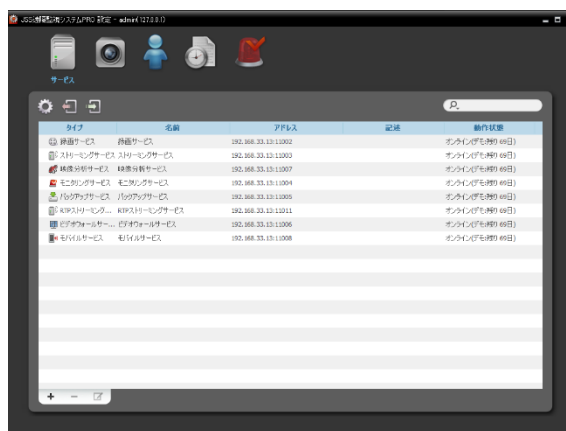
- **ID保存します**：この項目を選択するとログインする際、入力したIDを保存します。
- **最後監視セッション復元**：クライアントソフトの現在の監視パネルに以前の監視セッションを復元することができます(“クライアント”プログラムのみサポート)。
- リストの右にある  ボタンをクリックして他の管理サービスをリストに追加したり、リストにある管理サービスの情報を修正したりすることができます。

- **サイト名、サービスのアドレス、サービスポート**：管理サービス名を指定してから管理サーバーのIPアドレス及びポート番号(初期値：11001)を入力します。
- **Active Directory 使用**：Active Directoryのアカウントを使用してログインすることができます。
- **ストリーミングサービス使用**：映像監視時、ストリーミングサービスを使用するかどうかを選択することができます(“クライアント”プログラムのみサポート)。

サービス登録

JSS遠隔監視システムPROを開始するためには、まず管理サービスに録画サービス、モニタリングサービス、ストリーミングサービス及び映像分析サービスを登録しなければなりません。管理サーバーにインストールされているサービスは、自動で登録されます。

“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→ “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。→ “サービス”メニューを選択した後、次の説明を参照して録画、モニタリング及びストリーミングサービスを登録します。



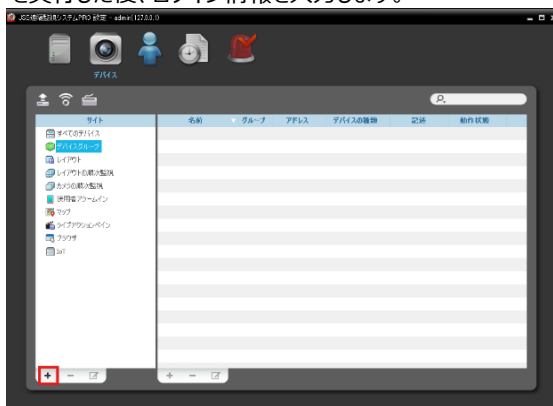
- 1 下段にある+ボタンをクリックします。“サービス登録”画面が表示され、登録可能なサービスのリストが各サービスの情報と共に表示されます。
- 2 JSS遠隔監視システムPROに登録する録画、モニタリング、ストリーミング及び映像分析サービスを選択します。選択したサービスがサービスリストに現れます。

- **名前**：ネットワーク接続によって現在管理サービスに接続されているサービスを表示します。
- **タイプ**：サービスのタイプを表示します。
- **アドレス**：各サーバーのIPアドレスとポート情報を表示します。
 - 登録するサービスの管理サーバーの情報(“サービス管理者” → “条件” → “サーバー設定”)が現在接続中の管理サーバーと同一の場合のみ登録できます。
 - 一つの管理サービスに対し一つのモニタリングサービスのみ登録できます。

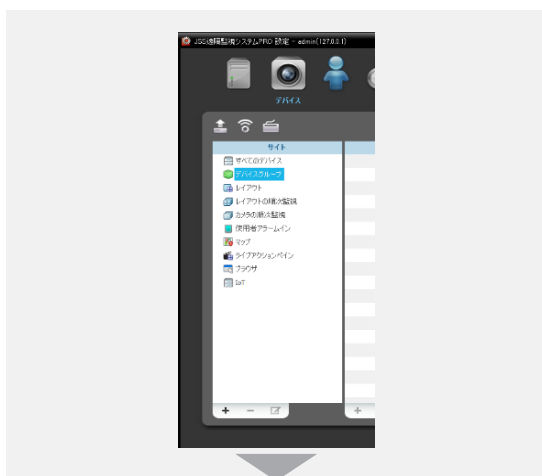
デバイスの登録

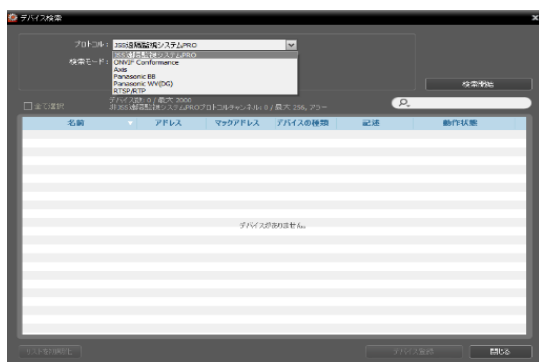
JSS遠隔監視システムPROで提供する機能を使用するためには、まずJSS遠隔監視システムPROにデバイスを登録した後、該当するデバイスをデバイスグループに追加しなければなりません。


“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→ “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。



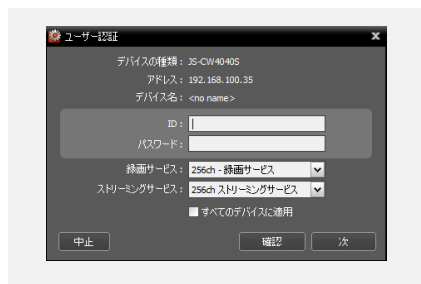
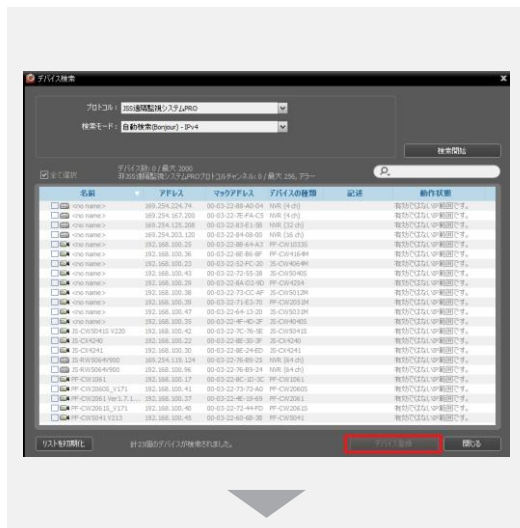
- 1 “デバイス”メニューを選択します。
- 2 “サイト”パネルで“すべてのデバイス”をクリックした後、右のサイトリストのパネルの下段にある+ボタンをクリックします。“デバイス検索”画面が表示されます。





- **プロトコル:** 検索するデバイスのプロトコルまたはメーカーを選択します。
使用するモデル及びプロトコルによってイベント関連機能に対応できない場合があります。(サポートプロトコル: JSS遠隔監視システムPROプロトコル、一部バージョンのAxis/Panasonic BB/ Panasonic WW (DG)/RTSP/RTP/ONVIFConformanceプロトコル) その他にもデバイスの設定によって一部機能が対応しないことがあります。
- **検索モード:** 検索モードを選択後、“検索開始”ボタンをクリックすると、検索結果をリストで表示します。デバイスのIPアドレス帯域が管理サーバーのIPアドレス帯域と異なる場合、JSS遠隔監視システムPROは該当デバイスのIPアドレスを有効にしないものと見なします。この場合、デバイスのIPアドレスを変更することでデバイスの登録ができます。
- **自動検索(LAN):** LAN環境にあるデバイスをリストに表示します(一部モデルは対応しない)。ONVIFプロトコルを使用するデバイスを検索する場合、ソフトウェアのインストール時に“**デバイス自動検索のためのBonjourサービスの開始**”を選択している場合のみ自動検索に対応します。
また、ONVIFプロトコルを使用するデバイスの場合、デバイスのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境変化によってデバイス登録が正しく動作しない可能性があります。
- **IPアドレス:** デバイスのIPアドレスを入力します。二つ以上のデバイスを登録する場合、IPアドレスの範囲を入力して一度に検索することもできます。デバイスのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境変化によってデバイス登録が正しく動作しない可能性があります。
- **UCN:** デバイスがUCNを使用する場合、UCNサーバーに登録されたデバイスのUCNネームを入力します。
デバイスが登録されているUCNサーバーの情報が正しく設定されているか確認してください。(“サービス”メニュー  (システム設定)ボタン) デバイスが登録されているUCNサーバーの情報が正しくない場合はデバイスが検索できません。
- **ドメイン名:** デバイスがドメインサービスを使用する場合、DNSサーバーに登録されたデバイスの名前を入力します。
- **デバイス情報ファイル:** デバイス接続情報の保存されている.xmlファイルを読み出し、該当デバイスをリストに表示します。
.xmlファイルに関する。
- **URI:** URI(Uniform Resource Identifier)を入力します。(RTSP/RTPプロトコルのみ対応)
- **モバイルデバイス:** モバイルデバイスにアクセスするユーザーを選択します。本機能で追加されたユーザーだけがモバイルデバイスでJSS遠隔監視システムPROにアクセスできます。
- : リストで各デバイスの名前横にあるチェックボックスを選択して、登録するデバイスを選択します。“全て選択”を選ぶとリストにあるすべてのデバイスを選択します。
- JSS遠隔監視システムPROでサポートするプロトコルであってもモデルによってはサポートされない場合があります。
- デバイスがONVIFプロトコルをサポートする場合、ONVIFプロトコルを選択することができます。ただし、モデルによってはどちらかがサポートされなかったり、両方ともサポートされない場合があります。

- 3 “デバイス検索”画面の下段の“デバイス登録”ボタンをクリックします。



- **名前、アドレス、デバイスの種類:** 選択したデバイスの名前、IPアドレス及び種類を表示します。デバイスの名前は、デバイスでの設定によって自動的にアップデートされます。
- **ID、パスワード:** 遠隔接続のために各デバイスで設定したユーザーID及びパスワードを入力します。接続はデバイスの“Administrator”グループ内のユーザーのみ許可され、録画は該当するデバイスの“Administrator”グループ内のユーザーのみ許可されます。
- **録画サービス:** 選択したデバイスの映像を録画するサーバーをリストから選択します(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ対応)。
- 録画サーバーにデバイスが登録され、録画スケジュールによって録画サーバーで録画が行われます。
- 録画サーバーを選択し録画開始後は、録画サーバーを変更しないことを推奨します。録画が実行後に録画サーバーが変更された場合、以前の録画映像は検索または再生できません。

録画サーバーリストの番号は登録可能なカメラ数を表し、名前はサービスメニューで設定した録画サービスの名前を表します。

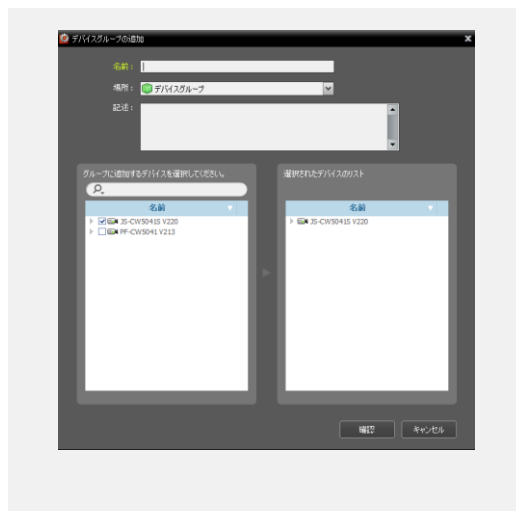
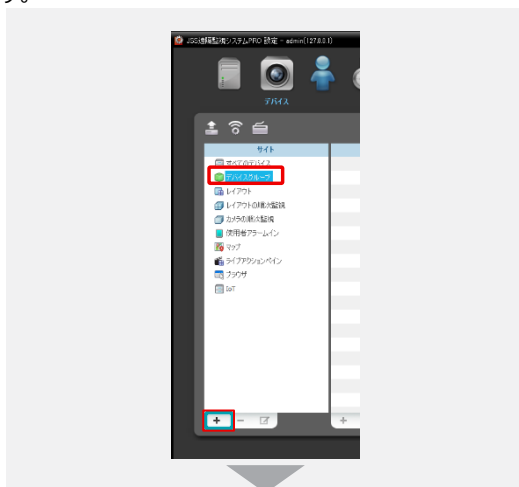
登録可能なカメラ数は、管理サーバーに接続されているWIBUキーの数とタイプによって異なります。“録画しない”項目を選択した場合、“録画スケジュール”設定時に該当デバイスが登録されていないものと判断し、該当デバイス関連スケジュールは実行されません。録画サービスに登録されたデバイスのリストは“サービス”メニューで該当録画サーバー設定時に“デバイスセットアップ”タブで確認できます。

- **ストリーミングサービス:** 選択したデバイスの映像監視する時、ストリーミングサービスを使用するかどうか選択します。ストリーミングサービスを使用する場合、ストリーミングサーバーを通じてクライアントシステムに映像を伝送し、従って多数のユーザーが同時に映像を監視することができます。別のWIBUキーを追加していない場合、ストリーミングが可能なチャンネル数は録画可能なチャンネル数とおなじです。WIBUキーを追加して2個以上のストリーミングサービスが登録されている場合、JSS遠隔監視システムPROがストリーミングサーバーのシステムの負荷程度によって任意のストリーミングサーバーを選択します。

詳しい内容は、**第11章 -ストリーミング**を参照してください。

- **すべてのデバイスに適用:** 1つ以上のデバイスを選択した場合、選択したデバイスのユーザーID及びパスワードが全て同じであれば、入力したユーザーID及びパスワードを全てに適用することができます。
- ライセンスの種類によって装置登録個数および種類が異なる場合があります。
- デバイスがDVRの場合、DVRの仕様及びバージョンによってポート番号の入力が追加要求されることがあります。
- デバイスがSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用する4チャンネルネットワークビデオエンコーダである場合、カメラ使用と関係なく、自動で4つのカメラが全て登録されます。

4 “サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後、“サイト”パネルの下段にある+ボタンをクリックします。“デバイスグループの追加”画面が表示されます。



- **名前:** デバイスグループの名前を入力します。
- **場所:** デバイスグループが所属する上位デバイスグループを選択します。
- **グループに追加するデバイスを選択してください、選択されたデバイスのリスト:** 左側でカメラの横にあるチェックボックスを選択すると、選択したカメラが右側に追加されます。“確認”ボタンをクリックすると、デバイスグループが登録されます。

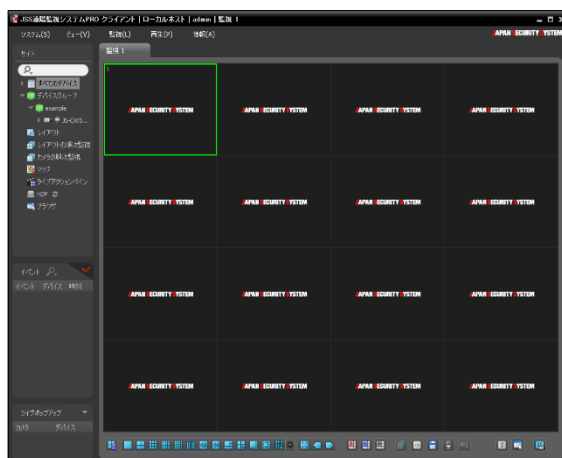
5 デバイスがデバイスグループに正しく追加されているか確認します。“サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後“デバイスグループ”の左側の矢印ボタン(▶)をクリックします。登録されたデバイスグループをクリックすると、該当するデバイスグループに追加されたデバイスリストが右側に表示され、接続状態が表示されます。デバイスの接続が正しく行われていない場合、ネットワーク接続解除ログが表示されます(録画サービスに登録されたデバイスのみ対応)。



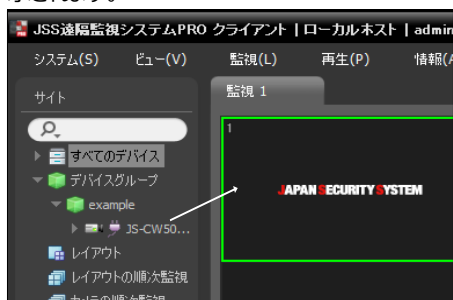
- 登録されたデバイスグループを選択した後、“サイト”パネルの下段にある+ボタンをクリックすると“デバイスグループ修正”画面が表示され、該当するデバイスグループを修正することができます。

デバイスの登録

JSS遠隔監視システムPROをクリックします。→JSS遠隔監視システムPRO クライアント”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。



- 1 “サイト”リストでデバイスグループにデバイスが追加されているか確認します。
- 2 パネルタブで監視タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、監視画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。



録画

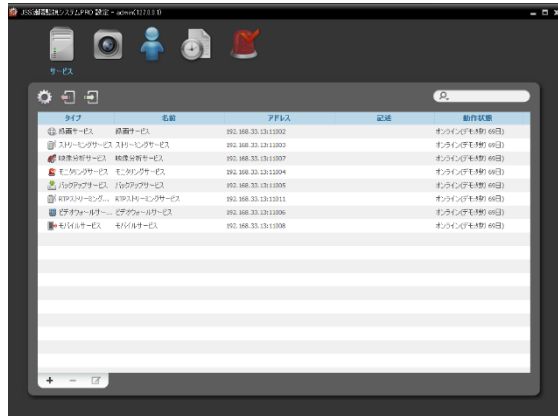
ストレージを割り当てた後、録画スケジュールを設定します。“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。

→ “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。デバイスメニューでデバイスグループにデバイスが追加されているか確認します。

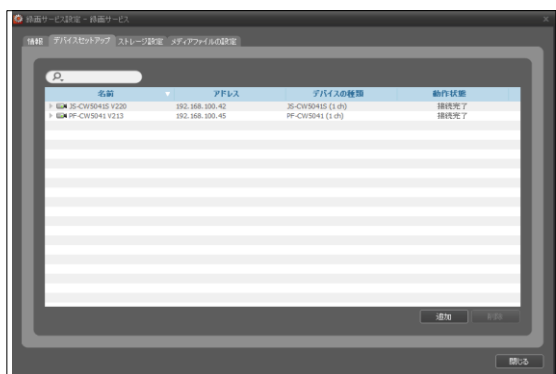


カメラ及びストレージを割り当てる

“サービス”メニューを選択した後、録画サーバーを選択してから次の説明を参照して選択した録画サーバーのハードディスクドライブにストレージを割り当てます。



- 録画サービスを選択した後、下段にある ボタンをクリックします。“録画サービス設定”画面が表示されたら“デバイスセットアップ”タブを選択します。



現在の録画サービスに登録されているカメラのリストが表示されます。下段の“追加”ボタンをクリックすると、現在の録画サービスに別のカメラを登録することができます。

登録可能なデバイスの数は、管理サーバーに接続されているWIBUキーの数とタイプによって異なります。

- 登録されたデバイスに対し、録画した後当該デバイスを削除した場合、削除されたデバイスを再登録してもJSS遠隔監視システムPROは他のデバイスとして認識します。この場合、デバイスが除去される前に録画された映像は次のメニューで検索または再生することができます：“再生”パネル → パネルツールバーの (その他メニュー) ボタンクリック → “削除された録画デバイス” 選択
- デバイスがDVRの場合、録画には対応しません。

- “ストレージ設定”タブを選択した後、下段にある“追加”ボタンをクリックします。

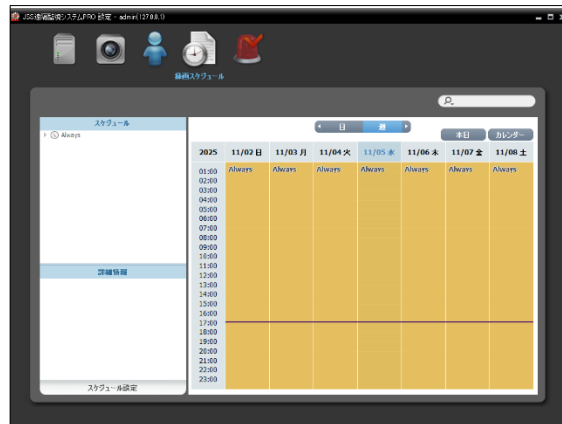


- 3 ストレージを割り当てるハードディスクドライブを選択した後、下段の“追加”ボタンをクリックします。“ストレージを割り当てる”画面が表示されたらストレージを割り当てます。

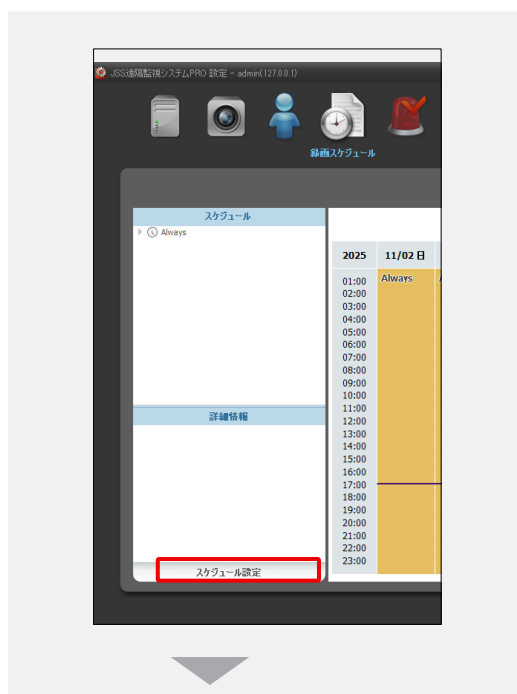


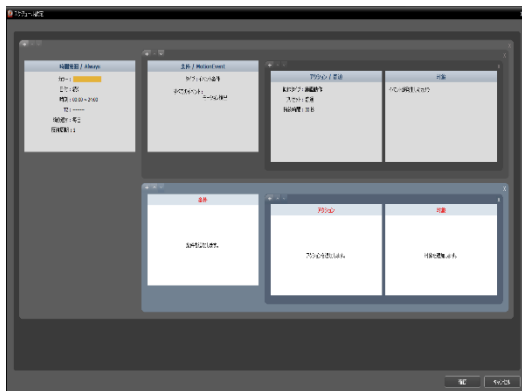
録画スケジュールの設定

“録画スケジュール”メニューを選択した後、次の説明を参照して録画スケジュールを設定します。詳しい内容は、一般録画スケジュールの設定を参照してください。



- 1 下段の“スケジュール登録”ボタンをクリックします。“スケジュール登録”画面が表示されて、現在の設定値を示すスケジュール画面が表示されます。





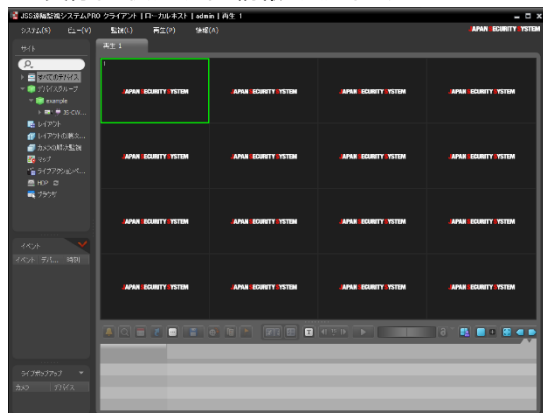
- 1 パネルタブで再生またはDVR検索タブをクリックします。
- 2 “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、再生画面またはDVR検索画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。



- 1 各スケジュール画面の任意の位置でダブルクリックすると、プリセットの設定画面が表示されます。
- 2 プリセットリストで希望するプリセットを選択するか、+ボタンをクリックして、新しいプリセットを登録します。プリセットリストでプリセットを選択した後、■または□ボタンをクリックすると選択したプリセットを削除するか、プリセットの設定を変更することができます。“確認”ボタンをクリックすると設定が適用されます。

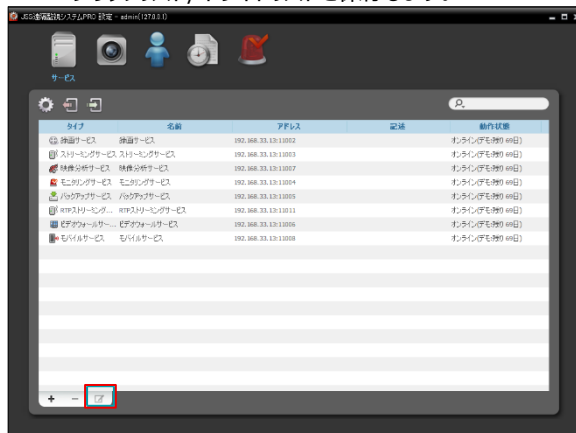
録画映像再生


“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→ “JSS遠隔監視システムPRO クライアント”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。

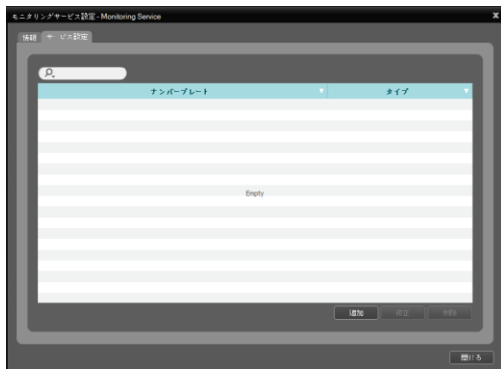


ANPR DenyList/AllowList (ブロックリスト/許可リスト)設定

“サービス”メニューを選択した後、次の説明を参照してANPRブラックリスト/ホワイトリストを保存します。



- 1 モニタリングサービスを選択した後、下段にある  ボタンをクリックします。“モニタリングサービス設定”画面が表示されたら“サービス設定”タブを選択します。



- 2 左下の“追加”ボタンをクリックして、拒否または許可リストを追加するか、または“取り込み”ボタンをクリックしてCSVファイルから拒否または許可リストを追加します。



第4章 – システムの概要

JSS遠隔監視システムPROは次のプログラムで構成されています。

- サービス管理者: サービスの実行を制御したり、システムログを表示します。詳しい内容は、**サービス管理者**を参照してください。
- “JSS遠隔監視システムPRO設定”: サービス、デバイス及びユーザーを追加したり、録画スケジュール、イベント管理スケジュール及びストレージを設定します。詳しい内容は、**設定**を参照してください。
- “JSS遠隔監視システムPROクライアント”: 登録されたカメラの映像を監視したり、ストレージに録画された映像を再生または動画で保存することができ、システムログ及びデバイスの状態を確認します。詳しい内容は、**クライアント**を参照してください。
JSS遠隔監視システムPROの動作とは別に次のプログラムが提供されます(“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリック → “Utility”をクリック)
- Problem Reporter: 必要な場合、JSS遠隔監視システムPROの購入先の指示に従って使います。
- Language Selector for クライアント: JSS遠隔監視システムPRO クライアント/Setupプログラムの起動時、使う言語を変更しようとする時使います。
- Language Selector for Service(Run As Admin): JSS遠隔監視システムPROで利用言語を変更しようとする時使います。
- License Tool: ソフトウェアライセンスの認証する時使います。

ライセンス

JSS遠隔監視システムPROは、デモ、WIBUキー、ソフトウェアライセンスをサポートします。

デモライセンスは最大70日まで動作が可能であり、満了期限の前にソフトウェアまたはWIBUキーライセンスで認証を完了しなければ継続して使用することができません。

WIBUキーライセンス

WIBUキーライセンスで動作する際には、管理サーバーに接続しているWIBUキーの数および種類によって登録可能な装置およびサービスの数が変わります。一部サービスについては、管理サービスではない当該サービスがインストールされたシステムに WIBUキーを接続しなければなりません。詳しい内容はお求めになった販売店までお問い合わせください。

- 登録可能なサービス数は次の通りです。
 - サービスの登録: モニタリングサービス1個、ストリーミングサービス1個~4個、映像分析サービス32個、録画サービス64個、重複録画サービス64個、バックアップサービス64個、ビデオウォールサービス8個、

フェイルオーバーサービスの場合、管理、モニタリング、録画、ビデオウォールサービス数の分、登録可能です。ストリーミングサービスの場合、WIBUキーのストリーミングサービス数と同じストリーミングとフェイルオーバーサービスを登録することができ、RTPストリーミング、バックアップ、ビデオウォール重複録画及びフェイルオーバーサービスの場合は別途ライセンスが必要になります。

ソフトウェアライセンス

仮想化システムでは、VMware ESXiとHyper-Vファミリーのみ、ソフトウェアライセンス認証をサポートします。

ソフトウェアライセンス認証

- 1 LicenseToolプログラムを実行すると、インストールされたJSS遠隔監視システムPROパッケージが表示されソフトウェアライセンス認証を受けるパッケージを選択した後、“認証”ボタンをクリックします。

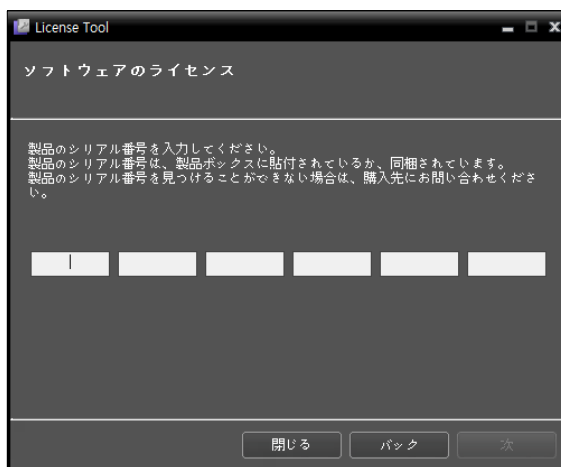


- パッケージの種類: インストールされた JSS遠隔監視システムPROのパッケージが表示されます。

- 2 ソフトウェアライセンス認証モードを選択して“次”ボタンをクリックします。

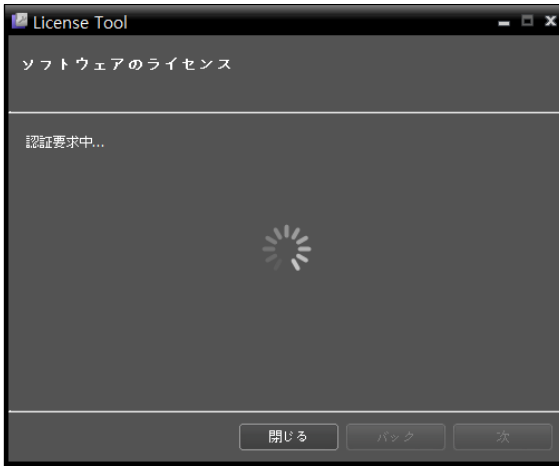


- 3 ソフトウェアのシリアルナンバーを入力して“次”ボタンをクリックしてください。

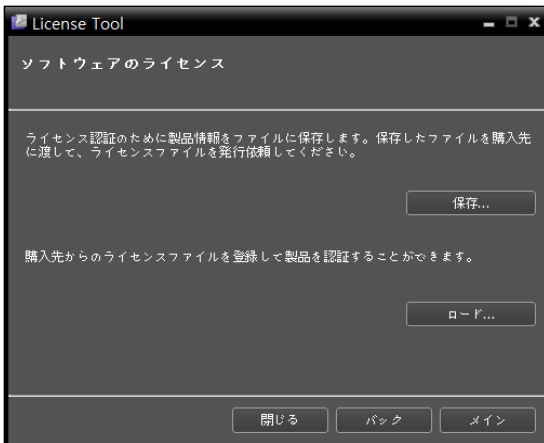


- シリアルナンバーはご購入された販売店にお問い合わせください。

4 認証方式によって製品認証を受けます。

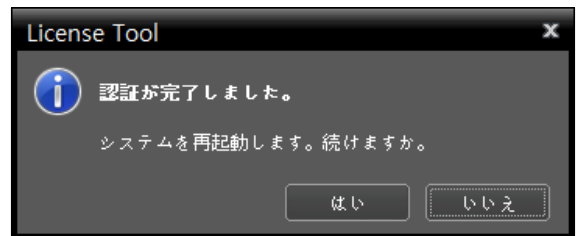


- オンライン認証は、ネットワークに接続して認証サーバーからライセンス認証ファイルを取得することで製品の認証を行います。



- オフライン認証では、製品情報を保存したファイルをご購入された販売店を通じてライセンス認証ファイルに交換した後に製品認証を行うことができます。

5 認証が完了したら現在のライセンス情報を表示します。



製品認証完了後、管理サービスを再起動すればライセンスが適用されます。

ソフトウェアライセンスアップデート

- 1 LicenseToolプログラムを実行すると、インストールされたJSS遠隔監視システムPROパッケージが表示されソフトウェアライセンスアップデートを受けるパッケージを選択した後、“アップデート”ボタンをクリックします。



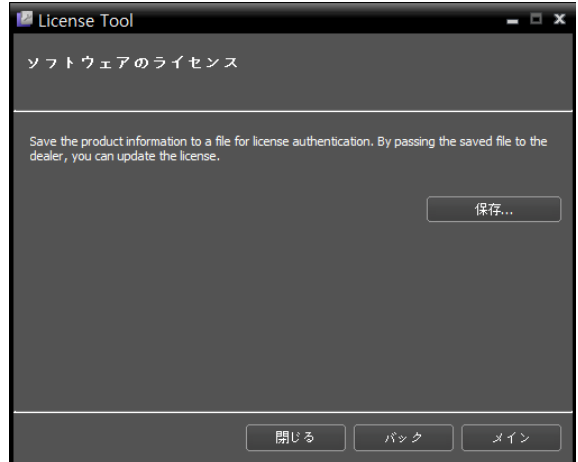
- パッケージの種類: インストールされた JSS遠隔監視システムPROのパッケージが表示されます。

- 2 ソフトウェアライセンス認証モードを選択して“次”ボタンをクリックします。

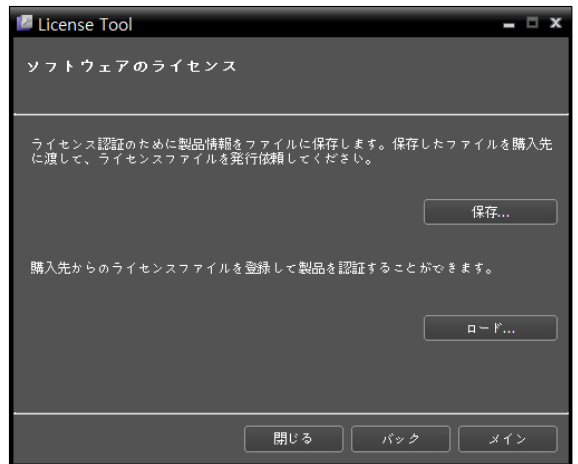


認証方式を変更する場合、変更された認証方式で製品認証を再度受けなければなりません。

- 3 認証方式によって製品アップデートを受けます。



- オンライン認証は、ネットワークに接続して認証サーバーからライセンス認証ファイルを取得することで製品の認証を行います。



- オフライン認証では、製品情報を保存したファイルをご購入された販売店を通じてライセンス認証ファイルに交換した後に製品アップデートを行うことができます。

- 4 認証が完了したら現在のライセンス情報を表示します。

サービス管理者

JSS遠隔監視システムPROが動作するためには、システムでサービスが実行されていなければなりません。“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。

“Service Manager”プログラムを実行します。

- 管理サーバー/録画 / ストリーミング / 映像分析サーバー



1 メニュー	サービスの実行を制御したりシステムログを表示します。
2状態情報	サービスの動作状態を表示します。

メニュー

すべてのサービスをスタートまたは終了します。サービスを終了する場合、“JSS遠隔監視システムPRO設定”及び“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムを実行することができず、録画が行われません。サービス管理者プログラムの設定を変更する場合、全てのサービスを終了した後、サービスを再度スタートして変更事項を適用してください。

条件

- サーバー設定: 現在のサーバーで管理サービスに接続するための接続情報を設定します。ウォッチドッグ (Watchdog)設定を変更することができます。

<ネットワークタブ>



- アドレス、ポート: 管理サーバーのIPアドレス及びポート番号を設定します。

管理サーバーのIPアドレスまたはポート番号を間違って入力した場合、JSS遠隔監視システムPROは動作しません。

<ウォッチドッグ(Watchdog)タブ>



- 制限時間(分): サービスが動作しない時のサービス再スタートのための待機時間を設定します。システムの状態を周期的に確認し、設定された時間の間サービスが動作しない場合、サービスを自動的に再スタートします。
- 再起動条件: サービスが動作しない時のシステムの再起動条件を設定します。“再起動を使用しない”オプションを選ぶと、システムを再起動せずにサービスを再スタートします。

<UCN 設定タブ>



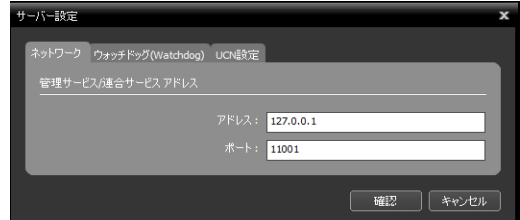
- UCN名: UCN名を登録します。UCNを登録する場合、“外部IPアドレス”設定は適用されません。

JSS遠隔監視システムPROで“ウォッチドッグ”とは、サービスが動作しているかを周期的に確認し、設定された時間の間サービスが動作しない場合、自動的にサービスを再スタートする機能です。

- サービス設定: サービスリストでサービスを選択した後、“サービス設定”を選択すると、選択したサービスに接続するための接続情報が設定できます。サービスの種類によって設定の項目が異なる事があります。

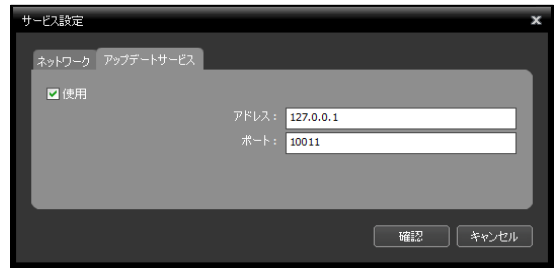
管理サービス

<ネットワークタブ>



- サービスポート: サービスに接続するためのポート番号を設定します。
- 外部IPアドレス: 外部ネットワークから選択したサービスに接続する際に使用する外部IPアドレス及びポート番号を設定します。

<アップデートサービスタブ>



- 使用: アップデートサービスを使用する場合、項目を選択してからアップデートサーバーのIPアドレス及びポート番号を入力します。管理サービスが周期的にアップデートサービスに接続してアップグレードができるかどうか確認してから必要の場合、アップグレードを進行します。

モニターリングサービス

<ネットワークタブ>

サービス設定

ネットワーク 高機能メニュー

サービスポート: 11004

コールバックポート: 8201

■ 外部IPアドレス

アドレス: 192.168.1.100

ポート: 11004

確認 キャンセル

- サービスポート: サービスに接続するためのポート番号を設定します。
- コールバックポート: デバイスからコールバックメッセージを受信するためのポート番号を設定します。ポート番号は該当デバイスで遠隔コールバックのために設定したポート番号と同一でなければなりません。
- 外部IPアドレス: 外部ネットワークから選択したサービスに接続する際に使用する外部IPアドレス及びポート番号を設定します。

<高機能メニュー>

サービス設定

ネットワーク 高機能メニュー

接続タイムアウト: 5
(1 秒 ~ 120 秒)

確認 キャンセル

- 接続タイムアウト: デバイスごとの接続タイムアウト時間設定をします。

録画サービス/バックアップサービス

<ネットワークタブ>

サービス設定

ネットワーク 高機能メニュー

サービスポート: 11002

RTP受信ポート範囲: 8000 ~ 8999

添付ファイルのポート: 11102

■ 外部IPアドレス

アドレス: 192.168.1.100

ポート: 11002

確認 キャンセル

- サービスポート: サービスに接続するためのポート番号を設定します。
- RTP受信ポート範囲: RTPプロトコルを使用して映像を転送するデバイスが登録された場合、RTP受信ポート範囲を設定します。ネットワークファイアウォールまたはイントラネットが特定UDP/RTPポート番号のみを許容するならば、該当ポート番号に合わせてRTPポート範囲設定を変更しなければなりません。クライアントシステムのRTPポート番号または一般ストリーミングプログラムのポート番号と衝突しないようにしてください。衝突が起こる場合、JSS遠隔監視システムPROの録画 / ストリーミング / 映像分析機能がサポートされない場合があります。
- 添付ファイルのポート: デバイスの映像の転送を受けるためのポート番号を設定します。
- 外部IPアドレス: 外部ネットワークから選択したサービスに接続する際に使用する外部IPアドレス及びポート番号を設定します。

<高性能メニュー>

サービス設定

ネットワーク 高性能メニュー

ストレージタイムアウト: 300
(0秒~1200秒)

フィンガープリント: Legacy

確認 キャンセル

- ストレージタイムアウト: ストレージの初期化を待つ時間を設定します。最大1200秒まで設定できます。
- フィンガープリント: 暗号化方式を設定します。MD5、SHA256を選択すると、録画の性能低下が発生する場合があります。

<ストリーミングサービス / 映像分析サービス>

サービス設定

ネットワーク

サービスポート: 11002

RTP受信ポート範囲: 8000 ~ 8999

外部IPアドレス

アドレス:

ポート:

確認 キャンセル

- サービスポート: サービスに接続するためのポート番号を設定します。
- RTP受信ポート範囲: RTPプロトコルを使用して映像を転送するデバイスが登録された場合、RTP受信ポート範囲を設定します。ネットワークファイアウォールまたはイントラネットが特定UDP/RTPポート番号のみを許容するならば、該当ポート番号に合わせてRTPポート範囲設定を変更しなければなりません。クライアントシステムのRTPポート番号または一般ストリーミングプログラムのポート番号と衝突しないようにしてください。衝突が起こる場合、JSS遠隔監視システムPROの録画 / ストリーミング / 映像分析機能が正しく機能しない場合があります。
- 外部IPアドレス: 外部ネットワークから選択したサービスに接続する際に使用する外部IPアドレス及びポート番号を設定します。

<RTPストリーミングサービス>

サービス設定

ネットワーク

サービスポート: 11011

RTP受信ポート範囲: 20000 ~ 29999

RTSPポート: 554

外部IPアドレス

アドレス:

ポート:

確認 キャンセル

- サービスポート: RTPストリーミングサービスに接続するためのポート番号を設定します。
- RTP受信ポート範囲: RTPプロトコルを使用して映像を転送するデバイスが登録された場合、RTP受信ポート範囲を設定します。ネットワークファイアウォールまたはイントラネットが特定UDP/RTPポート番号のみを許容するならば、該当ポート番号に合わせてRTPポート範囲設定を変更しなければなりません。クライアントシステムのRTPポート番号または一般ストリーミングプログラムのポート番号と衝突しないようにしてください。衝突が起こる場合、JSS遠隔監視システムPROの録画 / ストリーミング / 映像分析機能が正しく機能しない場合があります。
- RTSPポート: RTPストリーミングサービスで使用するRTSPポート番号(デフォルト: 554)を設定します。他のストリーミングサービスプログラムのRTSPポート番号と衝突しないようにしてください。
- 外部IPアドレス: 外部ネットワークから選択したサービスに接続する際に使用する外部IPアドレス及びポート番号を設定します。

<ビデオウォールサービス>

サービス設定

ネットワーク

サービスポート: 11006

ネットワークキーボードポート: 8010

外部IPアドレス

アドレス:

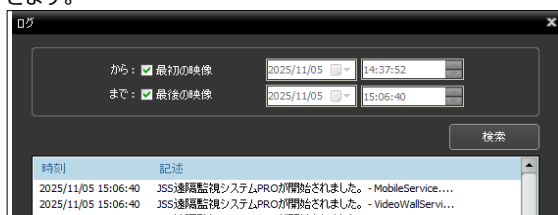
ポート:

確認 キャンセル

- サービスポート: ビデオウォールサービスに接続するためのポート番号を設定します。
- ネットワークキーボードポート: ネットワークキーボードがビデオウォールサービスに接続するためのポート番号を設定します。
- 外部IPアドレス: 外部ネットワークから選択したサービスに接続する際に使用する外部IPアドレス及びポート番号を設定します。

ログ

“ログを見る”から、システムログを確認したり検索することができます。





検索しようとするログの時間範囲を設定した後、“検索”ボタンをクリックすると、ログ情報を表示します。“最初の映像”オプションを選択すると、最初のログから、“最後の映像”オプションを選択すると、最後のログまで表示します。

状態情報

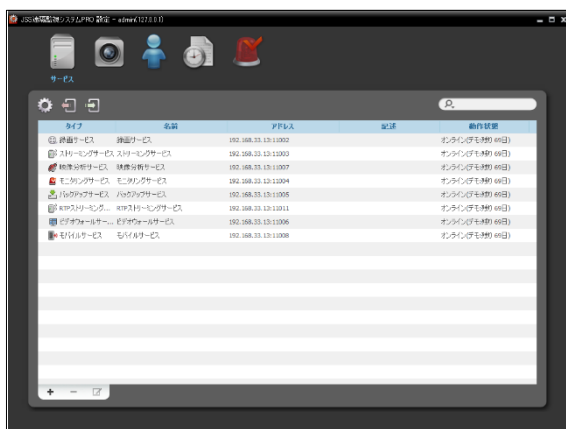
- サービス: 現在サーバーでサポートするサービスのリストを表示します。
 - 管理サービス: JSS遠隔監視システムPROの実行のためのサービス、デバイス、ユーザー、スケジュール情報を管理します。管理サービスが動作しない場合、JSS遠隔監視システムPROは動作しません。
 - 録画サービス: ネットワークビデオデバイスで転送された映像を録画します。録画サービスが動作しない場合、JSS遠隔監視システムPROが動作しても録画及び既存録画映像再生は行われません。
 - モニタリングサービス: 管理サービスに登録されたデバイスでリアルタイムイベント及びコールバックイベントが感知された場合、該当イベントをクライアントシステムに通知します。一つの管理サービスに対し一つのモニタリングサービスのみ登録できます。
 - ストリーミングサービス: デバイスから伝送されてきた映像を多数のクライアントシステムにストリーミングします。
 - 映像分析サービス: 映像分析機能を提供します。
 - RTPストリーミングサービス: ストリーミングサービスに接続しているデバイスの映像と音声データをRTSPプロトコルを使って中継するサービスです。
 - バックアップサービス: 録画した映像をバックアップします。
- 動作状態: 各サービスの動作状態を表示します。
 - スタート中: サービスが実行されたことを表します。
 - DB開始: サービスに必要なデータベースファイルを開いていることを表します。
 - 初期化中: サービスが起動されて初期化中のことを表します。
 - 作動中: サービスが正しく作動していることを示します。“JSS遠隔監視システムPRO設定”及び“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムを実行することができ、録画スケジュールに従って録画が行われます。
 - 停止中: サービスの停止中のことを表します。
 - 停止: ユーザーによってサービスの実行が中断されたことを示します。“JSS遠隔監視システムPRO設定”及び“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムを実行することができず、録画ができません。失敗: 何らかの問題によりサービスの実行が中断されたことを示します。ウォッチドッグの設定に従ってサービスを再起動したり、システムを再起動します。
 - ストレージの初期化: 録画、バックアップサービスのストレージを初期化します。
 - 映像分析エンジンの初期化: 映像分析サービスのエンジンを初期化します。
- CPUの使用量: 各サービスのCPUの使用量を表示します。
- メモリ使用量: 各サービスのメモリ使用量を表示します。

サービスデータベースのバックアップ/復元


 (サービスデータベースのバックアップ)ボタンをクリックしてサービスと関わる設定値を“.iexp”ファイルで保存することができます。また  (サービスデータベースの復元)ボタンをクリックして保存された設定値を読み込んで現在のJSS遠隔監視システムPROに適用することができます。

管理サービスに登録されているサービスが全てネットワーク接続を通じて管理サービスに接続されている場合のみこの機能が支援されます。


“JSS遠隔監視システムPRO設定”プログラムを実行します。

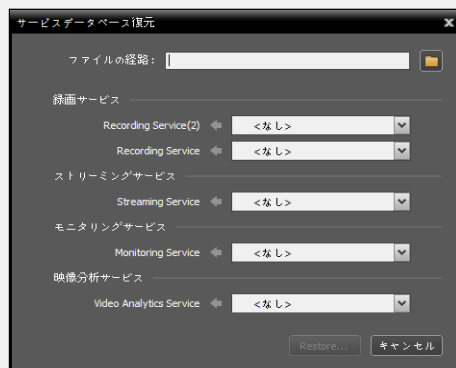



サービスデータベースのバックアップ


 (サービスデータベースのバックアップ)ボタンをクリックします → 保存する際に、そのバックアップファイルに対するパスワードを設定できます。 → 設定ファイル名を入力した後、現在の設定値を保存します。 → 保存が完了したら、元のサービスリスト表示に戻ります。


サービスデータベースの復元

 (サービスデータベースの復元)ボタンをクリックします。






右側上段の  ボタンをクリックしてから適用する設定ファイルを選択します。

→ ファイルを選択した後、そのファイルのパスワードを入力します。アイコンの左側は現在の管理サービスに接続されているサービスを表示します。  アイコンの右側は選択した設定ファイルに保存されたサービスを表示します。

アイコンの右側のドロップダウンメニューで適用するサービスを選択します。  アイコンの左側に同じ種類のサービスが一つである場合、又は設定ファイルで保存されたサービスが現在の管理サービスからバックアップされたサービスの場合はサービスが自動で適用されます。

→ 下段の“復元”ボタンをクリックします → 適用が終わったら“JSS遠隔監視システムPRO設定”が再起動します。

この機能は次の場合には支援されません。

-  アイコンの右側にあるサービスのソフトウェアバージョンが  アイコンの左側にあるサービスのソフトウェアバージョンより高い場合
-  アイコンの左側および右側にあるサービスの種類または各サービスの数が異なる場合

設定

“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。 → “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。ログインに関する詳しい内容は、[ログイン](#)を参照してください。



- サービス: サービス及びストレージを登録及び管理します。詳しい内容は、[サービス](#)を参照してください。
- デバイス: サイトを登録及び管理します。詳しい内容は、[デバイス](#)を参照してください。
- ユーザー(使用者): ユーザーまたはユーザーグループを登録及び管理します。詳しい内容は、[ユーザー\(使用者\)](#)を参照してください。
- 録画スケジュール: 録画スケジュールを設定します。詳しい内容は、[録画スケジュール](#)を参照してください。
- イベント管理: イベント管理スケジュールを設定します。詳しい内容は、[イベント管理](#)を参照してください。

次の場合に設定画面の右下に警告メッセージが表示されません。

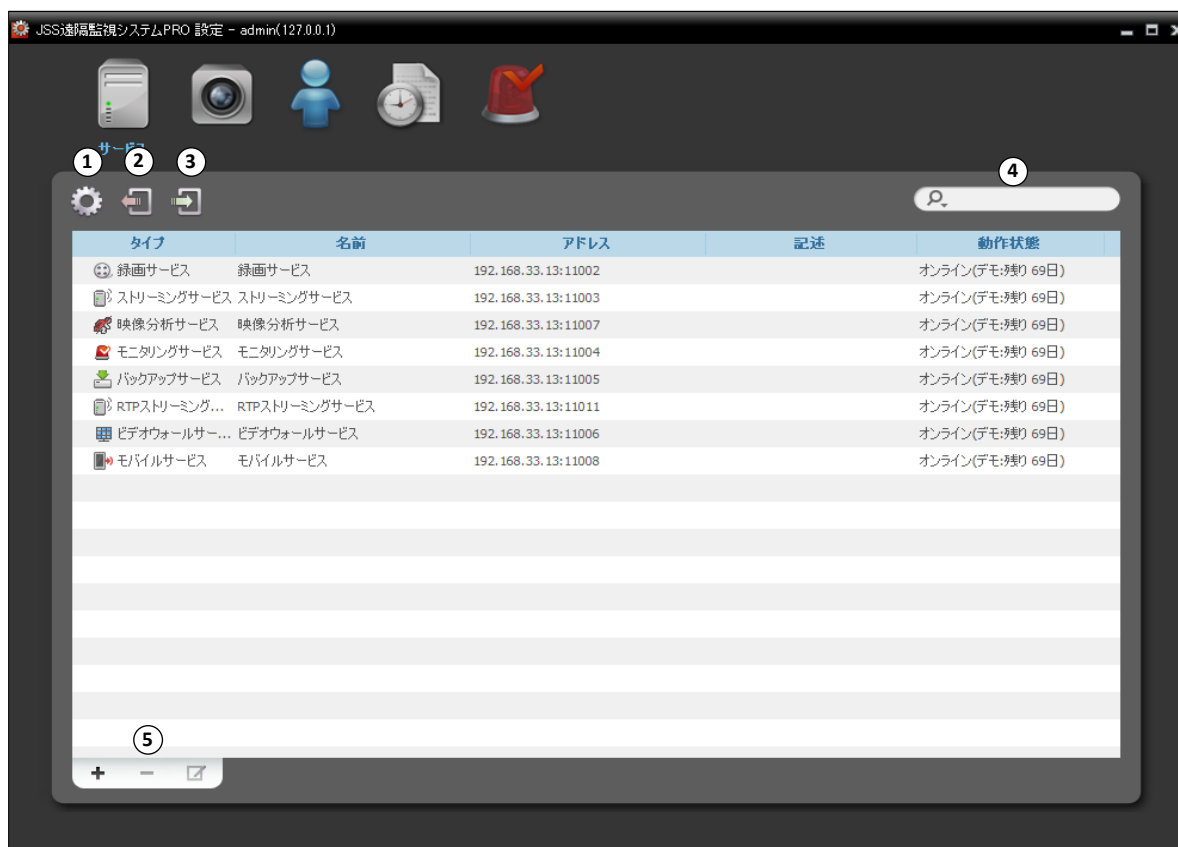
モニタリングサービスが登録されていない場合

録画サービスに保存空間が割り当てされていない場合

録画の保存空間がない場合この機能は次の場合には支援されません。

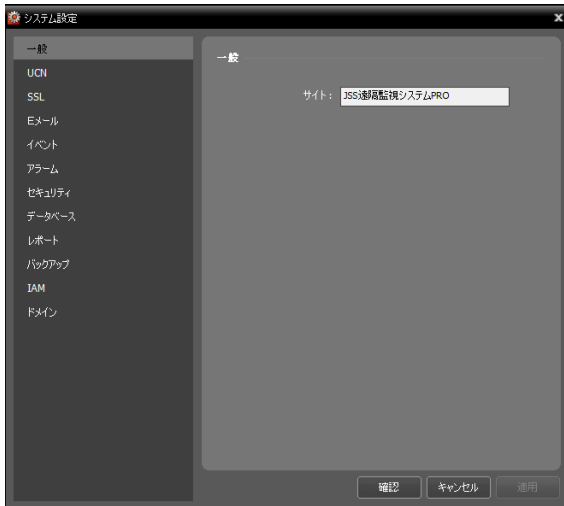
サービス

サービス及びストレージを登録及び管理します。

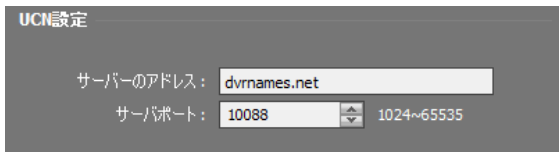


1	(システム設定)	JSS遠隔監視システムPROの情報を設定します。詳しい内容は、 システム設定 を参照してください。
2	(サービスデータベースのバックアップ), (サービスデータベースの復元)	サービスと関わる設定値を“.iexp”ファイルに保存することができます。また保存された設定値を読み込んで現在のJSS遠隔監視システムPROに適用することができます。
3	サービスリスト	JSS遠隔監視システムPROに対応するサービスのリストを表示します。 - アドレス: IPアドレス及びポート番号を表示します。 - 動作状態: 接続状態を表示します。
4	(検索)	管理サービスに登録されたサービスを検索します。検索語を入力して入力された部分と一致する結果を表示します。
5	+ (追加), - (削除), <input checked="" type="checkbox"/> (変更)	サービス及びストレージを登録するか、削除または変更します。録画のための保存スペース登録に関する詳しい内容は、 第16章 -ストレージ管理 を参照してください。

システム設定

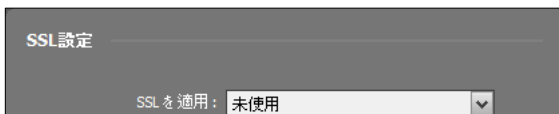


UCN



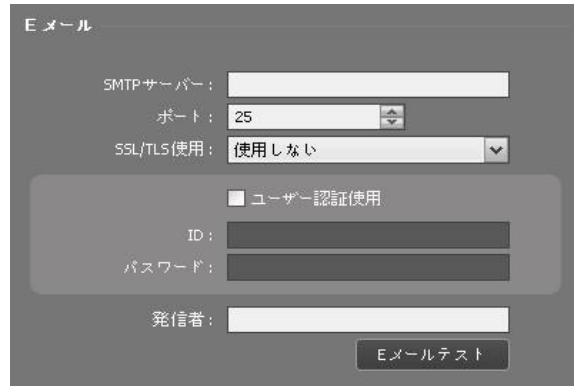
UCN機能に対応するデバイスを登録する場合に使用するUCNサーバーを設定します。本設定が正しくない場合、UCN機能を使用するデバイスの登録及び接続はできません。

SSL



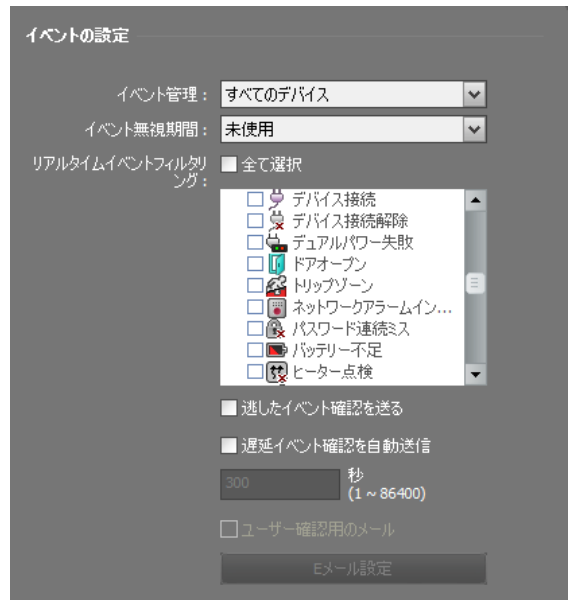
JSS遠隔監視システムPROのサービスに伝送されるデータにSSL(Secure Sockets Layer)プロトコルを用いたセキュリティ機能を設定することができます。但し、SSL機能を使う時、セキュリティレベルによってはJSS遠隔監視システムPROに負荷がかかる可能性があります。設定の変更時、現在管理サービスに接続されているサービスがすべて再接続され“JSS遠隔監視システムPRO設定”及び“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムからログアウトされます。従って設定変更した後はJSS遠隔監視システムPRO遠隔監視システムPRに再度ログインする必要があります。

Eメール



SMTPサーバー情報を入力します。イベントの感知時、JSS遠隔監視システムPROがクライアントユーザーにEメールを転送でき、管理サービスとの接続が解除されたサービスが発生した場合、一定の受信者にEメールを転送することができます。詳しい内容は、[イベント管理スケジュール設定](#)を参照してください。

イベント



イベント管理スケジュールのオプションを設定します。

・ イベント管理

- モニタリングデバイス: 現在“監視”または“マップ”パネルで、監視中のカメラからのイベントのみ通知します。

- すべてのデバイス: 管理サービスに登録された全カメラのイベントを通報します。
- イベント無視期間: イベントが感知された後、該当時間以内に感知されたイベントについてはイベントを通知しません(同じカメラから感知された同じ種類のイベントのみ)。
- リアルタイムフィルタリング: 選択されたイベントに対しては、イベントを検知してもクライアントに通報しません (イベント録画およびイベント管理スケジュールは除く)。
- 逃したイベント確認を送る: イベント確認を受信するユーザーがログイン状態ではない場合、後でログインした際にイベント確認を送信します。
- 遅延イベント確認を自動送信: イベント確認を受信したユーザーが設定時間の間にイベント確認をしない場合、当該ユーザーのモニタリンググループユーザーにイベントが転送されます。
- ユーザー確認用のメール: 遅延イベント確認送信時に確認メールをユーザーに送信します。

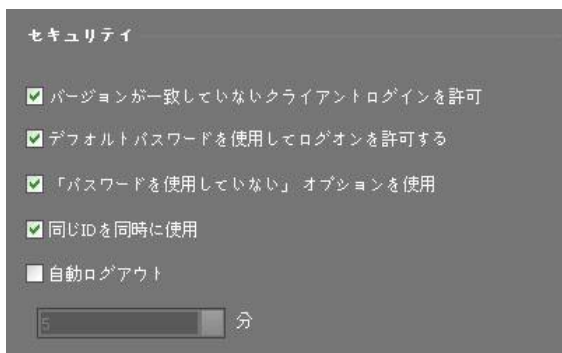
アラーム



サービス接続またはストレージのハードディスクのエラー状態を設定した方法で通知します。

- : 通知条件が発生すると、通知メッセージをメールで送信します。
- : 通知条件が発生すると、登録されているデバイスのアラーム出力を作動または解除します。
- : 通知条件が発生すると、モバイルクライアントにプッシュ通知を送信します。
- : 通知条件が発生すると、HTTPコマンドを送信します。

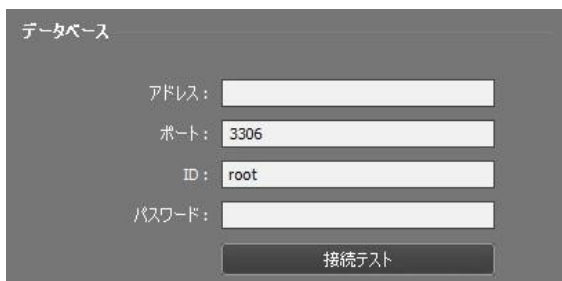
セキュリティ



システムのセキュリティに関するオプションを設定します。

- バージョンが一致していないクライアントログインを許可: 管理サービスとクライアントのバージョンが一致しない場合のログインの許可可否を設定します。
- デフォルトパスワードを使用してログオンを許可する: ユーザーアカウント生成の際に設定された当初のパスワードを使用したクライアントログインの許可可否を設定します。
- 「パスワードを使用しない」オプションを使用: パスワードの満了または“基本のパスワードを使用してログイン許可”オプションがチェック解除されている場合、クライアントログイン時に表示されるパスワード変更ウィンドウから“パスワードを使用しない”オプションの使用可否を設定します。
- 同じIDを同時に使用: 同じIDで同時アクセスを許可します。
- 自動ログアウト: 一定時間、動作がない場合に自動的にログアウトします。

データベース



データベースを設定します。

- アドレス、ポート、ID、パスワード: データベースサーバーのアドレス、ポート、ID、パスワードを設定します。

- 接続テスト：設定されたデータベースサーバーへの接続をテストします。

事前にDBサーバーにMariaDB 10.4をインストールする必要があります。

LDAP

LDAPに関するオプションを設定します。

- 使用する: LDAPを使用するかどうかをチェックします。
- IPアドレス: LDAPサーバーのアドレスを入力します。
- IPポート番号: LDAPサーバーのポートを入力します。
- ID/パスワード: LDAPサーバーのIDとパスワードを入力します。

レポート

レポートに関するオプションを設定します。

- 使用者: 使用者の情報をxmlファイルでダウンロードします。
- デバイス: デバイスの情報をファイルでダウンロードします。

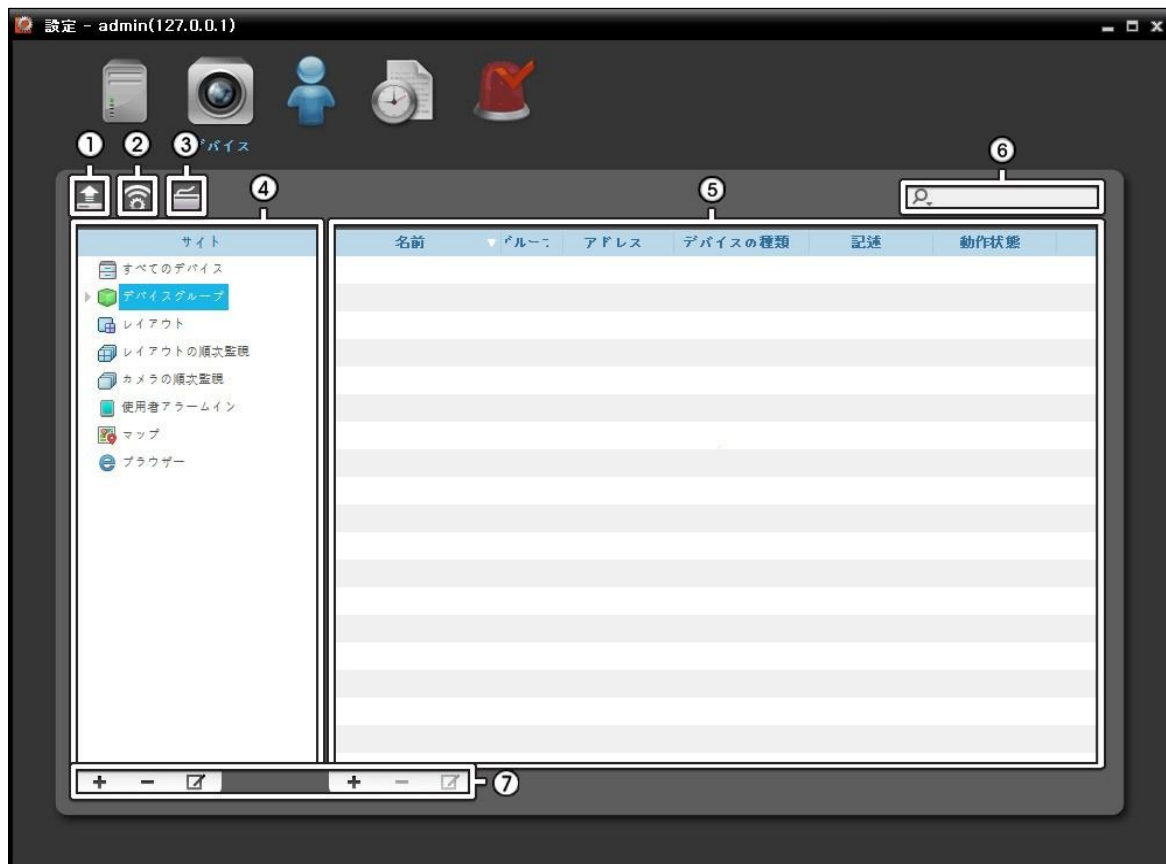
バックアップ




バックアップに関するオプションを設定します。設定した繰り返しや時間のオプションによって、JSS遠隔監視システムPRO設定を自動的に保存します。


パスは、JSS遠隔監視システムPROインストールパスの¥Server¥Profile¥ DbMirrorsフォルダの下に作成されます。“最大サイズ”は、バックアップの作成数を表示します。

デバイス

サイトを登録及び管理します。

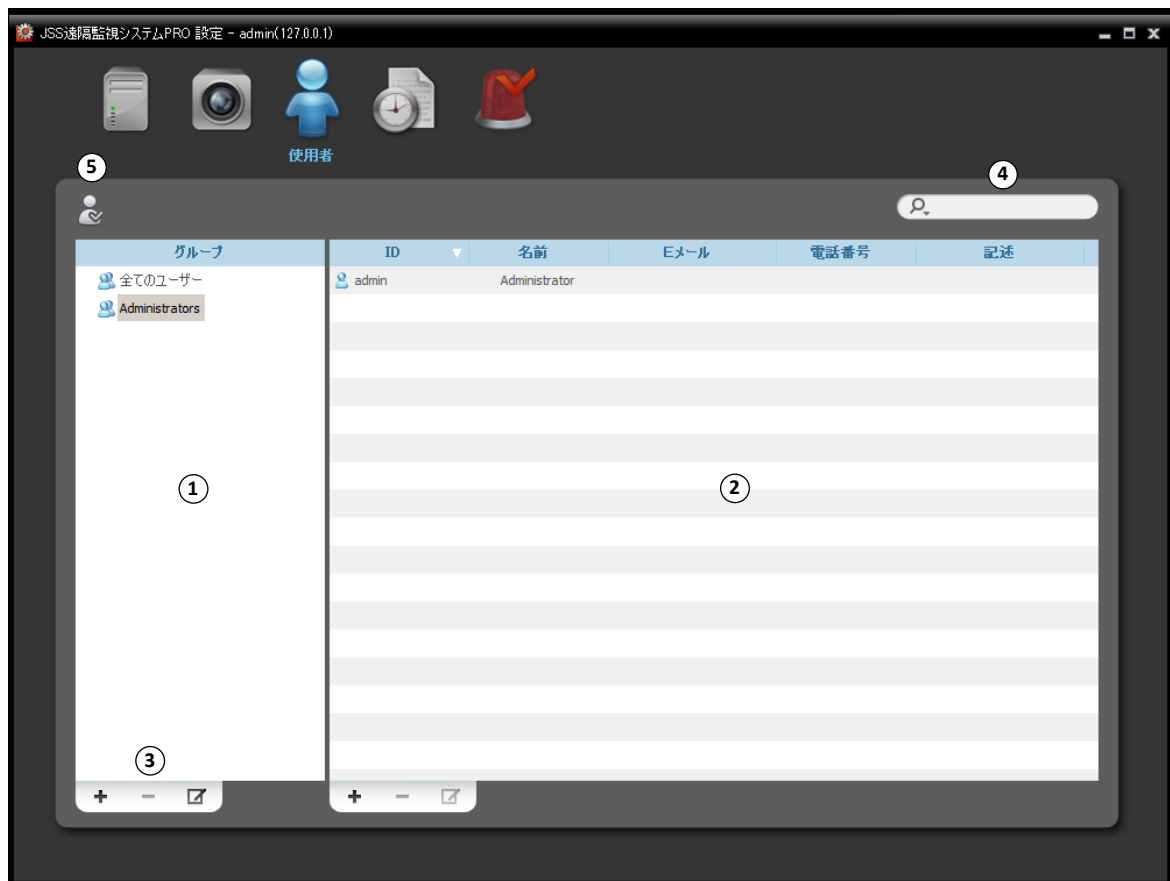


1	 (多重ファームウェアアップグレード)	複数のデバイスのソフトウェアを一括アップグレードすることができます。
2	 (多重遠隔設定)	設定ファイルを用いて複数のデバイスの設定が一括変更できます。
3	 (ネットワークキーボード設定)	ネットワークキーボードを登録、削除、修正することができます。ネットワークキーボードを利用してクライアントプログラムを制御することができます。
4	サイトパネル	JSS遠隔監視システムPROでサポートするサイトグループのリストを表示します。

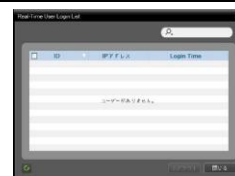
5	サイトリストのパネル	<p>各サイトグループに登録されたサイトリスト及び情報を表示します。デバイスの接続が正しく行われていない場合、ネットワーク接続解除ログが表示されます(録画サービスに登録されたデバイスのみ対応)。ネットワーク接続解除ログに関する詳しい内容は、第23章 - 付録を参照してください。デバイス名の横の矢印ボタン()をクリックすると、該当するデバイスでサポートするビデオ入力、アラーム入力/出力およびオーディオ入力/出力の状態情報を表示します(“録画”: 一般録画、“瞬間録画”: 瞬間録画中、“待機中”: 録画待機中)。</p>
6	<input type="text" value="P"/> (検索)	<p>各グループに登録されたサイトを検索します。“サイト” パネルでサイトグループを選択した後、検索語を入力します。選択したグループ内で入力された部分と一致する結果が検索されると、その結果を表示します。</p>
7	+ (追加), - (削除), <input checked="" type="checkbox"/> (変更)	<p>サイトを登録するか、削除または変更します。</p> <p>サイトを選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると表示されるメニューを利用してサイトを該当グループから削除したり、登録情報を変更することもできます。選択したサイトがデバイスである場合、デバイスに接続してデバイスの設定を変更したり、デバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます。“すべてのデバイス”でデバイスを削除する場合、デバイスを再登録してもJSS遠隔監視システムPROは他のデバイスとして認識します(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ該当)。</p> <p>デバイス及びデバイスグループの登録に関する詳しい内容は、第13章 - デバイス管理を、レイアウト及び順次監視登録に関する詳しい内容は、第5章 - リアルタイム映像監視を参照してください。</p>

ユーザー(使用者)

ユーザーまたはユーザーグループを登録及び管理します。



1	グループパネル	登録されたユーザーグループのリストを表示します。“Administrators”グループはすべての機能に対する権限を持っており、修正することはできません。
2	ユーザーリストパネル	各ユーザーグループに登録されたユーザーのリスト及び情報を表示します。
3	+ (追加), - (削除), ☑ (変更)	ユーザーグループまたはユーザーを登録するか削除または変更します。
4	🔍 (検索)	各グループに登録されたユーザーを検索します。 “グループ”パネルからユーザーグループを選択した後、検索語を入力します。選択したグループ内で入力された部分と一致する結果が表示されます。
5	リアルタイムのユーザーログイン	クライアントにログインしたユーザーをリアルタイムで確認できます。任意のユーザーを選択してログアウトさせることができます。



録画スケジュール

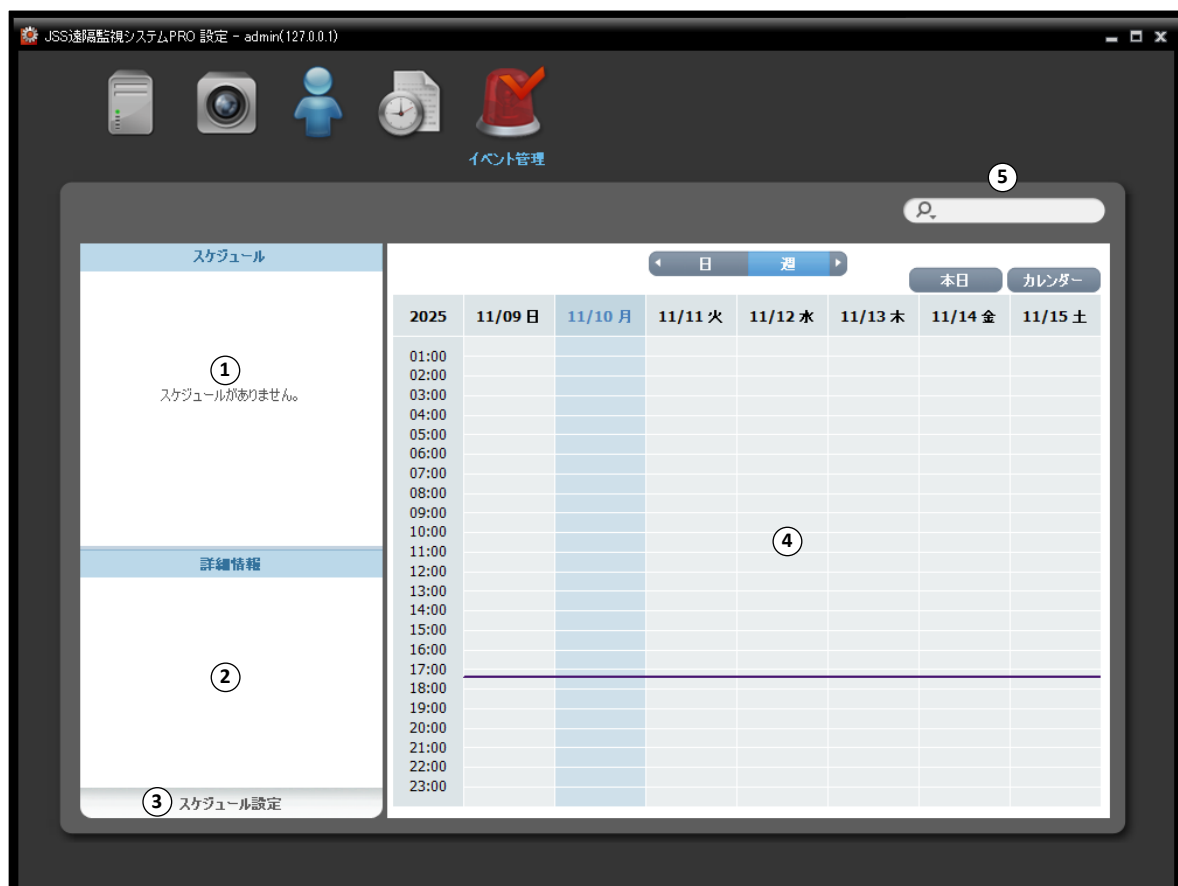
録画のためのスケジュールを設定します。

The screenshot shows the '録画スケジュール' (Recording Schedule) configuration page. On the left, there is a sidebar with a 'スケジュール' (Schedule) section containing a list of 'Always' entries (marked with 1) and a '詳細情報' (Details) section (marked with 2). Below the sidebar is a 'スケジュール設定' (Schedule Setting) button (marked with 3). The main area features a table with columns for dates from 2025 11/09 to 11/15 and rows for times from 01:00 to 23:00. The table is currently showing 'Always' for all cells. At the top of the table, there are navigation buttons for '日' (Day) and '週' (Week), and buttons for '本日' (Today) and 'カレンダー' (Calendar) (marked with 4). A search bar (marked with 5) is located at the top right of the interface.

1	スケジュールパネル	登録されたスケジュールリストを表示します。JSS遠隔監視システムPROはスケジュールに従って録画を行います。
2	詳細情報パネル	選択した録画スケジュールの設定値を表示します。
3	スケジュール設定	一般録画のための録画スケジュールを登録したり、瞬間録画のための録画設定値を設定します。詳しい内容は、 <u>一般録画スケジュールの設定</u> を参照してください。
4	スケジュールテーブル	現在設定された日別または週間別録画スケジュールを表示します。 ボタンをクリックすると本日の録画スケジュールを表示し、 をクリックするとカレンダーを表示します。
5	<input type="text"/> (検索)	登録されたスケジュールを検索します。検索語を入力すると、その結果を表示します。

イベント管理

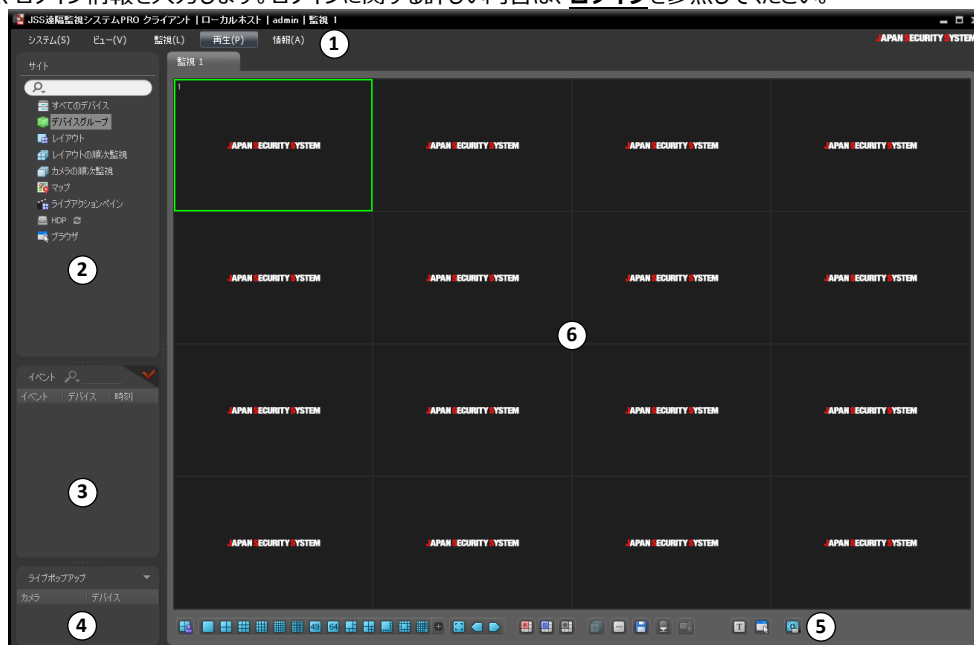
イベント管理のためのスケジュールを設定します。



1	スケジュールパネル	登録されたスケジュールリストを表示します。JSS遠隔監視システムPROはスケジュールに従ってイベントを管理します。
2	詳細情報パネル	選択したイベント管理スケジュールの設定値を表示します。
3	スケジュール設定	イベント管理スケジュールを設定します。詳しい内容は、 イベント管理スケジュール設定 を参照してください。
4	スケジュールテーブル	現在設定された日別または週間別イベント管理スケジュールを表示します。 本日 ボタンをクリックすると本日のイベント管理スケジュールを表示し、 カレンダー ボタンをクリックするとカレンダーを表示します。
5	<input type="text"/> (検索)	登録されたスケジュールを検索します。検索語を入力すると、その結果を表示します。

クライアント

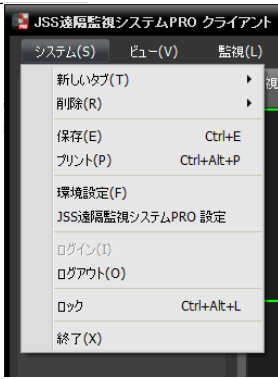
“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→ “JSS遠隔監視システムPRO クライアント”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。ログインに関する詳しい内容は、**ログイン**を参照してください。



1	メニュー	JSS遠隔監視システムPROクライアント”のプログラムを制御します。
2	サイトリスト	マウスでドラッグ&ドロップを利用して登録されたサイトに接続します。 詳しい内容は、 サイトリスト を参照してください。
3	最近のイベントリスト	登録されたデバイスのリアルタイムイベントまたはコールバックイベントを表示します。 詳しい内容は、 第8章 - イベント処理 を参照してください。ボタンをクリックすると“イベントマネージャー”パネルが表示されます。詳しい内容は、 イベント管理スケジュール設定 を参照してください。デバイスが使用するプロトコルの種類及びデバイスモデルによってイベント関連機能に対応しないことがあります。
4	ライブポップアップリスト	現在クライアントシステムに挙がっているポップアップ画面のリストを表示します。ライブポップアップに関する詳しい内容は、 イベント管理 を参照してください。
5	パネルのツールバー/タイムテーブル	パネルによってツールバーまたはタイムテーブルを表示します。
6	パネル	選択したタブの映像またはリストを表示します。

メニュー

システム



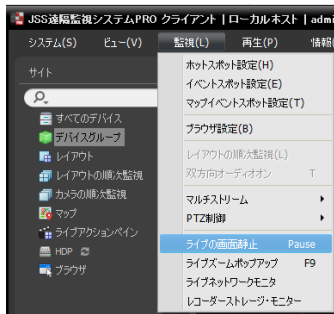
- **新しいタブ:** パネルを追加します。監視、再生、バックアップ検索、DVR検索、マップパネルの場合合わせて最大12のパネルがサポートされます（マップパネルは最大2つ、監視パネルは最大6つ、VAボックスパネルは最大3つ、ブラウザパネルは最大8つ、他のパネルはそれぞれ最大4つ - ただし、32bit システムの場合は各パネル当たり2個ずつ最大8パネル）。イベント、イベント履歴、レポート、自己診断、動作状態、デバイス状態、デバイス検査、VAタッチボード、パーソンマッチ、マップ再生パネルの場合、それぞれ1つのパネルがサポートされます。
- **削除:** 選択したデバイス、カメラまたはすべてのカメラを監視画面または再生画面から排除します。
- **保存、プリント:** 選択したタブのパネルに表示される映像またはリストを保存または印刷します(一部パネルの場合、サポートされません)。
- **環境設定:** “JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムの基本設定を変更します。詳しい内容は、**環境設定**を参照してください。
- **JSS遠隔監視システムPRO 設定:** “JSS遠隔監視システムPRO設定”プログラムを実行します。
- **ログイン、ログアウト:** “JSS遠隔監視システムPROクライアント”のプログラムにログインまたはログアウトします。
- **ロック:** JSS遠隔監視システムPROをロックします。プログラムがロックされるとプログラムを使用することができなくなり、パスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力するとロックが解除されます。
- **終了:** “JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムを終了するか、または再起動します。

ビュー



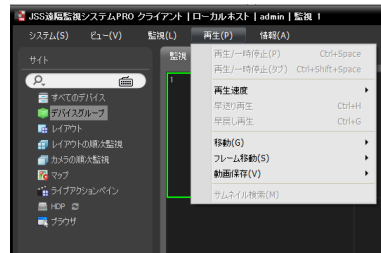
- **ユーザーレイアウト登録:** 選択した監視または再生パネルの画面分割とデバイス接続状態をユーザーレイアウトとして登録します。
- **フルスクリーン:** 選択した監視または再生パネルをフルスクリーンで表示します。
- **全画面 + ツールバー:** 選択した監視または再生パネルをパネルツールバーと一緒に全体画面で表示します。
- **フローティングタブ初期化:** 全てのフローティングタブをメインフレームに移動させます。
- **画面分割:** 画面分割を変更することができます。
- **前のカメラ、次のカメラ:** 前または次のカメラグループに移動します。
- **表示分割 1x1:** 1x1分割で表示または解除することもできます。
- **前のペインを選択、次のペインを選択:** 前または次のペインを選択します。
- **画面更新:** 監視または再生タブでスクリーンペインの映像を更新します。
- **スクリーン拡大鏡:** 現在の映像を拡大することができます。
- **ピクセルカウンター:** 監視または再生映像から選択した領域のピクセル情報を提供します。
- **イベントマネージャパネル:** イベントマネージャパネルを表示します。詳しい内容は、**イベント確認**を参照してください
- **サイトパネル:** フローティングされたパネル又は全体画面でサイトリストを表示、または非表示することができます。本機能は一部パネルのみ対応します。
- **テキストインパネル:** テキストインパネルを表示します。テキストの結果をパネルに表示します。

監視



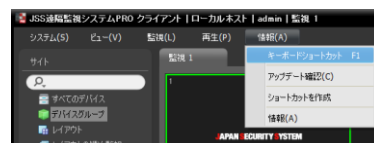
- **ホットスポット設定**: 選択したカメラ画面をホットスポット画面で設定します。詳しい内容は、**ホットスポット設定**を参照してください。
- **イベントスポット設定**: 選択したカメラ画面をイベントスポット画面で設定します。詳しい内容は、**イベントスポット設定**を参照してください。
- **マップイベントスポット設定**: 選択したカメラ画面をマップイベントスポット画面で設定します。詳しい内容は、**マップイベントスポット設定**を参照してください。
- **ブラウザ設定**: 選択した画面をブラウザ画面に設定します。詳しい内容は、**ブラウザ画面設定**を参照してください。
- **レイアウトの順次監視**: レイアウトの順次監視を開始または終了します。詳しい内容は、**レイアウトの順次監視**を参照してください。
- **マルチストリーム**: 選択したカメラデバイスがリアルタイム監視映像に対し、マルチストリームモードが設定されている場合、任意のストリームを設定します。
- **PTZ制御**: 選択した、またはすべてのPTZカメラのデバイスに対してPTZ制御を実行します。
- **ライブの画面静止**: 表示中のライブ画面を停止します。
- **ライブネットワークモニター**: デバイス別の帯域幅を時間別にグラフに表示します。

再生



- **再生/一時停止**: 録画された映像を再生したり映像再生を一時停止します。
- **再生速度**: 再生速度サブ項目の再生速度増加/減少
(**Ctrl + L / J**) は、シャトルステップ再生速度増加減少機能でシャトルロックONモードで動作します。また倍速の増加、減少で動作します。
(- INF / -32x / -16x / -8x / -4x / -2x / -1x / -0.5x | 0 | +0.5x / +1x / +2x / +4x / +8x / +16x / +32 / +INF)
- **早送り再生、戻し再生**: 親項目の高速再生/高速リバース再生 (**Ctrl + H / G**) はシャトルロックOFFモードで動作します。高速再生x倍速中、逆方向実行時にすぐに-2x倍速に変更されます。
(- INF / -32x / -16x / -8x / -4x / -2x | +2x / +4x / +8x / +16x / +32 / +INF)
再生速度サブ項目の初期化と1倍速はシャトルロックOFFモードで動作します。
- **移動**: 再生したい日時へ移動します。詳しい内容は、**第7章 - 録画映像再生及び動画で保存**を参照してください。
- **フレーム移動**: フレームまたは時間単位で、前または次の映像に移動します。
- **動画保存**: 録画映像を専用のビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存します。
- **サムネイル検索**: イベントベース録画(イベント及びプリイベント)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。

情報

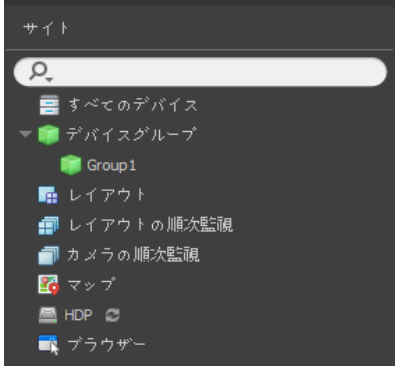


- **アップデート確認**: アップグレード可能なソフトウェアバージョンを表示します。
- **キーボードショートカットキー**: キーボードショートカットキーの説明ポップアップを表示します。

- 情報: ソフトウェアのバージョンまたは著作権の情報を表示します。

サイトリスト

登録されたサイトリストを表示します。



- 🔍

 - (検索): 登録されたサイトを検索します。検索語を入力すればその結果を表示します。
- すべてのデバイス: 管理サービスに登録されたデバイスのリストを表示します。リストでデバイスをクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすれば、該当するデバイスに接続しているカメラの映像を監視したり、カメラの録画映像を再生することができます。すべてのデバイスは"Administrator"グループに属するユーザーのみ表示されます。
- デバイスグループ: 登録されたデバイスグループのリストを表示します。リストでデバイスをクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすれば、該当するデバイスに接続しているカメラの映像を監視したり、カメラの録画映像を再生することができます。詳しい内容は、[映像監視](#)または、[録画映像](#)を参照してください。
- レイアウト: 登録されたレイアウトリストを表示します。リストでレイアウトをクリックした後、画面にマウスでドラッグ&ドロップすれば、レイアウトの監視または再生を行います。詳しい内容は、[映像監視](#)または、[録画映像再生](#)を参照してください。
- レイアウトの順次監視: 登録されたレイアウトの順次監視のリストを表示します。リストでレイアウトの順次監視をクリックした後、画面にマウスでドラッグ&ドロップすると、レイアウトの順次監視を行います。
- カメラの順次監視: 登録されたカメラの順次監視のリストを表示します。リストでカメラの順次監視をクリックした後、画面上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、カメラの順次監視を行います。詳しい内容は、[映像監視](#)または、[カメラの順次監視](#)を参照してください。
- マップ: 登録されたマップのリストを表示します。リストでマップの順次監視をクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、マップ監視を行います。詳しい内容は、[マップ監視](#)を参照してください。
- HDP: JSS遠隔監視システムPROにデバイスの脱着式/eSATA HDD又はSD(SDHC)メモリーカードが接続されている場合、該当HDD又はSD(SDHC)メモリーカードのリストを表示します。デバイスの脱着式 HDDをJSS遠隔監視システムPROに接続するには、SATA<->USB 2.0コンバータ又はIDE <-> USB2.0コンバータが、eSATA HDDはeSATAケーブルが、SD(SDHC)メモリーカードはSD(SDHC)メモリーカードリーダーが必要です。リストでマウスの右ボタンをクリックすると該当 HDD又はSD(SDHC)メモリーカードの保存容量情報が表示されます。表示される保存スペースに関する情報は、フォルダーの経路、ドライブの種類、デバイスのモデル、録画範囲、容量です。
- ブラウザ: 登録されたブラウザのリストを表示します。リストからブラウザをクリックした後、画面上の希望する所にマウスで、ドラッグ・アンド・ドロップするとウェブブラウザを実行します。詳しい内容は、[ブラウザ実行](#)を参照してください。
- 緊急録画: 緊急録画されたデバイスがある場合、該当デバイスのリストを表示します。
- (“ローカルクライアントパソコンに緊急録画” 項目の選択時のみ表示) 詳しい内容は、[緊急録画設定](#)を参照してください。

パネル



- 監視: リアルタイム映像を表示します。詳しい内容は、[映像監視](#)を参照してください。

- 再生: 録画サーバーに保存されている録画映像を再生することができます(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ対応)。
- バックアップ検索: バックアップサーバーに保存されたバックアップ映像が再生できます。

本機能はJSS遠隔監視システムPROにバックアップサービスが登録されている場合のみ対応します。

- DVR検索: DVR、クライアントシステムまたはSD (SDHC/SDXC)メモリーカード(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するネットワークカメラに搭載されたSD (SDHC/SDXC)メモリーカードのみ)の録画映像が再生できます。

詳しい内容は**第7章 - 録画映像再生及び動画で保存**を参照してください。

- マップ: マップを表示します。詳しい内容は、**マップ監視**を参照してください。
- 映像解析装置: VAボックスが接続された装置を用いて画像解析情報を表示します。詳しい内容は、**第20章 -VAボックス**を参照してください。
- ブラウザ: 選択した画面をウェブブラウザに設定できます。
- マップ再生: マップとブックマーク機能を利用してマップビュー検索ができます。

- AI検索: A-Cut、スナップショットを検索できます。(AI検索に対応しているデバイスの場合にのみサポート)。
- 映像解析ダッシュボード: AIボックスが接続されたデバイスを利用して映像分析情報が表示されます。詳細はAIボックスの取扱説明書をご参照ください。AIボックスに関する詳細はソフトウェア購入先にお問い合わせください。

- イベント: イベント録画時に録画されたイベントのリストを表示します。イベントのリストでイベントをダブルクリックするか、イベントを選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、該当イベントの録画映像が再生画面に表示されます。

詳しい内容は、**第7章 - 録画映像再生及び動画で保存**を参照してください。

- イベント履歴: イベントマネージャーパネルに通知されたイベントのログを表示します。詳しい内容は、**イベント確認**を参照してください。
- 動作状態: 録画サービスに登録されたデバイスの動作状態を点検し、その結果を表示します。

- デバイス検査: 管理サービスに登録されたデバイスの動作状態を点検し、その結果を表示します (JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。

詳しい内容は、**デバイス検査**を参照してください。

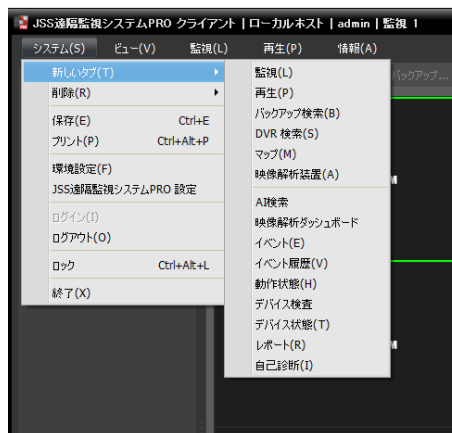
- デバイス状態: 知りたいデバイスの状態をリアルタイムで表示します(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。

詳しい内容は、**デバイス状態の監視**を参照してください。

- レポート: JSS遠隔監視システムPROのログを表示します。詳しい内容は、**第10章 -ログ検索**を参照してください。
- 自己診断: NVRのシステム、ネットワーク、カメラの状態などの全状態を表示します (自己診断を支援するデバイスのみ対応)。詳しい内容は、**自己診断**を参照してください。

パネルタブでマウスの右ボタンをクリックし、タブの名前を変更することができます。

パネルの追加及び削除



“システム”メニューをクリックします。→ “新しいタブ”をクリックします。→ 追加するパネルを選択します。

各タブの横の ✕ ボタンをクリックするとそのパネルが削除されます。

パネルのフローティング及び固定

- パネルタブをクリックした後、マウスでドラッグ&ドロップすると、該当するパネルが画面上にフローティング(浮上)します。フローティングされているパネルタブをクリックした後、元の位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、該当位置に固定します。マウスでドラッグ&ドロップを利用してパネルタブの順序を変更することもできます。
- フローティングされたパネル最大化: フローティングされたパネルの上右側のスクリーン最大化/以前サイズ復元ボタンをクリックするとパネルを最大化することや以前のサイズに復元することができます。
- フローティングされたパネルにサイトリスト表示/非表示: フローティングされたパネルの画面でマウスの右ボタンをクリックし、画面メニューで“サイトパネル”を選択するとフローティングされたパネルにサイトリストを表示、または非表示することができます。本機能は一部パネルのみ対応します。

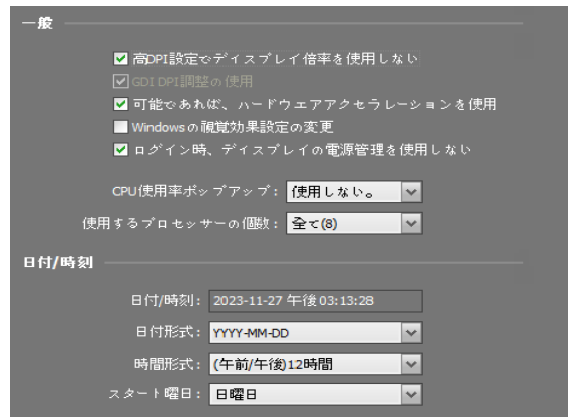


環境設定

“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムの基本設定をユーザーが希望どおりに設定することができます。“システム”メニューの“環境設定”をクリックします。環境設定画面が表示されます。



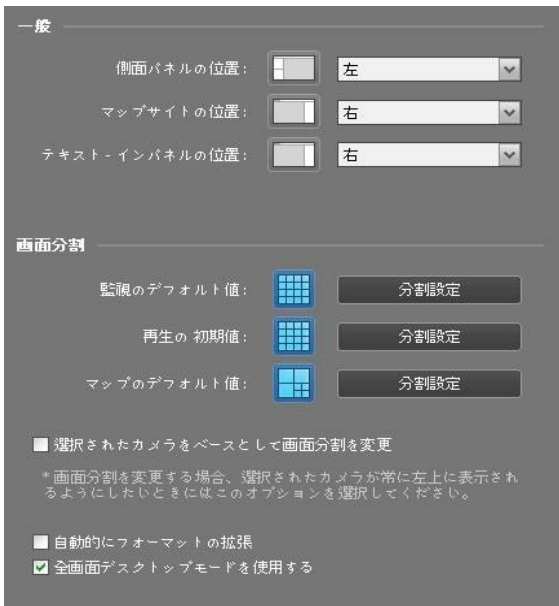
システム



- 高DPI設定でディスプレイ倍率を使用しない: 選択解除時にDPIスケールに基づいて、クライアントプログラムサイズが変更されます。
- GDI DPI調整の使用: 高いDPI環境で拡大されたテキストが鮮明に見えるようにします。オペレーションシステムが当該機能に対応し、高DPI設定でディスプレイ倍率を使用しない設定を解除すると機能が有効になります。
- 可能であれば、ハードウェアアクセラレーションを使用: 特定の条件を満たす環境でハードウェアアクセラレーションを使用します。設定を解除した場合、ハードウェアアクセラレーションを使用できる環境でもハードウェアアクセラレーションを使用しません。
- Windowsの視覚効果設定の変更: Windows視覚効果設定を変更するかどうかを選択します。
- ログイン時、ディスプレイの電源管理を使用しない: 選択を解除すると、ディスプレイの電源管理オプションが適用されます。

- CPU使用率ポップアップ: クライアントシステムのCPUの使用量が設定した値を超える場合は警告メッセージが表示されます。
- 使用するプロセッサの個数: JSS遠隔監視システムPRO 動作の時、使用するプロセッサの個数を選びます。JSS遠隔監視システムPROに対するCPU使用量の制限ができます。
- 日付/時刻: 現在の日付と時間を表示します。
- 日付形式、時間形式: システムの日付及び時刻の表示形式を設定します。
- スタート曜日: 一週間の最初の曜日を設定します。

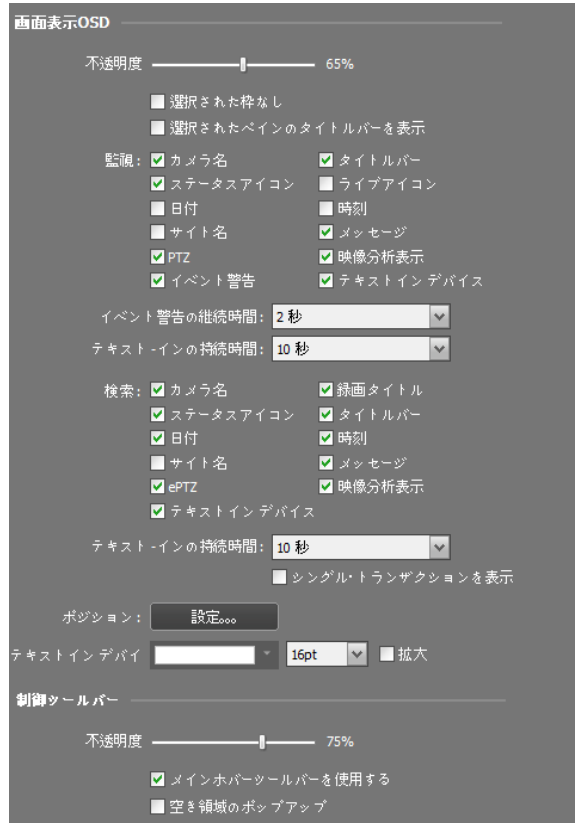
画面分割



- 側面パネルの位置、マップサイトの位置、テキストインパネルの位置: 側面パネルの位置及びマップパネルのルートマップリスト及びテキストインパネルの位置を設定します。
- 監視のデフォルト値、再生の初期値、マップのデフォルト値: 監視画面、再生画面及びマップ画面の基本画面分割を表示し、“分割設定”ボタンをクリックして基本の画面分割を変更することができます。
- 選択されたカメラをベースとして画面分割を変更: 画面分割が変更される時、現在の画面で選択したカメラが変更される分割画面の最初のカメラ画面に位置します。
- 自動的にフォーマットの拡張: 接続されたカメラの台数に合わせて、分割画面を自動的に変更します。但し、カメラの個数が減った場合は変更しません。

- フルスクリーンデスクトップモードを使用: 全画面に設定する場合、当該タブがタスクバーのクライアント画面に追加され、クライアントを最小化する場合、全画面であるタブは最小化されません。

画面表示



- 画面表示OSD: カメラ画面でのOSD(On Screen Display)の表示方法及び表示するか否かを設定します。
 - 不透明度: スライダーを用いて、OSDの不透明度を調整することができます。
 - 選択された枠なし: 監視または、再生の時、選択したカメラ画面の枠を表示しません。
 - 選択されたペインのタイトルバーを表示: 監視または再生時、現在選択されているカメラ画面のタイトルバーを表示します。
 - 監視、検索: 画面に表示されるOSD情報を設定します。
- カメラ名: JSS遠隔監視システムPROで設定したカメラ名を表示します。
- タイトルバー: カメラ画面の上段にタイトルを表示するエリアを区分します。
- 録画タイトル: 映像録画の際、設定されていたカメラのネームを表示します。

- ステータスアイコン: ステータスOSDを表示します。

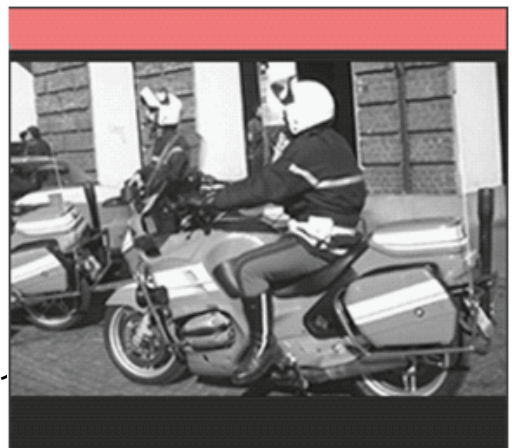
● (赤色): 一般録画	● (青色): 瞬間録画
● (オレンジ色): 緊急録画	● (カラー): カラーコントロール機能を使用 (再生映像のみをサポート)
P : PTZモード	● (緑色): 画像効果機能の使用
● (カメラ): カメラ順次監視モード	● (時計): 画面停止中 (監視映像のみサポート)
● (+): 映像拡大モード	● (スピーカー): リスニングまたはトークモード

- PTZ: PTZカメラ制御時、画面にPTZ制御ボタンを表示します。
- 日付、時刻: 管理サーバーの日付および時間を表示します。
- イベント警告、イベント警告の継続時間: デバイスでイベントが発生すると、該当するカメラのタイトルバーを赤色で表示します。イベント警告の表示は、イベント発生後に設定された“イベント警告の継続時間”が過ぎると解除され、“マニュアルでオフ”に設定すると、該当するカメラ画面選択時に解除されます。
- モーションブロック: デバイスで、モーション感知イベントが発生すると、モーションが感知されたエリアを画面上に赤色のブロックで表示します (JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するネットワークビデオエンコードの場合にのみ対応)。
- ePTZ: 魚眼映像のカメラでPTZ制御時、ガイドGUI (グラフィカルユーザーインターフェイス) が表示されます。
- サイト名: デバイス名を表示します。カメラ名とデバイス名が違う場合のみ表示されます。
- テキストインデバイス: デバイスまたはJSS遠隔監視システムPROにテキストインイベントが発生した場合、テキストイン情報を画面上に表示します (1x1分割画面にのみ対応) (JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。
- メッセージ: スクリーンメッセージを表示します。スクリーンメッセージに関する詳しい内容は、**ネットワーク**を参照してください。
- 映像解析装置: 映像解析情報を表示することができる場合には、デフォルトで表示されます。
 - テキストインの持続時間: 監視/再生でそれぞれのテキストインの持続時間を設定できます。

- シングルランザクション表示: 再生時、画面に一つのテキストイン(ランザクション)のみ出力します。
- ポジション: 画面表示OSDの位置、OSDテキストの大きさ、OSDのスペースを変更することができます。
- テキストインデバイス: テキストインのカラーおよびテキストサイズを変更することができます。
- 制御ツールバー: “不透明度”スライドバーを利用して、カメラ画面の制御ツールバーの不透明度を調整します。
 - メインハーバーツールバーの使用: カメラペインのハーバーツールバーを表示するかどうかを設定します。コンテキストメニューから機能を実行した場合、設定にかかわらずハーバーツールバーが表示されます。
 - 空き領域のポップアップ: ホバー領域でのマウスカーソルの位置にツールバーを表示するかどうかを決めます。



カメラ名、ステータス アイコン、日付/連続録画



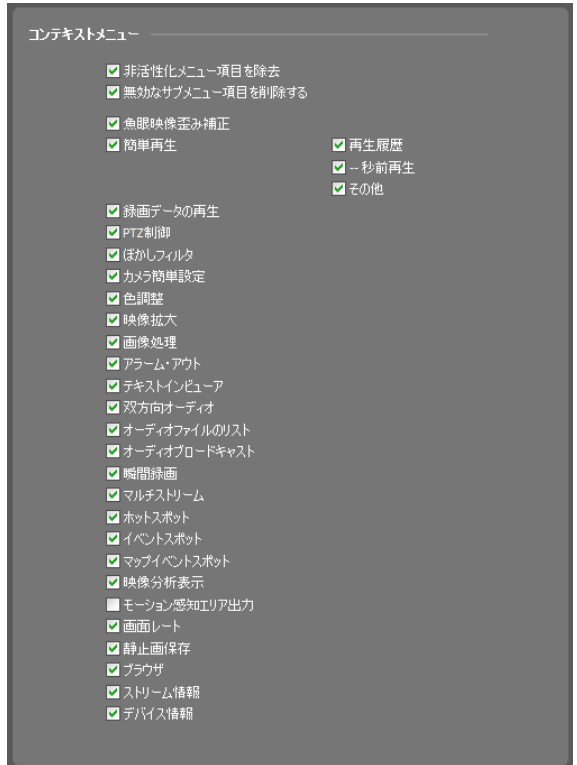


モーションブロック



制御ツールバー

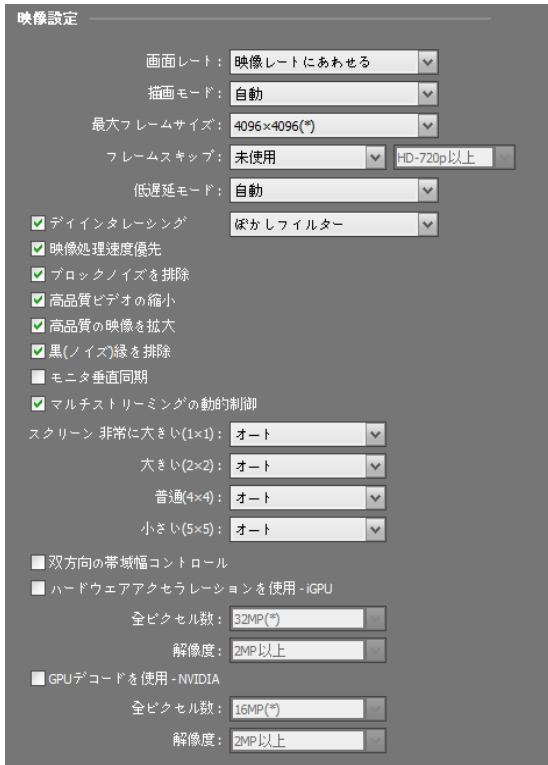
画面メニュー



監視タブのコンテキストメニューをユーザーが追加および除去します。

- 非活性化メニュー項目を除去： 選択されたメニュー項目のうち、無効なメニュー項目をコンテキストメニューに表示しません。
- 無効になっている下位項目の除去： 選択されたメニューの下位メニューのうち無効になっているメニューをコンテキストメニューで表示しません。

映像設定

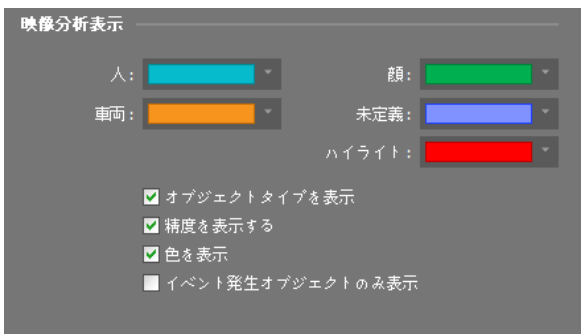


- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
 - 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートで、カメラ画面のエリアに合わせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアに合わせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる (Smart): 画面に出力される映像のマージンに基づいて“画面に合わせる”または“実際サイズ”が適用されます。
 - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままカメラ画面のエリアに合わせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大やホットスポット、イベントスポット、モーションブロック表示、映像分析表示機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されます。
 - 1倍サイズ(×1): 映像の実際のサイズに出力します。
- 描画モード: 画面に映像を表示するための描画モードを選択します。描画モードの設定に従って、映像の色感やディスプレイ性能に差が出る場合があります。
- 最大フレームサイズ: 画面で出力できる映像フレームの最大サイズを設定します。

- フレームスキップ: デコーディングのスペックを超える映像の場合、選択したフレームスキップ機能を適用して性能を向上させます。
 - デイインタレーシング: インタレーシングモードでエンコードされている映像の場合、モーションのある部分に発生する横線やノイズを排除し、映像出力の品質を向上させます。希望するデイインタレーシングフィルターを選択します。
 - 映像処理速度優先: 映像出力時、画面上に表示される映像の出力品質より、ディスプレイ速度を優先して表示します。
 - 低遅延モード: 映像フレームの平行デコーディングを最小限に抑え、DPBによる遅延を低減します。(本機能はバッファリング、平行処理、後処理を減らすため高スペックを求めます。)
 - ブロックノイズを排除: 拡大映像で発生する階段(ブロック)現象を排除し、画面上に表示される映像の出力品質を向上させます。
 - 高品質ビデオの縮小/拡大: 映像縮小/拡大時、画面に表示する映像の出力品質を維持します。
 - 黒(ノイズ)縁を排除: 映像の端に出力される黒い縁(ノイズ)を排除します。
 - モニタ垂直同期: モニターの遅い走査線速度によって発生する映像のティアリングを改善します(1×1分割画面モードでのみ)。この場合、CPU使用量が増加することがあります。
 - マルチストリーミングの動的制御: 画面分割モードによって違うストリームを使用するように設定できます(複数のストリームが使われているデバイスでのみサポート)。“オート”を選択するとJSS遠隔監視システムPROがその画面の分割モードに適切なストリームを自動設定します。
 - 双方向の帯域幅コントロール: 画面分割によってデバイスの解像度とフレーム速度を流動的に変更し、ネットワークの帯域幅をコントロールします(1×1分割: 該当デバイスでサポートする最大解像度および転送速度、多分割: 各画面の分割に適切なレベルに低くした解像度およびフレーム速度)。
- これにより、ネットワーク帯域幅を効率的に使うことによってネットワークの負荷によって起こるクライアントシステムの性能低下を減らすことができます。本機能が動作するためにはデバイスにも該当機能が設定されていなければなりません。本機能は監視映像に対してのみ動作します。

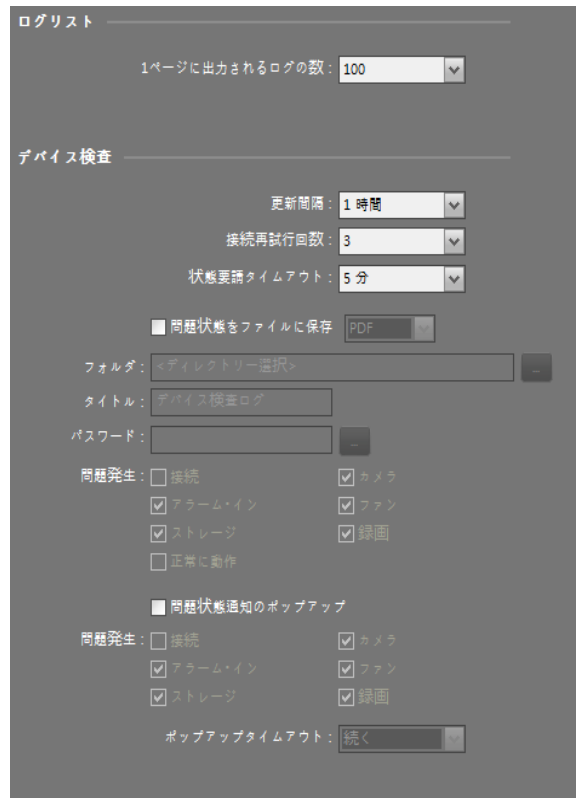
- ハードウェアアクセラレーションを使用
 - iGPU/ NVIDIA: JSS遠隔監視システムPROでハードウェアアクセラレーションを使用します。使用時にHDクラスの高画質映像処理が向上します。本機能はユーザーのPCでハードウェアアクセラレーションを使用する場合にのみ対応します。
 - NVIDIAはNVIDIAのグラフィックスカードが装着されているときに有効になります。
- GPUデコードを使用
 - NVIDIA: JSS遠隔監視システムPROでGPUデコードを使用します。使用時にHD級の高画質映像処理が向上します。本機能は、ユーザーのPC上でGPUデコードを使用している場合にのみサポートされます。

ビデオ分析



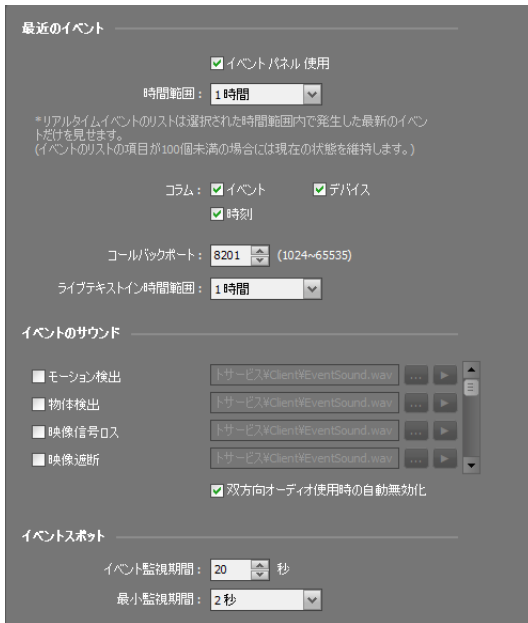
- 色の設定：映像にオーバーレイされた映像分析結果の色をオブジェクトタイプ別に設定します。
- オブジェクトタイプを表示：映像分析結果にオブジェクトタイプを表示します。
- 精度を表示する：映像分析結果に精度を表示します。
- 色を表示：映像分析結果にオブジェクトの色を表示します。



レポート



- ページに出力されるログの数：1ページに出力されるログの数を設定します(“デバイスログ”の場合、設定に関係なく100個)。
- 更新間隔：デバイス検査パネルでの状態更新間隔を設定します。
- 接続再試行回数：デバイスがアクセスできなかった場合の最大リトライ回数を設定します。
- 状態要請タイムアウト：デバイス状態の要請結果を受ける最大待機時間を設定します。
- 問題状態をファイルに保存：更新間隔に合わせて選択した問題発生項目のログをPDFまたはCSV形式に保存します。保存フォルダーとタイトルおよびパスワード(PDF)を設定することができます。
- 問題状態通知のポップアップ：更新間隔に合わせて選択した問題発生項目の問題が発生すると、ポップアップ通知を表示します。ポップアップ通知には、問題関連情報が表示され、自己診断テキストをクリックすると自己診断を始めます。
- ポップアップタイムアウト：問題状態通知のポップアップが自動的に閉じられる時間を設定します。“続く”を選択すると、ユーザーが手動にウィンドウを閉じる必要があります。

最近のイベント

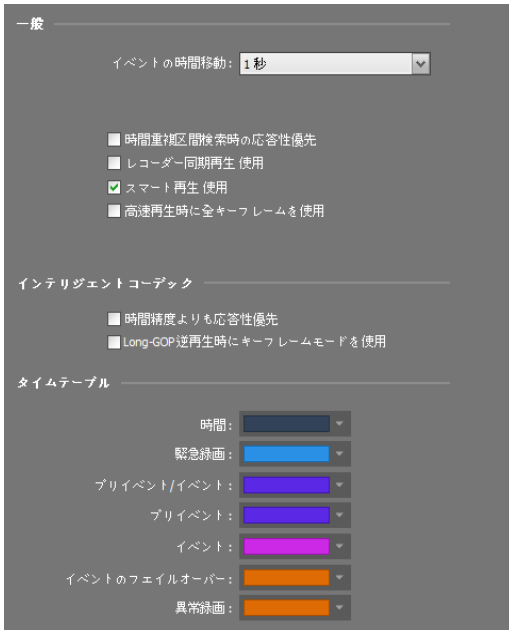


- イベントパネル使用: ライブイベントリストが表示されるパネルを表示します。選択を解除すると、パネルが非表示になります。
 - 時間範囲: 最近のイベントリストに表示される各イベント通知の表示期間を設定します(イベントのリストが100個以下である場合に表示期間が過ぎてもイベント通知は最近のイベントリストから消えません)。
 - コラム: 最近のイベントリストに表示する情報を選択します。
 - コールバックポート: デバイスからコールバックメッセージを受信するためのポート番号を設定します。但し、本設定はモニタリングサービスが動作しない場合にのみ使用し、モニタリングサービスが動作する場合にはサービス管理者で設定したモニタリングサービスのコールバックポートを使用します。ポート番号は該当デバイスで遠隔コールバックのために設定したポート番号と同一でなければなりません。
 - ライブテキストイン時間範囲: テキストインイベント感知時、該当テキストインデータの表示期間を設定します。テキストインデータはテキストインイベント発生後、設定した時間範囲内でテキストインビューア画面で確認できます。テキストインビューア画面に関する詳しい内容は、[テキストインビューア](#)を参照してください。
- イベントのサウンド: イベント発生時、オーディオを再生してサウンドを出力するように設定します。希望するイベントを選択した後、 ボタンをクリックして出力するオーディオファイル(.wav)を設定します。 ボタンをクリックすると該当オーディオファイルを再生して、サウンドを確認することができます。
 - 双方向オーディオ使用時の自動無効化: 双方向オーディオ使用の際、イベント警告サウンド機能が非活性化されるよう設定します。
 - イベントスポット: イベント発生時そのイベントが発生したカメラ映像をイベントスポット画面に表示します。
 - イベント監視期間: イベントスポット画面に表れる映像の持続時間を設定します。
 - 最小監視期間: 現在イベントが表示されている間に他のイベントが感知された場合、現在イベントに対するイベント監視期間を設定します。設定された時間が過ぎてから他に感知されたイベントのカメラ映像を表示します。

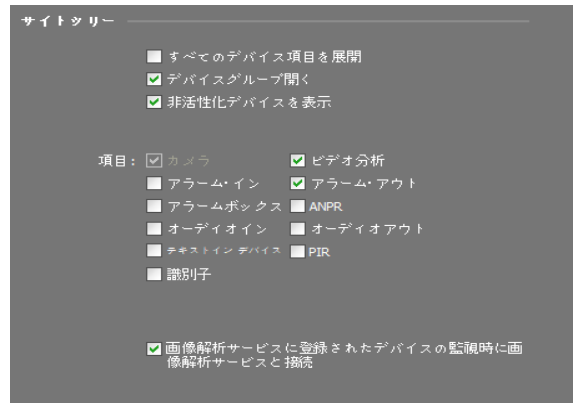
ネットワーク

- 高画質監視映像バッファリング：HD映像を監視する際に短期間/長期間バッファリングを使用して画面に映像をより柔らかく出力することができます（フレームにコーデック情報がある場合にのみ対応）。ネットワーク環境により、バッファリングが遅延されたりリアルタイム感が落ちたりする場合があります。
- 監視オーディオのバッファリング：監視オーディオフレームの受信バッファリング時間を設定します。双方向オーディオのリスニングを実行すると、指定されている時間の分量のオーディオフレームがバッファリングされた後に再生を開始します。
- 監視映像フレームなし検出：映像フレームの転送をしたかどうかを確認する間隔を設定します。設定した時間の間、JSS遠隔監視システムPROにデバイスの映像フレームが転送されない場合、該当カメラ画面にメッセージが表示されます。
- 連結解除メッセージ：デバイス連結が解除された場合に表示されるスクリーンメッセージ又はデバイス接続時にカメラの状態が表示されるスクリーンメッセージの内容を変更できます。“設定”ボタンをクリックした後、各メッセージの横にあるチェックボックスを選択すると、該当メッセージの内容を変更することができます。
- RTP受信ポート範囲：RTPプロトコルを使用して映像を転送するデバイスが登録された場合、RTP受信ポート範囲を設定します。ネットワークファイアウォールまたはイントラネットが特定UDP/RTPポート番号のみを許可するならば、該当ポート番号に合わせてRTPポート範囲設定を変更しなければなりません。録画サーバーのRTPポート番号または一般ストリーミングプログラムのポート番号と衝突しないようにしてください。衝突が起こる場合、映像監視ができない場合があります。
- 損傷したフレームは出力しない：RTPプロトコル使用時、ネットワーク環境によってフレームが損傷したり消失することがあります。この場合、損傷したフレームを監視または再生パネルに表示するかどうかを設定します。
- バッファリングのフレーム数：RTPプロトコルで使用するバッファリングのフレーム数を設定します。数字が大きくなれば映像が切れる現象は減りますがリアルタイム感は落ちます。
- ネットワークキーボード使用：ネットワークキーボードを使用してクライアントプログラムを制御することができます。この時クライアントプログラムが使ったポート番号を設定します。
 - 大きいマウスカーソル使用：マウスカーソルのサイズが大きくなります。
 - 方向ボタンでペインを選択：ネットワークキーボードの方向ボタンでペインを選択することができます。
 - MFZカメラ制御使用：ジョイスティックやシャトルを用いてMFZカメラのFocusやZoom機能を使用することができます。
- パンチルトの速度制限：パンチルトの最大速度を設定した値に制限します。

検索 サイト



- イベントの時間移動: イベント検索の際、イベント関連フレームの時間を基準にして特定の時間以前のフレームを検索するように指定することができます。
- 時間重複区間検索時の応答性優先: 多くのセグメントが存在するエリアを検索するとき、最新の基準でセグメント数を限定して検索します。
- レコーダー同期再生使用: レコーダーの再生時に、再生サービスを使用するかどうかを設定します。
- スマート再生 使用: 録画サーバーと録画フェールオーバーサーバーに録画された映像を、同じ再生タブで、連続して再生することができます。
- 時間精度よりも応答性優先: Long-GOP映像に対してGoTo機能を行ったときに正確な時間に対応するフレームより、応答性の損失を減らしながら最大限隣接した時間のフレームを表示します。
- Long-GOP逆再生時にキーフレームモードを使用: Long-GOP映像に対して逆方向に再生する際、キーフレームのみ再生するように設定します。
- タイムテーブル: 録画モードごとにタイムテーブルに表示する色を指定できます。



- すべてのデバイス項目を表示: ログインすると、サイトツリーのすべてのデバイス項目が表示されます。本機能は Administrator グループに属するユーザーにのみサポートしています。
- デバイスグループを開く: 映像監視または再生の時、サイトリストにあるデバイスグループを展開してデバイスリストを表示します。
- 非活性化デバイスを表示: サイトリストから非活性化されたデバイスを表示または隠します。
- 項目: 映像監視または再生の時、サイトリストにデバイスでサポートされている入/出力デバイスを表示したり隠します。
- 画像解析サービスに登録されたデバイスの監視時に画像解析サービスと接続: デバイスを監視タブにドラッグ & ドロップして映像分析表示を選択しなくても、すぐに映像分析サービスに接続して映像監視を開始します。

マップ

マップ設定

ライブポップアップパネル 使用
 イベントサウンドマルチ再生 使用

*以下の設定はマップ実行時、適用されるデフォルトです。マップの実行後にはホバーパネルまたはコンテキストメニューでマップ再に変更することができます。

フォーカシングイベント: モーション検知 オブジェクトトラッカー
 映像信号ロス 映像遮断
 ビデオ分析 顔感知
 トリップゾーン オートラッキング
 タンパーリング オーディオ検出
 アラーム・イン ネットワークアラーム・イン
 PIR 検知 アラーム・アウト
 テキストインデバイス 経路順次監視
 IoT

自動フォーカシング使用

フォーカシング期間: 秒

フォーカシングの最小維持: 秒

拡大ファインダー:

マップイベントスポット

イベント監視期間: 秒

最小監視期間: 秒

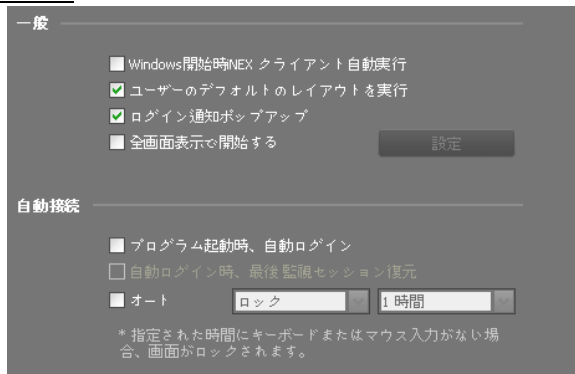
インスタントビューアー

持続時間: 秒

- イベント監視期間: マップイベントスポット画面に表れる映像の持続時間を設定します。
- 最小監視期間: 現在イベントが表示されている間に他のイベントが感知される場合、現在のイベントに対するイベント監視期間を設定します。設定された時間が経ってからで感知されたイベントのカメラの映像を表示します。
- インスタントビューアー: インスタントビューアーの持続時間を設定します。インスタントビューアーはマップでカメラをクリックすると現れます。

- ライブポップアップパネル使用: ライブポップアップリストが表示されるパネルの表示/非表示を切り替えられます
- イベントサウンドマルチ再生使用: 複数のカメラサイトで同時にイベントが発生すると、イベント音が設定されたカメラそれぞれのオーディオファイルが同時に再生されます。選択を解除すると一番最初に発生したイベントのオーディオファイルが再生されます。
- 自動フォーカシング使用: 指定したイベント発生するとマップでそのイベントが発生したデバイス領域を拡大して表示します。
 - フォーカシングイベント: 自動フォーカシングを行うイベントを指定します。
 - フォーカシング期間: 自動フォーカシングの持続時間を設定します。
 - フォーカシングの最小維持: 互いに違うデバイスでイベントが連続して感知される場合先に感知されたイベントに対して自動フォーカシングの持続時間を設定します。設定された時間が経ってからで感知されたイベントに自動フォーカシングが移動します。
- 拡大ファインダー: PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。“オート”に設定するとキャンバスが拡大された場合のみPIP画面を表示します。
- マップイベントスポット: イベント発生時そのイベントが発生したカメラ映像をマップイベントスポット画面に表示します。

使用者



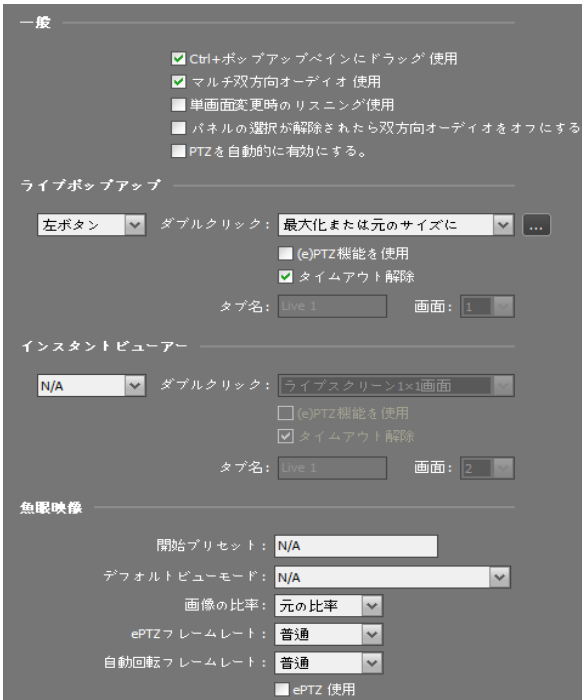
- Windows開始時JSS遠隔監視システムPROクライアント自動実行: Windows開始時にクライアントプログラムを自動的に実行します。
- ユーザーのデフォルトのレイアウトを実行: JSS遠隔監視システムPRO実行時に選択したユーザーレイアウトで表示されます。
- ログイン通知ポップアップ: JSS遠隔監視システムPROにログインする時、ポップアップ画面を表示して通知をします。
- 全画面表示で開始する: クライアントプログラムを全画面表示で開始します。
- プログラム起動時、自動ログイン: 以前接続した時のログイン情報を用いてクライアントソフト起動時、自動でログインします。“自動ログイン時、最後監視セッション復元”を選択すると現在の監視パネルに以前の監視セッションを復元します。
- オート: 指定した時間マウスまたはキーボードの入力がない場合、設定によりクライアントプログラムが自動でログアウトされるか、クライアントシステムがロックされます。

ブラウザ



- ブラウザスタートページ: ブラウザ画面のウェブブラウザスタートページを設定します。
- デフォルト背景色: ブラウザ画面のデフォルト背景色を設定します。
- 画面に合わせる: ウェブページの大きさをブラウザ画面の大きさに合わせます。
- ポップアップの許可: ウェブページのポップアップスクリーンを許可します。
- 全ての新しいウィンドウのポップアップ: ウェブページのポップアップスクリーンを別の画面で表示します。

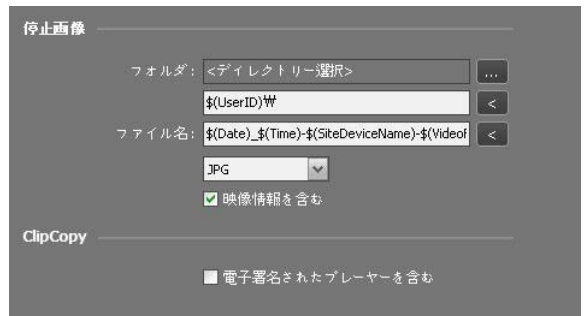
アクション



- 一般: ライブポップアップの一般動作方法を設定します。
 - Ctrl+ポップアップペインにドラッグ使用: Ctrlボタンを押してライブポップアップウィンドウを監視タブのペイン上にドラッグすると当該ペインに映像が映し出されます。
 - 複数の双方向オーディオ使用: チェックを解除すると、単一カメラに対してのみ「トーク」と「リスニング」機能が動作します。
 - Format 1x1に変更する場合はListenを使用する: 1x1画面分割に変更すると、「リスニング」機能が実行されます。多重双方向オーディオの使用設定と同時に使用することはできません。
 - ペインを選択解除した場合、双方向オーディオオフ: 選択されたカメラペインで双方向オーディオを実行中に別のペインを選択すると、以前のペインの双方向オーディオ機能が解除されます。
 - PTZを自動的に有効にする。: 自動的にPTZ制御を使用することができるよう基本設定します。
- ライブポップアップ: マウスボタンで映像をダブルクリックすることで下記の機能を行うことができます。
 - 最大化または元のサイズに
 - ライブスクリーン 1x1画面
 - クライアント S/Wのメインフレームが実行されたモニターに最大化

- マルチモニターの場合、指定されたモニターに最大化
- インスタントビューアー: マウスの中央、右ボタンのうち、指定されたボタンのダブルクリックで下記の機能を行います。
 - ライブスクリーン 1x1画面
 - (e)PTZ機能を使用: PTZ制御を使用することができるよう基本設定します。
 - タイムアウト解除: 動作実行後、ポップアップの持続時間のタイムアウトを解除します。
- 魚眼映像: 魚眼映像カメラに接続したときの基本動作を定義します。
 - 開始プリセット: 魚眼映像カメラ接続の際に反映するプリセット名を設定します。個別魚眼映像カメラ装置ごとに同一の名前のプリセット名で構成を保存すると、接続時の煩雑な構成変更を容易にします。
 - デフォルトビューモード: 基本ビューモードを設定します。
 - 画像の比率: イメージの比率を設定します。
 - ePTZフレームレート: ePTZフレーム率を設定します。高い(平均 60 Fps以上)、普通(平均 30 Fps以上)、低い(平均 15 Fps)、非常に低い(平均5Fps)ー低スペックPCに適しています。
 - 自動回転フレームレート: 自動回転のフレーム率を設定します。高い(平均 60 Fps以上)、普通(平均 30 Fps以上)、低い(平均 15 Fps)、非常に低い(平均5Fps)ー低スペックPCに適しています。
 - ePTZ 使用: 魚眼映像カメラの接続時にePTZを使用します。

保存



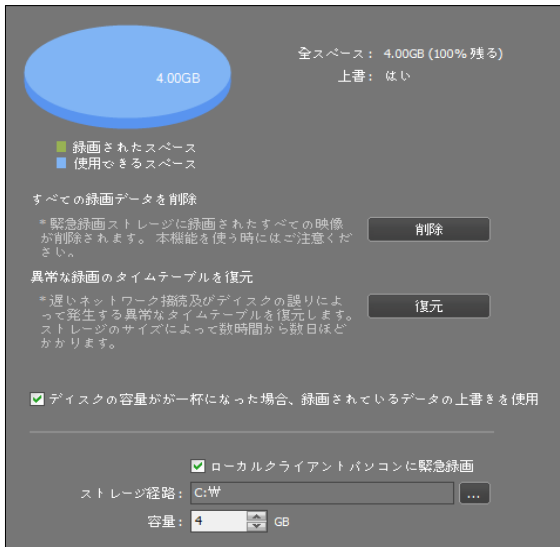
- フォルダ: 停止映像を保存するフォルダーを設定します。
- ファイル名: 停止映像が保存されるファイル名を設定します。対応形式には、JPG、WebP、PNG、TIF、BMP、PDFがあります。

- 映像情報を含む: 保存された停止映像ファイルに停止映像の情報を含めます。
- 電子署名されたプレイヤーを含む: クリップコピーする場合、電子署名されたプレイヤーを含めて保存します。

緊急録画

監視映像が監視タブに見えない場合、緊急録画を行いません。例えば、緊急録画中、画面のレイアウトを変更し、緊急録画中の映像が見えなくなった場合、該当映像に対する、緊急録画は中止されます。

- ローカルクライアントパソコンに緊急録画: クライアントシステムで緊急録画をすることができます。
 - ストレージ経路: 緊急録画のためのストレージフォルダーの経路を設定します。
 - 容量: 割り当てるストレージの容量を設定します (最小4GB~最大64GB)。



- 全スペース: 緊急録画のために割り当てられた保存スペースの全体容量及び残りの容量を表示します。
- 上書: 上書きを使用するかどうかを表示します。
- すべての録画データを削除: 緊急録画された映像をすべて削除します。
- 異常な録画のタイムテーブルを復元: 録画時にエラーが生じた場合、録画データと録画データのタイムテーブル情報が一致しないことがあり、このためJSS遠隔監視システムPROのタイムテーブルが誤った情報を表示することがあります。この場合、ボタンをクリックすると、タイムテーブル情報を復元し、正しい録画データを表示することができます。
- ディスクの容量がいっぱいになった場合、録画されているデータの上書きを使用: 割り当てられたストレージがいっぱいになった場合、古いデータから削除され、新しいデータが録画されます。

第5章 – リアルタイム映像監視

登録されたサイトのリアルタイム映像を監視することができます。JSS遠隔監視システムPROはデバイスでの設定に従って映像を受信し、監視画面に表示します。ストリーミングサービスが実行中である場合、クライアントシステムはストリーミングサーバーを通じて映像を受信し、監視画面に表示します。従って多数のユーザーが同時に映像を監視することができます。

まず、次の内容を確認してから、“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムを実行します。

- ・システムでサービスが実行されていないかもしれません。詳しい内容は、[サービス実行](#)を参照してください。
- ・デバイスグループにデバイスが追加されていないかもしれません。詳しい内容は、[第13章 – デバイス管理](#)を参照してください。

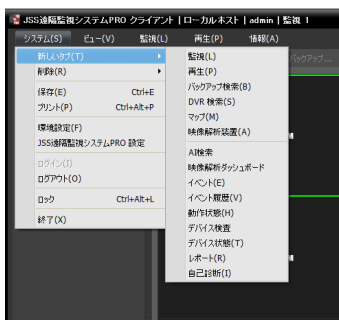
パネルタブで監視タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。現在監視しているカメラ画面を選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、接続を解除せずに該当カメラ画面を監視画面の希望する位置に移動することができます。



複数のカメラ画面が1280x720以上の解像度で同時に監視または再生する場合、クライアントシステムの性能が大きく低下することがあります。

映像監視

リアルタイム映像監視は監視パネル(最大6つ – ただし、32bit システムの場合は最大2個)でサポートされます。パネルタブに監視タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”をクリックしてタブを追加します。



パネルのツールバー

下段にあるパネルのツールバーを利用して監視パネルを制御することができます。





1	ユーザーレイアウト登録	現在の画面レイアウトを保存します。
2	画面分割	画面分割を変更します。➕ボタンをクリックしてより多様な画面分割を選択することができます。◀または▶ボタンをクリックすると前または次のカメラグループに移動します。
3	ホットスポット	選択した画面をホットスポット画面に設定します。 詳しい内容は、 ホットスポット設定 を参照してください。
4	イベントスポット	選択した画面をイベントスポット画面に設定します。 詳しい内容は、 イベントスポット設定 を参照してください。
5	マップイベントスポット	選択した画面をマップイベントスポット画面に設定します。 詳しい内容は、 マップイベントスポット設定 を参照してください。
6	レイアウトの順次監視	レイアウトの順次監視を開始または停止します。 詳しい内容は、 レイアウトの順次監視 を参照してください。
7	その他メニュー	遠隔地点パネル、テキストのパネルなど他のメニューを選択することができます。
8	保存	<ul style="list-style-type: none"> • 静止画保存: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージまたは PDF ファイルで保存します。 • イメージを保存/イメージ出力: 現在の画面に表示されたイメージを保存または印刷します。 • パノラマスクリーン保存: 現在の画面に表示されたイメージを保存します。
9	オーディオブロードキャスト	現在の監視タブにある全てのデバイスにオーディオをブロードキャストします。
0	NVR両方向オーディオ	NVRデバイスとの通話機能を使用できます。
!	テキストインパネル	テキストインパネルを表示します。テキストインパネルは現在JSS遠隔監視システムPROに接続されているデバイスのテキストインデータを表示します。テキストインデバイスにカメラが連動されていて、連動されたカメラの映像が現在の監視タブに見える場合、カメラの画面にもテキストインのデータを表示します。テキストインのデータの表示期間は「ライブテキストイン時間範囲」設定で変更できます。
@	ブラウザ	選択した画面をブラウザ画面に設定します。 詳しい内容は、 ブラウザ画面設定 を参照してください。

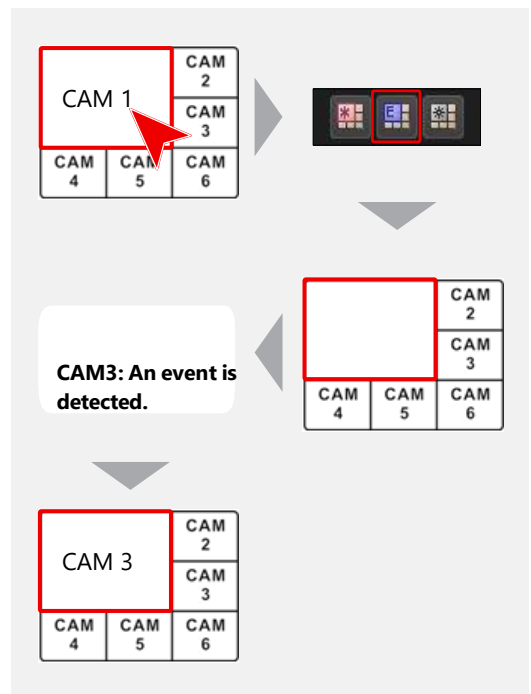
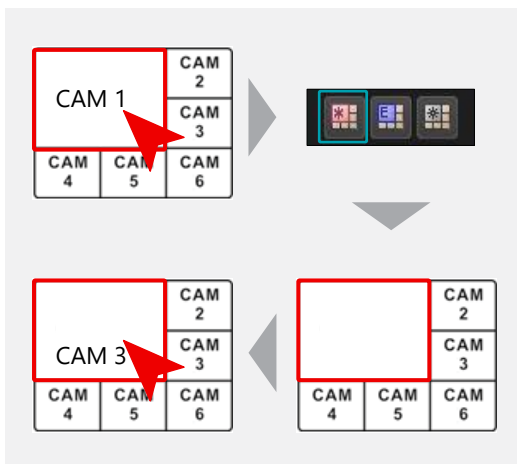
ホットスポット設定 イベントスポット設定

JSS遠隔監視システムPROで“ホットスポット”とは現在の画面に表示されたカメラの映像の中で任意のカメラの映像を強調して監視するために指定したカメラ画面を言います。ホットスポット画面には赤色の枠が表示されます。

JSS遠隔監視システムPROで“イベントスポット”とは、現在の画面に表示されたカメラ映像のうち、イベントが発生した映像を強調して監視するために指定したカメラ画面を言います。イベントスポット画面には青色の枠が表示されます。


- 1 現在監視している画面でホットスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
- 2 監視パネルの下段にあるツールバーで  (イベントスポット) ボタンをクリックすると選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。ホットスポット画面には赤色の枠が表示されます。
- 3 画面で任意のカメラを選択すると、選択したカメラの映像がホットスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。

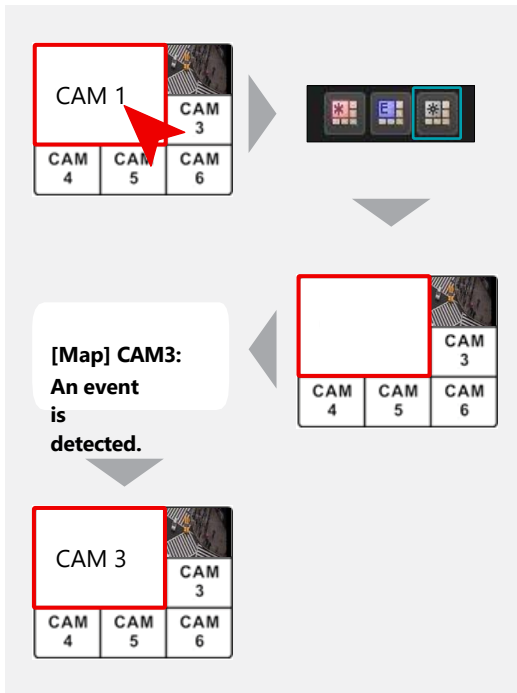
- 1 現在監視している画面でイベントスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
- 2 監視パネルの下段にあるツールバーで  (ホットスポット) ボタンをクリックすると、選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。イベントスポット画面には青色の枠が表示されます。
- 3 画面でイベントが発生すればイベントが発生したカメラの映像がイベントスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。




マップイベントスポット設定

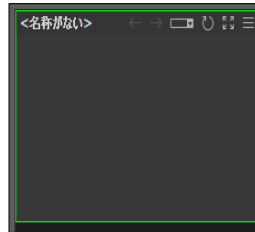
JSS遠隔監視システムPROで“マップイベントスポット”とは、現在の画面に表示されたマップで、イベントが発生した映像を強調して監視するために指定したカメラ画面を言います。マップイベントスポット画面には灰色の枠が表示されます。












- 1 現在監視している画面でマップイベントスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
- 2 監視パネルの下段にあるツールバーで  (マップイベントスポット) ボタンをクリックすると、選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。マップイベントスポット画面には灰色の枠が表示されます。画面でイベントが発生すればイベントが発生したカメラの映像がマップイベントスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。



ブラウザ画面設定

- 1 現在監視している画面でブラウザ画面に設定するカメラ画面を選択します。
- 2 監視パネルの下段にあるツールバーで  (ブラウザ) ボタンをクリックすると、選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。
- 3 ウェブブラウザページがブラウザ画面に表示されます。



- , ,  (URL入力), ,  (前のページ),  (次のページ),  (URL入力),  (リロード/停止),  (ページを合わせる)
-  (メニュー): ブラウザメニューを表示します。
 - 前のページ、次のページ: 前のページまたは、次のページに移動します。
 - URL入力: URL (Uniform Resource Locator) アドレスの入力が可能です。アドレス入力の後、右側の  ボタンをクリックすると、該当アドレスに移動します。
 - リロード/停止: ウェブページをリロードまたは停止させます。
 - 画面に合わせる: ウェブページの大きさをブラウザ画面の大きさに合わせます。
 - ポップアップの許可: ウェブページのポップアップスクリーンを許可します。
 - 全ての新しいウィンドウのポップアップ: ウェブページのポップアップスクリーンを別の画面で表示します。
 - 印刷: 現在のウェブページを印刷します。
 - 削除: ブラウザ画面設定を解除します。

画面分割

JSS遠隔監視システムPROで"画面分割"とは、映像監視または再生パネルに映像ペインを分割して配置する方式を意味します。パネルツールバーの画面分割項目を選択したり、+ボタンをクリックして追加の画面分割項目を選択して画面分割をパネルに適用します。

追加画面分割には、既に定義されている"基本分割"、"ワイド分割"とユーザーが直接設定した"ユーザー画面分割"があります。画面分割項目でマウスを左クリックすると、パネルにその画面分割が適用され、マウスを右クリックすると、その項目が選択されます。

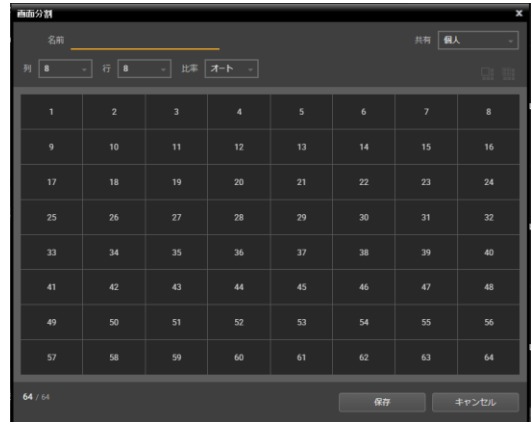
画面分割項目にマウスオーバーすると、画面分割情報が表示されたツールチップを表示します。"ユーザー画面分割"の項目は名前順、パネル数順に並び替えて表示されます。



- + (追加) : ユーザー画面分割項目を追加します。
- [修正アイコン] (修正) : ユーザー画面分割項目を修正します。
- - (削除) : ユーザー画面分割項目の削除画面に切り替えます。削除画面で"ユーザー画面分割"項目をクリックすると、その項目が削除されます。

ユーザー画面分割の追加/修正

"ユーザー画面分割"の+(追加)、[修正アイコン](修正)ボタンをクリックして、画面分割項目を新規に追加したり、既にある項目を編集します。マウスの右クリックまたは方向キーで画面分割項目を選択すると、[修正アイコン](修正)ボタンが有効になります。



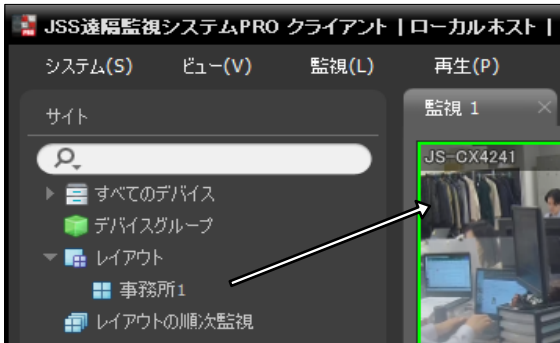
- 名前 : ユーザー画面分割の名前を入力します。
- 共有 : その画面分割を使用できるユーザー範囲を設定します。
 - 公開 : 全ユーザーに表示されます。
 - グループ : 所有者が属するグループのユーザーにのみ表示されます。
 - 個人 : 所有者にのみ表示されます。
- 列、行 : その画面分割の列と行の数を表示します。
- 比率 : パネルの横、縦比を表示します。"自動"に設定すると、クライアントが表示されたモニターの比率を使用します。"初期値"は画面分割編集の前に設定されたパネル比を表示します。
- [結合アイコン] (結合) : 選択したペインを一つに結合します。
- [分割アイコン] (分割) : 選択したペインを基本サイズのパネルに分割します。
 - パネルでマウス中央ボタンをクリックすると結合、マウスを右クリックすると分割が適用されません。
 - パネルでのペインの最大数は64個です。

レイアウトの監視

多数のカメラの映像をあらかじめ設定されたレイアウトで監視することができます。レイアウトの監視をするためには、管理サービスにレイアウトが登録されていなければなりません。レイアウトの登録 に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

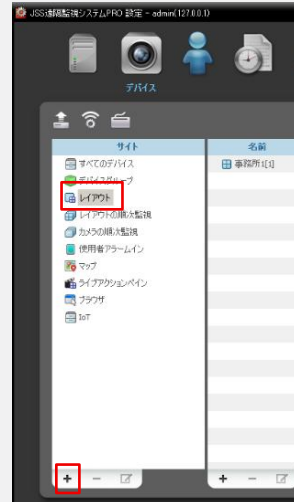
本ユーザーマニュアルで、“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。

レイアウトリストで希望するレイアウトを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。または、レイアウトをダブルクリックすると選択された監視タブに表示されます。該当レイアウトにあらかじめ登録された分割画面で配置したカメラが表示されます。



レイアウトグループの登録

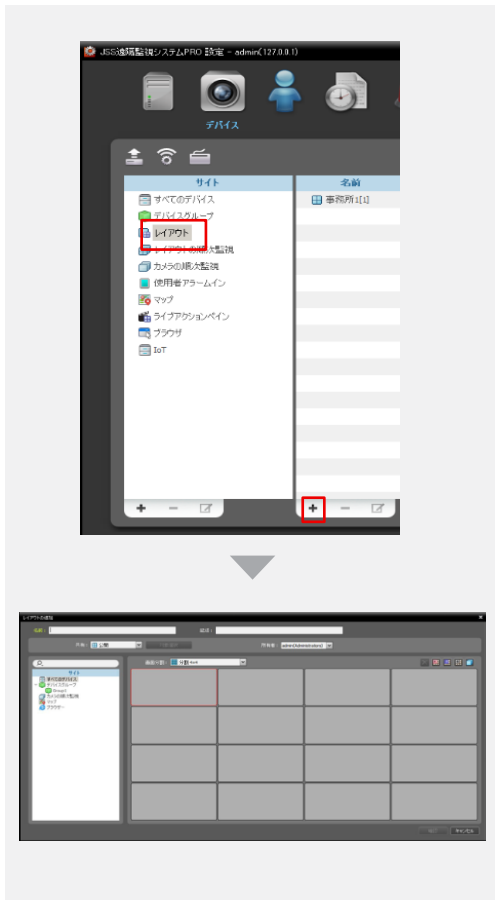
- 1 “システム”メニューで“JSS遠隔監視システムPRO Setup”を選択した後、“デバイス”メニューを選択します。
- 2 “サイト”パネルで“レイアウト”をクリックし、左側のサイトリストのパネルの下段にある + ボタンをクリックします。“レイアウトグループの追加 (Add Layout Group)”画面が表示されます。



- 名前: レイアウトグループ名を入力します。
- 記述: レイアウトグループの説明を入力します。

レイアウトの登録

- 1 “システム”メニューで“JSS遠隔監視システムPRO Setup”を選択した後、“デバイス”メニューを選択します。
- 2 “サイト”パネルで“レイアウト”をクリックし、右側のサイトリストのパネルの下段にある + ボタンをクリックします。“レイアウトの追加”画面が表示されます。



- 名前: レイアウト名を入力します。
- 共有: 該当レイアウトの共有範囲を選択します。“admin”ユーザーの場合、全てのレイアウトを見ることができます。
- 公開: そのレイアウトを全てのユーザーに表示します。

- グループ: 選択したグループに属しているユーザーのみに表示します。グループは“所有者”項目で選択することができます。
- 個人: “所有者”項目で選択したユーザーのみに表示します。
- 使用者: 特定ユーザー、ユーザーグループに対してレイアウトを公開するかどうかを設定できます。

- 対象選択: 共有対象を直接選択します。
- 所有者: 共有でグループ/個人を指定した場合の対象を選択します。
- サイト: 登録されたデバイス、カメラまたはカメラの順次監視、マップリスト及びブラウザリストを表示します。🔍ボタンの横に検索語を入力すると、その結果を表示します。
- 画面分割: レイアウトの画面分割を選択します。“サイト”リストでレイアウトに割り当てるデバイス、カメラまたはカメラの順次監視などを選択した後、レイアウト画面の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップします。
- ✕ (削除): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面に割り当てられたカメラをレイアウト画面から削除します。
- 📍 (ホットスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をホットスポット画面として設定します。
- 📍 (イベントスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をイベントスポット画面として設定します。
- 📍 (マップイベントスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をマップイベントスポット画面として設定します。
- 📍 (カメラの順次監視): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、カメラの順次監視を作成することができ、作成した順次監視を選択した画面に割り当てます。

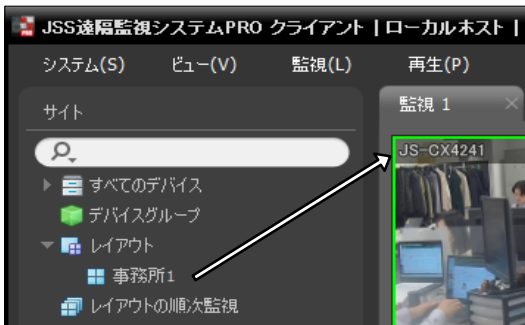
- 3 “確認”ボタンをクリックしてレイアウトの追加を完了します。


レイアウトの順次監視

多数のカメラの映像をあらかじめ設定された2つ以上のレイアウトで順次監視することができます。レイアウトの順次監視を行うためには、管理サービスにレイアウトの順次監視が登録されていないとなりません。順次監視レイアウトの追加に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

本ユーザーマニュアルで、“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。

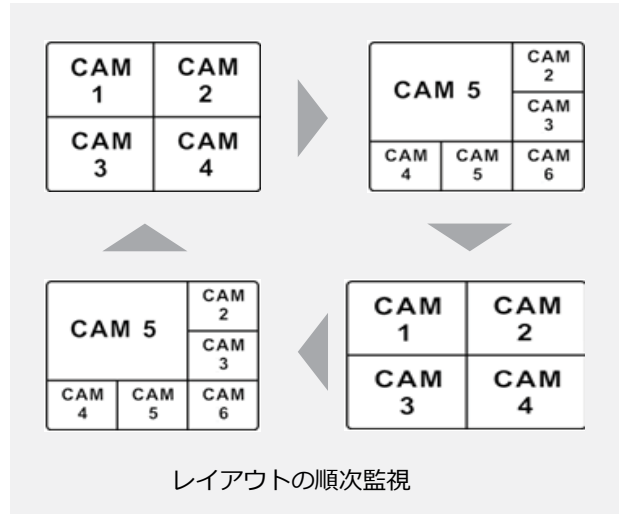
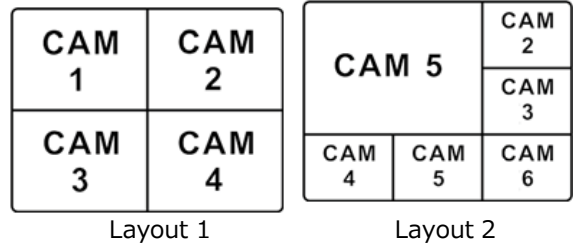
- 1 レイアウトの順次監視リストで希望するレイアウトの順次監視を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当するレイアウトの順次監視に登録したカメラ映像が順次各レイアウトの分割画面に表示されます。




- 2 パネルの下段にあるツールバーの  (レイアウトの順次監視) ボタンをクリックして、レイアウトの順次監視を停止したり再開できます。



例



順次監視レイアウトの登録

- 1 “システム”メニューで“JSS遠隔監視システムPRO Setup”を選択した後、“デバイス”メニューを選択します。
- 2 “サイト”パネルで“レイアウトの順次監視”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある  ボタンをクリックします。“順次監視レイアウトの追加”画面が表示されます。
- 3 順次監視するレイアウトが登録されていない場合、“レイアウトの追加”ボタンをクリックします。“レイアウトの追加”画面が表示されたら“レイアウトの監視”部分を参照して順次監視するレイアウトを登録します。順次監視をするためには2つ以上のレイアウトが登録されていないとなりません。

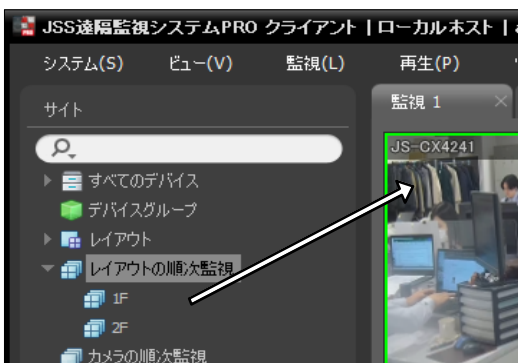



- ● 名前: レイアウトの順次監視の名前を入力します。
 - 共有: 該当レイアウトの順次監視の共有範囲を選択します。“admin”ユーザーの場合、全てのレイアウトの順次監視を見ることができます。
 - 公開: そのレイアウトの順次監視を全てのユーザーに表示します。
 - グループ: 選択したグループに属しているユーザーのみに表示します。グループは“所有者”項目で選択することができます。
 - 個人: “所有者”項目で選択したユーザーのみに表示します。
 - 使用者: 特定ユーザー、ユーザーグループに対してレイアウトの順次監視を公開するかどうかを設定できます。
 - 対象選択: 共有対象を直接選択します。
 - 所有者: 共有でグループ/個人を指定した場合の対象を選択します。
 - レイアウトリスト: 登録されたレイアウトリストを表示します。🔍ボタンの横に検索語を入力して登録されたレイアウトを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
 - 選択されたレイアウトの順次監視のリスト: レイアウトの順次監視のために登録されたレイアウトリストを表示します。“持続時間(秒)”は各レイアウトが画面に表示される時間を示します。“持続時間(秒)”下の数字をダブルクリックすると、該当レイアウトの持続時間を変更することができます。“全て適用”ボタンをクリックすると、設定された持続時間をリストにあるすべてのレイアウトに等しく適用します。
- 4 “レイアウトリスト”でレイアウトを選択した後、>> ボタンをクリックすると選択されたレイアウトが“選択されたレイアウトの順次監視リスト”に追加されます。“確認”ボタンをクリックすると順次監視レイアウトの追加を終了します。

カメラの順次監視

多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。カメラの順次監視のために、管理サービスにカメラの順次監視が登録されていなければなりません。カメラの順次監視の登録に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

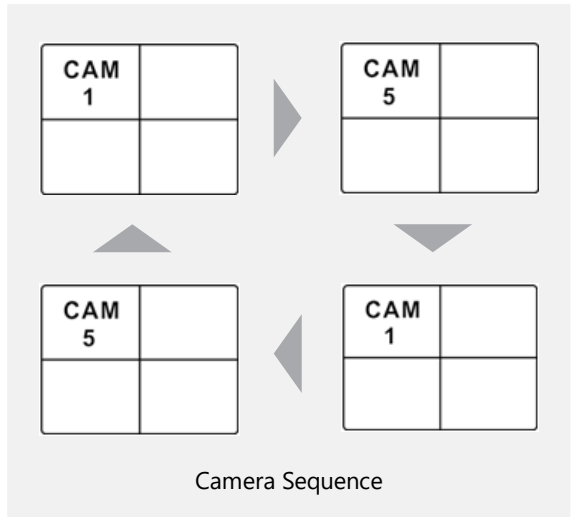
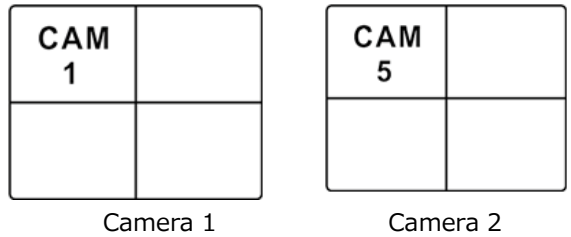
- 1 カメラの順次監視リストで、希望するカメラの順次監視を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当カメラの順次監視に登録したカメラ映像が画面に順次表示されます。



- 2 カメラ画面の下段にあるコントロールツールバーの  (カメラの順次監視) ボタンをクリックして、カメラの順次監視を中止したり再開することができます。

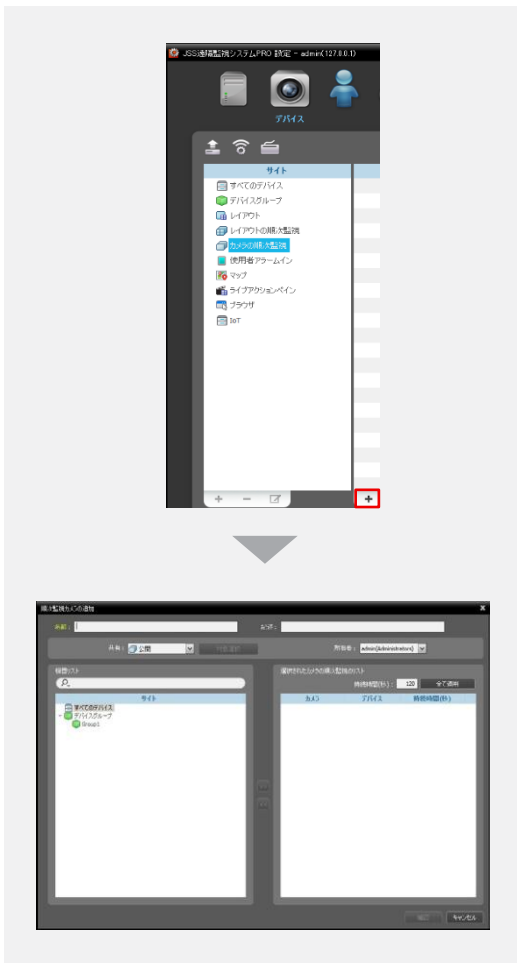


カメラの順次監視の登録



カメラの順次監視の登録

- 1 “システム”メニューで“JSS遠隔監視システムPRO Setup”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。
- 2 “サイト”パネルで“カメラの順次監視”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある+ボタンをクリックします。“順次監視カメラの追加”画面が表示されます。



- 機器リスト: 登録されたデバイスリストを表示します。🔍 ボタンの横に検索語を入力して、登録されたデバイスを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- 選択されたカメラの順次監視のリスト: カメラの順次監視のために登録されたカメラリストを表示します。“持続時間(秒)”は各カメラの映像が画面に表示される時間を表示します。“持続時間(秒)”下の数字をダブルクリックすると該当カメラ映像の持続時間を変更することができます。“全て適用”ボタンをクリックすると、設定された持続時間をリストにあるすべてのカメラに等しく適用します。

- 3 “デバイスリスト”でカメラを選択した後、➡️ ボタンをクリックすると選択されたカメラが“選択されたカメラの順次監視のリスト”に追加されます。“確認”ボタンをクリックすると順次監視カメラの追加を終了します。

- 名前: カメラの順次監視の名前を入力します。
- 共有: 該当カメラの順次監視の共有範囲を選択します。“admin”ユーザーの場合、全てのカメラの順次監視を見ることができます。
- 公開: そのカメラの順次監視を全てのユーザーに表示します。
- グループ: 選択したグループに属しているユーザーのみに表示します。グループは“所有者”項目で選択することができます。
- 個人: “所有者”項目で選択したユーザーのみに表示します。
- 使用者: 特定ユーザー、ユーザーグループに対してカメラの順次監視を公開するかどうかを設定できます。
- 対象選択: 共有対象を直接選択します。
- 所有者: 共有でグループ／個人を指定した場合の対象を選択します。

ライブアクションペインの監視

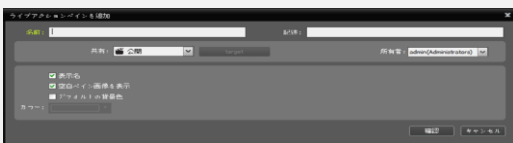
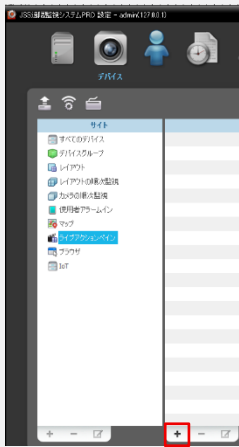
- 1 ライブアクションペインリストから希望するペインを選択し、監視画面にマウスをドラッグ&ドロップすると、選択された監視タブに表示されます。



- 2 イベント条件の設定に応じてイベント検出時に設定済みのカメラの映像がライブアクションペインに表示されます。

ライブアクションペインを登録

- 1 “システム”メニューで“JSS遠隔監視システムPRO Setup”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。
- 2 “サイト”パネルでライブアクションペインをクリックし、右のサイトリストパネルの下にあるボタンをクリックすると、ライブアクションペイン追加ウィンドウが表示されます。



- 名前: ライブアクションペインの名前を入力します。
- 説明: ライブアクションペインについての説明を入力します。
- 共有: 当該ライブアクションペインの共有範囲を選択します。adminユーザーの場合はすべてのレイアウトを見ることができます。

- 公開: そのカメラの順次監視を全てのユーザーに表示します。
- グループ: 選択したグループに属しているユーザーのみに表示します。グループは“所有者”項目で選択することができます。
- 個人: “所有者”項目で選択したユーザーのみに表示します。
- 使用者: 特定ユーザー、ユーザーグループに対してカメラの順次監視を公開するかどうかを設定できます。

- 対象選択: 共有対象を直接選択します。
- 所有者: ユーザーによってレイアウトを個別に設定できます。
- 名前の表示: ライブアクションペインタイトルバーに名前を表示します。

- 空のペイン画像の表示: ライブアクションペインに背景画像を表示します。
- デフォルト背景色: ライブアクションペインに背景色を表示します。

- 3 確認ボタンをクリックしてライブアクションペインの監視追加を完了してください。

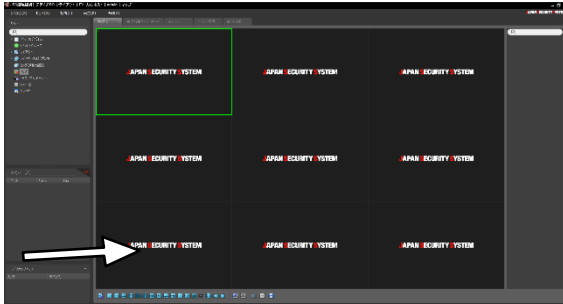
マップ監視

登録されたデバイスのカメラ映像、イベント感知、接続された入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。マップの順次監視のためには、管理サービスにマップが登録されていなければなりません。マップの登録に関する詳しい内容は、**第17章 - マップエディター**を参照してください。

マップ監視は監視パネル(最大6つ - ただし、32bitシステムの場合は最大2個)及びマップパネル(最大2つ)でサポートされます。パネルタブに監視またはマップタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”または“マップ”をクリックしてタブを追加します。マップリストで、希望するマップを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。

該当マップが画面に表示されます。現在監視しているマップを選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、接続を解除せずに該当マップを監視画面の希望する位置に移動することができます。

マップで入/出力デバイスを選択し、監視画面、再生パネルまたはデバイス状態パネルにマウスのドラッグ&ドロップするとそのデバイスの映像を監視または再生したりデバイス状態を監視したりすることができます。



マウスカーソルをマップの入/出力のデバイス上に位置させるとその入/出力デバイスのイベント感知および状態を表示します。その入/出力デバイスでイベントが感知されたりデバイスが正しく動作しなかったりすると次のようなアイコンが出て、順番に最高4つまで表示されます(ネットワークビデオデバイスの仕様及びバージョンによって一部イベントのアイコンがサポートされないことがあります)。

	アクセス失敗		イベント・オフ
	異常作動		モーション感知
	映像遮断		ビデオロス
	テロ感知		映像分析感知
	トリップゾーン		タンパーリング
	オーディオ感知		アラーム入力
	アラーム出力		ANPR感知/解除
	顔感知		PIR感知/解除
	侵入感知/解除		徘徊感知/解除
	ラインクロス感知/解除		

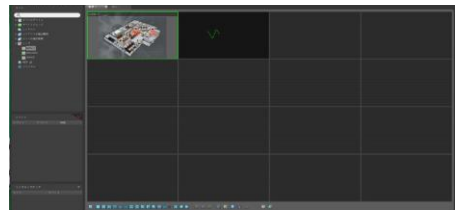
イベント感知の場合その入/出力デバイスが接続されたデバイスでのイベント感知設定によって表示されます。また“異常作動”の場合その入/出力が接続されたデバイスで設定したシステム検査設定によって表示されます。

マップ登録時、状態のカラーを設定した場合、イベント感知および状態が固有の色で表示されます。同時に2つ以上のイベントまたは状態が感知された場合、各イベントまたは状態のカラーが順次表示されます。

経路順次監視

マップを監視する時、マップに登録された多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。経路順次監視のためには、順次監視経路が設定されてある必要があります。

マップで、順次監視経路を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。経路順次監視に連動されたカメラの映像が設定された持続時間画面に順次表示されます。



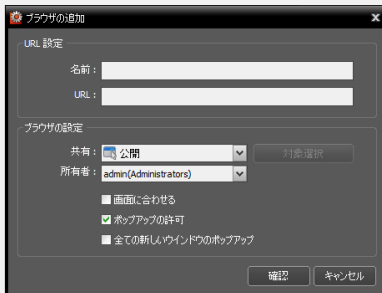
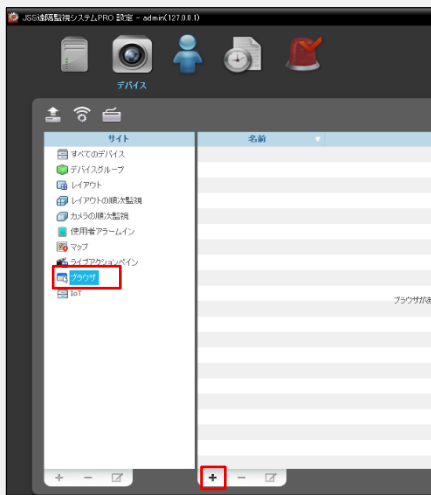
ブラウザ実行

登録されたブラウザを実行することができます。

ブラウザ実行をするためには、管理サービスにブラウザが登録されていなければなりません。ブラウザの登録に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

ブラウザの登録

- 1 “システム”メニューで“JSS遠隔監視システム PRO Setup”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。
- 3 “サイト”パネルで“ブラウザ”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある + ボタンをクリックします。“ブラウザの追加”画面が表示されます。



URL設定: URL (Uniform Resource Locator)アドレスの名前及びURLを入力します。

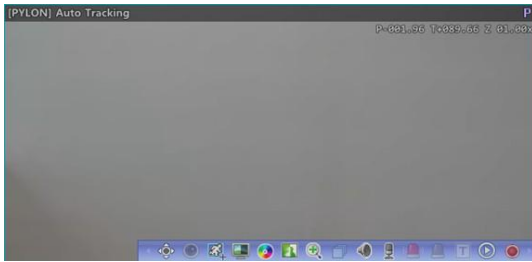
- 共有: ブラウザの共有権限の範囲を設定します。
- 対象選択: 共有対象を直接選択します。
- 所有者: ブラウザの所有者を選択します。
- 画面に合わせる: ウェブページの大きさをブラウザ画面の大きさに合わせます。
- ポップアップの許可: ウェブページのポップアップスクリーンを許可します。
- 全ての新しいウィンドウのポップアップ: ウェブページのポップアップスクリーンを別の画面で表示します。

カメラの制御

制御ツールバー及び画面のメニューを利用してカメラを制御することができます。

制御ツールバー

カメラ画面を選択した後、マウスのカーソルを該当するカメラ画面に動かすと、制御ツールバーが表示されます。制御ツールバーを用いて選択したカメラを制御することができます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと該当するボタンのツールチップが表示されます。制御ツールバーが縮小された場合、マウスホイールでのスクロールでツールバーを左右に移動できます。



- (PTZ制御): カメラがPTZ制御機能をサポートしている場合、PTZを制御します。詳しい内容は、[PTZ制御](#)を参照してください。
 - (リモートコントロール): HDMIエンコーダ映像を、キーボードやマウスを使用して、直接リモート制御します。詳しい内容は、[リモートコントロール](#)を参照してください。
 - (魚眼映像歪み補正): 魚眼カメラの映像の歪みを補正します。詳しい内容は、[魚眼映像の歪み補正](#)を参照してください。
 - (カメラ簡単設定): 映像モードを簡単に設定します。詳しい内容は、[カメラ簡単設定](#)を参照してください。
 - (色調整): 現在の映像の明暗、コントラスト、彩度、色彩を調整します。🔄 ボタンをクリックすると変更内容を全てキャンセルして元のイメージに戻ります。本設定はJSS遠隔監視システムPROの映像だけでなく、デバイスの映像にも適用されます。
 - (イメージ効果): イメージに効果の処理ができます。詳しい内容は、[イメージ効果](#)を参照してください。
 - (映像拡大): 映像を拡大します。詳しい内容は、[映像拡大](#)を参照してください。
 - (カメラの順次監視): カメラの順次監視を開始または停止します。詳しい内容は、[カメラの順次監視](#)を参照してください。
 - / (リスニングトーク): デバイスのオーディオを受信するかデバイスにオーディオを送信します。(対応モデルに限る)
- / (アラーム - アウトのオン/オフ): カメラ装置と連動したアラーム - アウトをオンまたはオフにすることができます。連動アラーム - アウトは、カメラ“デバイス修正”ウィンドウで設定します。画面のメニューが表示されます。画面のメニューを用いて選択したカメラを制御することができます。
 - (テキストインビューア): テキストインビューア画面を表示します(テキストインイベントが感知された場合のみ)。テキストインイベント感知の際、該当するカメラのタイトルバーを青色で表示します。詳しい内容は、[テキストインビューア](#)を参照してください。
 - 簡単再生: 簡単再生が使用できます。
 - (瞬間録画/緊急録画): 瞬間録画または緊急録画を開始または停止します。
 - 瞬間録画: 録画サービスに登録されたデバイスの場合にのみ対応します。瞬間録画中にはカメラ画面の右側上段に瞬間録画OSDが表示され、一般録画が停止します。システムの負荷により、録画が遅くなることがあり、このため録画OSDがスケジュールで設定された時間より遅れて、または長く表示されることがあります。詳しい内容は、[一般録画スケジュールの設定](#)を参照してください。
 - 緊急録画: “ローカルクライアントパソコンに緊急録画” 項目の選択時のみ対応します。緊急録画中にはカメラ画面の右側上段に緊急録画OSDが表示され、画面に見える映像そのまま緊急録画を開始します。詳しい内容は、[緊急録画設定](#)を参照してください。
 - “瞬間録画”とは、現在監視中の映像を手動で録画できるようにする機能です。瞬間録画のための圧縮コーデック、解像度、録画速度及び画質をより高く設定し、希望する映像のみをより優れた性能で録画することができます。瞬間録画はJSS遠隔監視システムPROに映像を保存します。
 - “緊急録画”とは、現在監視中の映像を手動で録画できるようにする機能です。緊急録画の時、画面に見える映像そのままを録画することができます。緊急録画はクライアントシステムに映像を保存します。

監視画面のメニュー

簡単再生	▶
再生履歴	▶
30 秒前再生	I
その他	▶
PTZ制御	
PTZ領域の拡大記録	
PTZ手動制御	
PTZオブジェクト追跡	▶
カメラ簡単設定	
色調整	
映像拡大	▶
画像処理	▶
アラーム・アウト	▶
リスニング	
トーク	
オーディオファイルのリスト	
オーディオブロードキャスト	
瞬間録画	
マルチストリーム	▶
イベントスポット	
マップイベントスポット	
映像分析表示	
画面レート	▶
停止画像	▶
ブラウザ	
ストリーム情報	Tab
削除	▶

- 簡単再生: 簡単再生を使用することができます。詳しい内容は、**簡単再生**を参照してください。
- 魚眼映像歪み補正、PTZ制御、PTZ領域の拡大記録、PTZ手動制御、カメラ簡単設定、色調整、映像拡大、リスニング、トーク、瞬間録画/緊急録画: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックすると同じように動作します。詳しい内容は、**制御ツールバー**を参照してください。
- PTZオブジェクト追跡: PTZ自動追跡を実行しません。
- 画像処理: イメージに効果の処理ができます。詳しい内容は、**イメージ効果**を参照してください。
- アラーム・アウト: アラーム出力をオンまたはオフします。
- テキストインタビュー: テキストインタビュー画面を表示します(テキストインイベントが感知された場合のみ)。テキストインイベント感知の際、該当するカメラのタイトルバーを青色で表示します。詳しい内容は、**テキストインタビュー**を参照してください詳しい。
- オーディオファイルリスト: オーディオアラームファイルに対応するデバイスで動作する機能です。デバイスに含まれているオーディオファイルを制御(再生/停止)します。
- オーディオブロードキャスト: 現在の監視タブにある全てのデバイスにオーディオをブロードキャストします。
- マルチストリーム: 該当するデバイスでリアルタイム監視映像に対してマルチストリームモードが設定されている場合、希望するストリームを選択することができます(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用する装置およびストリーミングサービスに登録されている一部バージョンの Axis/Panasonic WV (DG)/ONVIF プロトコルを使用する装置の場合にのみ対応)。
- ホットスポット: 選択したカメラ画面をホットスポット画面に設定します。詳しい内容は、**ホットスポット設定**を参照してください。
- “5.1 映像監視、**ホットスポット設定**”を参照してください。
- イベントスポット: 選択したカメラ画面をイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、**イベントスポット設定**を参照してください。
- マップイベントスポット: 選択したカメラ画面をマップイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、**マップイベントスポット設定**を参照してください。
- モーション感知エリア出力: 選択したカメラでモーション感知イベントが発生する場合、モーションが感知されたエリアを画面上に赤色のブロックで表示します(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するネットワークビデオエンコーダの場合にのみ対応)。
- 映像分析表示: 選択したカメラ画面に映像分析の感知結果を表示します(映像分析サービスに登録されたデバイスの場合にのみ対応)。VAボックスが接続されている場合、VAボックス分析データを監視映像の上に表示します。


映像分析サービス

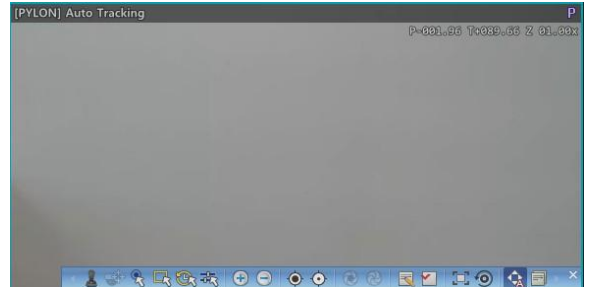
- 感知された全てのオブジェクト: 変化が感知された全てのオブジェクトの感知結果を表示しません。
- イベントが発生したオブジェクト: “設定”のプログラムで設定したルールによって感知されたイベントの感知結果を表示します。詳しい内容は、**第12章 -映像分析**を参照してください。
- 出力しない: 感知結果を表示しません。













VA Box




- ピープルカウント、キューマネジメント画像解析を監視映像の上に表示します。
- リアルタイムヒートマップデータを監視映像の上に表示します。ヒートマップイメージのオプションを提供しています。
- 詳しい内容は、詳しい内容は、**映像分析 (VA ボックス)**を参照してください。
- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
 - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大やホットスポット、イベントスポット、モーションブロック表示、映像分析表示機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されます。
 - 画面に合わせる (Smart) : 画面に出力される映像のマージンに基づいて、“画面に合わせる”または“実際サイズ”が適用されます。
 - 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートにカメラ画面のエリアをあわせて映像を出力します。
 - 1/2倍サイズ(×0.5)~4倍サイズ(×4): 映像のオリジナルサイズを基準にして該当メニューで指定したサイズにカメラ画面に映像を出力します。例えば、“1倍サイズ(×1)”を選ぶと、オリジナル映像の実際のサイズで出力します。カメラ画面が該当サイズで映像を出力できるほどエリアが確保された場合のみメニューが活性化されます。
- 停止画像: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージまたはPDFファイルで保存します。
- ブラウザ: 選択した画面をブラウザ画面に設定します。詳しい内容は、**ブラウザ画面設定**を参照してください。
- ストリーム情報: 画面に出力された現在の映像のストリーム情報を表示します。
- デバイス情報: 選択したカメラのデバイス情報をサブアイテムに表示します。
- 削除: 現在の接続を解除します。

PTZ制御

制御ツールバーで  (PTZ制御) ボタンをクリックすると、PTZ制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてPTZを制御することができます。PTZカメラのモデルによっては一部の機能は動作しないことがあります。




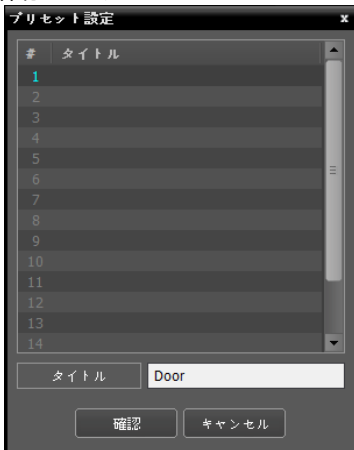
-  (PTZ制御):  (PTZ制御パネル)を表示したり非表示にします。PTZ制御パネルの矢印ボタンをクリックするか、カメラ画面上でマウスをドラッグしてPTZカメラの方向を調整します。
-  (ワンクリック移動): 映像においてユーザーが指定した位置が中央に来るようPan-Tiltを制御することができます。(ネットワークカメラの一部モデル接続時に限る)
-  (領域拡大: 映像で領域を指定し、当該領域の拡大映像を表示します。マウスをドラッグして領域を指定し、ドラッグ領域にズーム倍率が表示されます。当該の機能については、「PTZ領域の拡大/拡大記録」の部分をご参照ください。
-  (領域拡大記録: 以前に映像の領域を拡大した記録を表示します。当該の機能については、「PTZ領域の拡大/拡大記録」の部分をご参照ください。
-  (PTZ手動制御: パン、チルト、ズーム、焦点の値をそれぞれ直接入力してカメラ位置を調整できます。
-  (映像拡大/縮小): 現在の映像を拡大または縮小します。
-  (焦点を近/遠): 近くまたは遠くにある映像にカメラの焦点をあわせます。
-  (しぼりを開/閉じる): カメラレンズのしぼりを開いたり閉じます。
-  (プリセット設定/表示): 該当機能に対する内容は“**PTZプリセット制御**”を参照してください。
-  (自動フォーカス): 映像が拡大または縮小されカメラの焦点がぼけた場合、ボタンをクリックすると焦点を自動的に調整します(ネットワークカメラの一部モデル接続時に限る)。
-  (PTZリセット): PTZの設定を初期化します。(プリセット等の設定項目は除く)


-  (オートランオン/オフ): 一定の周期ごとにカメラを設定したプリセット位置に移動します。
-  (高機能): 高機能メニュー画面が表示され、該当カメラがサポートする拡張機能を制御することができます。各拡張機能に関する詳しい内容は、該当PTZカメラのユーザーマニュアルを参照してください。
-  (閉じる): PTZモードを終了して制御ツールバーに移動します。

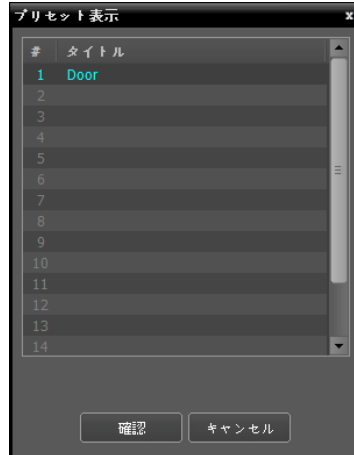
PTZプリセット制御

カメラの位置を“プリセット”で保存し、カメラを保存された位置にすぐ移動することができます。

- 1 カメラ画面でPTZカメラの方向を希望する位置に移動させます。
- 2 PTZ制御ツールバーで  (プリセット設定) ボタンをクリックすると、“プリセット設定”画面が表示されます。プリセットタイトルを入力した後“確認”ボタンをクリックすると現在位置が、入力されたプリセットタイトルで保存されます。



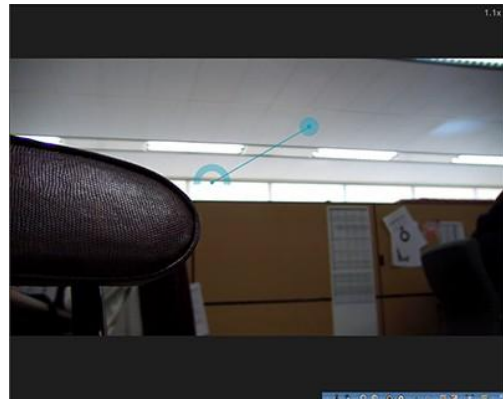
- 3 PTZ制御ツールバーで  (プリセット表示) ボタンをクリックすると“プリセット表示”画面が表示されます。希望するプリセットを選択すると、PTZカメラの方向が該当プリセットの位置に移動します。



PTZ コントロール

Pan、Tilt、Zoom機能をマウス操作でより細やかに操作できます。

本機能は一部のカメラでのみ対応しています。



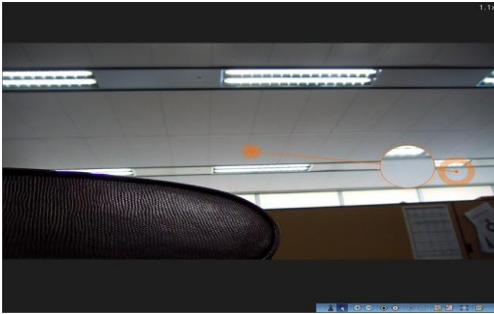
Pan、Tilt、Zoom 動作を実行します。マウスをドラッグする際、マウスカーソルのドラッグ量が動作速度を決定します。

- マウス左ボタンでドラッグ: 左/右 (Pan 制御)、上/下 (Tilt 制御)
- マウス右ボタンでドラッグ: Zoom 制御

PTZ ワンクリック移動制御

映像においてユーザーが指定した位置が中央に来るよう Pan-Tilt を制御することができます。最小限の入力でユーザーが望む位置に正確に移動することができます。

本機能は一部のカメラでのみ対応しています。



制御ツールバーから (ワンクリック移動) ボタンをクリックし、PTZ 監視カメラペインの任意のポイントをクリックすると希望する位置に移動することができます。マウスドラッグすると、当該ポイントの映像が拡大表示されます。

PTZ領域拡大/拡大記録

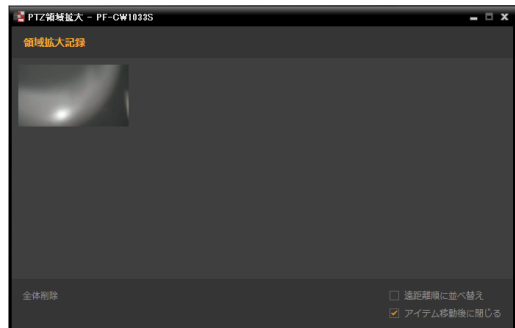
映像でユーザーが希望する領域をドラッグすると、その領域を拡大して表示することができます。領域拡大記録をサムネイルで確認できます。

本機能は一部のカメラでのみ対応しています。

制御ツールバーで (領域拡大) ボタンをクリックして映像上でドラッグすると、ドラッグ領域に合わせて映像を拡大します。



以前に映像の領域を拡大した記録は、 (領域拡大記録) ボタンをクリックして以下の通りにサムネイルで確認できます。サムネイルアイテムをクリックすると、カメラをその位置に移動します。



アイテムにマウスオーバーすると、アイテムの上とその映像の拡大倍率値を表示します。

- 遠距離順に並べ替え: アイテムを拡大倍率を基準に昇順ソートします。チェックを解除すると、最新順にソートします。
- アイテム移動後に閉じる: アイテムをクリックして、カメラの位置を移動した後に領域拡大記録ウィンドウが閉じられます。
- 全体削除: すべてのアイテムを削除します。

PTZ手動制御

制御ツールバーで (PTZ手動制御) ボタンをクリックすると、以下の設定画面が表示されパン、チルト、拡大、焦点の値をユーザーが直接入力してカメラの位置を制御します。特定カメラの位置をリストに保存し、リストでアイテムを選択してカメラの位置を移動することができます。



アイテムにマウスオーバーすると、アイテムの上にその映像の拡大倍率値を表示します。

PTZ AI追跡制御

本機能は一部のカメラでのみ対応しています。

モーションが感知された場合、動く物体を追跡するか若しくは指定された物体を追跡します。

PTZ AI 追跡	オブジェクト選択モード
カメラ簡単設定	追跡停止
色調整	自動追跡オフ
映像拡大	自動追跡 即時実行

- オブジェクト選択モード：支援されるタイプの物体を決めて追跡するように選択できます。
- 追跡中止：物体選択モードで、選択した物体の追跡を中止することができます。
- 自動追跡オン/オフ：映像内でモーションが感知された場合、動く物体を追跡します。
- 自動追跡即時実行：自動追跡オン/オフを実行して、即時追跡を開始します。

リモートコントロール

上端OSDにアイコンが表示される監視映像のコントロールツールバーで (リモートコントロール) ボタンをクリックするとリモート制御が有効になり、制御関連のボタンが表示されます。映像右上のOSDを利用して状態を確認することができます。



- / (入力デバイスの状態)：活性化した入力デバイスを表示します。
- (リモートコントロール止める)：リモートコントロールを非活性化にする。
- (マウスカーソルの位置を初期化)：マウスを左上に配置します。

魚眼映像の歪み補正

コントロールツールバーから (魚眼映像の歪み補正) ボタンをクリックすると魚眼映像の歪み補正コントロールツールバーが表示され、各ボタンを利用して歪み補正機能を制御することができます。魚眼映像カメラのマウントの種類は、装置に設定されたマウントの種類がデフォルト値として設定されます。



- (マウントタイプ): カメラの設置位置を設定します。この設定により設定可能な画面形態が変わります。
- (画像の比率): 映像出力画面の比率を設定します。
- (レイアウト): メインビュー、メイン + 1~7ペインビューモードを設定します。
- (パノラマ): 映像のパノラマビューモードを設定します。
- (選択モード): メインビュー映像からドラッグ&ドロップして領域を指定します。
- (スポットモード): メインビュー映像に表示された歪み補正ファインダーを使って関心領域を移動、選択します。
- (ドラッグアンドドロップ): メインビューとカメラペインを移動またはコピーすることができます。
- (メイン PiP): メインビュー映像内部の領域指定を容易にする PIPビューを実行します。
- (ePTZ): マウスをドラッグする際、マウスカーソルのドラッグ量が動作速度を決定します。
 - マウス左ボタンでドラッグ: 左/右 (Pan 制御)、上/下 (Tilt 制御)
 - マウス右ボタンでドラッグ: Zoom 制御
- (自動回転): 自動で回転するように設定します。+、-は方向を決定し、数字は速度を決定します。
- (プリセット適用/保存): 保存された魚眼映像制御プリセットを読み込み、現在の魚眼映像制御をプリセットとして保存します。
- (復元): 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します。

スマートUXのクイックコントロール制御

映像のモニタリングでキーボードやマウスを組み合わせることで特定機能を選択する必要なく、すぐ映像拡大、歪み補正、PTZモードに切り替えられます。

クイックズーム

- Ctrl + マウス左側ボタンドラッグ (原本イメージ): マウスをドラッグして選択した範囲が拡大で表示されません。
- Ctrl + マウス左側ボタンドラッグ: 拡大された領域がマウスドラッグ方向に移動します。
- Ctrl + マウスホイールボタンクリック: 拡大された魚眼映像から原本映像に戻ります。
- Ctrl + マウスホイールボタンスクロール: Zoom制御

クイック歪み補正

- Ctrl + マウス左側ボタンドラッグ (原本イメージ): マウスをドラッグして選択した範囲が歪み補正で表示されます。
- Ctrl + マウス左側ボタンドラッグ: マウスドラッグ方向に Pan/ Tilt制御をします。
- Ctrl + マウスホイールボタンクリック: 歪み補正された魚眼映像から原本映像に戻ります。
- Ctrl + マウスホイールボタンスクロール: Zoom制御
- Ctrl + マウス右側ボタンドラッグ: Zoom制御

クイック PTZ

- Ctrl + マウス左側ボタンドラッグ: マウスドラッグ方向に Pan/ Tilt制御をします。
- Ctrl + マウスホイールボタンスクロール: Zoom制御
- Ctrl + マウス右側ボタンドラッグ: Zoom制御
- Ctrl + Shift + マウス左側ボタンクリック/ドラッグ: クリックした場所を中心にして、画像を移動したり、ドラッグをして、目的の場所に移動します。

簡単再生

- ペイン選択後 I: 簡単再生を実行します。
- ペイン選択後、Page Up/Down: 以前/次の再生エリアに移動します。
- 簡単再生実行中に [F5] または [F6] の上でホイールスクロール: ホイールスクロールの入力方向によってジョグ再生を行います。
- Ctrl + J: 再生速度を下げます。
- Ctrl + K: 再生速度を初期化します。
- Ctrl + L: 再生速度を上げます。
- Ctrl + G: 高速逆方向再生を実行します。
- Ctrl + H: 高速順方向再生を実行します。

録画映像の再生制御

録画映像でキーボードとマウスを組み合わせて特定機能をモード切り替えることなく素早く録画映像の再生を制御できます。

- マウス
 - 前/次のフレームウィジェットでホイールスクロールしたとき、指定された時間の間隔分のみ前/次の映像に移動します。
 - 再生ボタンでホイールスクロールしたとき、ジョグ機能が動作します。
 - シャトルウィジェットでホイールスクロールしたとき、シャトルロック状態に再生が制御されます。
 - シャトルウィジェットでマウスの右クリックすると、再生が停止します。
 - シャトルウィジェットでマウスの中央ボタンをクリックすると、シャトルロックが解除され、再生が停止します。
 - タイムテーブルウィジェットでShift + ホイールスクロールすると、録画区間が左/右に移動します。
 - タイムテーブルウィジェットでCtrl + ホイールスクロールすると、録画区間を拡大/縮小します。
- ショートカットキー
 - Ctrl + Space: 再生/中止を制御します。
 - Ctrl + Shift + Space: タブに含まれている全カメラの再生/中止を制御します。
 - Ctrl + T: 時間移動パネルのポップアップが表示されます。
 - Ctrl + Home: 映像の最初に移動します。
 - Ctrl + End: 映像の最後に移動します。
 - Ctrl + J: 再生速度を下げます。
 - Ctrl + K: 再生速度を初期化します。
 - Ctrl + L: 再生速度を上げます。
 - Ctrl + H: 高速再生を実行します。
 - Ctrl + G: 高速逆方向再生を実行します。
 - Ctrl + キーボードの左/右ボタン: 前/次のフレームに移動します。
 - Shift + キーボードの左/右ボタン: 1分単位で前/次の映像に移動します。
 - Alt + キーボードの左/右ボタン: 10分単位で前/次の映像に移動します。


カメラ簡単設定

映像モードを昼間、夜間でプリセット設定またはユーザー設定をすることができます。







- プリセットは、Natural (自然さ)、Vivid (鮮やかさ)、De-Noise (ノイズリダクション)があります。
- Custom (ユーザー定義)は、手動でそれぞれの値を設定することができます。設定値は、Sharpness (シャープネス)、Contrast (コントラスト)、Colors (カラー)、Brightness (明るさ)があります。
- この機能を有効にすると、設定ウィンドウがオーバーレイされ、1x1レイアウトに設定されます。

映像拡大


制御ツールバーで  (映像拡大) ボタンをクリックすると、現在の映像を拡大することができます。

“PIP”とは“Picture in Picture”の略語で、画面内に表示される小さい画面を言います。









-  (スライドバー): 拡大倍率を調整します。マウスホイールを用いて拡大倍率を調整することもできます。
-  (実際のサイズを表示): 実際サイズ拡大モードに入ります。実際サイズ拡大モードでは、カメラ画面のサイズまたは映像の拡大レートとは関係なく映像の実際のサイズを基準にして映像が拡大されます。
-  (拡大ファインダー): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。
-  (復元): 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します。


イメージ効果

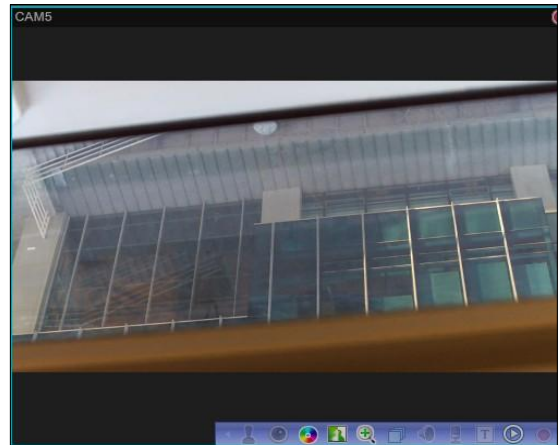
制御ツールバーで  (イメージ効果) ボタンをクリックすると、イメージ効果の制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてイメージに効果を与えることができます。本設定はJSS遠隔監視システムPROの映像にのみ適用され、デバイスの映像には適用されません。



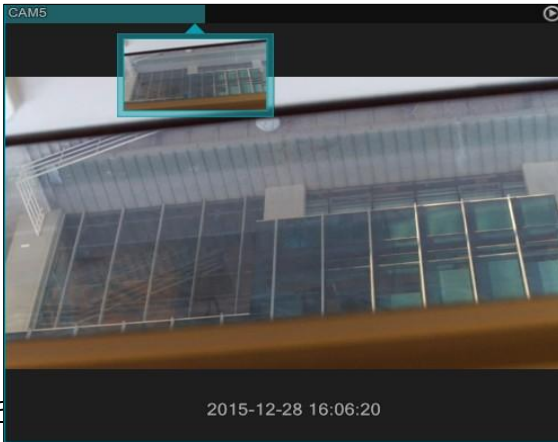
-  (柔軟): 映像をソフトにします。
-  (鮮明): 映像を鮮明にします。
-  (高域増強): 明度及び鮮明度を増加させて映像をはっきりさせます。
-  (ヒストグラムの平準化): 明度を均等に調整して映像を自然にします。
-  (境界線を検出): 映像の輪郭を抽出します。
-  (復元): 変更事項を全てキャンセルして、元の106イメージに復元します。

簡単再生

録画情報のある区間に対して簡単再生機能を使用することができます。コントロールツールバー  (簡単再生) のボタンをクリックした後、ポップアップメニューの再生時間を選択します。



- 画面上にマウスを位置させると再生、一時停止、前後移動、ブックマークボタンを使用することができます。
- キーボードの左右ボタンおよび PageUp、PageDown を使用して再生位置を移動することができます。
- 映像のコンテキストメニューから、逆再生、スロー再生を使用することができます。
- ショートカットキー (Ctrl + ショートカットキーでも使用できます。)
 - J / K / L : 再生速度を下げ / 初期化 / 上げます。
 - G : 高速逆方向再生機能を実行します。
 - H : 高速再生機能を実行します。

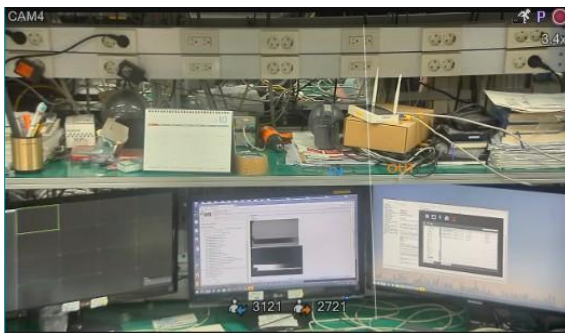


- 再生の進行状況はカメラのタイトルバーに表示されます。
- カメラタイトルバーの下部に表示される逆三角形のイメージをクリックすると、サムネイルイメージが表示されます。サムネイルイメージが活性化されている場合、カメラのタイトルバーの上にマウスを移動させると、当該地点のイメージが表示されます。
- カメラのタイトルバーの特定の位置をクリックすると、当該地点に移動します。

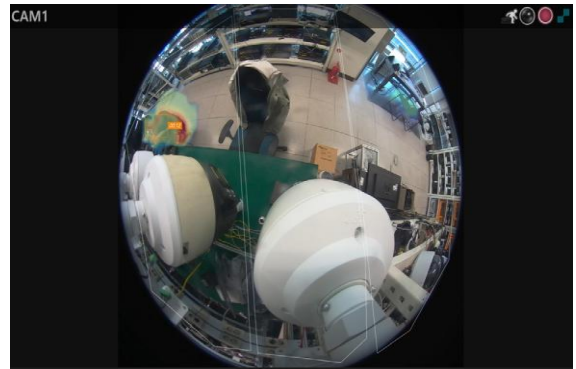
映像分析 (VA ボックス)

監視映像を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると画面メニューが表示されます。画面メニューから映像分析表示にマウスを当てると現在の映像分析の種類に合わせてメニューが活性化されます。

ピープルカウント



- “映像分析表示”でピープルカウントを選択すると、ピープルカウントのリアルタイム入/出る情報が選択した映像の上に出力されます。



- “映像分析表示”でキューマネジメントを選択すると、領域別キュー情報(人数、待機時間)が選択した映像の上に出力されます。
- キューマネジメントの場合、待機人数超過および待機時間超過イベントを確認することができます。

ヒートマップ



- “映像分析表示”でヒートマップ監視の表示を選択すると、ヒートマップイメージが選択した映像の上に出力されます。
- ヒートマップ監視の複数のオプションを選択してヒートマップイメージを使用者に合わせて変更することができます。
(イメージスペクトルの色、透明度、イメージ補間の有無)

キューモニタリング/混雑検出/ソーシャルディスタンス違反/マスクルール違反



ソーシャルディスタンス違反/マスクルール違反を選択すると、設定された映像分析領域が表示されます。

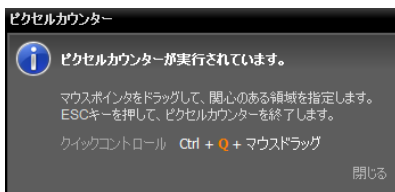
- キューモニタリングの場合、最大5つの領域が表示されます。
- 設定された限界値を超えると、イベントが発生し違反オブジェクトの領域が強調されます。

ピクセルカウンター

映像から選択した領域に該当するピクセル情報を表示します。サイズが一定のオブジェクトを利用して距離によるオブジェクトサイズのピクセル数を計算できます。特定のタイプのオブジェクトの領域を指定して該当するピクセルの密度、つまり単位長さあたりのピクセル数を測定してオブジェクトの認識に対する定量的な情報を提供します。ビューメニューで**ピクセルカウンター**を選択すると実行されます。



ピクセルカウンターを設定すると、下のような通知ポップアップを表示します。ピクセルカウンターの使用方法と素早い制御ショートカットキーを提供します。



ピクセルカウンターで提供する情報は以下のとおりです

- 1 幅と高さのピクセル数
- 2 領域内の全ピクセル数
- 3 領域左上のピクセル座標
- 4 ペインに対する領域幅、高さ比率 (UV座標)
- 5 ペインに対する領域幅比率
- 6 領域左上のUV座標

UV座標は最小座標を0、最大座標を1と表現する座標です。左上を (0.0)、右下を (1.1) と示します。

ライブネットワークモニター

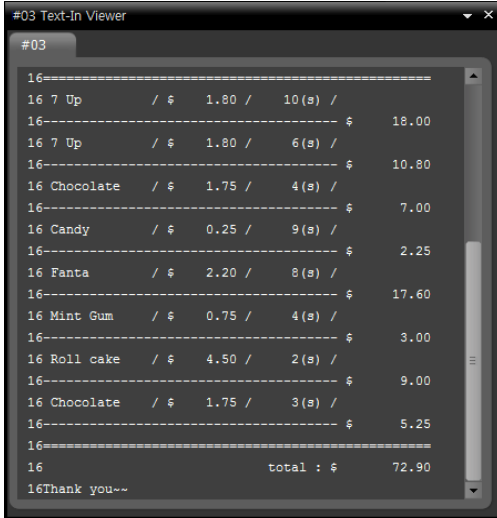
各装置の帯域幅(ネットワーク伝送量)をリアルタイムで検知することができます。最大16個の装置までサポートされ、凡例の選択を通じて希望する装置だけを確認することができます。ビューメニューでライブネット

ワークモニタを選択すると実行されます。

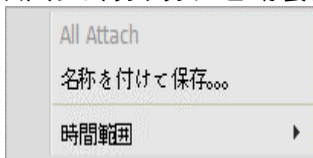


テキストイン ビューア

制御ツールバーで **T** (テキストインビューア) ボタンをクリックすると、テキストインビューア画面が表示され、テキストインデータをリアルタイムで確認できます (テキストインイベントが感知された場合のみ)。テキストインイベント感知の際、該当するカメラのタイトルバーを青色で表示します。



テキストインビューア画面のタイトルバーをクリックすると、テキストインのポップアップメニューが表示されます。



- **タブを集める**: それぞれのテキストインビューア画面を一つのパネルに集めます。
- **名前を付けて保存**: テキストインデータをテキストファイル(.txt)で保存します。
- **時間範囲**: テキストインイベント感知の際、該当テキストインデータの表示期間を設定します。テキストインデータはテキストインイベント発生後、設定した時間範囲内でテキストインビューア画面を通じて確認できます。

マップの制御

制御ツールバー及び画面のメニューを利用してマップを制御することができます。

マップ制御ツールバー

マップを選択した後、マウスのカーソルを該当するマップに動かすと、制御ツールバーが表示されます。制御ツールバーを用いて選択したマップを制御することができます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと該当するボタンのツールチップが表示されます。



- **← →** (以前のマップ、次のマップ): 現在マップにリンクされているマップに移動したかマップリストでマップを選択して現在のマップの画面にドラック&ドロップして他のマップへの接続が行われた場合、以前または次に接続されたマップに移動します。
- **AF** (自動フォーカシング): 指定したイベントが発生するとマップでそのイベントが発生したデバイス領域を拡大して表示します。異なるデバイスでイベントが同時に発生する場合、そのデバイスがすべて見える範囲内でキャンバスを拡大します。異なるデバイスでイベントが連続して感知される場合、設定された時間が経ってから後で感知されたイベントに自動フォーカシングが移動します。自動フォーカシングの設定に関する内容は、[マップ](#)を参照してください。
- **🔍** (フォーカシングイベント: 自動フォーカシングを行うイベントを指定します)。
- **1x** (1倍サイズ): キャンバスの実際の大きさをマップを見せます。
- **📐** (拡大ファインダー): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。“オート”に設定するとキャンバスが拡大された場合のみPIP画面を表示します。
- **+** (ズームイン): 拡大スライダーを使用し、キャンバスの拡大倍率を設定します。

例

- 拡大ファインダー: “オフ”に設定された場合

マップ監視



自動フォーカシング



自動フォーカシング



- 拡大ファインダー: “オート”または“オン”に設定された場合

マップ監視

マップ画面のメニュー

マップ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。画面のメニューを用いて選択したマップを制御することができます。

以前へ	
次へ	
リスト	
リロード	
自動フォーカシング	
フォーカシングイベント	
フォーカシング期間	
1倍サイズ (x1)	
拡大ファインダー	▶
ズームイン	▶
停止画像	▶
削除	▶

- 以前へ、次へ、自動フォーカシング、1倍サイズ (x1)、拡大ファインダー、ズームイン: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックすると同じように動作します。詳しい内容は、[マップ制御ツールバー](#)を参照してください。
- リスト: 以前または以後に接続されたマップのリストを表示します。リストでマップを選択するとそのマップに移動します。
- リロード: 現在のマップの接続を更新します。
- フォーカシングイベント、フォーカシング期間: 自動フォーカシングのフォーカシングイベント およびフォーカシング期間を設定します。[マップ](#)を参照してください。
- 停止画像: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージまたはPDFファイルで保存します。
- 削除: 現在の接続を解除します。

第6章 – 録画

管理サービスに登録されたデバイスのカメラ映像を一般録画、瞬間録画、緊急録画の3種類の方法で録画することができます。一般録画の場合、タイムラプス録画とイベントベース録画（イベント及びプライベート）の2種類になります。一般録画はスケジュール設定された時間の間、スケジュールプリセットの設定に従って録画を行い、瞬間録画または緊急録画はユーザーが映像監視中に手動で録画を開始または停止します。一般録画及び瞬間録画の場合、JSS遠隔監視システムPROに映像を保存し、緊急録画の場合、クライアントシステムに映像を保存します。

同じ期間に2つ以上の録画モードが設定されている場合、優先順位が最も高い録画モードで録画を行います。プライベート録画 → タイムラプス録画またはイベント録画 → 瞬間録画の順で優先順位が高くなります。同じ録画モードである場合は、“スケジュール設定”画面の上位にあるスケジュールが優先であり、タイムラプス録画とイベント録画が重複している場合、イベント録画スケジュールが優先されます。ユーザーがスケジュールの位置を調整して優先順位を変更することができます。緊急録画の場合、優先順位無しに一般録画と同時に録画できます。

先ず次の内容を確認した後、“JSS遠隔監視システムPRO設定”プログラムを実行します。

- システムでサービスが実行されていない場合があります。詳しい内容は、[サービス実行](#)を参照してください。
- デバイスグループにデバイスが追加されていない場合があります。詳しい内容は、[第13章 – デバイス管理](#)を参照してください。

デバイスがDVRの場合、録画には対応しません。

ストレージ設定

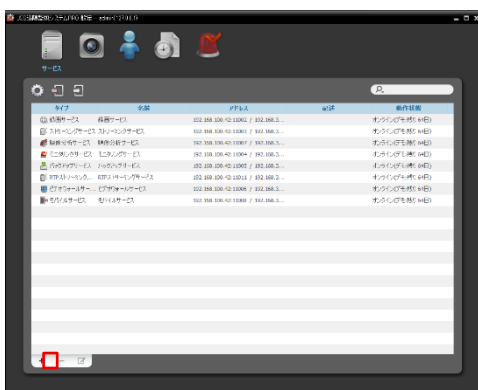
カメラの映像を録画するためには、ストレージが割り当てられていなければなりません。“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→ “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行します。→ “サービス”メニューを選択した後、次の説明を参照してハードディスクドライブにストレージを割り当てます。

- USBハードディスクにストレージを割り当てることは出来ません。
- より安定的な録画をするためにフォーマットされていない新しいハードディスクドライブまたはフォーマットされた場合、パーティションおよびファイルシステムが削除されたハードディスクドライブを追加することをお勧めします。ハードディスクドライブのパーティションおよびファイルシステム削除に関する詳しい内容は、PC/サーバーのメーカーのユーザーマニュアルを参照してください。
- 録画映像があるハードディスクドライブを他の JSS遠隔監視システムPROに設置する場合、該当する録画映像の検索及び再生はサポートしません。
- 一つのハードディスクドライブに最大 50,000GBのストレージを割り当てることができます。

録画サービス登録

録画サービスが登録されていない場合、“サービス”メニューを選択した後、次の説明を参照して録画サーバーを登録します。

- 1 下段にある **+** ボタンをクリックします。“サービス登録”画面が表示され、登録可能なサービスのリストが各サービスの情報と共に表示されます。



- 名前: ネットワーク接続によって現在管理サーバーに接続されているサービスを表示します。
- タイプ: サービスのタイプを表示します。
- アドレス: 各サーバーのIPアドレスとポート情報を表示します。

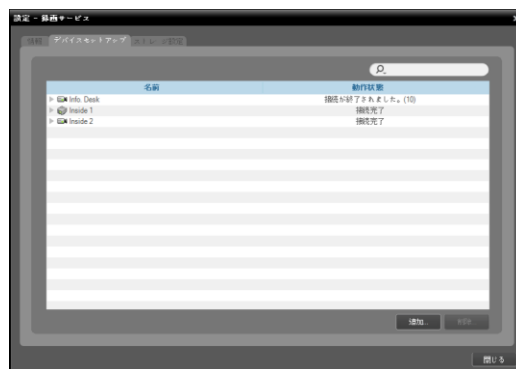
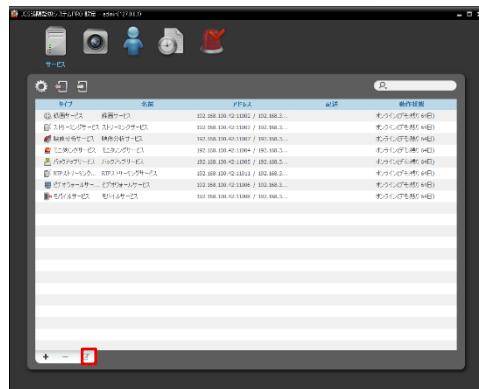
登録するサービスの管理サーバーの情報 (“サービス管理者” → “条件” → “サーバー設定”) が現在接続中の管理サーバーと同一の場合のみ登録できます。

- 2 JSS遠隔監視システムPROに登録する録画サービスを選択します。


ストレージを割り当てる

“サービス”メニューを選択した後、録画サーバーを選択してから次の説明を参照して選択した録画サーバーのハードディスクドライブにストレージを割り当てます。

録画サービスを選択した後、下段にある ボタンをクリックします。“録画サービス設定”画面が表示されたら“デバイスセットアップ”タブを選択します。



現在の録画サービスに登録されているカメラのリストが表示されます。下段の“追加”ボタンをクリックすると、現在の録画サービスに別のカメラを登録することができます。

- 登録可能なデバイスの数は、ソフトウェアライセンスまたは管理サーバーに接続されている WIBU キーの数とタイプによって異なります。
- 登録されたデバイスに対し、録画した後に録画サービスで該当デバイスを削除した場合、削除されたデバイスを再登録してもJSS遠隔監視システムPROは他のデバイスとして認識します。この場合、デバイスが除去される前に録画された映像は次のメニューで検索または再生することができます: “再生”パネル → パネルツールバーの  (その他メニュー) ボタンクリック → “削除された録画デバイス”の選択

2 “ストレージ設定”タブを選択した後、下段にある“追加”ボタンをクリックします。

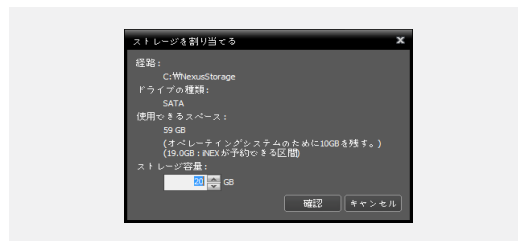
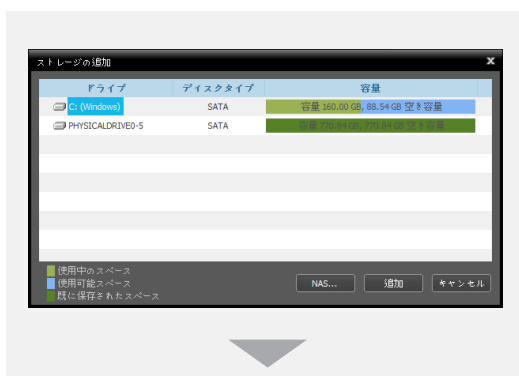


3 “追加”画面が表示され、各ハードディスクの情報と共に使用可能なハードディスクドライブのリストが表示されます。



- ドライブ: ドライブ名を表示します。
- ディスクタイプ: ハードディスクドライブの種類を表示します。
- 容量: ストレージの総容量と使用可能な容量を表示します。

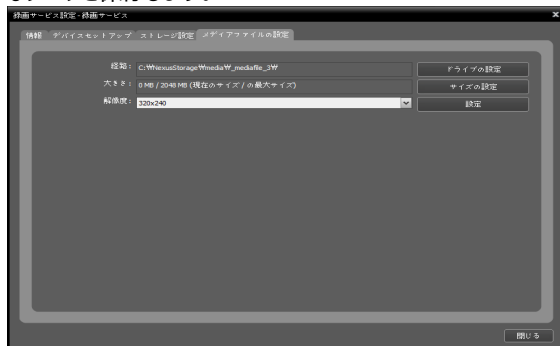
4 ストレージを割り当てるハードディスクドライブを選択した後、下段にある“追加”ボタンをクリックします。“ストレージを割り当てる”画面が表示されます。



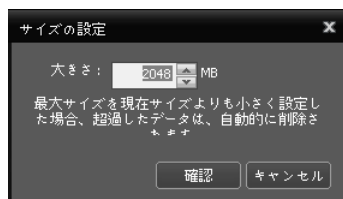
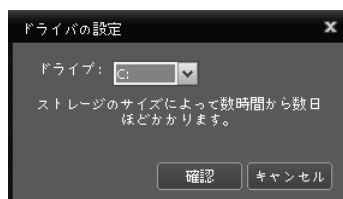
- 経路: ストレージフォルダの経路を表示します。
- ドライブの種類: ハードディスクドライブの種類を表示します。
- 使用できるスペース: 使用可能なストレージの容量を表示します。
- ストレージ容量: 割り当てるストレージの容量を設定します(最小20GB)。ハードディスクにJSS遠隔監視システムPROがインストールされている場合、インストール環境によって適切な空き容量を残しておかなければなりません。Windows OSがインストールされたハードディスクドライブの場合、スムーズなシステム運営のために10GB以上の空き容量を残しておかなければなりません。そうでない場合、システムが正しく動作しないことがあります。ハードディスクドライブにファイルシステムが構成されていない場合、使用可能な全容量を自動的にストレージに全て割り当てます。

メディアファイルの設定

録画サービス設定” - “メディアファイルの設定”を選択した後、次の説明を参照して静止映像のようなイベントに必要なデータを保存します。



ドライブとサイズの設定を行いメディアファイルの設定を完了します。



一般録画スケジュールの設定

“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→ “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行します。→ “録画スケジュール”メニューを選択した後、次の説明を参照して録画スケジュールを設定します。

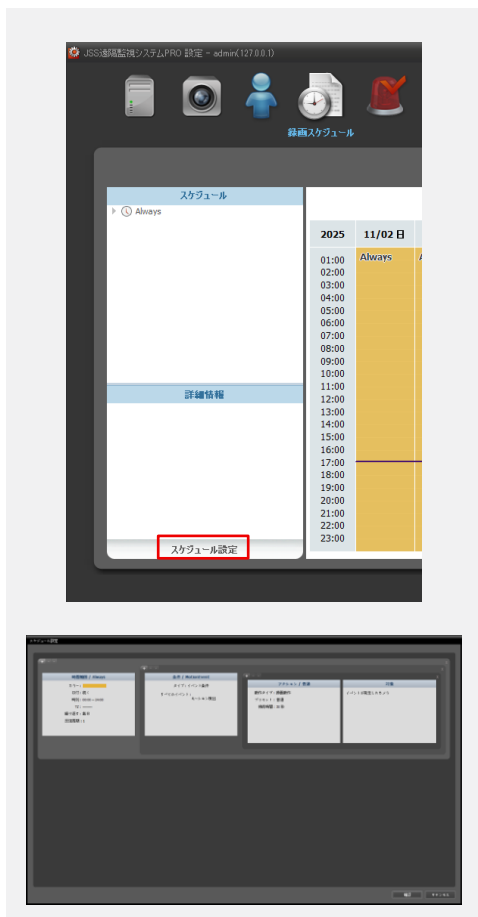
- “admin”ユーザーに登録されたデバイスに対してのみ録画機能がサポートされます。
- 一つのデバイスが他の録画サービスにも登録されている場合、先に接続された一つの録画サーバーでのみ録画が行われます。最初の録画サービスとの接続が解除されない限り他の録画サーバーではそのデバイスの映像を録画しません。
- JSS遠隔監視システムPROプロトコル及びONVIFプロトコル以外のプロトコルを使用するデバイスの場合、録画時のコーデック、解像度、録画速度及び画質は該当デバイスでの設定に従います。
- ONVIFまたはAxisプロトコルを使用するデバイスの場合、設定されたプロファイルのうちJSS遠隔監視システムPROで指定したプロファイルの値によって映像を録画します。録画時に適用するプロファイルはデバイスの修正で指定できます。
- JSS遠隔監視システムPROで設定した録画速度及び解像度がデバイスで設定された“転送速度”及び“最大解像度”より大きいと、デバイスで設定された“転送速度”及び“最大解像度”で映像を録画します(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用する4チャンネルネットワークビデオエンコーダの場合にのみ該当)。
- ネットワークの問題または録画サーバーの再起動などによってデバイスとのネットワーク接続が一時的に中断された場合、デバイスが該当期間の映像を臨時に保管し、ネットワークが接続された時に保管していた映像を一度に転送します(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。ただし、該当期間の映像は録画スケジュールの設定とは異なって録画されることがあります。
- ネットワーク状況やシステム性能によって録画速度が落ちることがあります。
- システムの負荷によって録画が遅れることがあり、このため録画OSDがスケジュールで設定された時間より遅れて、または長く表示されることがあります。
- 録画サーバーの性能によって、映像録画中には監視及び再生がスムーズにできないことがあります。

下段にある“スケジュール設定”ボタンをクリックします。“スケジュール設定”画面が表示され、各スケジュール画面に該当プリセットの現在設定値が表示されます。

タイムラプス録画の設定

タイムラプス録画の時には、スケジュールが設定された時間の間、スケジュール設定によって引き続き録画を行います(録画サービスに登録されたデバイスの場合のみ対応)。

- 1 “時間範囲”スケジュール画面をダブルクリックした後、希望するプリセットを選択してスケジュールの時間を設定します。



- 時間範囲: スケジュールの時間を設定します。二つ以上の時間範囲を設定することができ、上位にあるスケジュールが優先的に適用されます。
- 条件: 録画の種類を設定します。同一の時間範囲に対して二つ以上の録画の種類を設定することができ、上位にあるスケジュールが優先的に適用されます。デバイスが使用するプロトコルの種類及びデバイスモデルによってイベント関連録画種類が対応しないことがあります(サポートプロトコル: JSS遠隔監視システムPROプロトコル、一部バージョンのAxis/ Panasonic BB/Panasonic WV (DG)/RTSP/RTP/ ONVIFプロトコル)。
 - アクション: 録画する時使うストリーム(デバイスがネットワークカメラである場合)または録画設定値(デバイスがネットワークビデオエンコーダである場合)を設定します。同一の録画条件に対して一つ以上のアクションを設定することができます。JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ該当機能が支援されます。
- 対象: 録画するカメラを選択します。

スケジュールの設定で“プリセット”とは時間範囲、条件またはアクションの設定値を1つの設定値にしたものを言います。

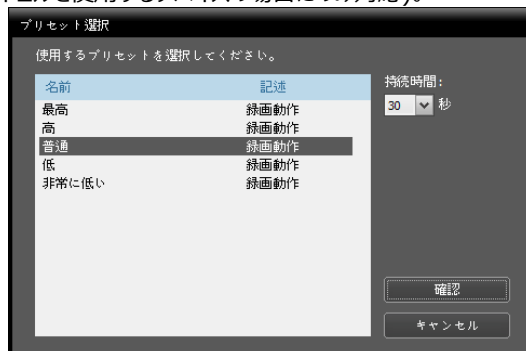


“追加”または“修正”ボタンをクリックして新しいプリセットを追加したり保存されたプリセットを修正することができます。スケジュールの設定に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。



プリセットの名前を入力した後、“条件の種類”リストから“時間条件”を選択します。

- 3 “アクション”スケジュール画面をダブルクリックした後、希望するプリセットを選択します(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。



- 名前: プリセットの名前を入力します。
- 色彩: ボタンをクリックして希望する色を選択します。スケジュールテーブルでスケジュールが設定された時間区間が該当する色で表示されます。
- 期限: スケジュールの時間を設定します。“続く”を選択すると期間制限なく“条件”、“アクション”、“対象”のプリセット設定によって録画を続けます。
- 時刻: スケジュール時間を設定します。
- 繰り返し、反復周期: 録画の間隔及び該当間隔が適用される期間を設定します。設定された反復周期の間、設定した間隔で映像を録画します。

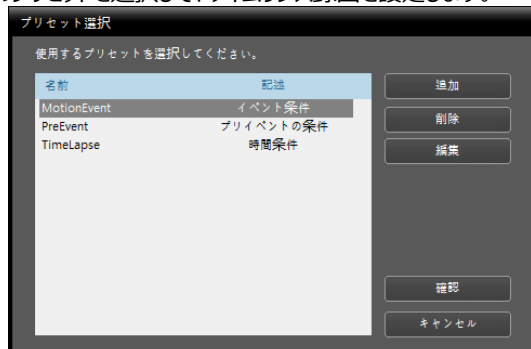
それぞれのプリセットには録画する時使うストリーム(デバイスがネットワークカメラである場合)録画のためのコーデック、解像度、録画速度および録画画質設定値(デバイスがネットワークビデオエンコーダである場合)が割り当てられています。各プリセットに割り当てられたストリームまたは設定値はデバイス毎に違います。

詳しい内容は、[デバイスの管理](#)を参照してください。

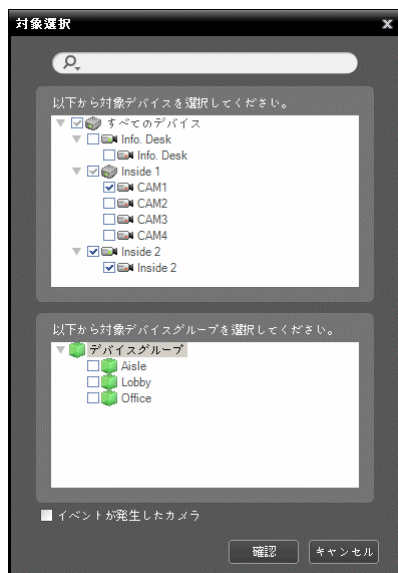
- 持続時間: タイムラプス録画時にはサポートしません。

- 4 “対象”スケジュール画面をダブルクリックした後、録画するカメラを選択します。

- 2 “条件”スケジュール画面をダブルクリックした後、時間条件のプリセットを選択して、タイムラプス録画を設定します。

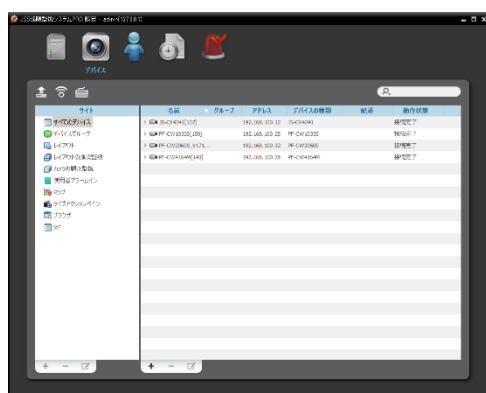


“追加”または“修正”ボタンをクリックして新しいプリセットを追加したり、保存されたプリセットを修正することができます。“追加”または“修正”ボタンをクリックすると、次の設定画面が表示されます。



デバイスリストで映像を録画するカメラを選択するか、デバイスグループのリストからデバイスグループを選択します。“イベントが発生したカメラ”オプションはタイムラプス録画の時にはサポートしません。

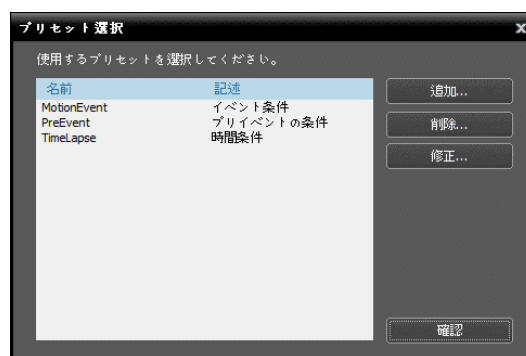
- 5 “デバイス”メニューで録画状態を確認することができます。“サイト”パネルで“すべてのデバイス”をクリックすると登録されたすべてのデバイスがサイトリストのパネルに表示されます。デバイス名の横の矢印ボタン(▶)をクリックして状態を確認します(“録画”: 一般録画中、“瞬間録画”: 瞬間録画中、“待機中”: 録画待機中)。“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムでは監視画面の該当カメラ画面の右上段に一般録画 OSD(赤色 ●)が表示されます。



イベントベース録画の設定

イベント録画またはプライベート録画が設定された場合、スケジュールが設定された時間の間、イベント感知に基づいて録画を行います(録画サービスに登録されたデバイスの場合にのみ対応)。デバイスが使用するプロトコルの種類及びデバイスモデルによってイベント関連機能に対応しないことがあります(サポートプロトコル: JSS遠隔監視システムPROプロトコル、一部バージョンのAxis/Panasonic BB/Panasonic WV (DG)/RTSP/RTP/ONVIFプロトコル)。

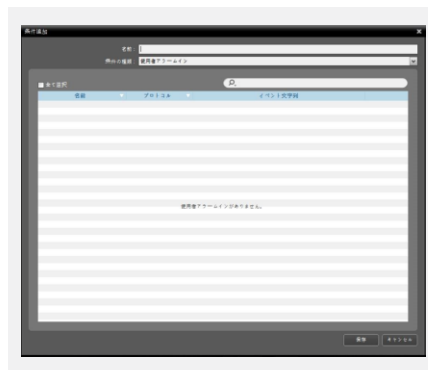
- 1 “時間範囲”スケジュールをダブルクリックした 後、希望するプリセットを選択してスケジュールの時間を設定します。設定方法は、タイムラプス録画時のスケジュールの時間の設定方法と同じです。詳しい内容は、**タイムラプス録画の設定**を参照してください。
- 2 “条件”スケジュール画面をダブルクリックした後、イベント条件またはプライベート条件のプリセットを選択してイベント録画またはプライベート録画を設定します。



“追加”または“修正”ボタンをクリックして、新しいプリセットを追加したり、保存されたプリセットを修正することができます。“追加”または“修正”ボタンをクリックすると次の設定画面が表示されます。

イベント録画の条件の設定

あらかじめ設定されたイベントが感知されると映 像を録画します。デバイスが使用するプロトコルの種類及びデバイスモデルによって本機能が対応しないことがあります(サポートプロトコル: JSS遠隔監視システムPROプロトコル、一部バージョンのAxis/Panasonic BB/Panasonic WV (DG)/RTSP/RTP/ONVIFプロトコル)。

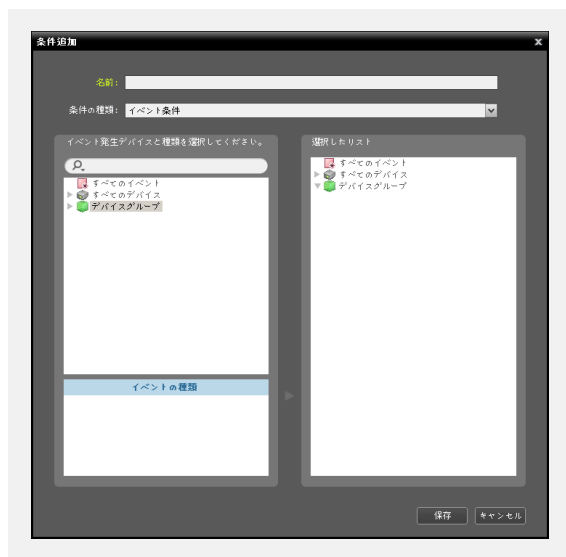


- 名前: 管理サービスに登録されているユーザーアラームイベントのリストを表示します。
- イベント文字列: 使用者アラームイベントが発生させる文字列を表示します。

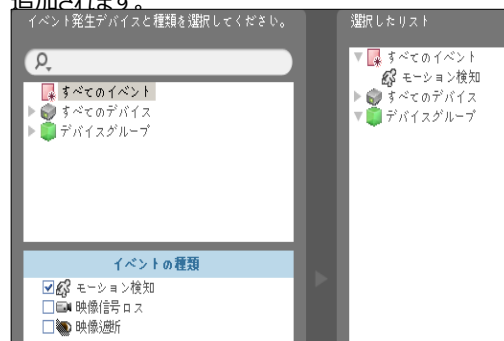
録画しようとする使用者アラームイベントを選択します。

- イベント条件: デバイスで一定のイベントが感知されると映像を録画します。

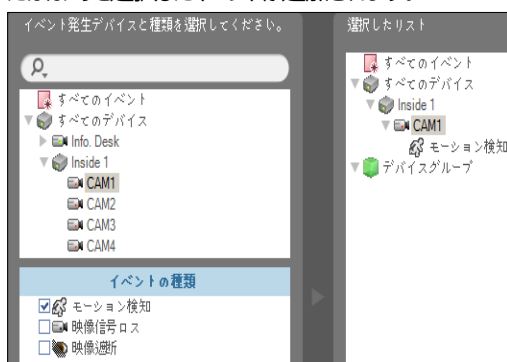
- すべてのイベント: 指定したイベントが感知されると映像を録画します。“すべてのイベント”をクリックすると、下段にイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると右側にある“すべてのイベント”リストの下に選択したイベントが追加されます。



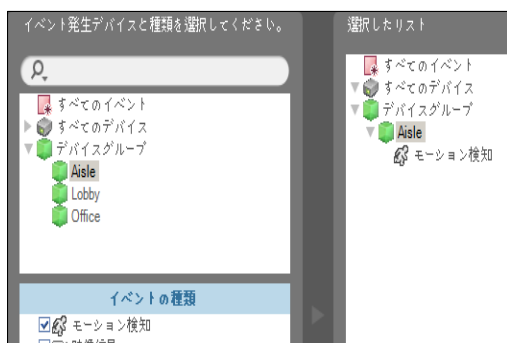
- 条件の種類: イベントの種類を選択します。
- 使用者アラームイン: システム上で各デバイスに対して使用者アラームインイベントが感知されると、該当デバイスの映像を録画します。



- すべてのデバイス: 指定したデバイスまたはカメラで指定したイベントが感知されると映像を録画します。“すべてのデバイス”をダブルクリックすると、登録されたデバイスまたはカメラのリストが表示されます。→ “すべてのデバイス”でイベントを感知するデバイスまたはカメラをクリックすると、下段の“イベントの種類”リストに該当するデバイスまたはカメラでサポートするイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると、右側にある“すべてのデバイス”リストの下に選択したデバイスまたはカメラと選択したイベントが追加されます。



- デバイスグループ: 指定したデバイスグループで指定したイベントが感知されると映像を録画します。“デバイスグループ”をダブルクリックすると、登録されたデバイスグループが表示されます。→ “デバイスグループ”でイベントを感知するデバイスグループをクリックすると、下段の“イベントの種類”リストで該当するデバイスグループでサポートするイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると、右側にある“デバイスグループ”リストの下に選択したデバイスグループと選択したイベントが追加されます。



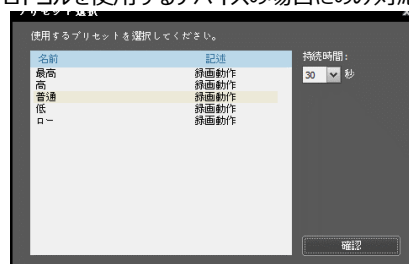
プライベート録画の条件の設定

あらかじめ設定されたイベントが感知されると、イベント感知前の映像を録画します



プリセットの名前を入力した後、“条件の種類”リストで“プライベートの条件”を選択します。

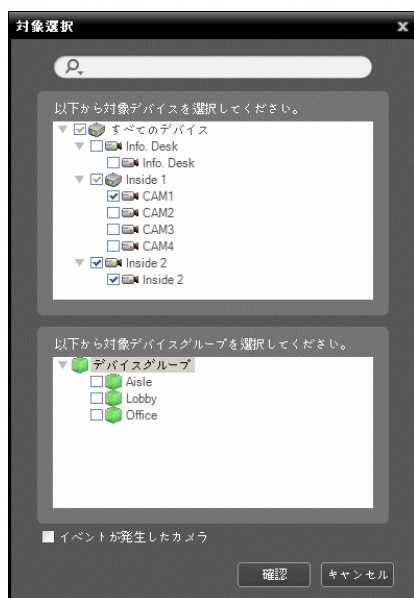
- “アクション”スケジュール画面をダブルクリックした後、希望するプリセットを選択します (JSS遠隔監視システムPRO プロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。



“それぞれのプリセットには録画する時使うストリーム(デバイスがネットワークカメラである場合)録画のためのコーデック、解像度、録画速度および録画画質設定値(デバイスがネットワークビデオエンコーダである場合)が割り当てられています。各プリセットに割り当てられたストリームまたは設定値はデバイス毎に違います。詳しい内容は、[デバイスの管理](#)を参照してください。

- 持続時間: あらかじめ設定されたイベントが感知されたときの録画時間を設定します(最大 60秒)。イベント録画は、イベントが感知されてから、解除されるまで、そして、イベント解除後も設定された持続時間の間、録画を続けます。プライベート録画は、設定された持続時間分、イベント感知前の映像を録画します。

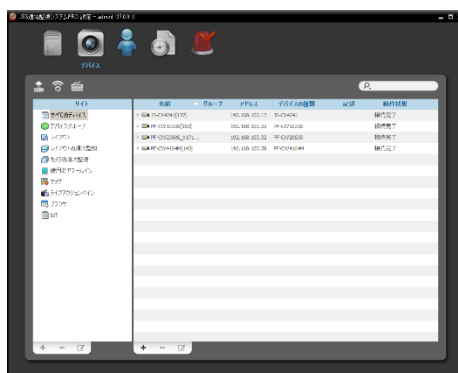
- “対象”スケジュール画面をダブルクリックした後、録画するカメラを設定します。



指定したイベント発生時に、映像を録画するカメラまたはデバイスグループをデバイスリストまたはデバイスグループのリストで選択します。“イベントが発生したカメラ”オプションを

選択すると、イベント(アラームインイベント及びオーディオ感知イベント、使用者アラームインイベント除外)が感知されたカメラの映像のみ録画します。“イベントが発生したカメラ”オプションは、カメラがないデバイスの場合には、サポートされていません。

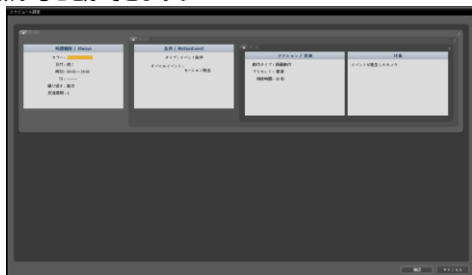
- 5 “デバイス”メニューで録画状態を確認することができます。“サイト”パネルで“すべてのデバイス”をクリックすると登録されたすべてのデバイスがサイトリストのパネルに表示されます。デバイス名の横の矢印ボタン(▶)をクリックして状態を確認します(“録画”: 一般録画中、“瞬間録画”: 瞬間録画中、“待機中”: 録画待機中)。JSS遠隔監視システムPROクライアントでは監視画面の該当カメラ画面の右上段に一般録画OSD(赤色●)が表示されます。



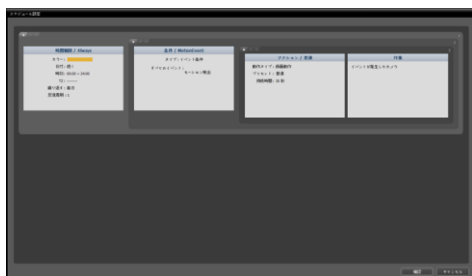
スケジュールの管理

新しいスケジュールの追加

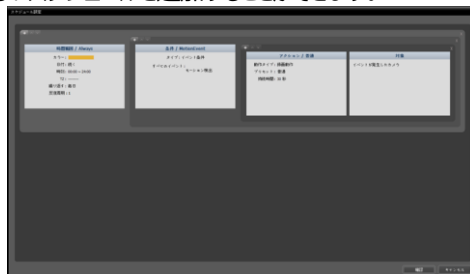
- 時間範囲が異なる新しいスケジュールを追加する場合：“時間範囲”スケジュール画面の左上段にある **+** ボタンをクリックして完全に新しいスケジュールを追加することができます。




- 同じ時間範囲の新しいスケジュールを追加する場合：“条件”スケジュール画面の左上段にある **+** ボタンをクリックして同じ時間範囲に新しいスケジュールを追加することができます。






- 同じ時間範囲および条件の新しいスケジュールを追加する場合：“アクション”スケジュール画面の左上段にある **+** ボタンをクリックして同じ時間範囲および条件に新しいスケジュールを追加することができます。



スケジュールの削除

各スケジュール画面の右上段にある  ボタンをクリックすると、該当スケジュールを削除します。

スケジュールの優先順位の変更

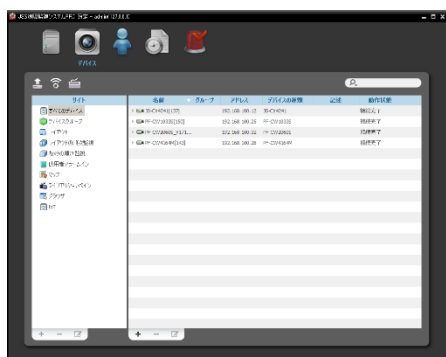
各スケジュール画面の左上段にある  または  ボタンをクリックしてスケジュールの優先順位を変更  ことができます。"スケジュールの設定"画面の上位にあるスケジュールが優先的に適用されます。優先順位は、イベント、タイムラプス、プライベートの順です。


瞬間録画設定

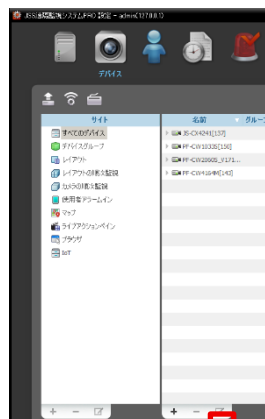
重複録画サービスの場合、瞬間録画に対応しません。

瞬間録画の時には、ユーザーが映像監視中に手で録画を開始または停止します(録画サービスに登録されたデバイスの場合のみ対応)。

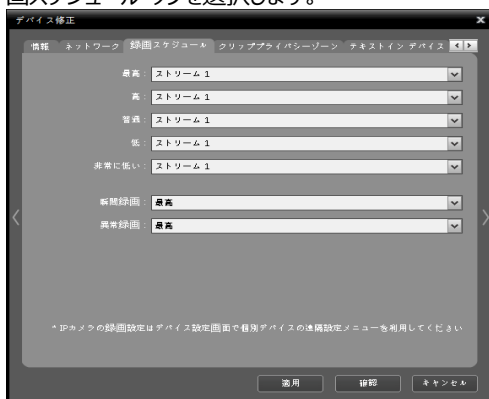
1 "デバイス"メニューを選択します。



- 2 "サイト"パネルからデバイスグループを選択した後、サイトリストのパネルでデバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある  ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックすると、デバイスメニューが表示されます。



- 3 デバイスメニューで“デバイス修正”を選択します。“録画スケジュール”タブを選択します。



- 瞬間録画: 瞬間録画する時、使うプリセットを選択します。

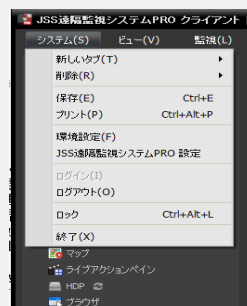
- 4 JSS遠隔監視システムPROクライアントを実行します。監視画面で録画する映像が表示されたカメラ画面を選択した後、カメラ画面の制御ツールバーで●(瞬間録画)ボタンをクリックします。該当カメラ画面の右上段に瞬間録画OSD(青色●)が表示され、上の“録画スケジュール”タブで選択したプリセットで録画を開始します。●(瞬間録画)ボタンを再びクリックすると録画が停止します。システムの負荷によって録画が遅くなることがあり、このため録画OSDがスケジュールで設定された時間より遅れて、または長く表示されることがあります。



緊急録画設定

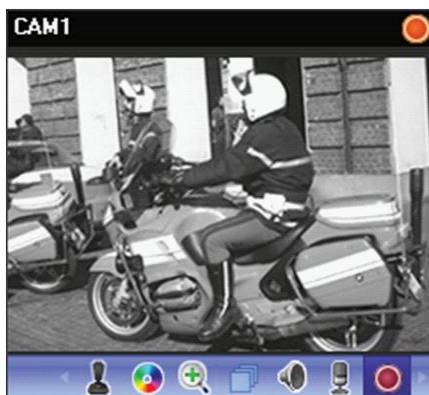
緊急録画の時には、ユーザーが映像監視中に手で録画を開始または停止します(クライアントシステムに保存)。

- “システム”メニューの“環境設定”をクリックします。環境設定の画面が表示されます。“緊急録画”をクリックします。“ローカルクライアントパソコンに緊急録画”項目を選択し、クライアントシステムで緊急録画を行うように設定します。



- 2 JSS遠隔監視システムPROクライアントを実行します。監視画面で録画する映像が表示されたカメラ画面を選択した後、カメラ画面の制御ツールバーで●(緊急録画)ボタンをクリックします。該当カメラ画面の右上段に緊急録画OSD(オレンジ色 ●)が表示され、画面に見える映像そのまま録画を開始します。●(緊急録画)ボタンを再びクリックすると録画が停止します。

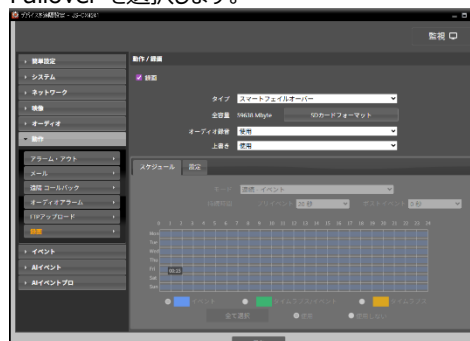
監視映像が監視タブに見えない場合、緊急録画を行いません。例えば、緊急録画中、画面のレイアウトを変更し、緊急録画中の映像が見えなくなった場合、該当映像に対する緊急録画は中止されます。



スマートフェイルオーバーをサポートしていないデバイスの場合は、“スマートフェイルオーバー”チェックボックスが表示されません。



- 2 デバイスメニューで“デバイスを遠隔設定”をクリックします。“Event Action” → “Record”をクリックします。Recordチェックボックスを選択し、Typeで“Smart Failover”を選択します。



スマートフェイルオーバー録画設定

スマートフェイルオーバーは、録画サービスとデバイス間の接続が切れた場合に、映像をカメラのSDカードに保存した後、録画サービスに再接続したときにSDカードに保存された映像を録画サービスに録画します。

- スマートフェイルオーバーを使用する場合、+5 IPSを考慮して、録画チャンネルを設定する必要があります。
- スマートフェイルオーバーを使用前に、デバイスと録画サービスの時刻同期する必要があります。
- スマートフェイルオーバーは同時に最大3つのチャンネルで動作します。

- 3 録画サービスとデバイス間の接続が切断された場合に、装置内のSDカードに画像が記録されます。録画サービスとデバイスが再接続すると、SDカードに保存された映像を録画サービスに録画します。“スマートフェイルオーバー”の録画状況は、デバイスメニューからデバイスを展開すると、確認することができます。

- 1 デバイスメニューで“デバイス修正”をクリックします。

第7章 – 録画映像再生及び動画で保存

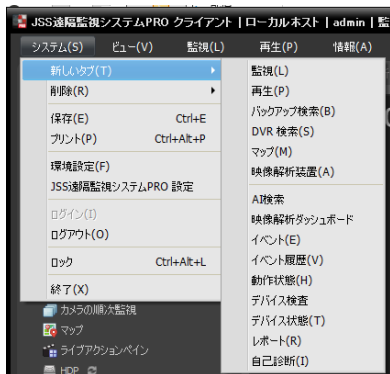
録画映像を検索して再生したりUSB保存デバイスに動画ファイルで保存することができます。

先ず次の内容を確認した後、“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムを実行します

- システムでサービスが実行されていなければなりません。
詳しい内容は、[サービス実行](#)を参照してください。
- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、[第13章 – デバイス管理](#)を参照してください。
- 割り当てられたストレージに録画データがなければなりません。詳しい内容は、[ストレージ設定](#)を参照してください。

録画映像再生

録画サーバーに録画された映像再生及び動画保存は再生パネル(最大4つ – ただし、32bit システムの場合は最大2個)でサポートします。またDVR、クライアントシステム、またはSD (SDHC/SDXC)メモリーカード(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するネットワークカメラに搭載されたSD (SDHC/SDXC)メモリーカードのみ)の録画映像の再生及び動画保存はDVR検索パネル(最大4つ – ただし、32bit システムの場合は最大2個)でサポートします。パネルタブに再生またはDVR検索タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“再生”または“DVR検索”をクリックしてタブを追加します。

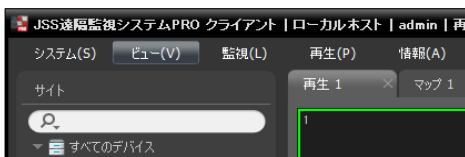


パネルタブで再生またはDVR検索タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、再生またはDVR検索画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。現在再生しているカメラ画面を選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、再生を停止せず該当カメラ画面を再生またはDVR検索画面の希望する位置に移動することができます。レイアウトが管理サービスに登録されている場合、レイアウトリストで希望するレイアウトを選択した後、再生またはDVR検索画面にドラッグ&ドロップして該当するレイアウトで映像を再生することができます。



- 録画ファイルオーバーサーバーまたは重複録画サーバーに録画映像がある場合、優先順位が最も高いサーバーの録画映像を再生します。
録画ファイルオーバーサーバー → 重複録画サーバー → 録画サーバーの順で優先順位が高くなります。
録画ファイルオーバーサーバーまたは重複録画サーバーの録画映像を再生する場合、パネルツールバーの (録画ファイルオーバーサービス) または (重複録画サービス) ボタンをクリックして再生することができます。
- 複数のカメラ画面が1280x720以上の解像度で同時に監視または再生する場合、クライアントシステムの性能が大きく低下することがあります。
- 本ユーザーマニュアルで、“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。

パネルのツールバー、タイムテーブル、制御ツールバー及び画面のメニューを用いて録画映像を再生します。



パネルのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて録画映像を検索して該当する映像を再生することができます。















モデルやバージョンによってツールバーが異なることがあり、一部の機能がサポートされない場合もあります。重複録画サービスの場合、瞬間録画に対応しません。





- (イベント検索/タイムラプス検索): イベント検索とタイムラプス検索の検索モードを変更します。
- (検索条件): イベント検索のための検索条件を設定します。検索条件に関する詳しい内容は、デバイスの使用マニュアルを参照してください。
- (カレンダー): 特定日の映像を検索します。日付を選択すると、タイムテーブルに該当日の録画データが表示されます。カレンダーに録画映像がある日は活性化されて表示されます。
- (移動): 特定時点の映像を検索します。
 - 移動: 録画映像の時間を入力し、該当する時間の映像に移動します。
 - 最初へ移動: 録画データの中で最初に録画された映像へ移動します。
 - 最後へ移動: 録画データの中で最後に録画された映像へ移動します。
- (その他メニュー): メニューが表示されます。
 - データソース: 検索する録画画像の位置を選択します。

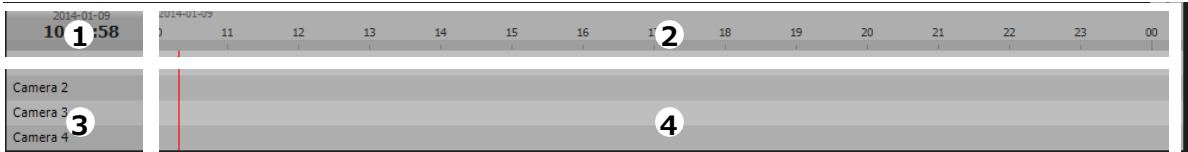
ローカルを検索	DVRのメイン保存装置の録画画像を検索します。
アーカイブを検索	DVRのアーカイブ保存装置の録画画像を検索します。
外付け検索	DVRにつながっている他のシステムで録画された保存デバイスの録画映像を検索します。仕様及び、バージョンにより、使用できない場合があります。

- ブックマークの追加: 録画映像のブックマークが可能です。
- 削除された録画デバイス: JSS遠隔監視システムPROにデバイスの録画映像が保存されていたが該当デバイスがJSS遠隔監視システムPROより削除された場合にも削除されたデバイスを検索してデバイスが削除される前の録画映像を検索することができます。
- セグメント選択: DVRの時間が過去に変更され、時間重複現象により、同一時間帯に一つ以上の映像が存在する場合、望みの区間を選択します(時間単位のタイムテーブルを提供するDVRの場合にのみ対応)。
- サイトパネル: フローティングされたパネル又は全体画面でサイトリストを表示、または非表示することができます。本機能は一部パネルのみ対応します。
- テキストインパネル: テキストインパネルを表示します。
- (保存): 録画映像を専用ビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存します。
 - 静止画保存: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージまたはPDFファイルで保存します。
 - イメージを保存/イメージ出力: 現在の画面に表示されたイメージを保存または印刷します。
 - パノラマスクリーン保存: 現在の画面に表示されたイメージを保存します。
- (ブックマーク): 録画映像のブックマークが可能です。詳しい内容は、**ブックマーク(Bookmark)**を参照してください。
- (録画フェイルオーバーサービス): 録画フェイルオーバーサーバーに録画された映像が再生できます。録画フェイルオーバーサーバーに録画映像がある場合、タイムテーブルのバーに透明の赤い縦軸()が表示されます。
- (重複録画サービス): 重複録画サーバーに録画された映像の再生ができます。ボタンをクリックすると現在の再生画面と新規の再生画面が選択できる画面がポップアップされます。現在の再生画面を選択すると、録画サーバーとの接続が解除された後、重複録画サーバーに接続されます。





-  (サムネイル検索/フィルター設定): イベントベース録画(イベント及びプライベート)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。詳しい内容は、[サムネイル検索](#)を参照してください。
-  (ステップ再生): フレームまたは時間単位で前または次の映像に移動します。 および  ボタンの間にある矢印をクリックして映像の移動間隔を設定することができます。
-  (高速逆再生/高速再生): 録画映像を高速で逆再生または再生します。
-  (停止/再生): 現在の画面に表示された録画映像再生を中止または開始します。
-  (ジョグシャトル): 再生方法および速度を調整することができます。ジョグシャトルの縦線は現在の再生方向及び速度を示します。縦線が中央から左にあると、映像を逆再生し、右側にあると順再生します。中央から遠いほど再生速度が速くなります。縦線をクリックしてジョグシャトルの希望する位置にマウスでドラッグした後、マウスのボタンをそのまま押し続けていると、該当する速度で映像を再生します。マウスボタンから手を離すと、縦線が中央に戻り、 (再生)ボタンをクリックすると一倍速で映像を再生します。(シャトルロック)ボタンをクリックした後、縦線をドラッグ&ドロップすると、移動した位置に縦線を固定させます。
-  (ジョグシャトル): 再生速度を調整することができます。ジョグシャトルの縦線は現在の再生速度を示します。
-  (ユーザーレイアウト登録): 現在のレイアウトを保存します。
-  (画面分割): 画面分割を変更します。 ボタンをクリックしてより多様な画面分割を選択することができます。 または  ボタンをクリックすると前または次のカメラグループに移動します。

タイムテーブル/イベントリスト

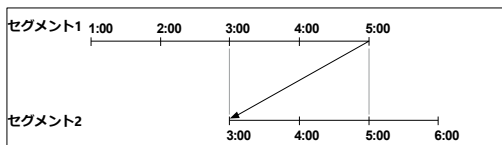
- タイムラプス検索モード: タイムラプス検索モードの場合、画面の下段にあるタイムテーブルはカメラ別の録画情報を表示します。タイムテーブルの右上段にある  ボタンをクリックすると、画面にあるすべてのカメラの録画情報を表示し、 ボタンをクリックすると再生画面から選択したカメラの録画情報のみを表示します。



1	現在の再生日時	タイムテーブルで現在再生中の日時を表示します。
2	タイムテーブルの日時	タイムテーブルの日付および時間を表示します。任意の位置をクリックした後、左側または右側にドラッグすると、以前または以後の日付及び時間に移動します。キーボードのCtrlキーを押したまま、マウスホイールを動かすと時間区間を拡大して表示することができます。
3	カメラ名	カメラの名前を表示します。
4	録画データ	録画情報を分単位または 時間単位で表示します(デバイスによって異なる)。

- ・ 秒単位、分単位タイムテーブル(一部のDVRモデルを除いた全てのデバイス)
 - 赤色の縦線: 現在再生しているタイムテーブル上の位置を表示します。マウスで 希望する時間をクリックすると、該当時間帯の最初の録画映像が表示されます。
 - 黄色の区分線: 時間重複現象が発生した場合、セグメントを分割します。その場合、タイムテーブルで右側に表示されるほど最新のデータです。“再生”パネルの  (カレンダー) ボタンをクリックすると、希望するセグメントにすぐ移動できます( (カレンダー) → 日付選択 → 希望するセグメント選択: 該当セグメントの最初の録画映像が画面に出力)。
 - バーの色: 録画モードを表示します(タイムラプス録画 - 藍色、イベント録画 - ピンク色、プライベート録画
 - 紫色、瞬間録画 - 空色、緊急録画 - 紺色、デバイス接続の一時中断による非正常録画 - オレンジ色)。
 - タイムテーブルの拡大によって1秒~1分単位で録画映像を移動します。
- ・ 時間単位タイムテーブル(一部のDVRモデル)
 - 黄色のバー: タイムテーブルで映像の現在の再生時点を表示します。
 - ピンク色のバー / 灰色のバー: 時間重複現象が発生した場合、現在の画面に出力された映像のセグメントはピンク色のバーで、現在の画面に出力されていない映像のセグメントは灰色のバーで表示されます。灰色のバーで表示されたセグメントの映像は再生できません。“DVR検索”パネルの  (その他メニュー) ボタンをクリックして画面に出力するセグメントを変更できます( (その他メニュー) → “セグメント選択”メニュー → 望みのセグメント選択: 選択セグメントの最初の録画映像が画面に出力)。


管理サーバまたはDVRの時間が過去に変更されて録画された場合、同一の時間帯に二つ以上の録画映像が存在する可能性があります(時間重複現象)。この場合、重なった時間の録画映像はセグメントを区分して再生する必要があります。



例えば、1時から5時までの録画映像が存在する場合、使用者がシステム時間を5時から3時へ変更して 6時まで録画を行うと3時から5時までの録画映像が二つ存在することになり、この場合に3時から5時までの時間帯には二つのセグメントが発生します。

- ・ イベント検索モード: イベント検索モードの場合、画面下段にイベントリストが表示されます。
 - 再生パネル: イベント録画時に録画されたイベントのみ検索されます。
 - DVR検索パネル: DVRの場合、発生した全てのイベントが検索されますが、SD(SDHC/SDXC)メモリーカードの場合はSD(SDHC/SDXC)メモリーカードに記録中に発生したイベントのみが検索されます。

イベント	デバイス	日付/時刻
 モーション検知	CAM1	2010-04-27 14:44:51
 モーション検知	CAM1	2010-04-27 14:44:27
 モーション検知	CAM1	2010-04-27 14:43:35
 モーション検知	CAM1	2010-04-27 14:42:22
 モーション検知	CAM1	2010-04-27 14:40:35

- ・ イベント録画映像がある場合、リストでイベントをクリックすると、画面に該当イベントの録画映像が表示されます。イベントリスト右上の  ボタンをクリックすると次の結果が表示されます。

制御ツールバー

カメラ映像を選択した後、マウスのカーソルを該当カメラ映像右下に動かすと、制御ツールバーが表示されます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと、該当するボタンのツールチップが表示されます。



- (魚眼映像の歪み補正): 魚眼カメラの映像の歪みを補正します。
- (物体/モーション 検索): JSS遠隔監視システムPROに保存された録画映像またはクライアントシステムに保存された緊急録画映像で、オブジェクトまたはモーションの変化が検索できます。詳しい内容は、**オブジェクト/モーション検索**を参照してください。
- (映像拡大): 現在の映像を拡大します。詳しい内容は、**映像拡大**を参照してください。
- (色調整): 現在の映像の明暗、コントラスト、彩度、色彩を調整します。🔄 ボタンをクリックすると、変更内容をすべてキャンセルして元のイメージに戻ります。この設定は録画映像には適用されません。
- (イメージ効果): イメージに効果を与えます。詳しい内容は、**イメージ効果**を参照してください。
- (オーディオ再生): オーディオが録音された場合、映像再生時に録音されたオーディオと一緒に再生されます(1×1分割画面でのみサポート)。

再生画面のメニュー

カメラ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。



- 魚眼映像歪み補正: 魚眼カメラの映像の歪みを補正します。
- 映像拡大: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックすると同じように動作します。**制御ツールバー**を参照してください。
- 物体/モーション 検索: JSS遠隔監視システムPROに保存された録画映像またはクライアントシステムに保存された緊急録画映像で、オブジェクトまたはモーションの変化が検索できます。詳しい内容は、**オブジェクト/モーション検索**を参照してください。
- 画像処理: 再生映像を補正します。詳しい内容は、**制御ツールバー**を参照してください。
- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
 - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる(Smart): 画面に出力される映像のマージンに基づいて“画面に合わせる”または“実際サイズ”が適用されます。
 - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像レートに合わせる”が適用されます。

- 映像レートに合わせる: 映像のオリジナルレートにカメラ画面のエリアをあわせて映像を出力します。
- 1/2倍サイズ(×0.5)~4倍サイズ(×4): 映像のオリジナルサイズを基準にして該当メニューで指定したサイズでカメラ画面に映像を出力します。例えば、“1倍サイズ(×1)”を選ぶと、オリジナル映像の実際のサイズで出力します。カメラ画面が該当サイズで映像を出力できるほどエリアが確保された場合のみメニューが活性化されます。
- 停止画像: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージまたはPDFファイルで保存します。
- ストリーム情報: 画面に出力された現在の映像のストリーム情報を表示します。
- デバイス情報: 選択したカメラのデバイス情報をサブアイテムに表示します。
- サムネイル検索: その映像のサムネイルの検索を行うことができます。
- 削除: 接続を解除します。

ブックマーク(Bookmark)

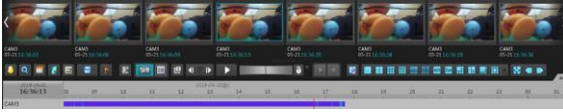
カメラ画面を選択した後、パネルのツールバーから (ブックマーク) ボタンをクリックすると、該当録画映像をブックマークすることができます。



- 1 (ブックマークの追加) ボタンをクリックします。
- 2 ブックマーク名及び説明を入力します。“追加”ボタンをクリックすると該当録画映像がブックマークされます。
- 3 ブックマークリストで、ブックマークを選択すると下欄に該当ブックマーク情報が表示されます。 (録画データの再生) ボタンをクリックすると再生画面に該当ブックマーク映像を表示します。 (ブックマークの削除) ボタンをクリックすると該当ブックマークを削除します。

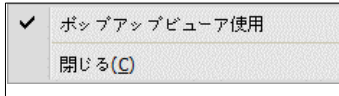
サムネイル検索

検索フィルターに該当する録画された映像の静止画像をサムネイルリストの形式で再生パネルに表示します。



パネルツールバーのサムネイル検索ボタンをクリックすると、フィルター設定のサムネイルイメージのリストを表示します。タイムテーブルの録画データで任意の位置をクリックすると、選択した時間の静止画像を表示します。両側の矢印ボタンやホイールスクロールで前/次の静止画像に移動します。マウスカーソルを静止画像の上に置くと、ポップアップビューア設定により、ポップアップビューア画面が当該静止画像の上部に表示されます。

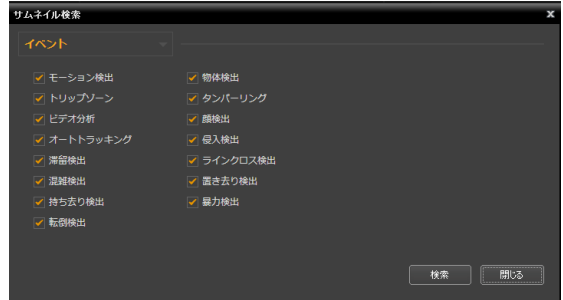
タイムラプス検索モードでは、選択されたイメージをもう一度クリックすると、サムネイルの時間間隔が短縮されます。時間の間隔が1秒である場合には、時間の間隔が選択できるポップアップメニューを表示します。



- ポップアップビューア使用: ポップアップビューア画面に対応します。

フィルター設定


サムネイル検索ボタン(フィルター設定)を押して検索フィルターを設定します。イベント検索、タイムラプス検索、メタフィルタリング検索に対応します。







- イベント検索：一つ以上のイベントを選択して当該イベントが発生した時点の映像イメージを表示します。
- タイムラプス検索：設定した時間の間隔(4時間、1時間、10分、1分、30秒、10秒、1秒)で当該映像のイメージを表示します。“キーフレームモードの使用”を選択すると、キーフレーム映像のイメージのみリストに表示されます。
- メタフィルタリング検索：メタデータがある映像で特定条件のデータが含まれている映像のイメージを表示します。メタデータはオブジェクトタイプ、正確度、個数、カラー、方向を設定することができ、“AND”や“OR”で複数の条件を組み合わせで検索します。

メタデータは映像分析サービス(AI)にデバイス及びモニタリングサービスが登録され、録画設定になっている場合に保存されます。

オブジェクト/モーション検索

制御ツールバーで  (物体/モーション検索) ボタンをクリックすると、下段にオブジェクト/モーション検索パネルが表示され、JSS遠隔監視システムPROに保存された録画映像またはクライアントシステムに保存された緊急録画映像でオブジェクトまたはモーションの変化を検索できます。




-  (検索領域指定): マウスドラッグを利用して、カメラ画面にオブジェクトまたはモーションの変化を検索する領域を設定します。
-  (検索領域削除): マウスドラッグを利用して、カメラ画面に設定された検索領域を削除します。
-  (参照イメージ設定): カメラ画面に現在表示されたイメージを、オブジェクトの変化を感知するための参照イメージに設定します(オブジェクト検索のみ)。
-  (参照イメージ表示): 参照イメージをPIP画面に表示したり隠します(オブジェクト検索のみ)。

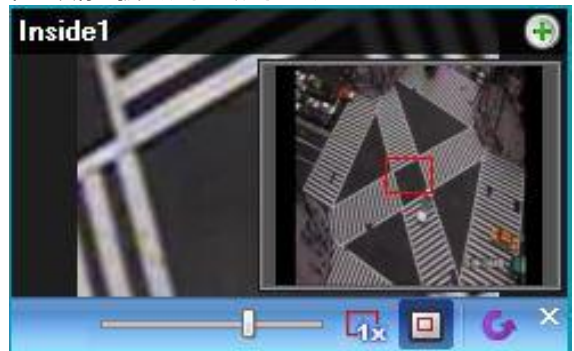






- クエリー方法: クエリー方法を選択します。
 - モーション検索: 連続した2つの録画映像を比較して検索領域で変化が発生した場合その映像を探し当てます(例: モーションがあった場合)。
 - オブジェクト検索: 参照イメージと比較して検索領域で変化が発生し有効時間以上の変化が持続される場合その映像を探し当てます(例: 物体がなくなった場合)。
- 感度: 変化感知の感度を設定します。値が大きければより敏感に感知します。
- 検索ブロック数: 変化感知最小ブロックを選択します。(モーション検索のみ)設定されたブロック数より少ない場合、変化が発生していないと見なします。

- 参照映像に対する変化率: 変化感知の最小比率を選択します。(オブジェクト検索のみ)設定された比率より少ない場合、変化が発生していないと見なします。
- 有効時間: 変化感知時、変化が発生したと感知するために変化が持続される時間を設定します。変化が感知されてから指定された時間持続しないと変化がないと見なします。


映像拡大

制御ツールバーで  (映像拡大) ボタンをクリックすると、現在の映像を拡大することができます。









-  (スライダー): 拡大倍率を調整します。マウスホイールを用いて、拡大倍率を調整することもできます。
-  (実際のサイズを表示): 実際サイズ拡大モードに入ります。実際サイズ拡大モードではカメラ画面のサイズまたは映像の拡大レートとは関係なく映像の実際のサイズを基準にして映像が拡大されます。
-  (拡大ファインダ): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを示します。
-  (復元): 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します


イメージ効果

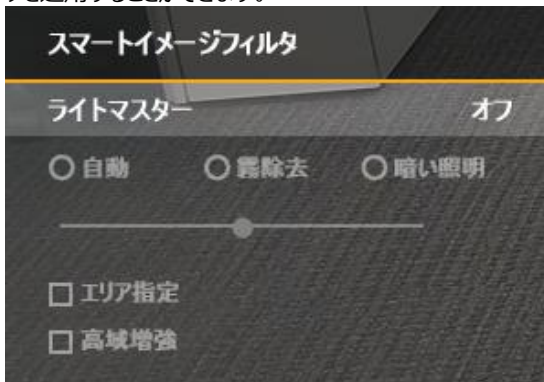
制御ツールバーで (イメージ効果) ボタンをクリックすると、イメージ効果の制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてイメージに効果を与えることができます。この設定は録画映像には適用されません。



-  (柔軟): 映像をソフトにします。
-  (鮮明): 映像を鮮明にします。
-  (高域増強): 明度及び鮮明度を増加させて映像をはっきりさせます。
-  (ヒストグラムの平準化): 明度を均等に調整して映像を自然にします。
-  (境界線を検出): 映像の輪郭を抽出します。
-  (復元): 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します。

スマートイメージフィルタ


録画映像の左下から (スマートイメージフィルタ) ボタンをクリックすると、画像の状態や目的に合わせて画像にフィルタを適用することができます。



- 自動、霧除去、暗い照明フィルタを適用して、値を設定します。
- エリア指定: 画面の特定の領域のみをフィルタを適用します。
- 高域増強: 高域増強フィルタを適用します。

テキストインのレポート


テキストインの検索結果をレポートタイプのPDFファイルに保存します。

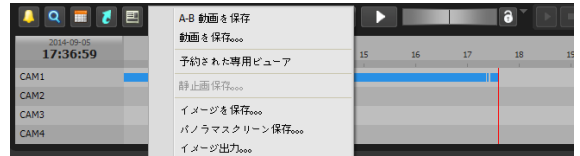
再生パネル下部のツールバーにある (検索条件) をクリックして、ポップアップウィンドウからテキストインデバイスを選択します。



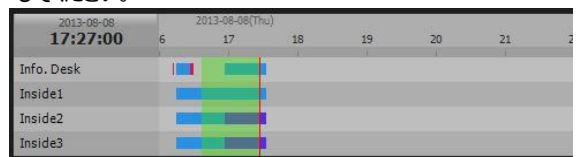
 (検索条件) でテキストインデバイスを検索すると、上記のようにイベント検索モードに切り替わります。

録画映像を動画で保存

録画映像をUSB保存デバイスに動画ファイルで保存することができます。再生パネルの下段にあるツールバーで (保存) ボタンをクリックすると動画保存メニューが表示されます。



- A-B動画を保存: 動画で保存する映像の区間をタイムテーブルを用いて設定します。動画保存メニューで、“A-B動画を保存”を選択した後、タイムテーブルで保存する映像の開始点と終了点をクリックして、ゾーンを指定します。“動画保存”画面が表示されたら、該当区間の映像を専用のビューアファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存することができます。詳しい内容は、[専用のビューアファイルで保存](#)を参照してください。



- 動画を保存: 動画で保存する映像の区間を直接入力して設定します。動画保存メニューで、“動画を保存”を選択します。“動画を保存”画面が表示されたら、該当する区間の映像を専用ビューアファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存することができます。詳しい内容は、[専用のビューアファイルで保存](#)または、[AVIファイルで保存](#)を参照してください。

- 予約された専用ビューアー：予約された専用ビューアーファイルの保存リストを表示します。**[B]**ボタンをクリックすると予約された専用ビューアーファイルの保存を手動で開始し、**[X]**ボタンをクリックすると予約を取り消します。
- 静止画保存：現在選択されている映像を実際のサイズのイメージまたはPDFファイルで保存します。
- イメージを保存/イメージ出力：現在の画面に表示されたイメージを保存または印刷します。
- パノラマスクリーン保存：現在の画面に表示されたイメージを保存します。

専用のビューアーファイルで保存

録画映像を専用ビューアーファイル(.exe)で保存します。



- 開始時刻、終了時刻：動画で保存する映像の日付及び時間を入力します。“最初の映像”オプションを選択すると、一番最初に録画された映像の日付及び時間を設定し、“最後の映像”オプションを選択すると、一番最後に録画された映像の日付及び時間を設定します。“±1分”、“±3分”、“±10分”、“±30分”または“±1時間”ボタンをクリックすると、タイムテーブルで現在選択された時間を基準に該当する時間が設定されます。

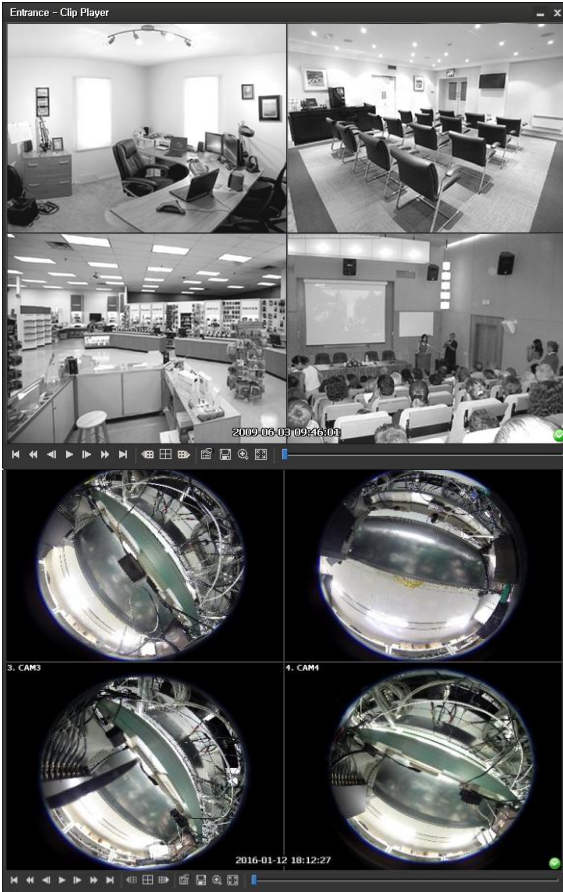
- 専用ビューアー、AVI：“専用ビューアー”を選択します。
- 分割ファイルのサイズ：録画映像ファイルが設定した分割ファイルサイズを超えると、ファイルを分割して保存します。
- パスワード保存：動画を再生するためのパスワードを設定します。パスワードを設定すると再生プログラムを実行する時、パスワード入力を要求します。
- サブストリーム優先で保存：デュアル録画された映像のメイン/サブストリームのうちサブストリームを優先して保存します。
- キーフレームのみを保存：設定された周期にしたがってキーフレームのみ保存します。
- テキストインデータ/ANPR/VAメタデータ含む：該当録画映像にそれぞれのデータがある場合、データを映像と共に保存します。
- 電子署名されたプレイヤーを含む：クリップコピーする場合、電子署名されたプレイヤーを含めて保存します。
- 透かしを含める：指定したウォーターマーク（テキストあるいはテキストパターン）をビデオと一緒に保存します。
- プレイヤー未包含：セルフプレイヤープログラムを包含せず録画映像のみ保存します(DVR検索パネルの場合にのみ対応)。この場合、ファイルサイズ及び保存時間が減少しますが保存されたファイルを再生するためにはJSS遠隔監視システムPROのプログラムが設置されたフォルダ(¥クライアント¥ selfplayer)で提供されるセルフプレイヤープログラム(ClipPlayer.exe)を実行する必要があります。デバイスの仕様及びバージョンによっては該当機能は支援されない場合があります。
- オーディオデータを除く：オーディオデータを除いて映像を保存します。
- 予約：専用ビューアー保存を行う時刻を予約します。予約した時刻に上記の設定で専用ビューアー保存を行います。専用ビューアー保存中にデバイスの接続が解除され保存失敗となった場合、設定されたリトライの間隔で専用ビューアー保存をリトライします。
- クリップ測定使用：クリップサイズを事前に測定して容量を確認できます。

- 保存中にネットワーク障害や接続解除が発生すると、予約した専用ビューアーにリストで表示されます。ネットワークが正常に復旧すると、保存が完了した時点から再開を試みます。
- 保存中に保存をしばらく中止するには、「中止」ボタンを押して「予約した専用ビューアーに追加」を選択した後、「はい」をクリックします。ビデオ保存ファイルは、予約した専用ビューアーリストに表示され、ポップアップメニューの「開始」を押して再開を試みることができます。

専用ビューアーファイルの再生


専用ビューアーファイルは、ファイル自体が再生プログラム(クリッププレイヤー)を含んでいるため、再生のために別途ソフトウェアをインストールする必要がありません。該当ファイルをダブルクリックすると、再生プログラムがすぐ実行され、画面に映像が表示されます。再生プログラムの右下段のスクロールバーを動かして希望する時刻の映像にすぐ移動することができます。☒ ボタンをクリックすると再生プログラムを終了します。

- 再生プログラムを稼働させるためのPCのCPUの最低仕様は、800MHz Pentium III (Intel Pentium Dual Core 2.2GHz推奨)です。CPUの仕様が低い場合、高画質と最高速度で録画された映像は、多少ゆっくり再生されます。また、プログラムを正常に実行させるためには9.0バージョン以上のDirectXをインストールする必要があり、16MB以上のビデオラムを備えたVGAカードの使用を推奨します。
- 使用PCのディスプレイ設定によって映像が正常に見えないことがあります。その場合、デスクトップ画面でマウスの右ボタンをクリックして、ディスプレイの登録情報 → 設定タブに移動して“色の品質”を“32ビット”に設定した後、“詳細” → トラブルシューティングを選択して、“ハードウェアアクセラレータ”を“最大”に設定してください。引き続き、問題が発生したらスタート → ファイル名を指定して実行…を選択して、“dxdiag”を入力してエンターボタンを押して出るDirectX診断ツール画面で、DirectXバージョンが9.0以上なのかを確認してください。ディスプレイのタブに移動して“DirectDrawアクセラレータ”が使用可能になっているかを確認してください。VGAカードのドライババージョンを確認して最新バージョンではない場合は最新バージョンにアップデートしてください。すべての事項が確認された後も映像が正常に見えない場合は、ビデオカードを変更してください。AMDチップセットを使用したビデオカードを推奨します。
- デバイスによって一部の機能に対応しない場合もあります。
- 録画映像を保存する際“プレイヤー未包含”オプションを選択した場合保存されているファイルを再生するためにはJSS遠隔監視システムPROが設置されたフォルダ(¥クライアント¥selfplayer)で提供されるセルフプレイヤープログラム(ClipPlayer.exe)を実行する必要があります。
- 魚眼映像歪み補正機能はWindows Vista以上のOSに対応しています。魚眼映像歪み補正機能はレイアウト1x1分割モードのみに対応します。スクリーンでマウスの右クリックをすると、魚眼映像歪み補正制御が可能になります。









- : 最初に移動
- : 最後に移動
- : 高速巻き戻し
- : 高速再生
- : 一画面ずつ逆再生
- : 一画面ずつ再生
- : 一倍速再生
- : 現在の分割画面を基準にして次のカメラグループに保存された映像がある場合、次のカメラグループに移動します。
- : 画面分割を2x2, 1+7, 3x3, and 4x4, 4x5, 5x5, 1+32の順に切替えます。
- : 現在の分割画面を基準にして以前のカメラグループに保存された映像がある場合、以前のカメラグループに移動します。
- : 再生プログラムの属性を設定することができます。

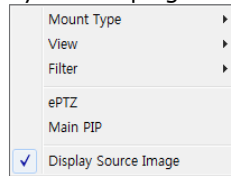
- Fisheye Dewarping : 魚眼映像歪み補正機能を制御することができます。詳しい機能は下記のFisheye Dewarpingメニューを参照してください。
- 印刷: 現在の映像を印刷します。
- 情報: 現在の映像画面の番号、カメラ名、録画時間、録画モード、ファイルのサイズ、解像度などの情報を表示します。
- 画像処理: 映像の明るさを調整したり、“ぼかし”または“強調”のようなイメージフィルターを適用します(1×1分割画面でのみ支援)。
- プレイスピードコントロール: “再生”及び“FF/ RW”(高速再生/逆再生)速度を変更します。
- ディスプレイモード: ディスプレイモードを選択します。画面が表示されなかったり、異常に表示される場合、ディスプレイモードを変更して問題を解決する時に使用します。
- 画面サイズ: 再生プログラムの画面サイズを選択します。
- 画面レート: 画面に表示される映像の出力レートを変更します。
- OSD設定: 画面に表示されるOSD設定を変更します。
- オーディオオン: 該当映像が録画される時、オーディオも一緒に録音されると、再生時にオーディオが出力されます(1×1分割画面再生時にのみ支援)。
- ブロック現象改善: 拡大映像の階段(ブロック)現象を改善して出力します。使用するPCのCPUの仕様が低くて再生が遅い場合、ブロック現象改善機能オプションを解除すると、遅くなる現象を少し改善することができます。

- テキスト表示: 映像にテキスト入力情報がある場合テキスト入力情報を表示します。単一画面モードではテキスト入力情報が映像と一緒に表示されます。分割画面モードではカメラ画面でマウス右クリックしてテキストイン出力メニューを選択します。
- ファイルの連続再生: 分割して、保存されたファイルを再生する際、各ファイルを自動で連続再生します。例えば、録画映像が“abc_01.exe”、“abc_02.exe”、“abc_03.exe”に分割して保存された場合、各ファイルを実行する必要はありません。“abc_01.exe”ファイルを実行すると“abc_01.exe”、“abc_02.exe”、“abc_03.exe”のファイルが連続で再生されます。
- 以前のファイルに移動: 分割して保存されたファイルを再生する際、現在再生中もしくは再生待機中の以前のファイルに移動します。
- 次のファイルに移動: 分割して保存されたファイルを再生する際、現在再生中もしくは再生待機中の次のファイルに移動します。
- ファイルリスト: 分割して保存されたファイルを再生する際、連続で再生ができるファイルのリストを見せます。ファイルを選択すると、該当ファイルに移動します。
- Repeat Playback: 録画したファイルを再生した後、再び再生します。
- Check Fingerprint: ファイルの全区間に対し、有効性を検査します。
- : 現在の映像を保存することができます。



- 現在映像の保存: 現在画面をイメージファイルで保存します。
- 現在映像の保存(1倍サイズ): 現在画面を1倍サイズのイメージファイルで保存します(1×1分割画面でのみ支援)。
- 動画保存: 映像の特定区間をAVIファイル(.avi)で保存します。
- Save Frame Info: フレーム情報をCSVファイルの形式で保存します。
- : 画面を拡大して見るか、1倍サイズで見ることができます(1×1分割画面でのみ支援)。画面を拡大した場合、拡大された画面でマウスで画面をクリックした後、カーソルを動かして拡大された画面の位置を変更することができます。
- : 画面を全体画面で見ることができます。

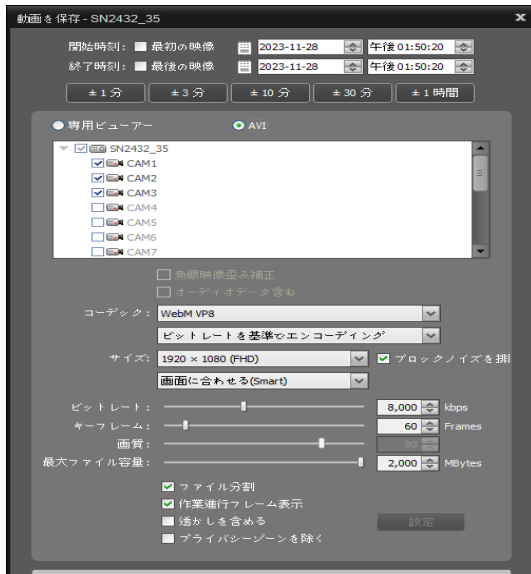
- , : 再生プログラムの右下段に表示されます。映像が改竄されなかったことが確認されたら  アイコンが出力され、映像が改竄されると  アイコンが出力されて再生を停止します。
- Fisheye Dewarping



- Mount Type: カメラの設置位置を設定します。Auto、Wall、Ceiling、Desktopのいずれかを選択することができます。この設定により設定可能な画面形態が変わります。
- View: 魚眼映像表示形態を選択します。ePTZ機能がオンになっている場合、マウスの右・左ボタンをドラッグし、Pan、Tilt、Zoomを制御することができます。
 - Single: 元の魚眼映像を表示します。メイン PIP が基本的に選択されます。
 - Quad: それぞれ異なる視点からデ・ワーピングされている4つのペインを2x2レイアウトで表示します。
 - Mosaic 3x2: それぞれ異なる時点で歪み補正されている6つの映像を1つのペインに3x2レイアウトで表示します。
 - パノラマ: 映像のパノラマ表示モードを設定します。
- Filter: 画質改善のためのフィルタを設定します。Nearest、Linear、Cubicそして Linear、NN OnPTZの中から選択することができます。
- ePTZ: Pan、Tilt、Zoom 動作を実行します。マウスをドラッグする際、マウスカーソルのドラッグ量が動作速度を決定します。マウスの左ボタンドラッグは左右 (Pan制御)、上下 (Tilt制御) を制御し、マウスの右ボタンドラッグは Zoomを制御します。
- Main PIP: メインビュー映像内部の領域指定を容易にする PiP (Picture in Picture)ビューを実行します。
- Display Source Image: 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します。

AVIファイルで保存

録画映像をAVIファイル(.avi)で保存します。



- 開始時刻、終了時刻：動画で保存する映像の日付及び時刻を入力します。“最初の映像”オプションを選択すると、一番最初に録画された映像の日付及び時間を設定し、“最後の映像”オプションを選択すると、一番最後に録画された映像の日付及び時間を設定します。“±1分”、“±3分”、“±10分”、“±30分”または“±1時間”ボタンをクリックすると、タイムテーブルで現在選択された時間を基準に該当する時間が設定されます。
- 専用ビューアー、AVI：“AVI”を選択します。
- 魚眼映像歪み補正：現在の画面に表示される歪み補正状態で映像が保存されます。歪み補正機能が有効になった単一カメラでのみ機能が有効になります。映像をパノラマまたはVRモードで保存できます。
- オーディオデータ含む：オーディオと一緒に保存された映像の場合、一つのチャンネルのみサポートします。映像が1lipsより少なく録画された場合オーディオ保存が正常に行われなくなる恐れがあります。
- コーデック、ビットレート、画質：映像を圧縮するために適切な値を設定します。
- ビットレートを基準でエンコーディング：ビットレートを基準として映像をエンコーディングします。本設定を選択すると、以下でビットレートの設定ができます。

- ビデオの品質を基準でエンコーディング：ビデオの品質を基準として映像をエンコーディングします。本設定を選択すると、以下でビデオ品質の設定ができます。
- サイズ：映像を圧縮するためのファイルの大きさを設定してから圧縮映像の出力比率を選択します。
 - 映像レートにあわせる：映像のオリジナルレートにカメラ画面のエリアをあわせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる：画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる(Smart)：画面に出力される映像のマージンに基づいて“画面に合わせる”または“実際サイズ”が適用されます。
 - 画面に合わせる(比率維持)：画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されません。
- ブロックノイズを排除：拡大映像で発生する階段(ブロック)現象を排除し、画面上に表示される映像の画質を向上させることができます。
- ビットレート：ビデオ圧縮のためのビデオのビットレートを設定します。
- キーフレーム：映像を圧縮するためにキーフレームを設定します。
- 画質：映像圧縮のためのビデオの品質を設定します。
- 最大ファイル容量：ファイルの最大サイズを設定します。
- ファイル分割：保存中の録画映像のサイズが上で設定した“最大ファイルサイズ”になると、保存中の録画映像を最大ファイル容量に分割して保存します。本オプションが選択されていない場合、最大ファイルサイズ分だけ保存します。
- 作業進行フレーム表示：保存時、現在保存中の映像をポップアップ画面に表示します。
- 透かしを含める：指定したウォーターマーク（テキストあるいはテキストパターン）をビデオと一緒に保存します。
- プライバシーゾーンを除く：プライバシーゾーンを除いて画像を保存します。

AVIファイルの再生

動画の再生プログラムを実行した後、AVIファイルを読み込みます。AVIファイル保存時に選択した圧縮方式のコーデックがインストールされていない場合、該当するコーデックを手動でインストールしなければなりません。

第8章 - イベント処理

イベントが感知されたカメラの映像を監視したり、イベント録画映像を再生することができます。デバイスが使用するプロトコルの種類及びデバイスモデルによってイベント関連機能に対応しないことがあります(サポートプロトコル: JSS遠隔監視システムPROプロトコル、一部バージョンのAxis/Panasonic BB/Panasonic WV (DG)/RTSP/RTP/ONVIFプロトコル)。

まず、次の内容を確認した後、JSS遠隔監視システムPROクライアントを実行します。

- ・システムでサービスが実行されていない場合があります。詳しい内容は、**サービス実行**を参照してください。
- ・デバイスグループにデバイスが追加されていない場合があります。詳しい内容は、**第13章 - デバイス管理**を参照してください。
- ・割り当てられたストレージに録画データがいなければなりません。詳しい内容は、**ストレージ設定**を参照してください。
- ・デバイスにイベントの感知機能が設定されていない場合があります。

リアルタイムイベント

イベントが感知されたカメラの映像をリアルタイムで監視することができ、該当するイベント感知映像が録画されていれば映像を再生することができます。

イベント	デバイス	連続録画
🔍 CAM4	RND5_INT4...	07-07 14:45...
🔍 CAM3	RND5_INT4...	07-07 14:45...
🔍 CAM2	RND5_INT4...	07-07 14:45...
🔍 CAM1	RND5_INT4...	07-07 14:45...
🔍 CAM4	RND5_INT4...	07-07 14:44...
🔍 CAM3	RND5_INT4...	07-07 14:44...
🔍 CAM2	RND5_INT4...	07-07 14:44...
🔍 CAM1	RND5_INT4...	07-07 14:44...
🔍 CAM4	RND5_INT4...	07-07 14:44...
🔍 CAM4	RND5_INT4...	07-07 14:44...
🔍 CAM3	RND5_INT4...	07-07 14:44...
🔍 CAM2	RND5_INT4...	07-07 14:44...
🔍 CAM1	RND5_INT4...	07-07 14:44...
🔍 CAM4	RND5_INT4...	07-07 14:44...

管理サービスに登録されたデバイスで感知されたリアルタイムイベント及びコールバックイベントがイベントのリストに表示されます。コールバックイベントはデバイスでコールバック機能が設定されている時のみ表示されます。“環境設定”で、イベントのリストの表示オプションを変更することができます。

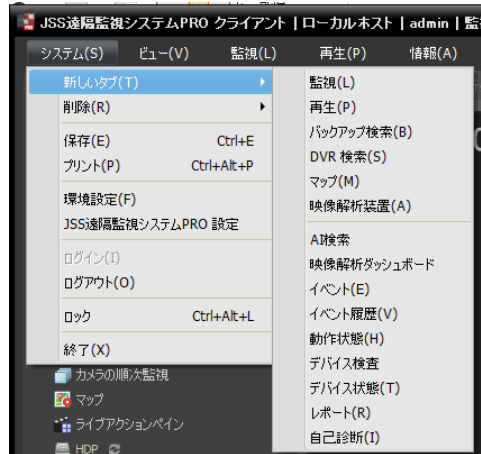
イベントのリストに表示される各イベントのアイコンの意味は次のとおりです(ネットワークビデオデバイスの仕様及びバージョンによって一部イベントのアイコンがサポートされないことがあります)。

	モーション感知		映像遮断
	映像信号なし		テロ感知
	オーディオ検出		ビデオ分析感知
	トリップゾーン		タンパーリング
	テキスト入力		アラームイン感知/解除
	アラーム入力異常あり/なし		外部保存デバイス挿入/取り外し
	デバイス接続/解除		システムスタート
	システム動作		システム再起動
	システム終了		録画機能異常あり
	ディスク S.M.A.R.T.		ディスクBad Sector
	ディスクフル		ディスクフル
	ディスク構成変更		ディスク温度異常
	瞬間録画開始/終了		ファン異常あり/解除
	待機人数超過検知/解除		待機時間超過検知/解除
	VA 損失あり/解除		録画失敗/正常

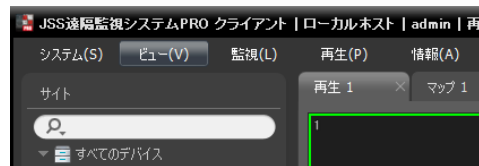
映像監視

	オートトラッキング検知/解除		ネットワークアラームイン検知/解除
	カバーオープン/クローズ		ストレージデバイス無効
	録画中止		一部ディスクフル
	一部ディスクフル警告		PIR 検知/解除
	ANPR検知/解除		侵入検知/解除
	滞留検知/解除		ラインクロス検知/解除
	アラームボックスの損失あり/オフ		バッテリー不足
	ANPR拒否リスト検知/解除		ANPR許可リスト検知/解除
	温度アラーム検知/解除		定員超過検知/解除
	混雑検出 検知/解除		ソーシャルディスタンス違反 検知/解除
	マスク規定違反 検知/解除		

イベント感知カメラの映像監視は、監視パネル(最大6つ - ただし、32bit システムの場合は最大2個)でサポートします。パネルタブに監視タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”をクリックしてタブを追加します。



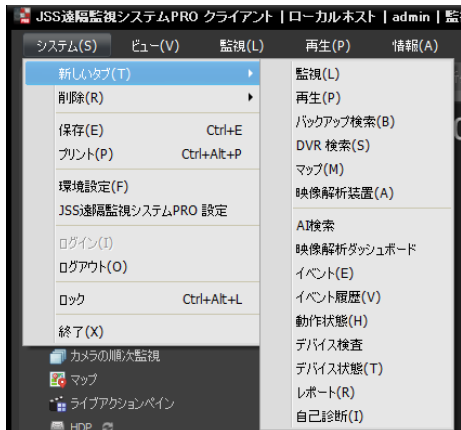
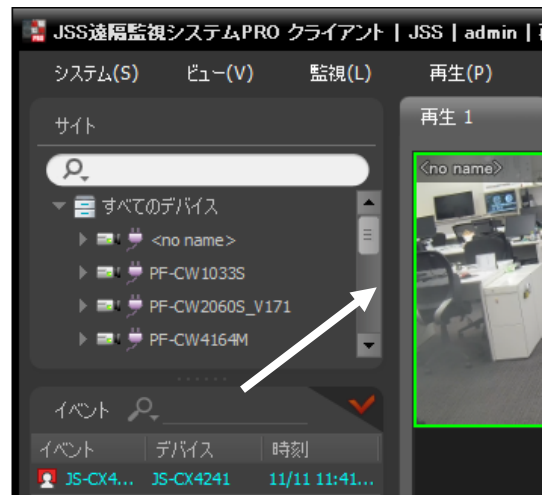
パネルタブで監視タブをクリックします。→ 最近のイベントリストで希望するイベントを選択した 後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップしま す。選択したイベントが感知されたカメラのリアルタイム映像が画面に表示されます。



パネルタブで再生タブをクリックします。→ 最近のイベントリストで希望するイベントを選択した 後、再生画面にマウスでドラッグ&ドロップしま す。選択したイベントの録画映像が画面に表示されます。

映像再生

イベント録画映像の再生は、再生パネルでサポートします。パネルタブに再生タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“再生”をクリックしてタブを追加します。



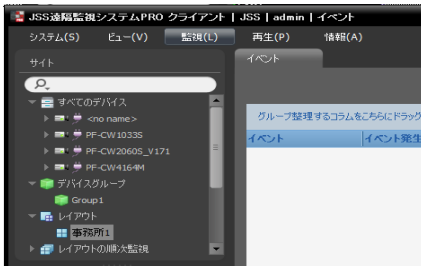
イベント録画映像

イベント録画時に録画されたイベント録画映像を再生することができます。

イベント録画映像の再生は、イベントパネルでサポートします。パネルタブにイベントタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“イベント”をクリックしてタブを追加します。

- 1 パネルタブでイベントタブをクリックします。
→ “サイト”リストで希望するデバイスまたはカメラを選択した後、イベントパネルにマウスでドラッグ&ドロップします。

該当するデバイスまたはカメラに対してイベント録画時に録画されたイベントのリストがイベントのパネルに表示されます。コラムタイトルでマウスの右クリックをすると現れるメニューを用いてデータを希望通りに分類することができます。



- 2 イベントのパネルで希望するイベントをダブルクリックすると、再生パネルが表示され、該当するイベント映像が再生画面に表示されます。イベントを選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、希望する再生パネルを選択することができます。該当するイベント録画に他のカメラが連動し、映像が録画されると連動録画された映像と一緒に表示されます。



イベントのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて、イベント録画時に録画されたイベントを検索することができます。



- 開始時刻、終了時刻: 検索するイベントの日付及び時間を入力します。特定の日付及び時間を入力したり“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択して設定することができます。“1時間”、“6時間”、“本日”、“3日”または“1週間”ボタンをクリックすると、“開始時刻”と“終了時刻”を該当間隔の時刻に設定します。“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択すると最初に録画されたイベントから最後に録画されたイベントまで検索します。
- (条件): 検索するイベントの種類を選択します。
- (検索): 検索条件によって検索を開始します。
- (保存): 検索結果をテキストファイル(.txt)またはCSVファイル(.csv)で保存します。
- (フルスクリーン): イベントパネルを全体画面で表示します。
- (印刷): 検索結果をプリントします。
- もっと見る: 次の結果を表示します。

第9章 – デバイス状態の監視

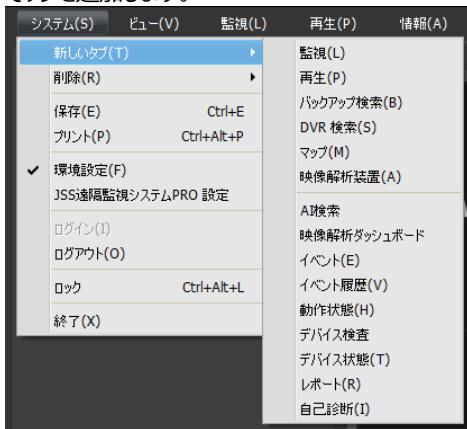
登録されたデバイスの状態をリアルタイムで確認することができます。

まず、次の内容を確認した後、JSS遠隔監視システムPROクライアントを実行します。

- システムでサービスが実行されていないとなりません。詳しい内容は、[サービス実行](#)を参照してください。
- デバイスグループにデバイスが追加されていないとなりません。詳しい内容は、[第13章 – デバイス管理](#)を参照してください。

システムの動作状態の監視

システムの動作状態の監視は、動作状態のパネルでサポートします(録画サービスに登録されたデバイスの場合にのみ対応)。パネルタブに動作状態のタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“動作状態”をクリックしてタブを追加します。



動作状態のタブが追加されると、自動的に動作状態の監視結果を表示します。



1 要約リスト: 録画サービスに登録されたすべてのデバイスに対する動作状態を要約して表示します。

- トータル: 録画サービスに登録されたデバイスの個数を表示します。
- 問題発生: 問題が発生したデバイスの個数を表示します。
- 接続されていません: 接続されていないデバイスの個数を表示します。
- 正常に動作: 問題発生が感知されず正常に動作しているデバイスの個数を表示します。

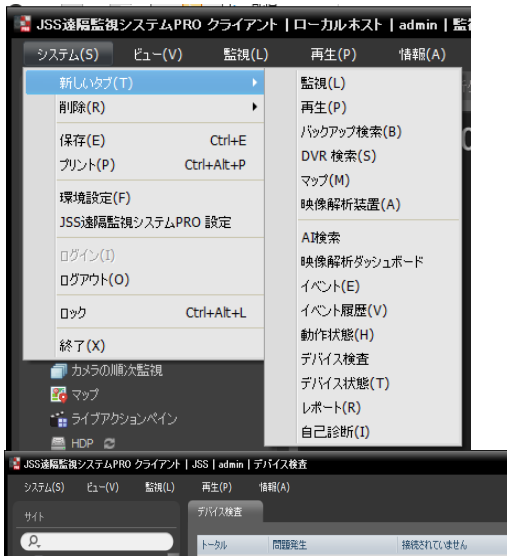
2 詳細リスト: 各デバイスの状態情報を詳しく表示します。

- 動作状態: 動作状態を表示します(正常に動作:問題発生が感知されない。問題発生:映像信号がない、イベント感知または接続可能な画面がなかったり、サポートできないソフトウェアのバージョンのため、ログインに失敗。接続されていません: デバイスが接続されていない)。
- 録画: 録画状態を表示します。
- スマートフェイルオーバー: スマートフェイルオーバー状態を表示します。
- デバイス: デバイスの名前を表示します。
- モデル: デバイスのモデル名を表示します。
- カメラ: デバイスでサポートするカメラの個数を表示します。
- 問題発生: 問題発生の原因を詳しく表示します。

デバイス検査

デバイス検査は、デバイス検査のパネルでサポートします(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。パネルタブにデバイス検査のタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“デバイス検査”をクリックしてタブを追加します。

- システム > 環境設定 > レポート > 更新間隔が未使用になっている場合は、動作しません。
- 接続または接続解除状態の検査は、JSS遠隔監視システムPROプロトコルに対応しないデバイスも対象です。



デバイス検査のタブが追加されると、自動的に動作状態の監視結果を表示します。



1 要約リスト: 録画サービスに登録されたすべてのデバイスに対する動作状態を要約して表示します。

- トータル: 録画サービスに登録されたデバイスの個数を表示します。
- 問題発生: 問題が発生したデバイスの個数を表示します。
- 接続されていません: 接続されていないデバイスの個数を表示します。
- 正常に動作: 問題発生が感知されず正常に動作しているデバイスの個数を表示します。

2 詳細リスト: 各デバイスの状態情報を詳しく表示します。

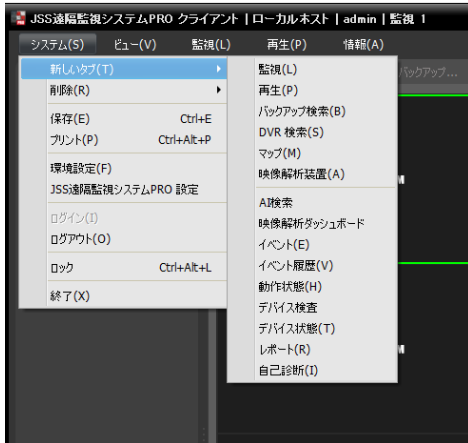
- 動作状態: 動作状態を表示します(正常に動作:問題発生が感知されない。問題発生:映像信号がないイベント感知、アラームインデバイスエラーまたは録画ミス。接続されていません: デバイスが接続されていない)。
- 問題発生: 問題発生の原因を詳しく表示します。
- グループ: デバイスが属したデバイスグループを表示します。
- サイト: デバイスの名前を表示します。
- アドレス: デバイスのアドレスを表示します。
- MACアドレス: デバイスのMACアドレスを表示します。
- バージョン: デバイスのソフトウェアバージョン情報を表示します。
- カメラ: デバイスで使用中のカメラの状態を表示します。
- アラームイン: デバイスで使用中のアラームインデバイスの状態を表示します。
- 録画: 録画の状態を表示します。
- レコードチェック: 録画検査の状態を表示します。
- 録画時間: 録画期間を表示します。

3 機能ボタン

- (更新): 動作状態のパネルの情報を最新の情報に更新します。
- (イベント条件): 表示するイベントの条件を設定します。選択した項目に該当する動作状態結果を画面に表示します。
- (保存): 動作状態のパネルのデータを.txt, .csv, .html, pdfファイルで保存します。
- (フルスクリーン): 動作状態パネルを全体画面で表示します。

デバイス状態の監視

デバイス状態の監視はデバイス状態パネルでサポートします (JSS遠隔監視システムPROPROトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。パネルタブにデバイス状態タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“デバイス状態”をクリックしてタブを追加します。

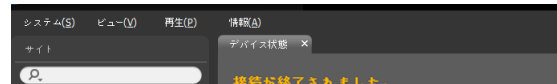
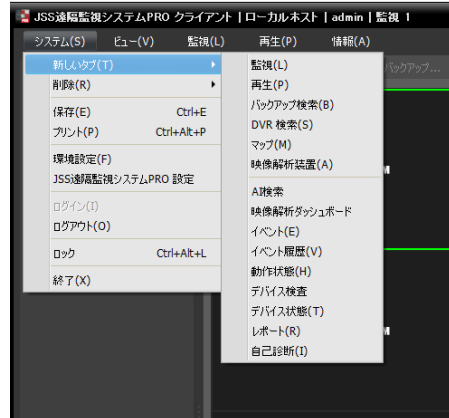


2 機能ボタン

- (接続解除): デバイス状態パネルの現在の接続を解除します。
- (緊急録画オン): デバイスの緊急録画を遠隔で開始または中止します(緊急録画機能に対応するDVRの場合にのみ対応)。
- 録画開始/終了: 録画期間を表示します。
- 動作状態: デバイスの録画、再生、アーカイブ、クリップコピーの状態を表示します。
- (フルスクリーン): デバイス状態パネルを全体画面で表示します。

自己診断

自己診断は録画機のシステム、ネットワーク、カメラ状態などの全体の状態を一括診断してレポートします。パネルタブに自己診断タブがない場合、『システム』メニューで『タブ作成』を選択した後、『自己診断』をクリックしてタブを追加します。



“サイト”リストで希望するデバイスを選択した後、デバイス状態パネルにマウスをドラッグ&ドロップします。該当デバイスの状態が表示されます。



1 状態表示画面: 状態をアイコンで表示します。

- チャンネル: カメラ番号を表示します。
- バージョン: システムのバージョン情報を表示します。
- イベント: イベント感知状態を表示し、イベント感知時にイベントアイコンがカラー表示されます。マウスカーソルをアイコン上にあてると該当イベントの種類がツールチップで表示されます。
- アラーム・アウト: アラーム出力状態を表示します。
- システム検査: デバイス及び録画機能の動作状態を表示します。



“サイト”リストで希望するデバイスを選択した後、自己診断パネルにマウスをドラッグ&ドロップします。該当デバイスの状態が表示されます。



- 自己診断: 録画機の全体の状態をレポート形式で画面に表示します。



- レポート: 自己診断の結果を日付とサマリーで表示します。
- トラブルシューティングレポート: 自己診断レポートのダンプファイルを作成して保存し、パートナーサイトに送信することができます。
 - ➕ (トラブルシューティングレポート): トラブルシューティングレポートを作成します。
 - ➖ (削除): リストから選択されたトラブルシューティングレポートを削除します。
 - 📁 (ファイル保存): トラブルシューティングレポートをダンプファイルに保存します。保存してから、外部ネットワークに接続されている場合、通知ポップアップで『パートナーポータル登録』をクリックしてパートナーサイトのアカウントを入力すると、パートナーサイトにダンプファイルをレポートすることができます。
 - 🔄 (リロード): トラブルシューティングレポートのリストを更新します。

機能ボタン

- 🔌 (削除): 自己診断パネルの現在の接続を解除します。
- 🔄 (リロード): 現在接続されているデバイスの自己診断の状態を更新します。
- 📁 (保存): 自己診断の結果を保存します。
- 🖨️ (印刷): 自己診断の結果をプリントします。
- 🖥️ (フルスクリーン): 自己診断パネルを全体画面で表示します。

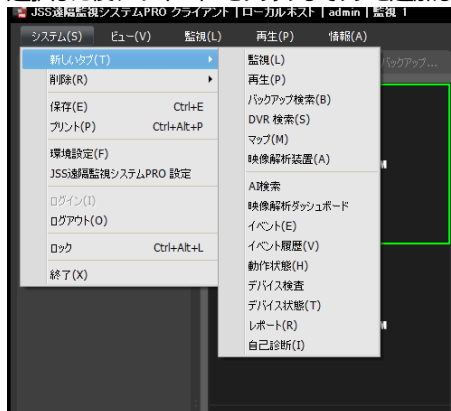
第10章 - ログ検索

JSS遠隔監視システムPRO及びデバイスのログを検索することができます。

まず、次の内容を確認した後、JSS遠隔監視システムPROクライアントを実行します。

- ・システムでサービスが実行されていないかもしれません。詳しい内容は、[サービス実行](#)を参照してください。
- ・デバイスグループにデバイスが追加されていないかもしれません。詳しい内容は、[第13章 - デバイス管理](#)を参照してください。

ログ検索は、レポートのパネルでサポートします。パネルタブにレポートタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“レポート”をクリックしてタブを追加します。



様々な種類のログリストが表示されます。コラムタイトルでマウスを右クリックすると表示されるメニューを利用して、データを自由に分類できます。



ログの種類のリストで検索するログの種類を選択します。コラムタイトルでマウス右クリックすると現れるメニューを用いてデータを希望通りに分類することができます。

- ・ユーザーログ: JSS遠隔監視システムPROクライアントのログを表示します。
- ・ユーザー監査ログ: JSS遠隔監視システムPROのユーザー監査ログを表示します。
- ・動作状態ログ: 登録されたデバイスのシステムの動作状態のログを表示します。
- ・管理サービスログ: 管理サービスのログを表示します。
- ・録画サービスログ: 登録された全ての録画サービスに対して、録画サービスのログをそれぞれ表示します。
- ・ストリーミングサービスログ: 登録された全てのストリーミングサービスに対してストリーミングサービスのログをそれぞれ表示します。
- ・モニタリングサービスログ: 登録された全てのモニタリングサービスに対して、モニタリングサービスのログをそれぞれ表示します。
- ・映像分析サービスログ: 登録された全ての映像分析サービスに対して、映像分析サービスのログをそれぞれ表示します。
- ・デバイスシステムログ: デバイスのシステムログを表示します。
- ・デバイスイベントログ: デバイスのイベントログを表示します。ネットワークカメラ及びネットワークビデオエンコーダの場合、SD(SDHC/ SDXC)メモリーカード録画機能が設定されている間に発生したイベントのログのみを表示します。

デバイスの接続が正しく行われていない場合、ネットワーク接続解除ログが表示されます(録画サービスに登録されたデバイスのみ対応)。ネットワーク接続解除ログに関する詳しい内容は、[第23章 - 付録](#)を参照してください。

レポートのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて特定のログを検索することができます。



- 開始時刻、終了時刻: 検索するログの日付及び時間を入力します。特定の日付及び時間を入力したり“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択して設定することができます。“1時間”、“6時間”、“本日”、“3日”または“1週間”ボタンをクリックすると、“開始時刻”と“終了時刻”を該当間隔の時刻に設定します。“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択すると一番最初に発生したログからまたは一番最後に発生したログまで検索します。
- (イベント条件): 検索するログの種類を選択します。
- (検索): 検索条件によって検索を開始します。
- (フルスクリーン): レポートパネルを全体画面で表示します。
- (保存): 検索結果をテキストファイル(.txt)、CSVファイル(.csv) またはPDFファイル(.pdf)で保存します。システム及びサービスログの場合、暗号化されたHTMLファイル(.html)で保存することができます。HTMLファイルを確認するためには暗号入力が必要されます。
- (印刷): 検索結果をプリントします。
- もっと見る: 次の結果を表示します。

第11章 -ストリーミング

ストリーミングサービスを用いてより多いユーザーがデバイスの映像を監視することができます。ストリーミングサービスが動作しない場合も映像を監視することはできますが、この場合、デバイスで支援する最大同時接続のユーザー数によって監視可能なユーザー数が制限されます。

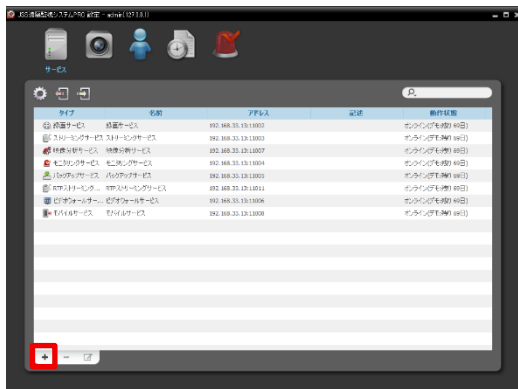
ストリーミングサービスが動作するかどうかと関係なく映像監視の方法は同じです。映像監視に対する詳しい内容は、**第5章 - リアルタイム映像監視**を参照してください。

先ず次の内容を確認した後、JSS遠隔監視システムPRO設定を実行します。

- ・システムでサービスが実行されていないとなりません。詳しい内容は、**サービス実行**を参照してください。
- ・デバイスグループにデバイスが追加されていないとなりません。詳しい内容は、**第14章 -デバイス管理**を参照してください。

“サービス”メニューを選択した後、次の説明を参照してストリーミングサービスを登録します。

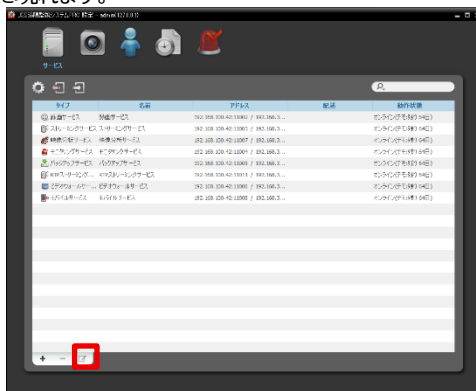
1 下段にある **+** ボタンをクリックします。“サービス登録”画面が表示され、登録可能なサービスのリストが各サービスの情報と共に表示されます。




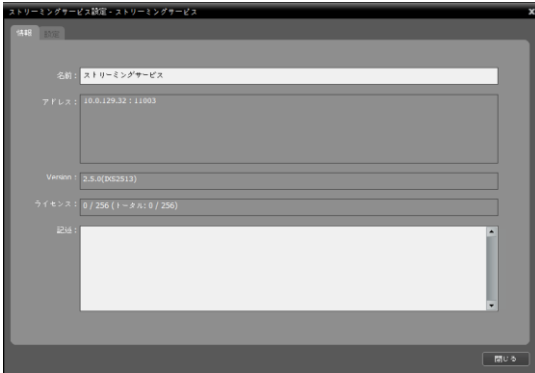
- ・名前: ネットワーク接続によって現在管理サービスに接続されているサービスを表示します。
- ・タイプ: サービスのタイプを表示します。
- ・アドレス: 各サーバーのIPアドレスとポート情報を表示します。

登録するサービスの管理サーバーの情報(“サービス管理者” → “条件” → “サーバー設定”)が現在接続中の管理サーバーと同一の場合のみ登録できます。

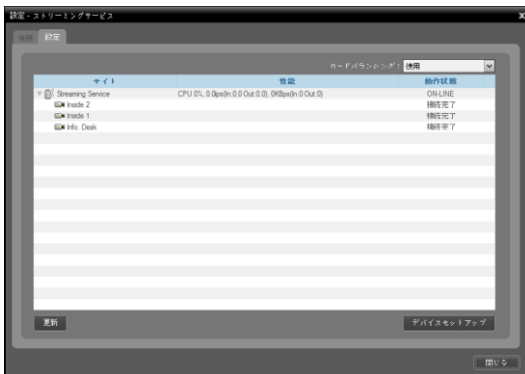
2 JSS遠隔監視システムPROに登録するストリーミングサービスを選択します。選択したサービスがサービスリストに現れます。



- 3 ストリーミングサービスを選択した後、下段にある  ボタンをクリックします。“ストリーミングサービス設定”画面が表示されたら“情報”タブを選択します。



- 4 “設定”タブを選択します。現在のストリーミングサービスに登録されているカメラのリストが表示されます。



- ロードバランシング: ロードバランシング機能の使用可否を設定します。
 - “デバイスセットアップ”ボタンをクリックすると、現在のストリーミングサービスに別のカメラを登録あるいは除去することができます。
- 5 現在のストリーミングサービスに登録されているカメラの映像がクライアントシステムにストリーミングされます。

第12章 –映像分析

映像分析サービスは映像分析機能に対応します。機能が正しく設定されていれば、設定されたルールに従って映像分析され、JSS遠隔監視システムPROはそれをイベントと見なします。検知結果を監視画面に表示することもできます。詳しい内容は、**カメラの制御**を参照してください。

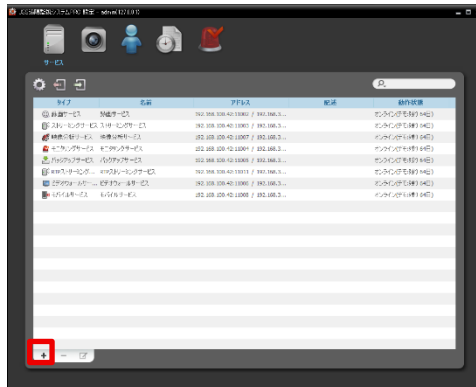
- 映像分析機能が正しく動作するためには、カメラが正しく設置されていなければなりません。“付録 – 映像分析検知のための正しいカメラ設定”部分を参照してカメラが正しく設置されているか確認してください。
- 映像分析機能は、すべてのオブジェクトを完璧に検知できるわけではありません。
- 映像分析の種類をAIに設定すると映像分析の推奨仕様を満たさない場合、映像分析が動作しないことがあります。
- AI画像解析メタデータを保存する場合は、録画性能の低下が発生するので、録画サーバーのパフォーマンスを確認してください。詳しい内容は、ソフトウェアの購入先にお問い合わせください

先ず次の内容を確認した後、JSS遠隔監視システムPRO設定を実行します。

- システムでサービスが実行されていなければなりません。詳しい内容は、**サービス実行**を参照してください。
- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、**第13章 –デバイス管理**を参照してください。

サービスの管理

“サービス”メニューを選択した後、次の説明を参照して映像分析サービスを登録します。



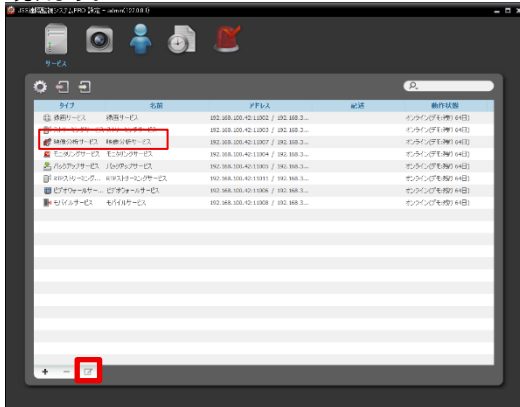
- 1 下段にある+ボタンをクリックします。“サービス登録”画面が表示され、登録可能なサービスのリストが各サービスの情報と共に表示されます。



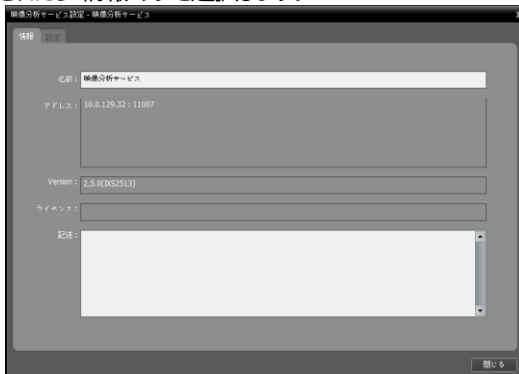
- 名前: ネットワーク接続によって現在管理サービスに接続されているサービスを表示します。
- タイプ: サービスのタイプを表示します。
- アドレス: 各サーバーのIPアドレスとポート情報を表示します。

登録するサービスの管理サーバーの情報(“サービス管理者” → “条件” → “サーバー設定”)が現在接続中の管理サーバーと同一の場合のみ登録できます。

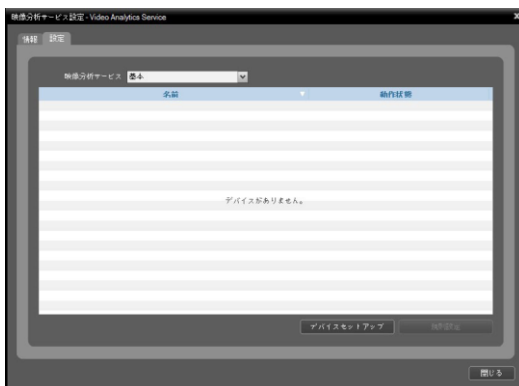
2 JSS遠隔監視システムPROに登録する映像分析サービスを選択します。選択したサービスがサービスリストに現れます。



3 映像分析サービスを選択した後、下段にある ボタンをクリックします。“映像分析サービス 設定”画面が表示されたら“情報”タブを選択します。



4 “設定”タブを選択します。



映像分析サービス：基本/AIの使用するエンジンを選択できます。AIの場合、HWスペックを満たしていなければ使用できません。

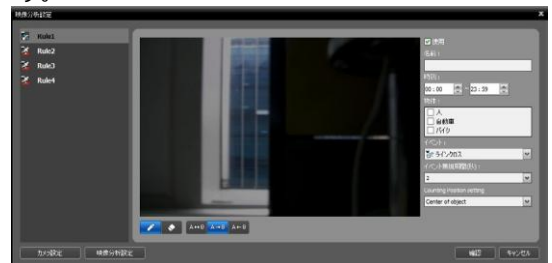
- デバイスセットアップ：映像分析サービスにカメラを登録したり削除できます。
- 規則設定：登録されたデバイスリストでカメラを選択した後、ボタンをクリックして映像分析検知イベントの設定ができます。

5 以下の説明を参照して映像分析検知イベントを設定します。


映像分析検知イベント設定 (AI)

システム設定の映像分析サービスの“AI”を選択した場合、設定することができます。

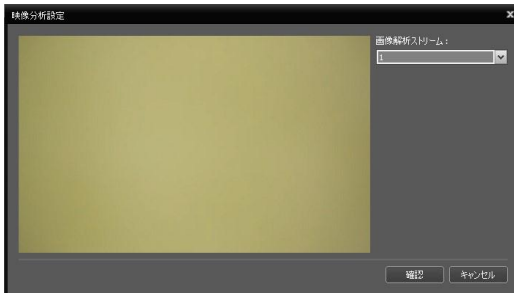
1 “映像分析サービス設定”画面で“規則設定”ボタンをクリックすると、設定されたルールが表示されます。“追加”ボタンをクリックすると、別のルールが追加できます。



- Use (使用)：ルール使用の有無を選択します。
- 名前：ルール名を入力します。
- 時間：ルールが動作する時間を入力します。
- イベント：イベントの種類を選択します。
 - 侵入：オブジェクトが設定された検知エリアの外から入ったり、検知エリアの中から外に出る場合イベントと見なします。
 - 滞留：設定された検知エリアからオブジェクトが基準時間以上検知されたら、イベントと見なします。
 - ラインクロス：物体が設定されたラインを越える場合、これをイベントとみなします。
- イベント無視期間(秒)：イベントが発生し続ける場合、基準時間を設定します。
- 基準時間：徘徊イベントを使用する場合、イベント発生の基準時間を設定します。

- 物体：映像分析で検知する対象を決めることができます。人、車両を選択することができます。
- カウント位置設定：ラインクロスイベントを使用する場合、ラインを越える物体の基準点を設定します。
-  (ドローイング、クリア)：画面にブロックを設定して検知エリアを設定します。ボタンをクリックした後、画面でマウスのドラッグ&ドロップを用いてブロックを選択または解除します。
- A ↔ B, A → B, A ← B: ラインクロスイベントを使用する場合、ラインの方向を設定します。
 - 映像分析オブジェクトおよび周囲環境によって、映像分析検知が正しく動作しないことがあります。
 - 映像が30度以上傾いている場合、オブジェクト検知ができないことがあります。
 - 検知のためのオブジェクトの最小サイズは映像比、横1/16、縦1/16以上である必要があります。(映像面積を基準に0.4%以上)
 - オブジェクトが設定されたエリアの90%以上と重なっている場合、イベント発生の要件となります。
 - トップビューの場合、認識率が低下します。
 - 分析映像のストリームが変更された場合、認識率が異なる場合があります。

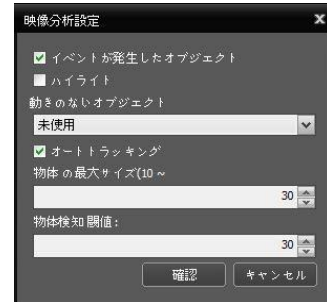
2 “カメラ設定”ボタンをクリックした後、カメラに関する項目を設定します。



- 画像解析ストリーム：画像解析に使用するストリームを選択することができます。
- チルト、パン：魚眼映像デワーピングに使用するチルト、パン値を変更できます

- 映像分析ストリーム選択機能は、JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイス(但し、JSS遠隔監視システムPROを使用するデバイスのうちマルチストリームに対応するデバイス)のみ対応します。
- チルト、パンは魚眼映像カメラのみ対応します。
- 魚眼映像の場合、デワーピングされた映像を分析します。

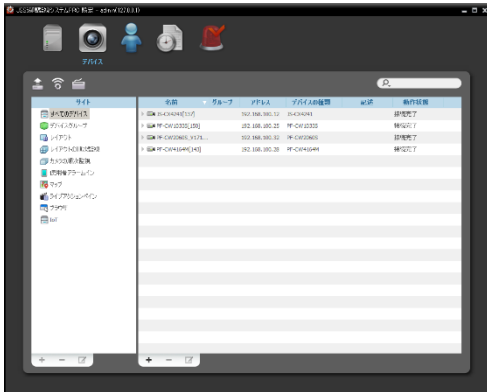
3 “追加”ボタンをクリックした後、映像分析関連項目を設定します。



- イベントが発生したオブジェクト：ビデオ監視の際、イベントが検出された物体を表示します。
- ハイライト：ビデオ監視の際、検出された物体が強調された色で表示されます。
- 動きのないオブジェクトを無視：モーションが発生するオブジェクトのみ分析します。モーションがない背景は無視し、モーションがあるオブジェクトのみ分析して誤検知を減らすことができます。
- オートトラッキング：映像で自動追跡機能を使用します。
- 物体の最大サイズ：自動追跡を行うオブジェクトがどれほど大きく画面で見えるか設定できます。値が大きいくほど見えるオブジェクトのサイズが大きくなります。
- 物体感知閾値：映像で分析対象が人、車、バイクなどのオブジェクトとして認識される最小確率値を決めることができます。
 - 当該機能を使用する場合、システムに負荷がかかることがあります。
 - この機能を使用する時、周囲環境の変化が多い場合、誤検知が発生することがあります。(例：揺れる木の枝、照度の急激な変化、雪や雨のような天気の変化など)
 - 背景学習のための時間として50秒程要します。

第13章 –デバイス管理

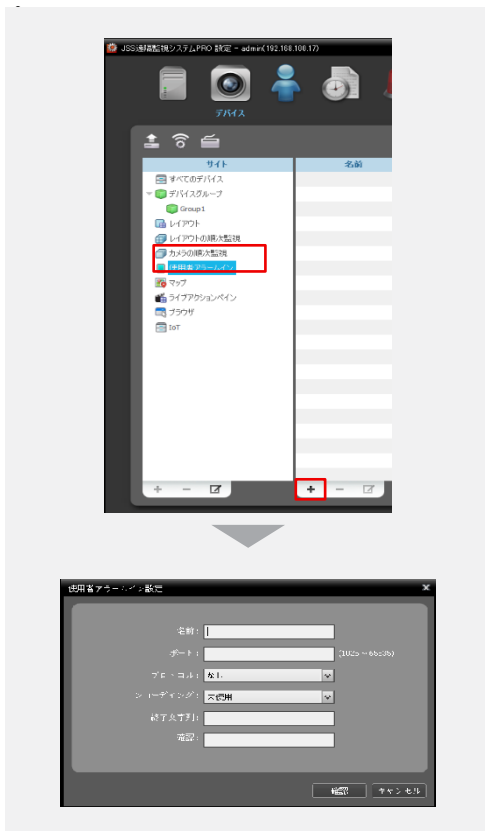
デバイス情報を修正したり、デバイスをリストから削除することができます。また遠隔でデバイスの設定を変更したり、デバイスのソフトウェアをアップグレードできます。“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→“JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。→“デバイス”メニューを選択します。



- 使用ユーザーアラームイン: 登録された使用ユーザーアラームインイベントの設定リストを表示します。ユーザーが指定した文字列がTCPネットワークを通じて JSS遠隔監視システムPROに入力されると、JSS遠隔監視システムPROは設定によって使用ユーザーアラームインイベントを通知したり映像を録画したりします。使用ユーザーの指定文字列は使用ユーザーアラームインイベント設定で設定することができます。
 - マップ: 登録されたマップのリストを表示します。カメラ映像、イベント感知、入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。
 - ブラウザ: 登録されたブラウザのリストを表示します。カメラ画面にウェブブラウザを実行することが可能です。
- すべてのデバイス: サイトリストのパネルに、管理サービスに登録されたすべてのデバイスリストを表示します。“すべてのデバイス”でデバイスを削除する場合、デバイスを再登録しても該当デバイスの以前の録画データに関する検索及び再生はできません(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ該当)。
 - デバイスグループ: 登録されたデバイスグループのリストを表示します。希望するカメラの映像を監視したり、再生することができます。JSS遠隔監視システムPROを用いて機能を実行するためには、管理サービスにデバイスが登録されていないと、デバイスグループに該当するデバイスを追加しなければなりません。
 - レイアウト: 登録されたレイアウトのリストを表示します。多数のカメラの映像をあらかじめ設定されたレイアウトで監視したり再生することができます。
 - レイアウトの順次監視: 登録されたレイアウトの順次監視のリストを表示します。多数のカメラの映像をあらかじめ設定された2つ以上のレイアウトで順次監視することができます。
 - カメラの順次監視: 登録されたカメラの順次監視のリストを表示します。多数のカメラの映像を同じカメラ画面で順次監視することができます。

使用者アラームイベントの設定

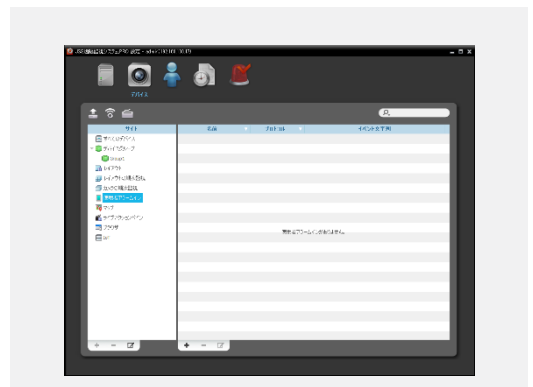
- 1 TCPネットワークを通じてJSS遠隔監視システムPROに連結されたデバイスから文字列が入力されるためのアラームインポート番号を設定します(“サービス管理者”プログラム実行 → モニタリングサービスクリック → “条件”メニュークリック → “サービス設定”をクリック)。
- 2 “サイト”パネルで“使用者アラームイン”をクリックした後、左側の“サイト”パネルの下段にあるボタンをクリックします。“使用者アラームイン設定”画面が表示されます。



- 名前: 名前を入力します。
- ポート: 使用するポートを設定します。
- プロトコル: プロトコルを選択します。

エンコーディング: ユーザーアラーム・インへのエンコーディングを設定します。

- 終了文字列: 文字列を入力します。デバイスから、終了文字列が入力されるとTCPネットワーク接続が解除されなくても、解除されたと認識します。そして、その間入力された文字列を検査し、イベント文字列が入力されていれば、イベントを発生させます。
 - 確認: ユーザーアラーム入力が正常的に受信された時、発信側へ送るメッセージを設定します。
- 3 “サイト”パネルで“使用者アラームイン”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルでマウスを右クリックします。“デバイス情報ファイル…”を選択すると、XMLファイルで使用者アラームインを登録することができます。



- デバイス情報ファイル: 使用者アラームの情報が保存されている.xmlファイルを読み出し、該当の使用者アラームインを追加します。 .xmlファイルに関する詳しい内容は、ソフトウェア購入先にお問い合わせください。
 - デバイス情報の保存: ユーザーアラーム・イン情報をxmlファイルで保存します。 .xmlファイルに関する。
- 4 “サイト”パネルで“使用者アラームイン”をクリックした後、右下の + ボタンをクリックします。“使用者アラームイン設定”画面が表示されます。

デバイスの登録

- 1 “サイト”パネルで“すべてのデバイス”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある+ボタンをクリックします。“デバイス検索”画面が表示されます。



- 名前: 使用者アラームインイベントの名前を入力します。
- ポート: 使用するポートを設定します。
- プロトコル: プロトコルを選択します。
- エンコーディング: 使用者アラームインに対するエンコーディングを設定します。
- トランザクション終了: 文字列を入力します。
デバイスからトランザクション終了文字列が入力された場合、TCPネットワーク接続が切断されていなくても、接続が終了したものと見なします。その間に入力された文字列を検査し、イベント文字列が含まれている場合は、イベントを発生させます。
- 確認: 使用者アラームインが正常に受信された際、送信元に返送されるメッセージを設定します。



- プロトコル: 検索するデバイスのプロトコルまたはメーカーを選択します。デバイスが使用するプロトコルの種類及びデバイスモデルによってイベント関連機能に対応できないこともあり(サポートプロトコル: JSS遠隔監視システムPROプロトコル、一部バージョンのAxis/Panasonic BB/Panasonic WV (DG)/RTSP/RTP/ONVIF/Conformanceプロトコル)その他にも該当デバイスの設定によって一部機能に対応しないことがあります。詳しい内容は、PROソフトウェア購入先にお問い合わせください。
- 検索モード: 検索モードを選択した後、“検索開始”ボタンをクリックすると、検索結果をリストで表示します。デバイスのIPアドレス帯域が管理サーバーのIPアドレス帯域と異なる場合、JSS遠隔監視システムPROは該当デバイスのIPアドレスを無効と見なします。この場合、デバイスのIPアドレスを変更すれば、デバイスの登録ができます。

- 自動検索(LAN): LAN環境にあるデバイスをリストに表示します(一部DVRは対応しない)。ONVIFプロトコルを使用するデバイスの場合、ソフトウェアのインストール時に**デバイス自動検索のための Bonjourサービスの開始**項目を選択した場合にのみ自動検索に対応します。ONVIFプロトコルを使用するデバイスの場合、デバイスのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境変化によってデバイス接続が正しく動作しない可能性があります。
- IPアドレス: デバイスのIPアドレスを入力します。二つ以上のデバイスを登録する場合、IPアドレスの範囲を入力して一度に検索することもできます。デバイスのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境変化によってデバイス接続が正しく動作しない可能性があります。
- UCN: デバイスがUCN機能を使用する場合、UCNサーバーに登録されたデバイスのUCNネームを入力します。デバイスが登録されているUCNサーバーの情報が正しく設定されているか確認してください(“サービス”メニュー  (システム設定)ボタン)。デバイスが登録されているUCNサーバーの情報が正しくない場合はデバイスが検索できません。
- ドメイン名: デバイスがドメイン名サービスを使用する場合DNSサーバーに登録されたデバイスの名前を入力します。
- デバイス情報ファイル: デバイス接続情報の保存されている.xmlファイルを読み出し、該当デバイスをリストに表示します。xmlファイルに関する。
- URI: URI(Uniform Resource Identifier)を入力します。(RTSP/RTPプロトコルのみ対応)
- モバイルデバイス: モバイルデバイスにアクセスするユーザーを選択します。本機能で追加されたユーザーだけがモバイルデバイスで JSS遠隔監視システムPROにアクセスできます。
- : リストで各デバイスの名前の横にあるチェックボックスを選択して、登録するデバイスを選択します。“全て選択”を選ぶとリストにあるすべてのデバイスを選択します。
- JSS遠隔監視システムPROで支援するプロトコルであってもモデルによっては支援されない場合があります。支援されるモデルに対する詳しい内容は、ソフトウェアの購入先にお問い合わせください。
- デバイスがONVIFプロトコルを支援する場合、プロトコル 選択時、そのデバイスのメーカー(またはJSS遠隔監視システムPROプロトコル)を選択したりONVIFプロトコルを選択することができます。ただし、デバイスがONVIFプロトコルを支援してもモデルによってはどちらかが支援されなかったり両方とも支援されない場合があります。デバイスがONVIFプロトコルを使用するように設定する方法はデバイス毎に異なりますのでそのデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。
- 64-bitに対応していない OSに JSS遠隔監視システムPRO サービスが設置された場合、解像度が 2304x1296を超過する装置は登録することができません。当該装置を使用するためには 64-bit システムに JSS遠隔監視システムPROが設置されていなければなりません。

- 2 “デバイス検索”画面の下段の“デバイス登録”ボタンをクリックします。

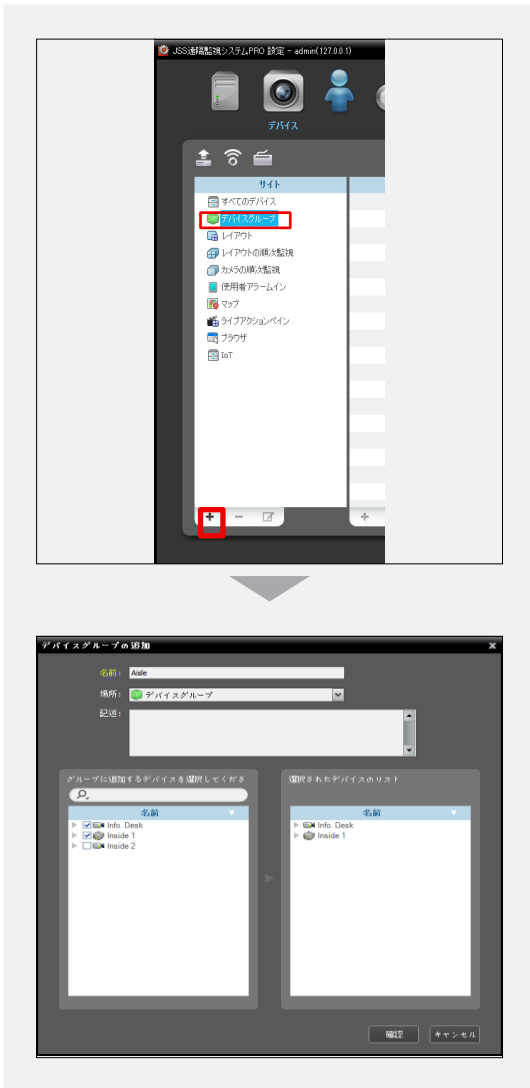


- 名前、アドレス、デバイスの種類: 選択したデバイスの名前、IPアドレス及び種類を表示します。デバイスの名前はデバイスでの設定によって自動的にアップデートされます。
- ID、パスワード: 遠隔接続のために各デバイスで設定したユーザーID及びパスワードを入力します。接続はデバイスの“Administrator”グループ内のユーザーのみ許可され、録画は該当するデバイスの“Administrator”グループ内のユーザーのみ許可されます。
- 録画サービス: 選択したデバイスの映像を録画するサーバーをリストから選択します(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ対応)。録画サーバーにデバイスが登録され、録画スケジュールによって該当録画サーバーで録画が行われます。録画サーバーを選択した後録画が行われた場合、録画サーバーを変更しないことをお勧めします。録画が行われた後に録画サーバーが変更されると、以前の録画映像は検索または再生できません。録画サーバーリストの番号は登録可能なカメラ数を表し、名前はサービスメニューで設定した録画サービスの名前を表します。

登録可能なカメラ数は、ソフトウェアライセンスまたは管理サーバーに接続されている WIBUキーの数とタイプによって異なります。“録画しない”項目を選択した場合、“録画スケジュール”設定時に該当デバイスが登録されていないものと判断し、該当デバイス関連スケジュールは実行されません。録画サービスに登録されたデバイスのリストは“サービス”メニューで該当録画サーバー設定時に“デバイス設定”タブで確認できます。詳しい内容は、[第15章 - ストレージ管理](#)を参照してください。

- ストリーミングサービス: 選択したデバイスの映像監視する時、ストリーミングサービスを使用するかどうかを選択します。ストリーミングサービスを使用する場合、ストリーミングサーバーを通じてクライアントシステムに映像を伝送するため多数のユーザーが同時に映像を監視することができます。別のWIBUキーを追加していない場合、ストリーミングが可能なチャンネル数は録画可能なチャンネル数とおなじです。WIBUキーを追加して2個以上のストリーミングサービスが登録されている場合、JSS遠隔監視システムPROソフトがストリーミングサーバーのシステムの負荷程度によって任意のストリーミングサーバーを選択します。
- すべてのデバイスに適用: 2つ以上のデバイスを選択した場合、選択したデバイスのユーザーID及びパスワードが全て同じであれば入力したユーザーID及びパスワードを全てに適用することができます。
- デバイスがDVRの場合、DVRの仕様及びバージョンによってポート番号の入力が追加要求されることがあります。
- デバイスがJSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用する4チャンネルネットワークビデオエンコーダである場合、カメラ使用と関係なく、自動で4つのカメラが全て登録されます。

- 3 “サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後、“サイト”パネルの下段にある+ボタンをクリックします。“デバイスグループ”の追加“画面が表示されます。



- 名前: デバイスグループの名前を入力します。
- 場所: 該当するデバイスグループが所属する上位デバイスグループを選択します。
- グループに追加するデバイスを選択してください、選択されたデバイスのリスト: 左側のカメラの横にあるチェックボックスを選択すると、選択したカメラが右側に追加されます。
“確認”ボタンをクリックすると、該当するデバイスグループが登録されます。


- 4 デバイスがデバイスグループに正しく追加されているか確認します。“サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後、“デバイスグループ”の左側の矢印ボタン(▶)をクリックします。登録されたデバイスグループをクリックすると、該当するデバイスグループに追加されたデバイスリストが右側に表示され、接続状態が表示されます。デバイスの接続が正しく行われていない場合、ネットワーク接続解除ログが表示されます(録画サービスに登録されたデバイスのみ対応)。

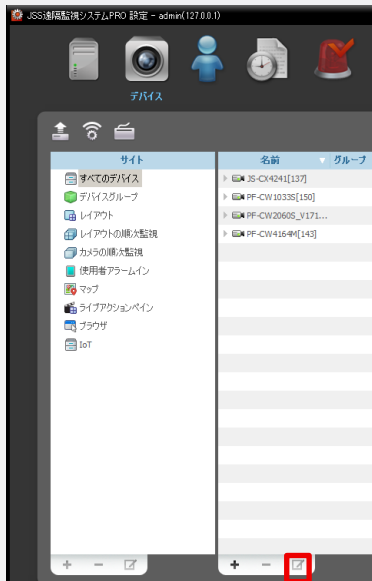
- 映像解析装置が登録されたデバイスであれば、デバイスの一覧から映像解析(🔍)を確認することができます。



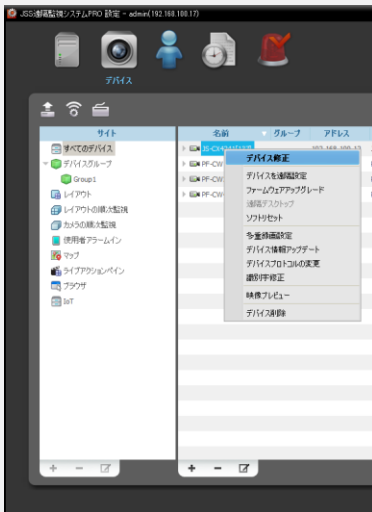
- 登録されたデバイスグループを選択した後、“サイト”パネルの下段にある☑️ボタンをクリックすると“デバイスグループ修正”画面が表示され、該当デバイスグループを修正することができます。

デバイスの管理

“サイト”パネルからデバイスグループを選択した 後、サイトリストのパネルでデバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある  ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックすると、デバイスメニューが表示されます。



or



- **デバイス修正**: デバイスの接続情報および録画スケジュールの“動作”プリセット値を設定します。詳しい内容は、[デバイス修正](#)を参照してください。

- **デバイスを遠隔設定**: 遠隔でデバイスの設定が変更できます。詳しい内容は、[デバイスを遠隔設定](#)を参照してください。
- **ファームウェアアップグレード**: 遠隔でデバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます (JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。詳しい内容は、[一括ファームウェアアップグレード](#)を参照してください。
- **遠隔デスクトップ**: VNC機能を利用してデバイスに接続できます。この接続をするためには、デバイスにVNC機能が設定されている必要があります。JSS遠隔監視システムPROでデバイス登録をする時は、VNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードが登録されていなければなりません。JSS遠隔監視システムPROでのVNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードの登録に関する詳しい内容は、[デバイス修正、遠隔デスクトップ](#)を参照してください。デバイスの仕様とバージョンによって本機能がサポートされない場合もあります。
- **多重録画設定**: 2つ以上のデバイスに対して録画スケジュールの“動作”プリセット値を同じに設定することができます。この機能は同じ種類(ネットワークカメラ/ネットワークビデオサーバー)のデバイスである場合のみ支援されます。
- **デバイス情報アップデート**: 登録されているデバイス情報をアップデートします。連結されている入/出力デバイスがリスト上に表示されない場合はデバイス情報をアップデートしてください。また、“デバイス修正”を設定する時、“イベント”タブが表示されない場合は、デバイス情報をアップデートすることをお勧めします (JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使わないデバイスのうち、イベント関連機能がサポートされるデバイスのみ)。
- **識別子の修正**: デバイスの固有の識別子を修正することができます。識別子はビデオオールエージェントプログラムのサイトリストでデバイス名の横に表示されます。JSS遠隔監視システムPROにネットワークキーボードまたはビデオオールサービス登録時にデバイスの識別子が自動で割り当てられ、変更が可能です。設定された識別子は、ネットワークキーボードを利用してビデオオールエージェントシステムを制御する時に該当デバイスを他のデバイスと区別するために使用されるので、固有でなければなりません。
- **映像プレビュー**: デバイスの映像をプレビューすることができます。
- **デバイス削除**: デバイスを管理サービスから削除します。

デバイス修正

デバイスメニューで“デバイス修正”を選択します。

情報

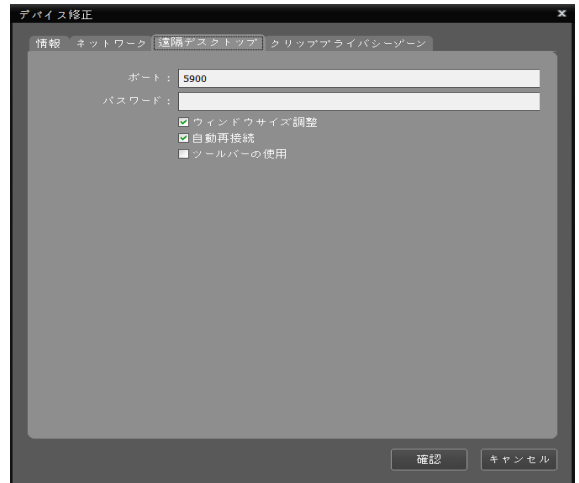


デバイスの基本情報を変更することができます。

- デバイスを使用しない: 該当するデバイスは登録されていないものと見なされます。
- 名前: デバイスの名前を修正します。他のデバイスと重複する名前が使えます。日本語全角文字を入力する場合、最大30字まで、入力できます。
- デバイス名同期化: デバイス側で設定した名称をJSS遠隔監視システムPROに自動的に適用します (JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。
- バンド幅の減少: ストリーミングサービスを利用することで、デバイスのネットワークバンド幅が減少します (JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するネットワークビデオサーバーのうち一部のモデルの場合に対応していません)。該当機能が設定されている場合、デバイスはストリーミングサービスへの登録が必要です。もし、登録されていない場合は、録画ができません。映像録画の時、監視映像と同一設定(転送速度、画質など)で、映像の録画をします。
- 装置低帯域幅通信: デバイスが低帯域環境にある場合、選択します。低帯域環境に合わせてクライアントが動作します。
- グループ、サービス: デバイスが登録されたデバイスの映像を録画する録画サービスリストを表示します。

- プロトコル: 該当デバイスが、使用するプロトコルを見せます。
- デバイスの種類: デバイスの種類を表示します。
- イベントハンドリング: カメラがイベントを処理する方法を表示します。(ONVIFプロトコルを使用するデバイスのみ対応)

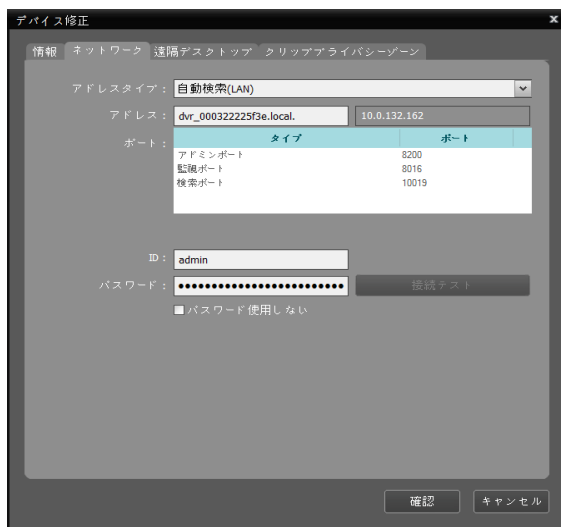
遠隔デスクトップ



VNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードを登録することができます。この接続をするためには、デバイスにVNC機能が設定される必要があります。デバイスの仕様とバージョンによって本機能がサポートされない場合もあります。

- ポート、パスワード: VNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードを入力します。
- ウィンドウサイズ調整: VNCビューア画面のサイズをウィンドウサイズに合わせます。
- 自動再接続: VNC遠隔接続が解除されている場合、自動的に再接続します。

ネットワーク



デバイス接続のための基本情報を変更することができます。但し、デバイスの認証手続き(デバイスユーザーのID及びパスワードの入力)が要求されます。

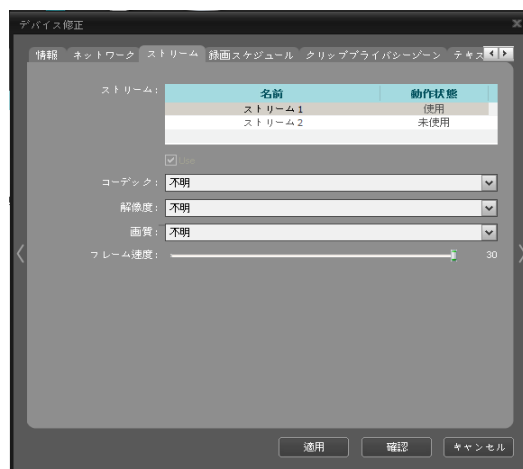
- アドレスタイプ: デバイスのアドレスタイプを選択します
 - 自動検索(LAN): デバイスのアドレスを修正する時、デバイスのmDNS番号を入力します。
 - IPアドレス: デバイスのアドレスを修正する時、デバイスのIPアドレスを入力します。
 - UCN: デバイスがUCN機能を使用する場合、デバイスのアドレスを入力する時UCNサーバーに登録されたデバイスのUCNネームを入力することができます。入力した名前は該当するデバイスのUCN設定で設定したUCNネームと同じでなければなりません。
 - ドメイン名: デバイスがドメイン名サービスを使用する場合、デバイスのアドレスを入力する時DNSサーバーに登録されたデバイスのドメイン名を入力することができます。
- アドレス: アドレスタイプで選択したアドレスのタイプによりデバイスのアドレスを修正します。
- ポート: ポート番号を修正します。入力したポート番号は該当するデバイスで遠隔接続(Admin)、遠隔監視(Watch)、録画(Record)及び双方向オーディオ(Audio)のために設定したポート番号と同じでなければなりません。

- ID、パスワード、接続テスト: 該当するデバイスに接続するためのユーザーID及びパスワードを修正します。上記の情報を変更するためには、デバイスの認証手続きが要求されます。デバイスのユーザー ID及びパスワードを入力した後、“接続テスト”ボタンをクリックします。接続テストが成功すれば、“確認”ボタンをクリックして、設定の適用が可能です。
- 監視プロトコル、録画プロトコル: 監視または録画のためのプロトコルを選択します(一部バージョンのAxis/ONVIFプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。
- 監視プロファイル、録画プロファイル: すでに設定された監視または録画プロファイルを選択します。(一部バージョンのAxis/ONVIFプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。

ストリーム

デバイスのストリーム設定を変更できます。一部バージョンのAxis/Panasonic WV (DG)/ONVIFプロトコルを使用するネットワークカメラの場合にのみ対応し、装置の仕様およびバージョンによっては本機能に対応していない場合があります。

ストリーミングサービスに登録された装置の場合にのみマルチストリーム機能が動作します。



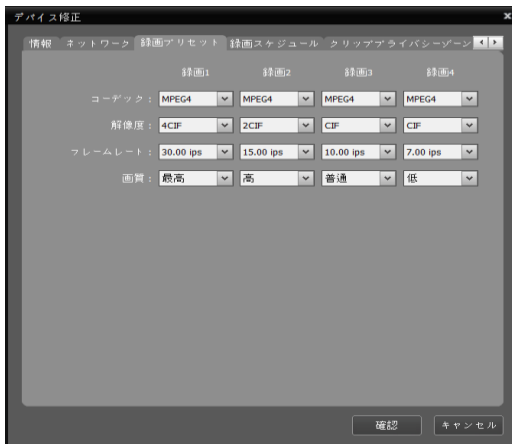
Axis/Panasonic WV (DG) プロトコル



ONVIF プロトコル

- Use: ストリームの使用可否を変更します。2つのストリームを使用するように設定されている場合、マルチストリームに対応します。
- コーデック, 解像度, 画質, フレーム速度: ストリーミングをするための映像圧縮方法, 解像度, 画質の制御モード及び転送速度を変更します (ONVIF プロトコルを使用する装置には対応していません)。
- プロファイル: すでに設定された監視または録画プロファイルを選択します。(一部バージョンのAxis/ONVIF プロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。
- 基本録画ストリーム: 録画に適用されるストリームを変更します。

録画プリセット



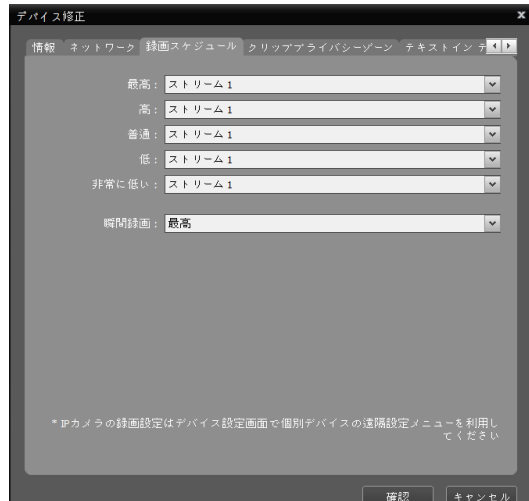
JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するネットワークビデオサーバーのうち一部のモデルに対応しています。

- コーデック, 解像度, フレームレート, 画質: 録画のための映像のコーデック, 解像度, フレームレート及び画質を選択します。H.264コーデック設定時に4CIF解像度で映像を録画する場合、フレームレートが15ipsを超過することができません。

録画スケジュール

録画スケジュールの“動作”プリセット値を設定します(JSS遠隔監視システムPRO /Axis/Panasonic WV (DG)/ONVIFプロトコルを使用するネットワークカメラおよびネットワークビデオサーバーのうち一部のモデルに対応)。

<JSS遠隔監視システムPROプロトコル>



ネットワークカメラ



ネットワークビデオエンコーダ

<Axis/Panasonic WV (DG)/ONVIFプロトコル>

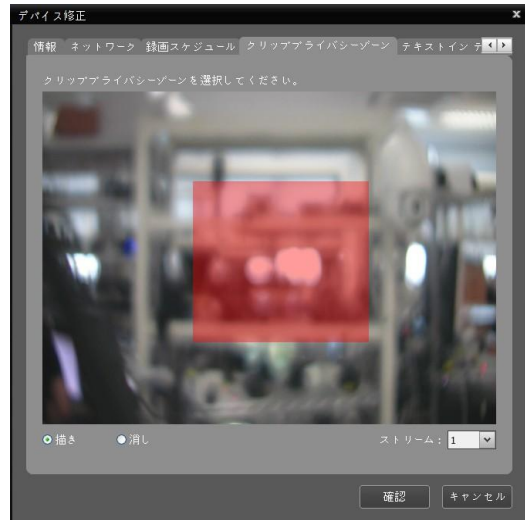


ネットワークカメラ

- デバイスがネットワークカメラである場合：各プリセットに録画する時使うストリームを割り当てます。“ストリーム1”はデバイスの第一ストリームを、“ストリーム2”は第二ストリームを、“ストリーム3”は第三ストリームを、“ストリーム4”は第四ストリームを意味します。
- デバイスがネットワークビデオエンコーダである場合：各プリセットに録画する時使う値を割り当てます。
- 瞬間録画：瞬間録画する時使うプリセットを選択します。




クリッププライバシーゾーン

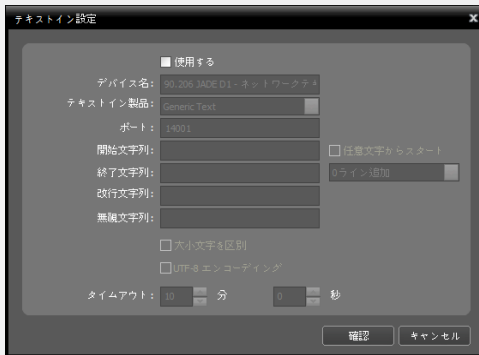
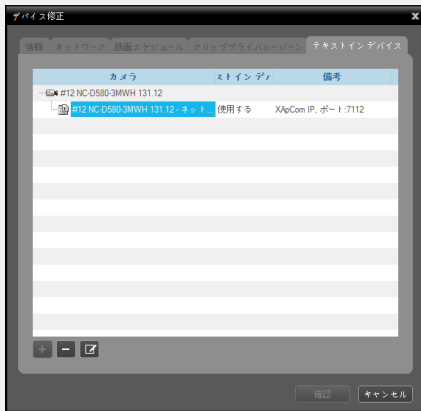
プライバシー保護のために特定エリアの再生を制限することができます (DVRの場合、その機能をサポートしている場合のみ、タブが作成されます)。専用ビューアーファイル(.exe)で保存された映像の再生時、クリッププライバシーゾーン機能が設定されたエリアは黒色で表示されます。



- 描く/消す：クリッププライバシーゾーンを設定または解除します。ボタンをクリックした後、マウスのドラッグを利用してエリアを設定します。

テキストイン設定

TCPネットワークを通じてJSS遠隔監視システムPROにテキストインデバイスを連結し、各デバイスに対しテキストイン機能をサポートします(テキストイン機能をサポートするデバイスとDVRはサポートされない)。リストでカメラを選択した後、ダブルクリックしたり  ボタンをクリックすると、該当カメラについてテキストイン機能を設定することができます。テキストイン機能を設定すると、テキストインデータが入力される場合にJSS遠隔監視システムPROは以下の設定に従ってそれをテキストインイベントと見なします。  ボタンをクリックすると、テキストインの情報を登録することができます。  ボタンをクリックすると、システムでテキストインの情報を削除します。テキストインの情報を削除する場合、テキストインイベント録画映像を検索することができなくなります。



- 使用する: テキストイン機能を使用します。
- デバイス名: テキストデバイスの名前を入力します。
- テキストイン製品: リストでテキストインデバイスの種類を選択します。
- ポート: テキストインデバイスのポート番号を入力します。
- 開始文字列: トランザクション開始文字列を入力します。該当文字列が入力されると、一つのトランザクションが開始されるものと見なされます。
すべての文字”を選択すると開始文字列を入力できず、どんな文字列が入力されても一つのトランザクションが開始されるものと見なされます。
- 終了文字列: トランザクション終了文字列を入力します。該当文字列が入力されると一つのトランザクションが終わったものと見なされます。ドロップダウンメニューでトランザクション終了後に追加出力する行数を選択します。

- 改行文字列: 行の最後を知らせる文字列を入力します。^とアルファベットの大文字を利用して改行文字列を入力できます。例えば、^MはCR(Carriage Return、キャリッジリターン)を、^JはNL(New Line、ニューライン)を意味します。改行文字列に関する内容は、テキストインデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。
- 無視文字列: トランザクションを記録する時、除外される文字列を入力します。トランザクションの間テキストインデバイスから送られる文字列がテキストイン文字列として見なされないようにするには、該当文字列を無視文字列に設定しなければなりません。トランザクションの間テキストインデバイスから送られる文字列に関する内容は、テキストインデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。
- 大小文字を区別: アルファベット文字列の大小文字の区別を設定します。テキストインデバイスのユーザーマニュアルを参照して、テキストインデバイスがアルファベットの大小文字を区別するかどうかを確認してください。
- UTF-8 エンコーディング: 受信した文字列の UTF-8 エンコーディングかどうかを設定します。テキストのデータ送信時のUTF-8でエンコードされて送信される場合、受信側で再エンコードする場合にのみ、文字列が正常に表示されます。テキストの文字列のエンコーディングについては、テキスト的な装置の使用説明書を参照してください。
- タイムアウト: 文字列が入力された後、設定された時間の間新しい文字列が入力されなければ、トランザクション終了文字列が入力されなくても一つのトランザクションが終わったものと見なされます。

テキストインデバイスによって設定項目が異なる場合があります。各設定に関する詳しい内容は、テキストインデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

イベント

- 本機能はJSS遠隔監視システムPROプロトコルを使わないデバイスのうち、イベント関連機能のサポートされるデバイスである場合にのみサポートされます。

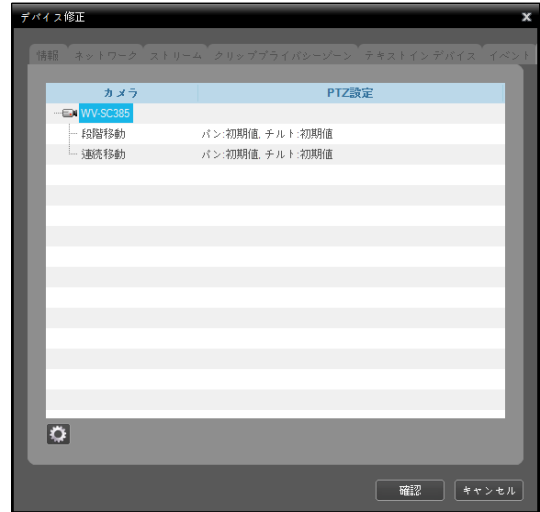


- 継続時間(秒): デバイスからイベント感知の通知を受けた後、該当のイベントの解除が通報されない場合、イベント感知通報を基準にこの継続時間が過ぎるとJSS遠隔監視システムPROはイベント感知が終了されたと認識し、イベントを解除します。例えば、この持続時間を“0”(秒)に設定するとイベント検知後すぐ該当イベントが終了されたものと見なします。この持続時間を“使用しない”に設定するとイベント感知後、デバイスより該当のイベントの解除が通報されるまでイベントが終了されていないものと見なします。この場合、該当デバイスに対してイベントスケジュールが設定されているとデバイスから イベント解除が通報されるまで引き続き映像を録画します。

PTZ

本機能はJSS遠隔監視システムPROプロトコルを使わないデバイスのうち、PTZ機能のサポートされるデバイスである場合にのみサポートされます。

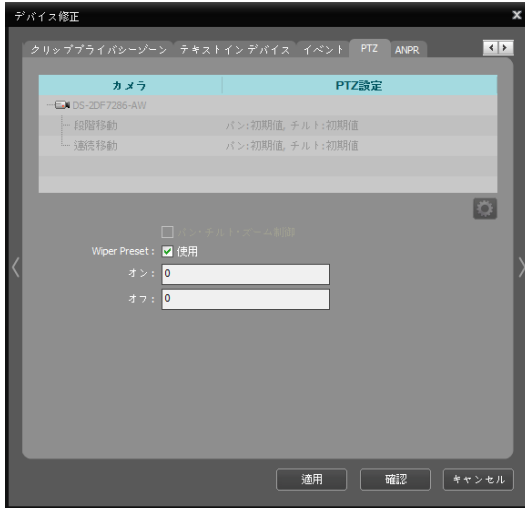
リストでカメラを選択した後、 ボタンをクリックすると該当カメラのPTZ制御ができます。



- 段階移動: 一回クリックすると、設定によって PTZが一回ずつ移動します。
- 連続移動: マウスのボタンを3秒以上クリックすると、設定によってPTZが連続で移動します。



- 初期値: クライアントでマウスをクリックした方向の通りにPTZが移動します。
- 方向転換: クライアントでマウスをクリックした方向と逆にPTZが移動します。



ワイパープリセット: PTZプリセットでワイパー機能を選択できるカメラに限って使用できます。0~999に該当するプリセット値を設定します。

- ・ オン: 当該プリセットを有効にしてワイパー機能開始
- ・ オフ: 当該プリセットを有効にしてワイパー機能中止

ANPR

本機能は、ANPRとデバイスを接続したときに対応します。

リストからカメラを選択してから、ボタンをクリックするとANPR接続を追加したり修正することができます。



GPS


本機能はマップの自動配置に使用されます。

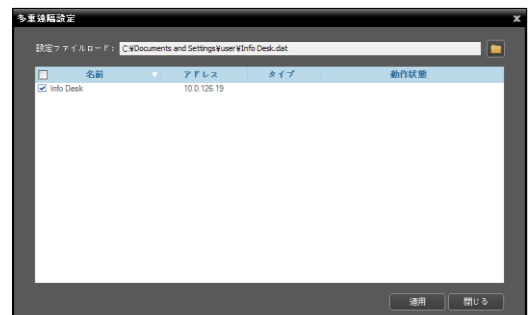
デバイスのGPS情報(経度、緯度)を入力したり、修正することができます。




デバイスを遠隔設定


デバイスメニューで“デバイスを遠隔設定”を選択して、遠隔でデバイスの設定が変更できます。一部の設定の場合、遠隔設定に対応しないこともあります。デバイスが一つ以上のプロトコルに対応する場合、使用中のプロトコルによってJSS遠隔監視システムPROでの遠隔設定項目が異なることもあります。デバイス設定に関する詳しい内容は、該当デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

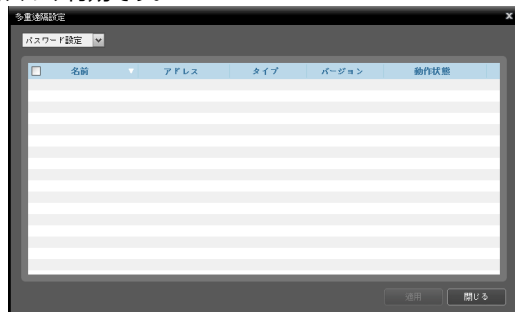
また、設定ファイルを用いて複数のデバイスの設定が一括で変更できます。サイトパネル上段の  (多重遠隔設定) ボタンをクリックすると以下のような設定窓が現れます。



右側上段の  ボタンをクリックしてから設定ファイルを選択します。選択した設定ファイルが適用可能なデバイスのリストが表示されます。この機能はデバイスのモデルによって支援されない可能性があり、設定ファイルが適用可能なデバイスが登録されていても支援されないデバイスである場合、リストに表示されません。デバイスを選択してから下段の“適用”ボタンをクリックするとそのデバイスの設定を変更します。

パスワード一括変更


サイトパネル上部の  (多重遠隔設定) ボタンをクリックして複数デバイスのパスワードを一括で変更することができます。パスワード一括変更は、パスワードの再設定に対応するデバイスのみ有効です。





“パスワード設定”を選択すると、パスワード変更ができるデバイスのリストが表示されます。デバイスを選択した後、下部の“適用”ボタンをクリックすると表示されるポップアップで当該デバイスのパスワードを変更することができます。(本機能は、モデルによって対応しない場合があります。)

一括ファームウェアアップグレード

アップグレードファイルが準備された場合、デバイスメニューで“ファームウェアアップグレード”を選択し、遠隔でデバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。

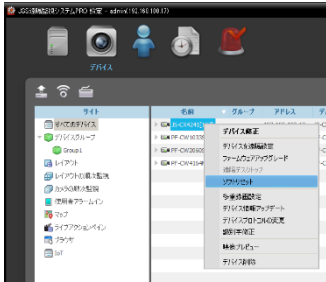
複数のデバイスのソフトウェアを一括でアップグレードすることができます。サイトパネル上段の  (多重ファームウェアアップグレード) ボタンをクリックすると以下のような設定画面が現れます。(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスのみ支援)。



右側上段の  ボタンをクリックしてからアップグレードファイルを選択します。デバイスがPCベース DVRである場合、“PCベースDVR”を選択してから  ボタンをクリックします。選択したファイルでアップデートが可能なデバイスのリストが表示されます。“全てのデバイスを表示”を選択すると登録された全てのデバイスのリストが表示されます。デバイスを選択してから下段の“アップグレード”ボタンをクリックするとそのデバイスをアップグレードします。

ソフトリセット

デバイスのメニューで“ソフトリセット”を選択すると、遠隔でデバイスをリセットすることができます。(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合のみ対応)



ソフトリセットするデバイスを選択した後、マウス右クリックすると“ソフトリセット”メニューが表示されます。“ソフトリセット”メニューをクリックすると、当該デバイスがリセットされます。

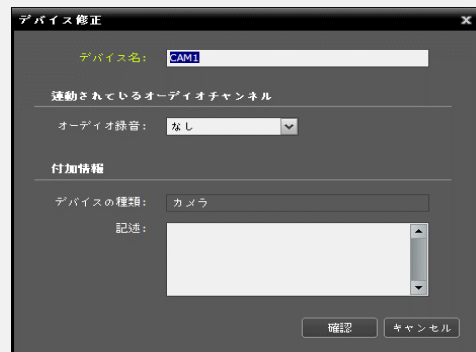
デバイスの状態確認



“サイト”パネルで“すべてのデバイス”を選択した 後、サイトリストのパネルでデバイスをクリックします。“録画状態”項目に各デバイスの状態が表示されます(“接続完了”: 録画可能、“接続解除”: 録画不可能)。デバイスの名前の横の矢印ボタン(▶)をクリックすると該当するデバイスでサポートする入力および出力のリストが表示され、各デバイスの状態を確認することができます(“録画”: 一般録画中、“瞬間録画”: 瞬間録画中、“待機中”: 録画待機中)。

入力 / 出力デバイス情報の修正

“サイト”パネルで“すべてのデバイス”を選択した 後、サイトリストのパネルでデバイスの名前の横にある矢印ボタン(▶)をクリックします。該当するデバイスでサポートするビデオの入力、アラームの入力/出力及びオーディオの入力/出力のリストで、入力/出力デバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックして“デバイス修正”を選択します。“デバイス修正”画面が表示されます。



- デバイス名: 該当する入力/出力デバイスの名前を修正します。他の入力/出力デバイスと重複する名前が使えます。該当する入/出力デバイスが接続されたデバイス名が更新される時、自動的に更新されます。

- 連動されているオーディオチャンネル: 該当カメラと連動してオーディオを録音するには、オーディオチャンネルを選択します(入/出力デバイスがカメラである場合のみ支援)。そのカメラの映像が録画される場合選択されたオーディオチャンネルのオーディオと一緒に録音されます。
- 連動デバイス: 入/出力デバイスと連動してカメラ映像をイベントスポット画面に出力するためにはそのカメラチャンネルを選択します(その入/出力デバイスがアラーム入力またはオーディオ入力デバイスの場合のみ支援)。アラームインまたはオーディオイベント感知時、選択したチャンネルの映像がイベントスポット画面に表示されます。

JSS遠隔監視システムPROプロトコル

デバイスパスワードの再発行

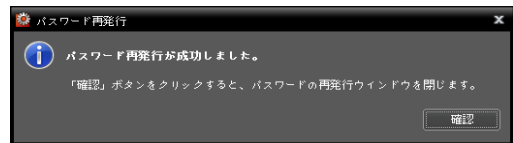
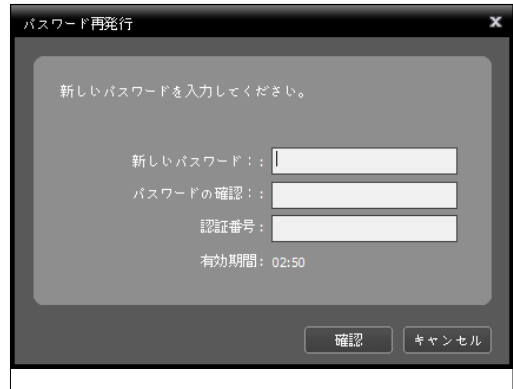
デバイスに設定されたパスワードを再発行します。本機能は、JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスに限り、デバイスパスワードの再発行機能がサポートされている製品に限って使用可能となっています。

デバイスパスワードの初期化

- 1 デバイス検索ウィンドウにおいてデバイス登録過程中にパスワードの初期化が必要なデバイスの場合、パスワードを初期化するかどうかの確認するウィンドウが表示されます。パスワードの初期化が必要なデバイスの場合、パスワードを初期化した後にデバイス登録が可能となります。



- 2 初期化に必要な情報を入力した後、“はい”ボタンをクリックするとデバイスのパスワードが初期化されます。



- 新しいパスワード/パスワードの確認: 変更する新しいパスワードを入力します。
- 携帯電話番号: パスワード再発行の際、ワンタイムパスワード(OTP)を受信するためのSMS受信が可能な携帯電話番号を入力します。
- Eメール: パスワード再発行の際、ワンタイムパスワード(OTP)を受信するためのメールアドレスを入力します。

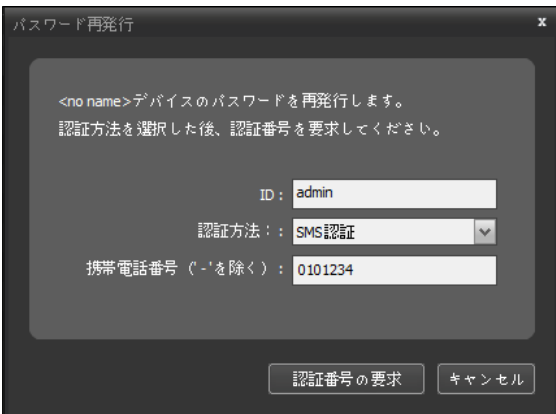
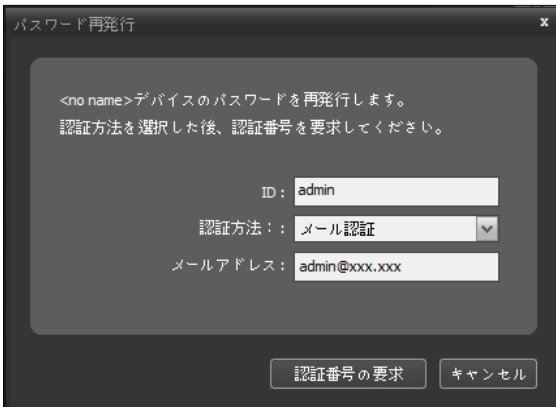
デバイスパスワードの再発行

パスワードの再発行は、システム設定 - UCN設定がされており、UCNサービスとの接続が可能な場合に作動します。詳しい内容は、NVR/DVRのご購入先にお問い合わせください。

- 1 デバイス検索ウィンドウにおいてデバイス登録過程中にユーザー認証に失敗(パスワードの間違い)した場合、パスワードを再発行するかどうかを確認するウィンドウが表示されます。



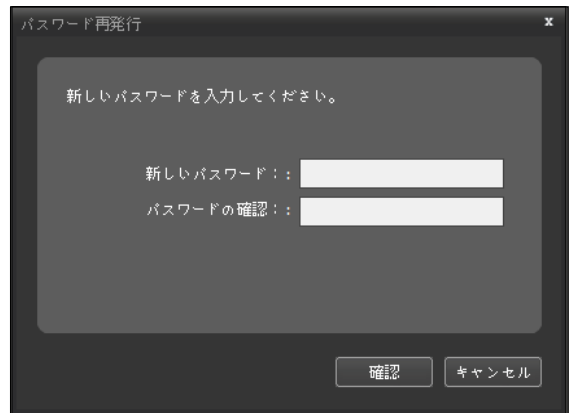
- 2 “はい”ボタンをクリックするとパスワード再発行ウィンドウが表示されます。



ID: パスワード再発行を希望するユーザーのIDを入力します。

- 認証方法: パスワード再発行のために設定された認証用のメールアドレスまたは携帯電話番号を入力します。
- Eメール/携帯電話番号: パスワード再発行の際、ワンタイムパスワード(OTP)を受信するためのメールアドレスまたはSMS受信が可能な携帯電話番号を入力します。

- 3 新しいパスワードを入力して“確認”ボタンをクリックすると、デバイスのパスワードが変更されます。



- 新しいパスワード/パスワードの確認: 変更する新しいパスワードを入力します。

ONVIFプロトコルデバイスの遠隔設定

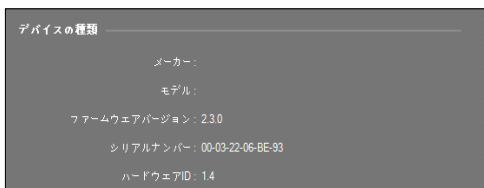
ONVIFプロトコルを使用するデバイスの場合、デバイスの遠隔設定での設定によってリアルタイム監視映像を表示したり映像を録画します。“サイト”パネルからデバイスグループを選択した後、サイトリストのパネルでデバイスをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックするとデバイスメニューが表示されます。“デバイスを遠隔設定”を選択すると、次のような設定画面が表示され、デバイスの設定を変更することができます。設定メニューと設定項目は、デバイスのモデルによって異なることがあります。



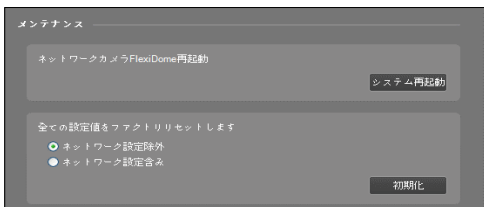
設定変更時に設定画面下段の“適用”ボタンをクリックすると、変更時項が適用されます。

情報

デバイス情報を表示します。



メンテナンス

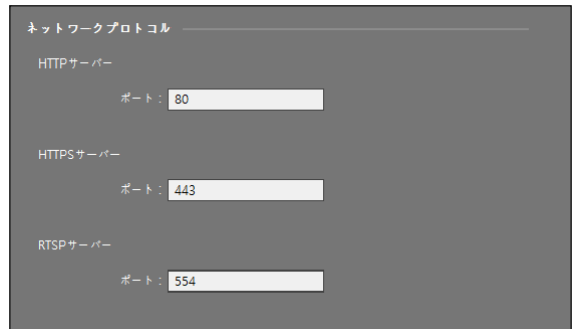


- システム再起動: ボタンをクリックすると、システムを再起動します。デバイスシステムの再起動時、JSS遠隔監視システムPRO遠隔設定が終了します。
- 初期化: システムの全ての設定値を工場出荷時の初期設定にリセットします。
- ネットワーク設定除外: ネットワーク設定を除いた全ての設定値を初期化します。
- ネットワーク設定含み: ネットワーク設定を含む全ての設定値を初期化します。ネットワーク設定を含む場合、JSS遠隔監視システムPRO遠隔設定が終了します。

TCP/IP

TCP/IP設定情報を閲覧することができます。修正は不可能で、当該カメラの製造会社が提供する専用の設定プログラムで設定することができます。

ネットワークプロトコル



- ネットワークプロトコル: デバイスで使用するネットワークプロトコルのポート番号を変更します(デバイスに対応するプロトコルにのみ該当)。

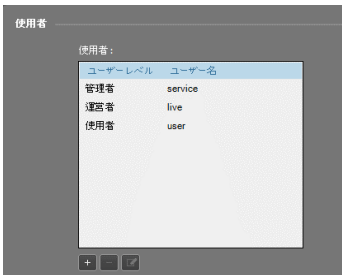
HTTPSサーバーポートは設定することができません。

WS-Discovery



- 範囲の媒介変数: +ボタンをクリックしてWS-Discoveryの範囲の媒介変数を追加します。

使用者

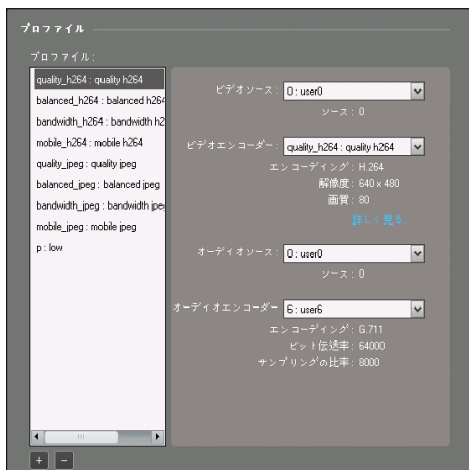


✦ボタンをクリックすると、ユーザーが追加できます。探索モード：デバイスの探索が可能かどうかを設定します。“探索不可能”を選択すると、デバイス登録時にONVIFプロトコルを使用するデバイスに対して自動検索機能が対応しません。

プロフィール

次の順序に従ってプロフィールを設定します。

プロフィールリストでプロフィールを選択します。ボタンをクリックすると、新しいプロフィールを追加できます。→メディアを設定します。メディアの設定に関する詳しい内容は、以下の説明を参照してください。→設定画面下段の“適用”ボタンをクリックします。→プロフィール設定が適用され、JSS遠隔監視システムPROは選択したプロフィールの設定によって、リアルタイム監視映像を表示したり映像を録画します。



ビデオ

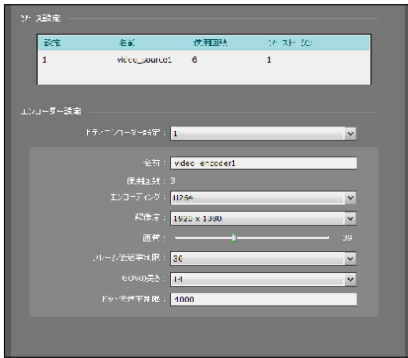
ビデオソース：デバイスに対応するビデオソースリストで好きなビデオソースを選択します。

- ビデオエンコーダ：ビデオエンコーダの設定を選択します。“詳しく見る”ボタンをクリックすると、選択したビデオエンコーダ設定の設定値が確認できます。ビデオエンコーダの設定に関する詳しい内容は、**ビデオ**を参照してください。
- オーディオソース：デバイスに対応するオーディオソースリストで好きなオーディオソースを選択します。“無し”を選択すると、該当デバイスのオーディオ監視及び録画に対応しません。
- オーディオエンコーダ：オーディオエンコーダの設定を選択します。“詳しく見る”ボタンをクリックすると、選択したオーディオエンコーダ設定の設定値が確認できます。オーディオエンコーダの設定に関する詳しい内容は、**オーディオ**を参照してください。
- PTZ：PTZ設定を選択します。“無し”を選択すると、該当デバイスのPTZ制御に対応しません

ソース設定：ソース設定情報を表示します(設定:ビデオソース、名前: ソース名、使用回数: 該当ソースを使用するプロフィールの個数、ソーストークン: ソーストークンの個数)。

- エンコーダ設定：エンコーダを設定します。
 - ビデオエンコーダ設定：デバイスに対応するビデオエンコーダのうち設定するエンコーダを選択します。
 - 名前：選択したビデオエンコーダの名前を指定します。
 - 使用回数：選択したビデオエンコーダを使用するプロフィールの個数を表示します。
 - エンコーディング、解像度、画質：映像の圧縮コーデック、解像度及び画質を設定します。デバイスがネットワークビデオエンコーダである場合、モデルによってH.264コーデック設定時に解像度が4CIFであれば録画速度に制約が加わる場合があります。
 - フレーム伝送率制限：最大伝送速度を設定します。
 - エンコーディング周期：エンコーディングの周期を設定します。値が大きいくほどビット伝送率及び画質が低下します。
 - ビット伝送率制限：最大ビット伝送率を設定します。ビット伝送率を制限することにより、ネットワークトラフィックの状況によってネットワーク帯域幅を制御できます。

オーディオ



- ソース設定: ソースの設定情報を表示します(設定: オーディオソース、名前: ソース名、使用回数: 該当ソースを使用するプロファイルの個数、ソーストークン: ソーストークンの個数)。
- エンコーダ設定: エンコーダを設定します。
- オーディオエンコーダ設定: デバイスに対応するオーディオエンコーダのうち設定するエンコーダを選択します。
- 名前: 選択したオーディオエンコーダの名前を指します。
- 使用回数: 選択したオーディオエンコーダを使用するプロファイルの個数を表示します。
- govの長さ: I Frameが表示される間隔を設定します。
- ビット伝送率: ビット伝送率を設定します。

I/O



- モード: 入/出力デバイスのリレーモードを設定します。
- Monostable: 遊休状態を設定した後、遅延時間が過ぎるとリレーが元の遊休状態にリセットされます。
- Bistable: 遊休状態を設定すると、その状態を維持します。
- 遅延時間: Monostableモードでリレーが遊休状態にリセットされるまで遅延する時間を設定します。
- 遊休状態: リレー出力の物理的遊休状態が設定できます。
- オープン: リレー状態が“InActive”に設定されるとリレーが開き、“Active”に設定されると閉まることを意味します。
- クローズ: リレー状態が“InActive”に設定されるとリレーが閉まり、“Active”に設定されると開くことを意味します。
- アクション: リレー状態を制御します。
- Active: ボタンをクリックすると、リレーが“Active”状態になります。
- InActive: ボタンをクリックすると、リレーが“InActive”状態になります。

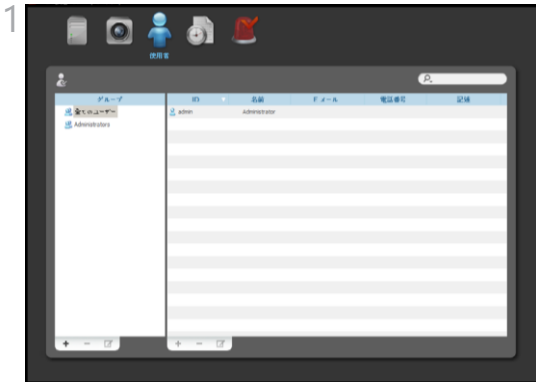
PTZ



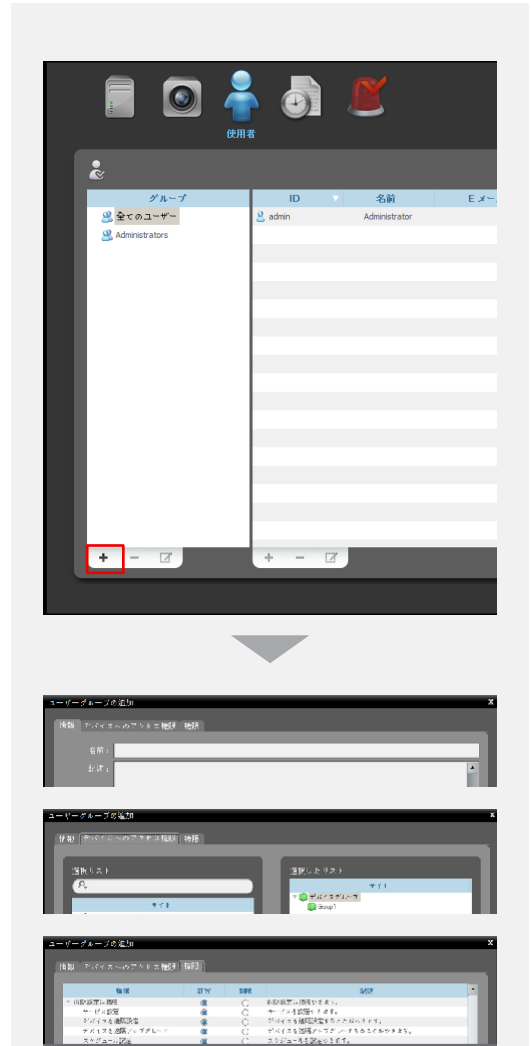
- 持続的なパン/チルトの速度: 特定方向に移動しますが、指定された速度で移動を続ける際の移動方法を設定します。
- 持続的なズームの速度: 特定方向を拡大しますが、指定された速度で拡大を続ける際の拡大方法を設定します。
- パン/チルトの速度: 特定位置または方向に移動する際の速度を設定します。
- ズームの速度: 特定位置または方向を拡大する際の速度を設定します。
- PTZタイムアウト: PTZ動作が続く場合、PTZ動作の持続時間を設定します。動作が始まった後設定した時間が過ぎると動作が自動的に中止されます。
- PTZノード: ノード設定情報を表示します(ノード: PTZノード、名前: ソース名、最大プリセット: プリセットの最大個数、Home対応: Home機能対応の有無)。
- PTZ設定: PTZを設定します。
- PTZ設定: デバイスに対応するPTZのうち設定するPTZを選択します。
- 名前: 選択したPTZの名前を指定します。
- 使用回数: 選択したPTZを使用するプロファイルの個数を表示します。
- ノード: PTZノードを設定します。PTZノードとは、機械的なPTZドライバー、アップロードされたPTZドライバー、デジタルPTZドライバーを全て含みます。
- 絶対的なパン/チルトの位置: 特定位置に移動する際の移動方法を設定します。該当位置に移動できない場合、動作しません。
- 絶対的なズームの位置: 特定位置を拡大する際の拡大方法を設定します。該当位置を拡大できない場合、動作しません。
- 相対的なパン/チルトの変換: 現在の位置を基準として、特定方向に移動する際の移動方法を設定します。
- 相対的なズーム変換: 現在の位置を基準として、特定方向を拡大する際の拡大方法を設定します。

第14章 -ユーザー管理

JSS遠隔監視システムPROの各機能に対する権限をユーザーによって互いに異なるように設定することができます。ただし、“Administrators”グループはすべての機能に対する権限を有しており、修正することができません。“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→ “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。→ “ユーザー(使用者)”メニューを選択します。



ユーザーグループパネルの下段にある+ボタンをクリックします。“ユーザーグループの追加”画面が表示されます。



- 情報タブ: ユーザーグループの名前を入力します。
- デバイスへのアクセス権現タブ: 各デバイスに対するアクセス権限を付与したり制限します。
- 権限タブ: 各機能に対する権限を与えたり、制限します。

“確認”ボタンをクリックすると、該当するユーザーグループが追加されます。

- 2 ユーザーグループパネルで追加されたユーザーグループをクリックした後、ユーザーパネルの下段にある+ボタンをクリックします。“新しいユーザー”画面が表示されます。



情報

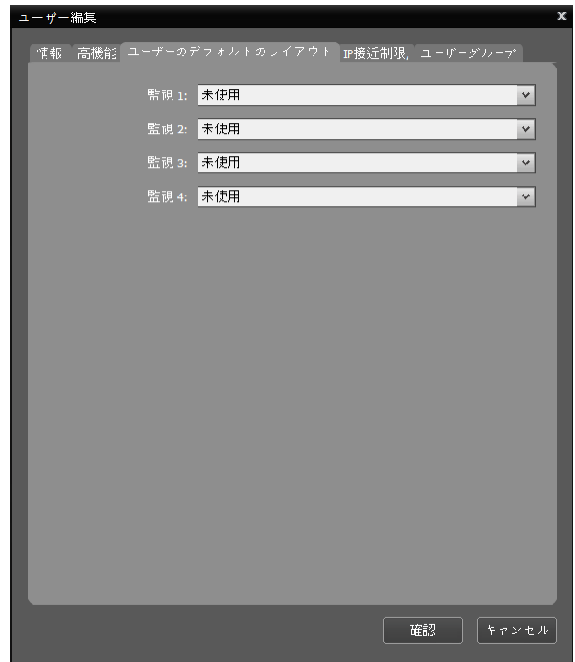
The 'New User' dialog box contains the following fields and options:

- 使用しない
- 名前: [Text Field]
- ID: [Text Field]
- パスワード: [Text Field]
- パスワードの確認: [Text Field]
- パスワード使用しない
- パスワード有効期間設定
- 期限(ヶ月): [Spin Box]
- Eメール: [Text Field]
- ユーザー確認用のメール
- 電話番号: [Text Field]
- 記述: [Text Area]
- イメージ無し

- 使用しない: 該当ユーザーは利用できなくなります。
- 名前: ユーザーの名前を入力します。
- ID、パスワード、パスワードの確認: JSS遠隔監視システムPROを実行するための固有のユーザーID及びパスワード(空白なしで8桁~16桁)を入力します。
- ユーザーのイメージ: "イメージ無し"をダブルクリックして、ユーザーのイメージを追加できます。
- パスワード使用しない: JSS遠隔監視システムPROを実行する時、パスワードなしでログインできます。
- パスワード有効期間設定: パスワードの有効期間を設定します。有効期間が過ぎるとログインする時これをお知らせします。
- Eメール: イベント感知をEメールで通知するには、Eメールアドレスを入力します。Eメールアドレスには、“@”が必ず含まれていなければなりません。イベント感知のEメール通知に関する詳しい内容は、**第16章 -イベント管理**を参照してください。
- ユーザー確認用のメール: ユーザーがログインすると、設定された電子メールに確認メールが送信されます。
- 電話番号、記述: 電話番号及び記述を入力します。

高機能

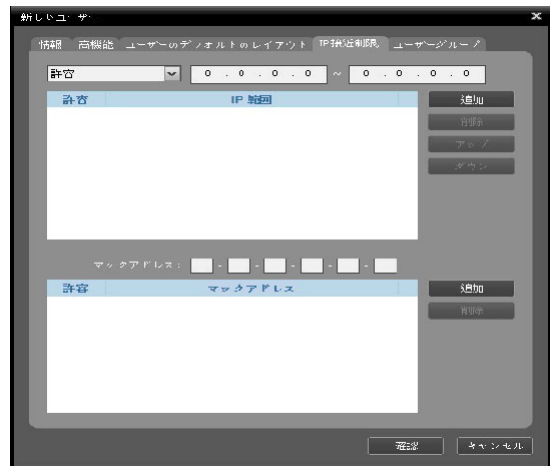
ユーザーのデフォルトのレイアウト



- **モニタリンググループ:** イベント通報時、通報されたイベントを受けたユーザーを表示します。“修正”ボタンをクリックするとユーザーを修正することができます。イベント通知に関する詳しい内容は、**第16章 -イベント管理**を参照してください。
- **許可時間:** 該当ユーザーのJSS遠隔監視システムPROのログイン時間を制限できます。
 - 常時許可: ログイン時間に制限がありません。
 - 時間範囲設定: 設定された範囲のうちに、プリセットを追加、変更及び削除ができます。プリセット追加の際、該当プリセットのリストが現れ、そのプリセットを選択すると該当プリセットに設定された時間のうちのみ、ログインできます。
 - 手動設定: スタート範囲からエンド範囲までの設定された時間にのみログインが許可されます。
- **PTZコントロールの優先順位:** そのユーザーのPTZ制御の優先順位を設定します。数字が低いほど優先順位が高くなります。

- **監視:** ユーザーがJSS遠隔監視システムPROクライアントにログインするときに、監視タブに表示されるレイアウトを選択します。

IP接近制限タブ



- **IP 接近制限:** 特定IPアドレスの使用者に接続権限を付与、または制限することができます。
- **MACアドレス利用制限:** 特定のMACアドレスを入力して当該アドレスのみにアクセス権限を与えます。MACアドレスを入力しなかった場合は、すべてのアドレスにアクセスできます。

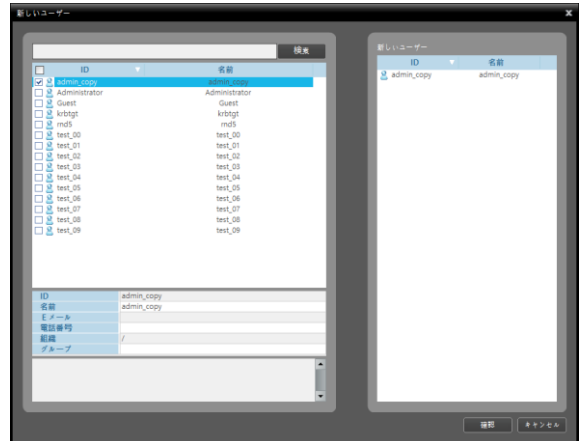
ユーザーグループ



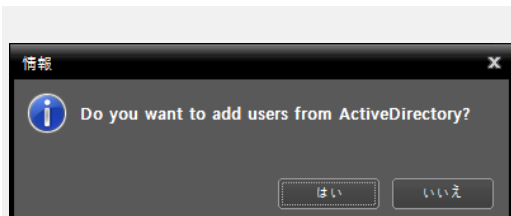
- ユーザーグループ: ユーザーが登録されるユーザーグループを選択します。複数のユーザーグループへの登録が可能で、選択されたユーザーグループのデバイスへのアクセス権限とユーザー権限が合わさって最終権限が決定されます。

ActiveDirectoryユーザーの追加

本機能は、すべてのサービスがActive Directory Domainに登録されたサーバーにインストールされた場合のみサポートされます。

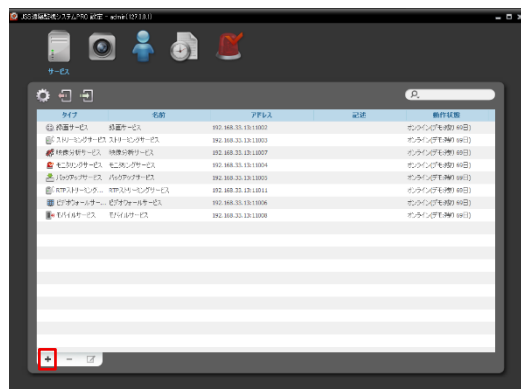


- ActiveDirectory ユーザーグループ追加: ActiveDirectoryのユーザーグループをJSS遠隔監視システムPROのユーザーに追加します。このタイプに登録されたActiveDirectoryのユーザーグループに属するユーザーはJSS遠隔監視システムPROにログインすることができます。ユーザーが登録されたActiveDirectoryのユーザーグループに属しない場合、ユーザーはJSS遠隔監視システムPROにログインすることができません。
- ActiveDirectoryユーザーの追加: ActiveDirectory内の一人のユーザーをJSS遠隔監視システムPROに登録します。



第15章 –ストレージ管理

録画のためのストレージを割り当て、管理することができます。“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→“JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行します。



1 録画サービスが登録されていない場合、下段にある✚ボタンをクリックします。“サービス登録”画面が表示され、登録可能なサービスのリストが各サービスの情報と共に表示されます。



- 名前: ネットワーク接続を通じて現在管理サービスに接続されているサービスを表示します。
- タイプ: サービスのタイプを表示します。
- アドレス: 各サーバーのIPアドレスとポート情報を表示します。

登録するサービスの管理サーバーの情報(“サービス管理者” → “条件” → “サーバー設定”)が現在接続中の管理サーバーと同一の場合のみ登録できます。

2 JSS遠隔監視システムPROに登録する録画サービスを選択します。

ストレージを割り当てる

“サービス”メニューを選択した後、録画サーバーを選択してから、次の説明を参照して選択した録画サーバーのハードディスクドライブにストレージを割り当てます。

- USBハードディスクにストレージを割り当てることはできません。
- 一つのハードディスクドライブに最大200,000GBのストレージを割り当てることができます。
- 録画サービスは、動作したときの最後の動作に使用されていた保存空間がすべて認識されるまで待機します。録画サービスで使用していた保存空間に問題が発生し、管理者によって手動で保存空間が除去された場合(OSで除去または物理的にHDD除去など)、録画サービスの最後動作に使用された保存空間の認識時間を調整することができます(“サービスマネージャー” → “録画サービス”を選択した後、“オプション” → “サービスオプション” → “高性能メニュー”)。
- 保存空間変更時、ブザー音およびポップアップメッセージが表示され、サービスマネージャーのトレイアイコンから吹き出しで表示されます。クライアントにログインした時、ポップアップメッセージが表示されます。クライアントにログインした状態で録画サービスを再起動した時、ポップアップメッセージに表示されます。ブザーに対応するデバイスの場合、音でお知らせします。

- 1 録画サービスを選択した後、下段にある☑ボタンをクリックします。“録画サービス設定”画面が表示されたら“デバイスセットアップ”タブを選択します。



現在の録画サービスに登録されているカメラのリストが表示されます。下段の“追加”ボタンをクリックすると、現在の録画サービスに別のカメラが登録できます。デバイスを選択した後“削除”ボタンをクリックすると、現在の録画サービスから該当デバイスが削除されます。

- 登録可能なデバイスの数はソフトウェアライセンスまたは管理サーバーに接続されているWIBUキーの数とタイプによって異なります。
- 登録されたデバイスに対し、録画した後に録画サービスで該当デバイスを削除した場合、削除されたデバイスを再登録しても JSS遠隔監視システムPROは他のデバイスとして認識します。この場合、デバイスが除去される前に録画された映像は次のメニューで検索または再生することができます：“再生”パネル → パネルツールバーの [再生] (その他メニュー) ボタンクリック → “削除された録画デバイス”選択

- 2 “ストレージ設定”タブを選択した後、下段にある“追加”ボタンをクリックします。

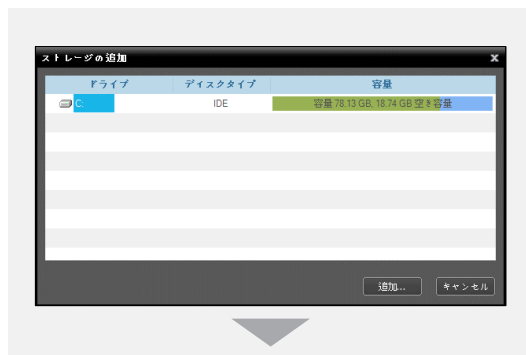


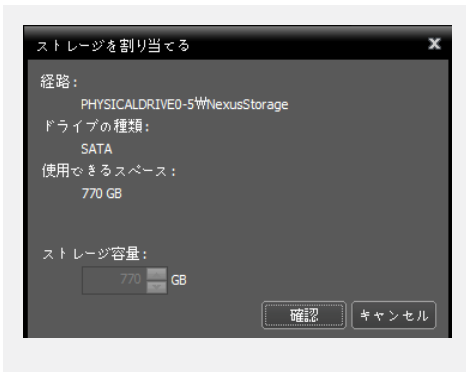
- 3 “ストレージの追加”画面が表示され、各ハードディスクの情報と共に使用可能なハードディスクドライブのリストが表示されます。



- ドライブ: ドライブ名を表示します。
- ディスクタイプ: ハードディスクドライブの種類を表示します。
- 容量: ストレージの総容量と使用可能な容量を表示します。

- 4 ストレージを割り当てるハードディスクドライブを選択した後、下段にある“追加”ボタンをクリックします。“ストレージを割り当てる”画面が表示されます。





- 経路: ストレージフォルダの経路を表示します。
- ドライブの種類: ハードディスクドライブの種類を表示します。
- 使用できるスペース: 使用可能なストレージの容量を表示します。
- ストレージ容量: 割り当てるストレージの容量を設定します(最小20GB)。ハードディスクに JSS 遠隔監視システムPROがインストールされている場合、インストール環境によって適切な空き容量を残しておかなければなりません。Windows OSがインストールされたハードディスクドライブの場合、スムーズなシステム運営のために 10GB 以上の空き容量を残しておかなければなりません。そうでない場合、システムが正しく動作しないことがあります。ハードディスクドライブにファイルシステムが構成されていない場合、使用可能な全体容量に自動的にストレージを全て割り当てます。

5 (選択) 保存空間が追加されると、保存空間の最適化ポップアップが表示されます。



保存空間の最適化は、録画サービスに追加された保存空間がない場合のみ使用できます。すでに保存空間が追加されている状態では、保存空間の最適化機能は使用できません。録画を円滑に行うため、最適化することをお勧めします。

6 (選択) 保存空間の最適化ポップアップで“はい”ボタンを押すと、“最適化”ポップアップが表示されます。録画しようとするカメラの台数を入力して“確認”ボタンをクリックします。



- カメラ: 最適化テストを行うときの録画するカメラの台数を選択します。
- 帯域幅: 最適化テストを行うときの録画するカメラ当たりの帯域幅を選択します。すでに設定されたオプションを選択する場合の ips、gov、Iフレームサイズ、Pフレームサイズが自動選択されます。
- ips、gov: 最適化テストを行うときの録画するカメラの ips と gov を選択します。
- I Frame、P Frame: 最適化テストの実行時に録画されるカメラの Iフレームと Pフレームのサイズを選択します。

ストレージの取り込み


他の管理サービスの録画映像があるハードディスクドライブを設置する場合、下記の通りストレージを取り込みし、該当する録画映像を検索及び再生できます。但し、現在の録画サービスのストレージに録画データがない時のみ、該当機能は支援可能です。

- 1 “取り込み”ボタンをクリックします。“ストレージの取り込み”画面が表示されます。



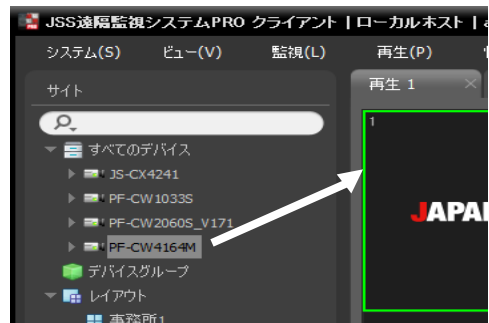
- 割り当てるストレージ: 録画サービスを選択します。数字は録画サービスの識別キーを表します。ハードディスクドライブに2個以上の録画サービスの録画映像がある場合、録画サービスにより別の録画時間が存在します。“確認”ボタンを押すと選択した録画サービスの録画映像を取り込みします。
 - 経路: ストレージフォルダーの経路を表示します。
 - ドライブの種類: ハードディスクドライブの種類を表示します。
 - 容量: ストレージの容量を表示します。
 - 録画期間: 録画期間を表示します。
- 取り込みしたデバイスが“ストレージ設定”タブのハードディスクリストに表示されます。

- 2 “JSS遠隔監視システムPRO クライアント”プログラムを実行した

後、“再生”パネル → パネルツールバーの  (その他メニュー) ボタンをクリック → “削除された録画デバイス”を選択し、取り込みしたストレージの録画映像を検索及び再生できます。もし、ストレージを取り込みする前、該当ストレージの録画サービスを復元した場合、“再生”パネルの“サイト”リストでデバイスを選択した後、再生画面にマウスでドラッグ&ドロップすることで、動画の検索及び再生ができます(録画サービスの復元: “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラム → “サービス”メニュー → (サービスデータベースのバックアップ)/(サービスデータベースの復元)ボタンをクリック)



< 録画サービスを復元しない場合 >



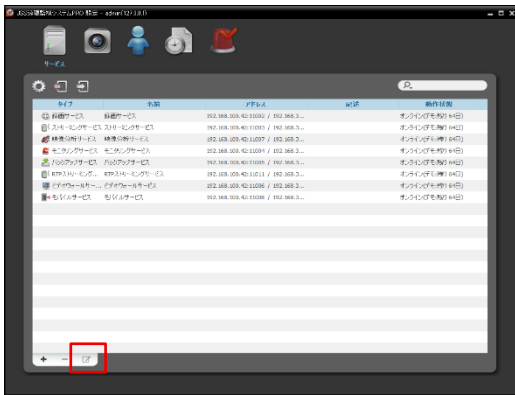
< 録画サービスを復元した場合 >

ネットワーク接続型ストレージ(NAS)保存空間の割り当て

(NAS: Network Attached Storage)に保存空間を割り当てます

- 録画サービスとNASを同じネットワークに接続する必要があります。そうしないと、NASがネットワーク遅延の場合にストレージとして認識されないことがあります。
- NAS保存空間を割り当てるには、録画サービスが実装されているサーバーのWindowsアカウントにパスワードが設定されている必要があります。
- 保存空間として使用したいNASには、接続できるアカウントとパスワードが設定されている必要があります。匿名での接続方式は対応していません。
- NASは録画サービスのストレージとしてのみ使用し、FTPまたは共有フォルダは別のアカウントとして使用しないでください。
- NAS経路は、"サーバーアドレス 経路"の形式で入力してください。

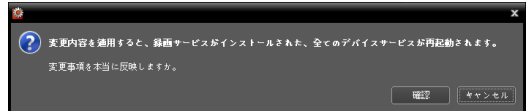
1 録画サービスを選択した後、下段にある ボタンをクリックします。"録画サービス設定"画面が表示されたら"ストレージ設定"タブを選択して、下段の"Add (追加)"ボタンをクリックします。



2 下段の"NAS"ボタンをクリックします。

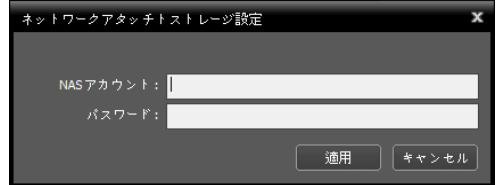
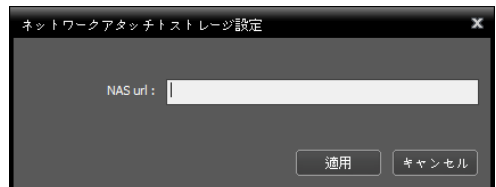


録画サービスが実装されている録画サーバーのWindowsアカウントとパスワードを入力して、"Apply (適用)"ボタンをクリックします。

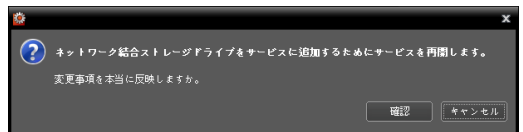


"OK (確認)"ボタンをクリックしたあと正しいアカウントとパスワードが適用されたら、録画サービスが実装されているサーバーの全JSS遠隔監視システムPROサービスが再起動されます。

3 再起動したあと、再び録画サービス設定ページで"ストレージ設定"タブの"Add (追加)"ボタンをクリックして"NAS"ボタンをクリックします。

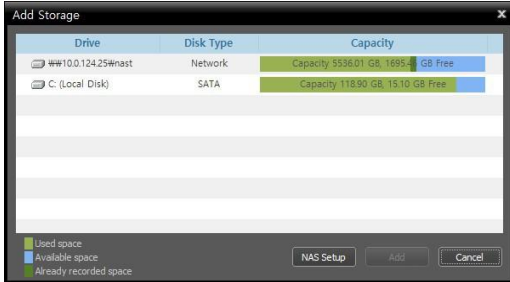


追加したいNAS経路をNAS urlに入力します。そして、そのNASサーバーに接続できるアカウントとパスワードを入力して"Apply (適用)"ボタンをクリックします。



"OK (確認)"ボタンをクリックして有効なNAS経路と接続可能なNASアカウントとパスワードを入力すると、録画サービスが再起動されます。

- 4 再起動したあと、"Add Storage (ストレージの追加)"ウィンドウでNetworkタイプのNAS経路が追加されていることを確認することができます。その後の割り当て方法は、サーバーのHDD割り当て方法と同じです。NetworkタイプのNASパスを削除するには、マウス右側ボタンをクリックして"削除"を選択します。



ストレージ変更時の通知

録画サービスに変更事項がある場合、通知が表示されます。

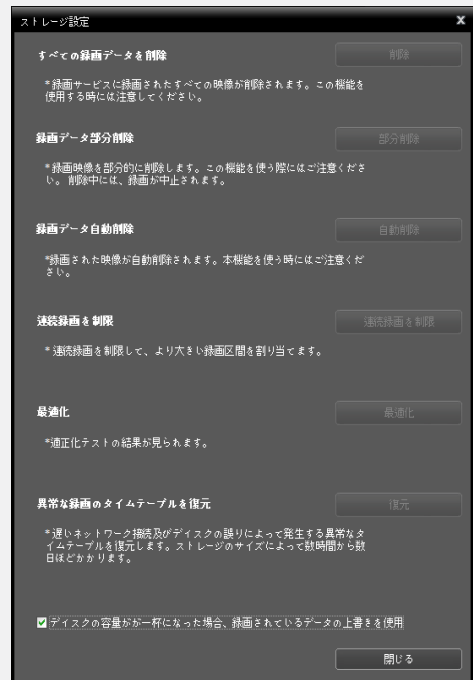
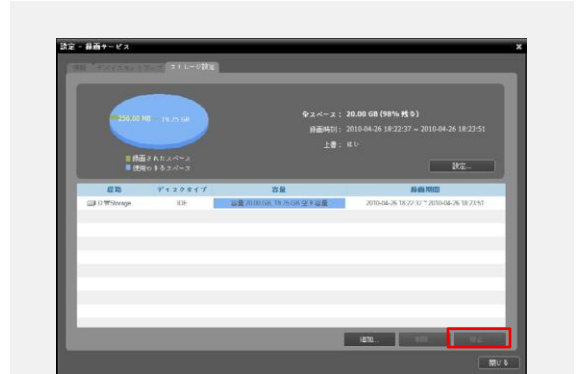
- クライアントにログインした時、ポップアップメッセージが表示されます。
- クライアントにログインした状態で録画サービスを再起動したとき、ポップアップメッセージが表示されます。
- サービスマネージャーのトレイアイコンから吹き出しが表示されます。
- プザーに対応するデバイスの場合、音でお知らせします。

ストレージの管理

現在録画サーバーで使用中のすべてのハードディスクドライブまたは特定のハードディスクドライブのストレージが管理できます。

すべてのハードディスクドライブのストレージ

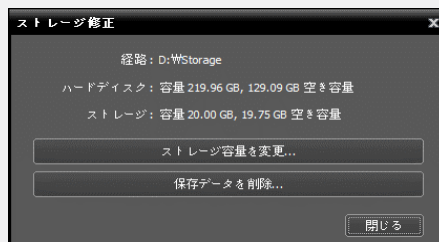
"設定"ボタンをクリックすると、"ストレージ設定"画面が表示されます。



- すべての録画データを削除：現在録画サーバーで使用しているすべてのハードディスクドライブの録画データをすべて削除します。
- 録画データ部分削除：各デバイスで特定区間の録画映像を削除することができます。削除が進行する間は録画が中止されます。
- 録画データ自動削除：一定の期間以前に録画された映像を自動的に削除します。期間を設定するには、“自動削除”ボタンをクリックしてから“使用”項目を選択します。例えば、期間を“30”日に設定する場合、毎日該当日にちを基準として30日前に録画された映像は自動的に削除されます。
- 連続録画を制限：録画保存空間でタイムラプス録画空間を制限して、他の録画（イベントベース録画、瞬間録画）により大きい空間を割り当てることができます。設定された期間のみのタイムラプス録画が保存され、残りの空間には他の録画映像が保存されます。期間設定のためには、“連続録画を制限”ボタンをクリックした後“使用”項目を選択します。例えば、期間を“30”日に設定するとタイムラプス録画は最大30日分のみが保存されます。自動削除日数よりも長い場合、タイムラプス記録の制限日数は適用されません。
- 最適化：ストレージの追加時に最適化した結果の値を示します。
- 異常な録画のタイムテーブルを復元：録画サーバーとデバイスのネットワーク接続が遅過ぎたり、録画サーバーのハードディスクドライブが傷ついている場合、録画データと録画データのタイムテーブル情報が一致しないことがあり、このため“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムのタイムテーブルが誤った情報を表示することがあります。この場合、ボタンをクリックすると、タイムテーブル情報を復元し、正しい録画データを表示することができます。
- ディスクの容量が一杯になった場合、録画されているデータの上書きを使用：割り当てられたストレージが一杯になった場合、古いデータから削除され、新しいデータが録画されます。

- 特定のハードディスクドライブのストレージ

ハードディスクドライブリストで該当ハードディスクを選択した後、下段にある“編集”ボタンをクリックします。“ストレージ修正”画面が表示されます。



- ストレージ容量を変更：ストレージの容量を増やすことができます。
- 保存データを削除：ストレージを初期化して該当ストレージに保存されたすべてのデータを削除します。

ストレージ容量の調整または初期化中には録画映像の検索及び再生が停止されます。

ストレージを初期化する場合、ストレージに保存されたすべてのデータが削除され、削除されたデータは復元することができません。

第16章 - イベント管理

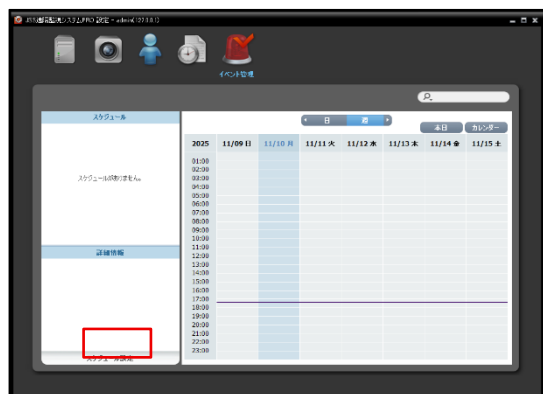
設定されたイベント管理スケジュールによって、クライアントシステムに通知されるイベント感知を管理することができ、クライアントシステムでイベント感知映像を監視または再生することができます。デバイスが使用するプロトコルの種類及びデバイスモデルによってイベント関連機能に対応しないことがあります(サポートプロトコル: JSS遠隔監視システムPROプロトコル、一部バージョンのAxis/Panasonic BB/Panasonic WV (DG)/RTSP/RTP/ONVIFプロトコル)。

イベント管理スケジュール設定

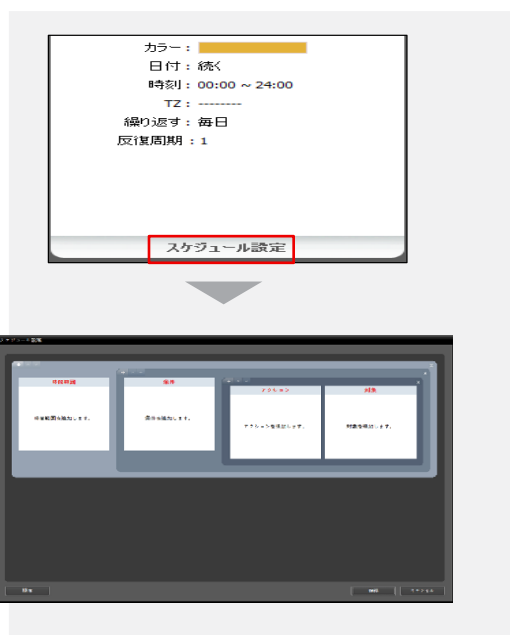
先ず次の内容を確認した後、“JSS遠隔監視システムPRO設定”プログラムを実行します。

- ・システムでサービスが実行されていないとなりません。詳しい内容は、[サービス実行](#)を参照してください。
- ・デバイスグループにデバイスが追加されていないとなりません。詳しい内容は、[第13章 - デバイス管理](#)を参照してください。

“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。→ “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行します。→ “イベント管理”メニューを選択した後、次の説明を参照してイベント管理スケジュールを設定します。



下段にある“スケジュール設定”ボタンをクリックします。“スケジュール設定”画面が表示され、各スケジュール画面に該当プリセットの現在設定値が表示されます。



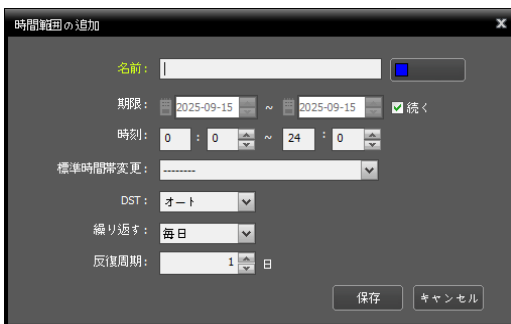
- ・時間範囲: スケジュールの時間を設定します。二つ以上の時間範囲を設定することができます。
- ・条件: イベント条件を設定します。同一の時間範囲に対して二つ以上のイベント条件を設定することができます。
- ・アクション: イベントアクションを設定します。同一のイベント条件に対して二つ以上のアクションを設定することができます。
- ・対象: イベントを管理するユーザーを選択します。

スケジュールの設定で“プリセット”とは時間範囲、条件またはアクションの設定値を1つの設定値にしたものを言います。

- 1 “時間範囲”スケジュール画面をダブルクリックした後、希望するプリセットを選択してスケジュールの時間を設定します。



“追加”または“修正”ボタンをクリックして新しいプリセットを追加したり保存されたプリセットを修正することができます。スケジュールの設定に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。



- 名前: プリセットの名前を入力します。
- 色彩: ボタンをクリックして希望する色を選択します。スケジュールテーブルでスケジュールが設定された時間区間が該当する色で表示されます。
- 期限: スケジュールの時間を設定します。“続く”を選択すると期間制限なく“条件”、“アクション”、“対象”のプリセット設定によって録画を続けます。
- 時刻: スケジュール時間を設定します。
- 標準時間帯の変更: スケジュールで使用する時間基準を設定します。
- DST: サマータイムを使用するかどうかを設定します。
- 繰り返す、反復周期: 間隔及び該当間隔が適用される期間を設定します。設定した反復周期の間、設定した間隔で指定された使用者にイベントを通知します。
- 使用する: “時間範囲”機能の使用可否を設定します。

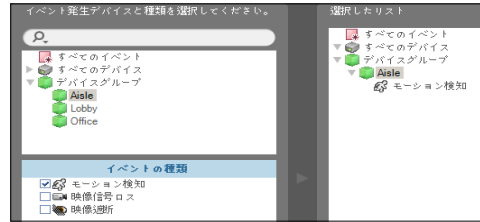
- 2 “条件”スケジュール画面をダブルクリックした後、条件のプリセットを選択して、イベント条件を設定します。“追加”または“修正”ボタンをクリックして新しいプリセットを追加したり、保存されたプリセットを修正することができます。“追加”または“修正”ボタンをクリックすると、以降の設定画面が表示されます。



- 名前: プリセットの名前を入力します。
- 条件の種類: イベント 条件の種類を選択します。

イベント条件

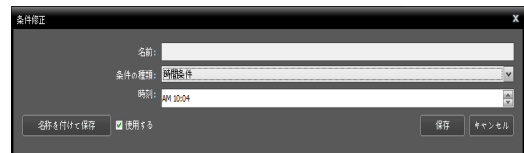
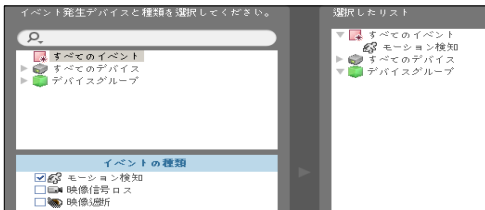
デバイスで一定のイベントが検知されるとそれを通知します。



- デバイスグループ: 指定したデバイスグループで指定したイベントが検知されるとイベントを通知します。“デバイスグループ”をダブルクリックすると、登録されたデバイスグループが表示されます。→ “デバイスグループ”でイベントを検知するデバイスグループをクリックすると、下段の“イベントの種類”リストで該当するデバイスグループでサポートするイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると、右側にある“デバイスグループ”リストの下に選択したデバイスグループと選択したイベントが追加されます。

時間条件

設定した時間になると、イベント動作の設定によってこれを通知します。



- すべてのイベント: 指定したイベントが検知されるとイベントを通知します。“すべてのイベント”をクリックすると、下段にイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると右側にある“すべてのイベント”リストの下に選択したイベントが追加されます。

- 時間: 時間を設定します。

使用者アラームイン

JSS遠隔監視システムPROで各デバイスについて使用者アラームインイベントが検知されるとそれを通知します。使用者アラームインイベントの登録に関する内容は、“[第 13 章 - デバイス管理、使用者アラームインイベントの設定](#)”を参照してください。



- すべてのデバイス: 指定したデバイスまたはカメラで指定したイベントが検知されるとイベントを通知します。“すべてのデバイス”をダブルクリックすると、登録されたデバイスまたはカメラのリストが表示されます。

“すべてのデバイス”でイベントを検知するデバイスまたはカメラをクリックすると、下段の“イベントの種類”リストに該当するデバイスまたはカメラでサポートするイベントの種類が表示されます。

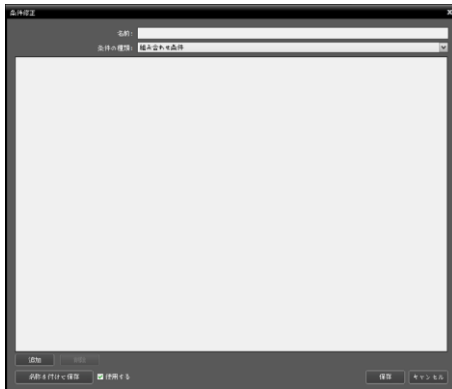
→ 希望するイベントの種類を選択すると、右側にある“すべてのデバイス”リストの下に選択したデバイスまたはカメラと選択したイベントが追加されます。



- 名前: 管理サービスに登録されているユーザーアラームインイベントのリストを表示します。
 - プロトコル: 該当のイベントが使用するプロトコルを表示します。
 - イベント文字列: 利用者アラームインイベントを発生させる文字列を表示します。
- 通知する利用者アラームインイベントを選択します。

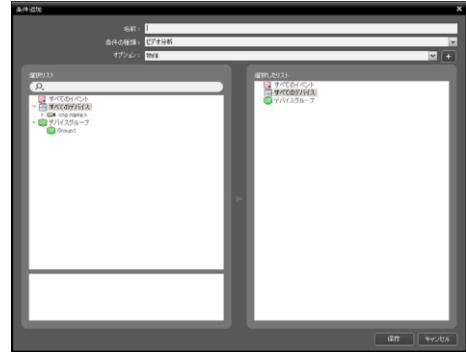
組み合わせ条件

二つ以上の条件が同時に満たされたら、動作設定によって動作します。



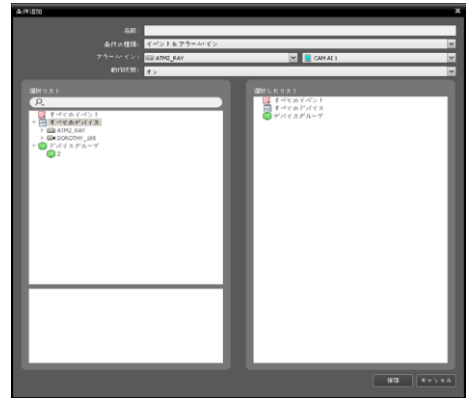
ビデオ分析条件

映像分析サービスで発生したイベントの場合、イベントの種類およびルールの名前、発生した物体の種類が条件を満たすと動作設定によって動作します。例えば、滞留イベントを発生させた物体が人であるときのみ発生するように条件を設定することができます。



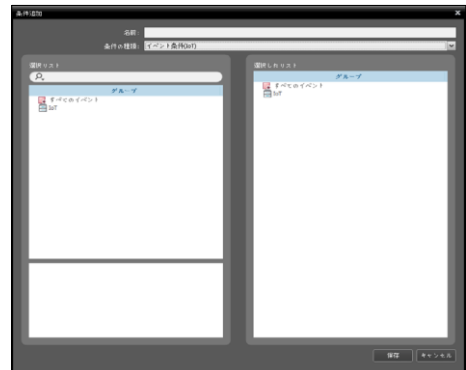
イベント&アラーム条件

アラームインイベント発生後、設定したイベントが発生した場合、モーション設定が動作するよう組み合わせ条件を設定できます。



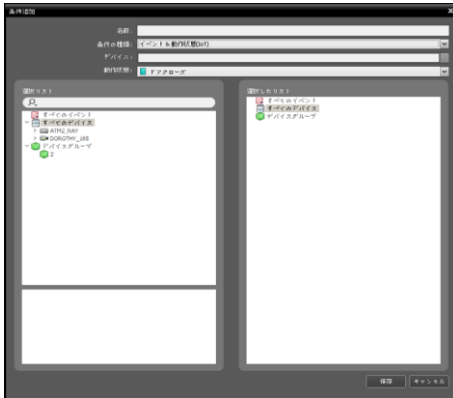
イベント条件(IoT)

IoTイベントが検知されると、動作設定に応じて動作します。



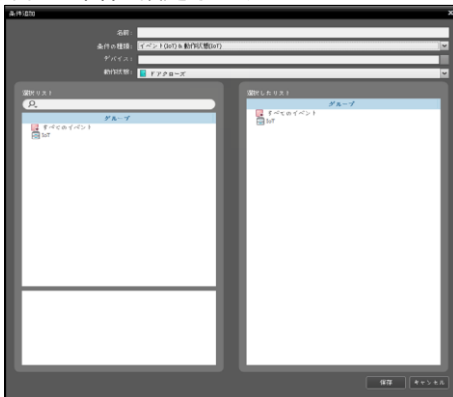
イベント&動作状態(IoT)条件

IoTイベント発生後、設定したイベントが発生した場合、モーション設定が動作するよう組み合わせ条件を設定できます。



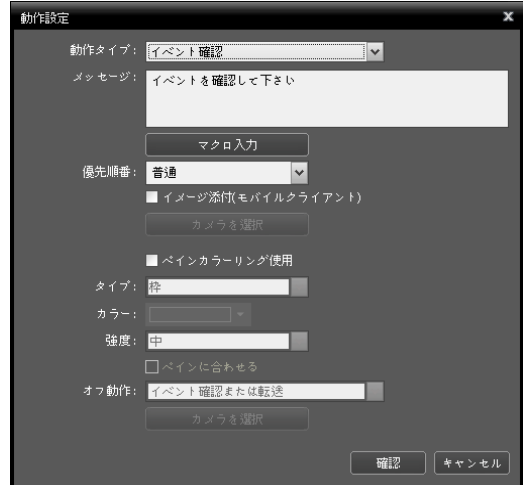
イベント(IoT)&動作状態(IoT)条件

2つのIoTイベントが発生した場合、動作設定が動作するよう組み合わせ条件を設定できます。

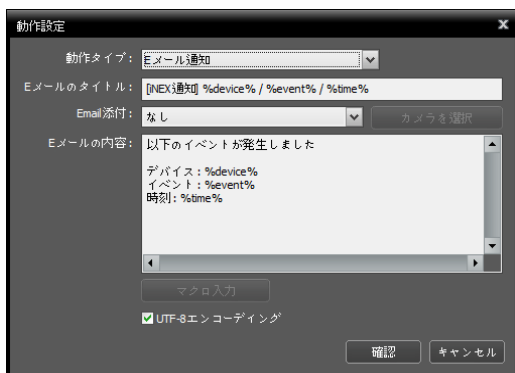


3 “アクション”スケジュール画面をダブルクリックした後、希望するアクションを設定します。

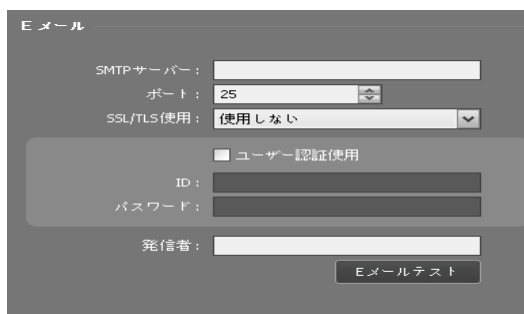
- イベント確認: イベント感知時に“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムにイベントログを表示します。




- 優先順番: イベントの優先順番を選択します。イベントログに優先順番が一緒に表示されます。
- イメージ添付 (モバイルクライアント): イベント確認時に発生したイベントのスケジュールイメージを一緒に送信します。モバイルクライアントでのみ確認可能であり、録画サービスに登録して、録画されているデバイスにのみ動作します。
- ペインカラーリング使用: ペインに色を適用します。
- タイプ: ペインカラーリングのタイプを指定します。
 - 枠: ペインを指定された色でオーバーレイレンダリングします。
 - 塗りつぶし: 枠を指定された色でレンダリングします。
- カラー: 色を指定します。
- 強度: 塗りつぶしモードでは不透明度を設定することができ、枠モードでは枠の厚さを設定します。
- ペインに合わせる: 領域をペイン全体に合わせます。
- オフ動作: オフ動作を設定します。
- カメラを選択: ペインカラーリングを適用するカメラを選択します。
- Eメール通知: イベント感知時にクライアントユーザーにEメールを転送します。



- Eメールのタイトル: Eメールのタイトルを入力します。
- Email添付: カメラを選択すると、当該カメラのスチール画像を添付することができます。
- Eメールの内容: Eメールの内容を入力します。“マクロ入力”ボタンをクリックすると使用可能なマクロのリストが表示され、好きなマクロを選択するとEメール送信時に該当マクロが適用されます。
- UTF-8エンコーディング: UTF-8エンコーディングかどうかを設定します。UTF-8でエンコードされて送信される場合、受信側で再エンコードする場合にのみ、文字列が正常に表示されます。

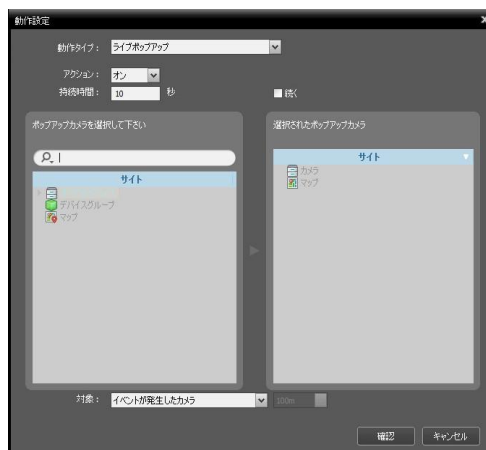


本機能が正しく動作するためには、Eメール送信のためのSMTPサーバー情報(JSS遠隔監視システムPRO設定→“サービス”メニュー → (システム設定)ボタン)及びクライアントユーザーのEメールアドレスが入力されていなければなりません。Eメールを受け取るクライアントユーザーのEメールアドレスの入力に関する内容は、“[第14章 - ユーザー管理](#)”を参照してください。

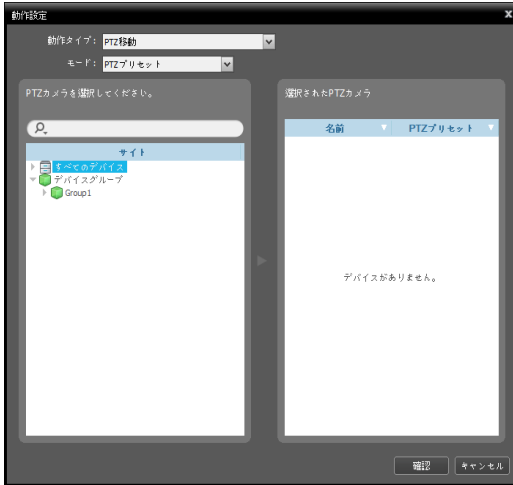
サービスメニューで  (システム設定)ボタンをクリックしてSMTPサーバー情報を入力します。

SMTPサーバー、ポート: SMTPサーバーのアドレス及びポート番号を入力します。SSL接続の必要なSMTPサーバーを使用する場合、“SSL/TLS使用”オプションを選択します。

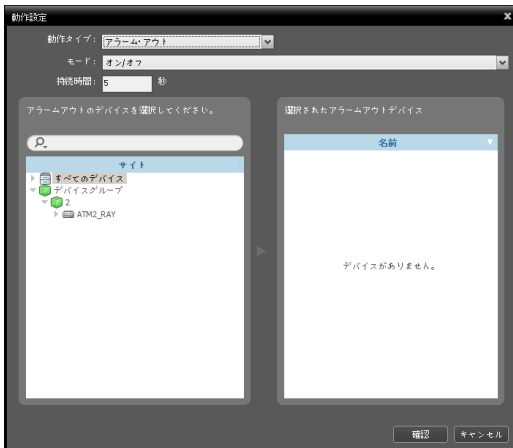
- ユーザー認証使用: SMTPサーバーにユーザー認証が必要な場合、ユーザーIDとパスワードを入力します。
- 発信者: Eメール発信アドレスを入力します。
- Eメールテスト: SMTPサーバー 情報が正しく設定されているかを確認します。
- ライブポップアップ: イベント感知時にイベントが感知されたカメラのリアルタイム映像(最大36個)のポップアップ画面がクライアントシステムに表示されます。



- アクション: ポップアップ画面を表示したり、閉じたりすることができます。
- 持続時間: ポップアップ画面が表示される時間を入力します。“続く”を選択すると、時間の制限なくポップアップ画面が維持されます。
- ポップアップカメラを選択して下さい: ポップアップ画面を表示するカメラ(最大4個)を選択します。“イベントが発生したカメラ”オプションを選択すると、イベントが感知されたカメラの映像のみポップアップします。
- 対象: ポップアップ対象を設定します。半径を選択すると、GPS情報を基準に周りにあるカメラの映像をポップアップします。
- PTZ移動: イベント感知時PTZカメラをプリセット位置に移動させます (JSS遠隔監視システムPRO、Axis、Panasonic WV (DG)、または ONVIF プロトコルを使用するデバイスのうちPTZプリセット機能をサポートするデバイスの場合にのみ対応)。

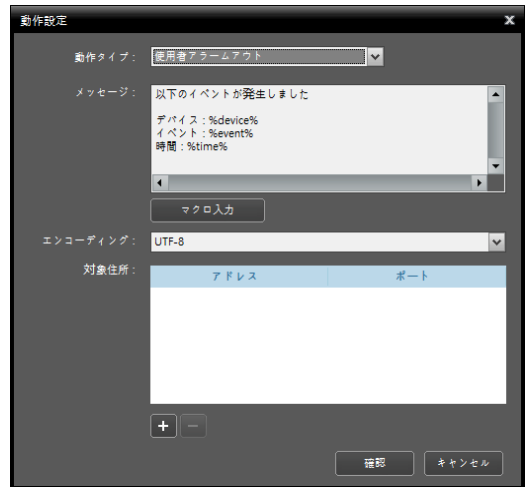


- モード：PTZプリセットまたはツアーを選択します。
 - PTZカメラを選択してください：移動するカメラを選択します。この機能はPTZカメラのみ対応します。
 - 選択されたPTZカメラ：選択したカメラを表示し、カメラが移動するプリセットまたはツアーを選択できます。
- アラームアウト：イベント検知時アラーム出力を動作させます(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。



- 持続時間：アラーム出力を維持する時間を入力します。
- モード：オン、オフ、オン/オフモードの選択ができます。
- アラームアウトのデバイスを選択してください：動作させるアラーム出力デバイスを選択します。

- 使用者アラームアウト：イベント検知時以下で設定したデバイスにTCPネットワークを通じて文字列(UTF-8エンコーディング)を転送します。



- メッセージ：転送する文字列を入力します。
- エンコーディング：文字列エンコーディングを選択します。
- 対象住所：下段の+ボタンをクリックしてから、文字列を転送してもらうデバイスのIPアドレスとポート番号を入力します。

使用者アラームインイベントと連動するには、対象アドレスに使用者アラームインイベントを発生させるJSS遠隔監視システムPROのIPアドレスと該当JSS遠隔監視システムPROのモニタリングサービスのアラームインポート番号を入力します。

使用者アラームインイベントに関する内容は、「[第13章 一デバイス管理、使用者アラームインイベントの設定](#)」を参照してください。

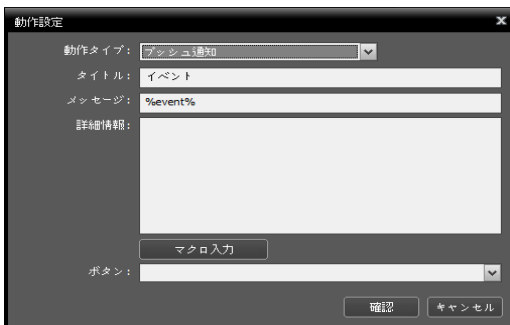
- イベントログ：イベントが検出されたときにイベントログを保存します。



- オーディオアウト: イベント検知時、当該カメラで選択されたオーディオを再生します。



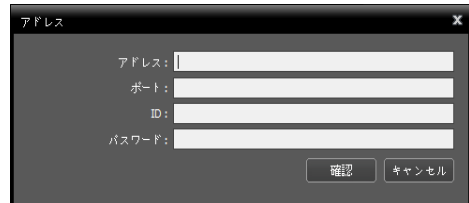
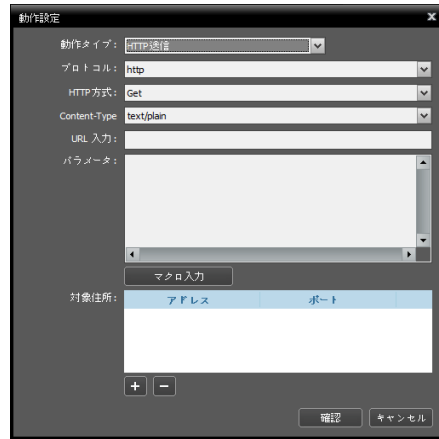
- カメラ選択: オーディオアウトを実行するカメラを選択します。
- 選択されたカメラリスト: 選択されたカメラで再生するオーディオファイルを選択します。
- プッシュ通知: イベントが検出されたときにモバイルクライアントにプッシュ通知を送信します。



- タイトル: プッシュメッセージのタイトルを入力します。
- メッセージ: プッシュメッセージの内容を入力します。
- 詳細情報: プッシュメッセージの詳細情報を入力します。

- ボタン: プッシュメッセージで監視または再生ボタンを含めるかどうかを選択します。

- HTTP送信: イベント検知時、設定によって当該デバイスにHTTPコマンドを送信します。



- プロトコル: 使用するプロトコルを選択します。
- HTTP方式: GET、POST方式を選択します。
- Content-Type: HTTPヘッダーに使用するデータ形式を設定します。
- URL入力: 使用するURLを入力します。
- パラメータ: 必要なパラメータを入力します。マクロ入力をクリックすると、使用可能なマクロのリストが表示され、希望するマクロを選択すると、HTTP転送時にそのマクロを適用します。
- 対象アドレス: 下にある+ボタンをクリックした後、HTTPを受信するデバイスのIPアドレスおよびポート番号、ID、パスワードを入力します
- サウンドを再生: イベント検出時にモニタリングサービスで設定したサウンドファイル (*.wav) を再生します。

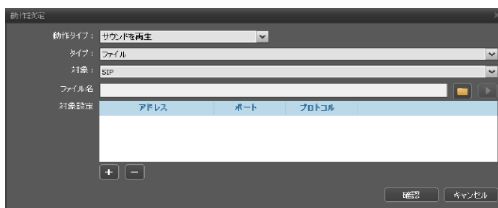


- ファイル名: サウンドファイルを選択します。
- サウンドを再生(TTS_再生): イベントを検知する時、当該モニタリングサービスで設定されたメッセージを再生します。



- メッセージ: 再生するメッセージを入力します。
- 音声速度: メッセージの再生速度を設定します。
- 性別: メッセージ 再生・音声・性別を設定します。

- サウンドを再生(SIP): イベント検出時にモニタリングサービスで設定したサウンドファイル (* .wav) またはTTSをデバイスで再生します。

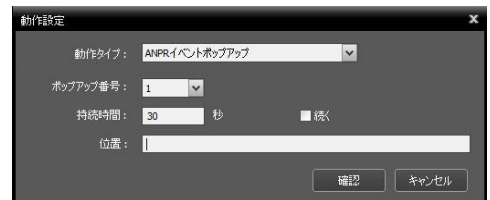


- タイプ: サウンドファイルまたはTTSを選択します。
- ファイル名: サウンドファイルを選択します。
- 対象設定: SIPデバイスのサーバー情報を入力します。

- サウンドを再生(デバイス): イベント検出時にモニタリングサービスで設定したサウンドファイル (* .wav) をデバイスで再生します。



- ファイル名: サウンドファイルを選択します。
- イベントが発生した当該カメラ: イベントが発生した当該カメラに音声再生動作を適用します。
- ANPRイベントポップアップ: ANPRイベントとして検出された車両情報 (ブロックまたは許可リスト) を含むポップアップウィンドウを表示します。一部のカメラでは、ANPR検出静止画像も表示されます。

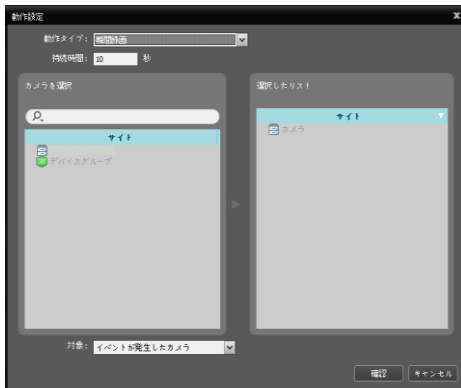


- ポップアップ番号: 車両情報を表示するポップアップ番号を選択します。
- 持続時間: ポップアップを維持する時間を入力します。
- 位置: ポップアップ表示する位置を入力します。
- アラーム・アウト(IoT): イベントを検知した場合、そのモニタリングサービスでサイレン動作信号を伝送します。

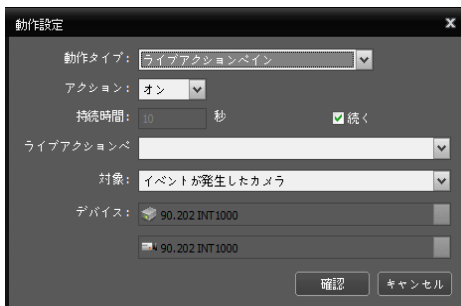


- オン: サイレンのオン、オフを設定します。

- タイプ：サイレン動作対象をデバイスまたはグループの中から選択します。
- サウンドファイル：サイレンで再生するサウンドを選択します。
- 継続時間：サイレンオンの動作の時の継続時間を設定します。“続く”を選択した場合、ユーザーが手動でサイレンをオフにする必要があります。
- 瞬間録画：イベント条件の設定によってイベント監視の際に、設定したデバイスを緊急録画します。(本機能は一部のNVRでのみサポートしています。)



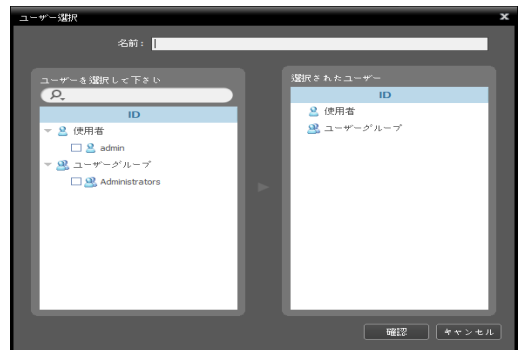
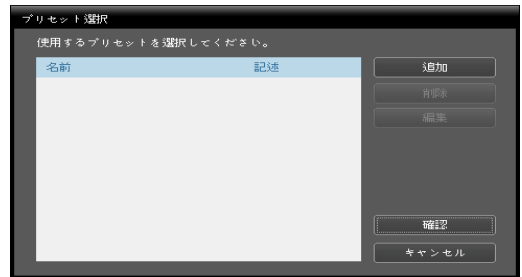
- 持続時間：緊急録画を維持する時間を入力します。
- カメラの選択：緊急録画するデバイスを選択します。イベントが発生したそのカメラのオプションを選択すると、イベントを検出したカメラの映像のみ緊急録画します。
- 対象：ポップアップ対象を設定します。
- ライブアクションペイン：イベント条件の設定によってイベントを検出したときに、そのライブアクションペインに設定したデバイスの映像を表示します。



- 動作：映像を表示または非表示にします。
- 持続時間：映像を表示する時間を入力します。制限なしを選択すると、時間制限なく映像を表示し続けます。

- ライブアクションペイン：映像を表示するライブアクションペインを選択します。
- 対象：ペインに表示するデバイスを選択します。イベントが発生したそのカメラのオプションを選択すると、イベントを検出したカメラの映像を表示します。

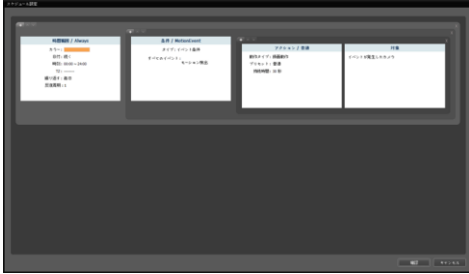
4 “対象”スケジュールウィンドウをダブルクリックし、イベント通知を受けるプリセットを選択します。



スケジュールの管理

新しいスケジュールの追加

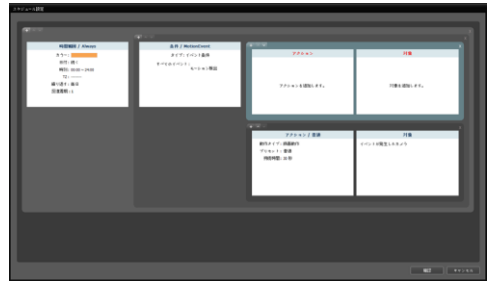
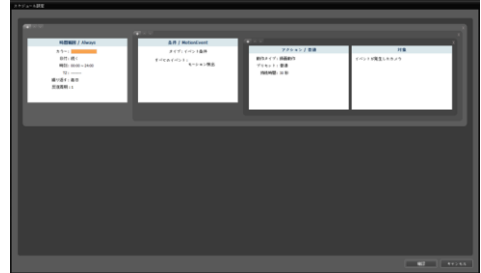
- 時間範囲が異なる新しいスケジュールを追加する場合：“時間範囲”スケジュール画面の左上段にある **+** ボタンをクリックして完全に新しいスケジュールを追加することができます。



- 同じ時間範囲の新しいスケジュールを追加する場合：“条件”スケジュール画面の左上段にある **+** ボタンをクリックして同じ時間範囲に新しいスケジュールを追加することができます。



- 同じ時間範囲および条件の新しいスケジュールを追加する場合：“アクション”スケジュール画面の左上段にある **+** ボタンをクリックして同じ時間範囲および条件に新しいスケジュールを追加することができます。



スケジュールの検索

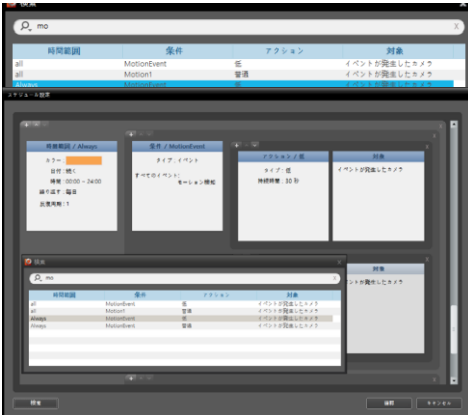
- スケジュール画面の左下段にある“検索”ボタンをクリックすると、“検索”ウィンドウが表示されます。



- 上部の検索窓に検索するテキストを入力した場合：検出された結果が下に表示されます。



- 下部のリストからスケジュールを選択した場合：スケジュールウィンドウで、スケジュールが存在する位置にスクロールがされ、そのスケジュールが選択されます



スケジュールの削除

各スケジュール画面の右上段にある ボタンをクリックすると、該当スケジュールを削除します。

スケジュールの位置の変更

各スケジュール画面の左上段にある または ボタンをクリックしてスケジュールの位置を変更することができます。スケジュール間で優先順番はなく、すべてのスケジュールを実行します。

イベント管理

イベント管理スケジュールによるイベント通知時に該当イベント映像をリアルタイムで監視したり再生することができます。先ず次の内容を確認した後、“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラムを実行します。

- システムでサービスが実行されていなければなりません。詳しい内容は、[サービス実行](#)を参照してください。
- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、[第13章 - デバイス管理](#)を参照してください。
- イベント管理スケジュールが設定されていなければなりません。詳しい内容は、[イベント管理スケジュール設定](#)を参照してください。

ライブポップアップ

イベントが感知されたカメラのリアルタイム映像が監視できます。イベント感知時にイベント管理スケジュール(“アクション”スケジュール画面：“ライブポップアップ”アクションで設定)によってポップアップ画面が表示されます。ライブポップアップリストにはクライアントシステムで表示されたライブポップ画面のリストが表示されます。

ポップアップ画面



画面を選択した後、マウスのカーソルを該当画面にあてると制御ツールバーが表示されます。制御ツールバーを利用して該当カメラをコントロールすることができます。マウスのカーソルを各ボタンの上にあてると該当ボタンのツールチップが表示されます。制御ツールバーボタンに関する詳しい内容は**制御ツールバー**を参照してください。

ポップアップ画面でマウスを右クリックすると、ポップアップ画面のメニューが表示されます。メニューを利用してポップアップ画面設定を変更することや該当カメラをコントロールすることができます。カメラコントロールメニューの場合、監視画面メニューの機能と同一です。詳しい内容は、**カメラの制御**を参照してください。

ライブポップアップリスト



右上にある矢印ボタンをクリックすると、ライブポップアップメニューが表示されます。メニューを利用してポップアップ画面の設定を変更することができます。

- レイアウト: ポップアップ画面の画面分割を選択します。“シングルポップアップ使用”を選択すると、単一のポップアップのみ画面に表示されます。
- モニター: デュアルモニターを使用する場合、ポップアップ画面を出力するモニターを選択します。
- ライブポップアップ無視: 時間を選択すれば、イベント管理スケジュール(“動作”スケジュール → “ライブポップアップ”動作で設定)の設定と関係なく、選択した時間中にはライブポップアップが動作しません。

- タイムアウト解除: 設定されたポップアップ画面の持続時間に関係なく、ポップアップ画面を手動で閉じるときに選択します。
- すべて削除: すべてのポップアップ画面を削除します。

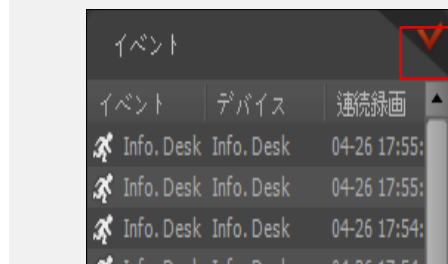
イベント確認

イベント検知時にイベントが検知されたカメラのリアルタイム映像が監視でき、該当イベント検知映像が録画されていれば映像を再生することができます。イベント管理スケジュール(“アクション”スケジュール画面: “イベント確認”アクションで設定)によってイベント検知時にイベントマネージャーパネルが自動的に表示されるか、次のように手動でイベントマネージャーパネルを表示させることができます。

“ビュー”メニューに移動した後、“イベントマネージャーパネル”をクリックします。または、最近のイベントリストで ボタンをクリックします。



または



イベントマネージャーパネルが表示されます。

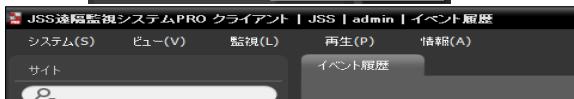
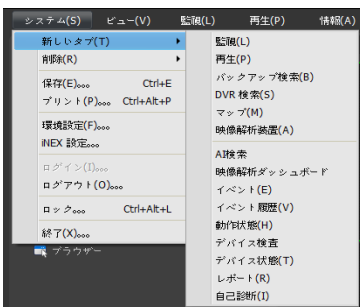


設定されたイベント管理スケジュールによってクライアントシステムに通知されたイベントのリストが表示されます。

- **自動ポップアップ:** クライアントシステムにイベントを通知する際、自動的にイベントマネージャーパネルが表示されます。
- **新しいイベント:** クライアントシステムに通知されたイベントのうち、まだ確認されていないイベントを表示します。
 - (イベント確認): リストで選択したイベントを確認します。確認されたイベントは“確認したイベント”リストに移動します。
 - (イベント発送): 選択した接続状態のユーザーにイベントを転送します。
 - (再生): 選択したイベント感知映像が録画されていれば映像を再生します。
- **確認したイベント:** クライアントシステムで確認したイベントを表示します。

ログ検索

イベントマネージャーパネルに表示されたイベントのログが検索できます。ログ検索は、イベント履歴でサポートします。パネルタブにイベント履歴タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“イベント履歴”をクリックしてタブを追加します。

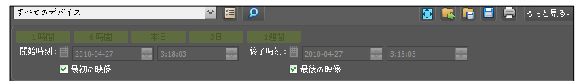


ログリストが表示されます。コラムタイトルでマウスを右クリックすると表示されるメニューを利用して、データを自由に分類できます。



イベント履歴のツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて特定のログを検索することができます。



- **開始時刻、終了時刻:** 検索するログの日付及び時間を入力します。特定の日付及び時間を入力したり“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択して設定することができます。“1時間”、“6時間”、“本日”、“3日”または“1週間”ボタンをクリックすると、“開始時刻”と“終了時刻”の時間間隔をその間隔に調整します。“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択すると最初に発生したログから最後に発生したログまで検索します。
- (条件): 検索するログの種類を選択します。
- (全体画面): イベント管理パネルを全体画面で表示します。
- (プリセット適用): クライアントシステムに保存されたコラム分類を適用します。
- (プリセット保存): 現在のコラム分類をクライアントシステムに保存します。
- (検索): 検索条件によって検索を開始します。
- (保存): 検索結果をファイル(.txt, .csv, .html, .pdf)で保存します。
- (印刷): 検索結果をプリントします。
- **もっと見る:** 次の結果を表示します。

第17章 –マップエディター

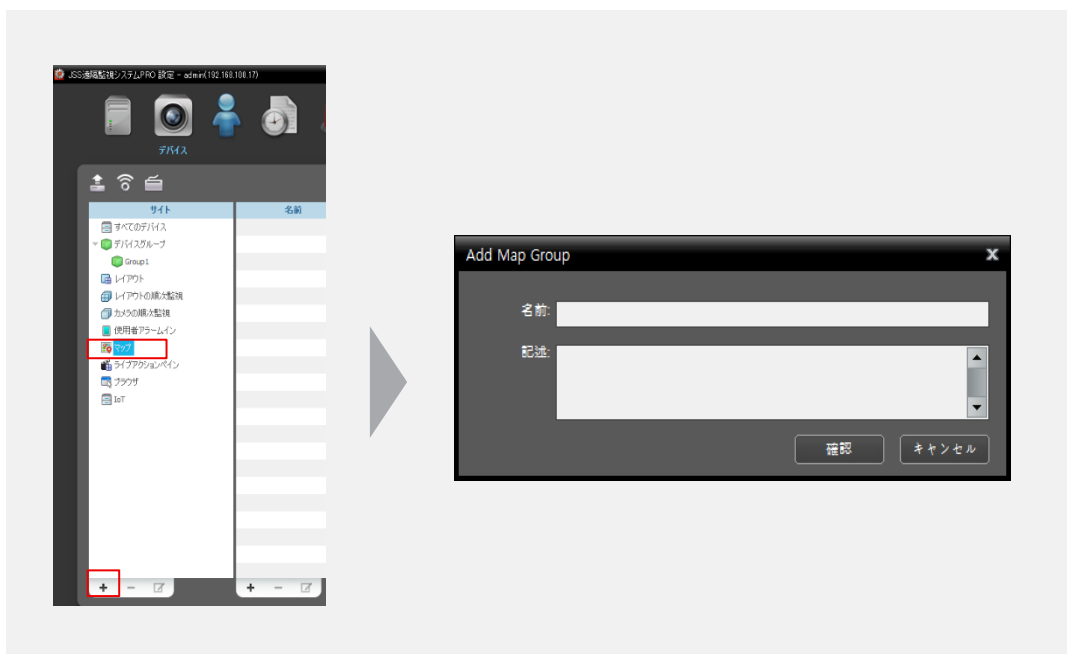
マップを登録してクライアントシステムでカメラ映像、イベント感知、接続された入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。

デバイスが使用するプロトコルの種類及びデバイスモデルによって本機能が対応しないことがあります(サポートプロトコル: JSS遠隔監視システムPROプロトコル、一部バージョンのAxis/Panasonic BB/Panasonic WV (DG)/RTSP/RTP/ONVIFプロトコル)。

マップの登録

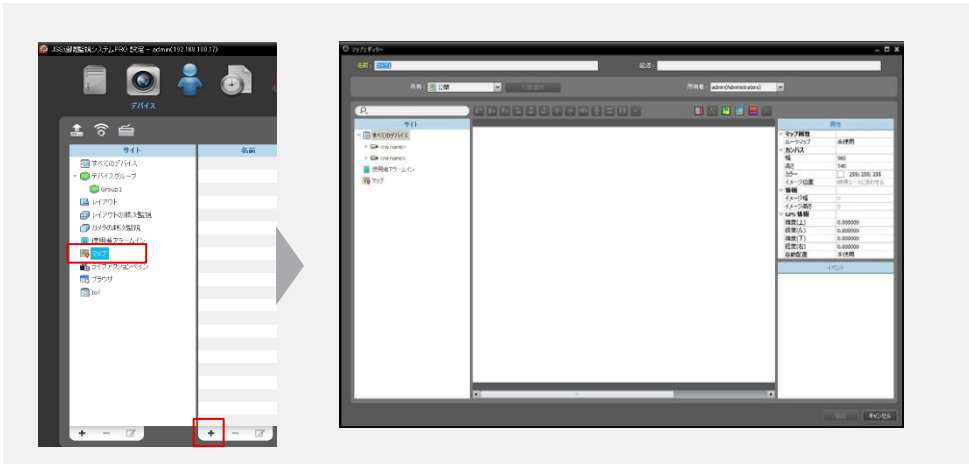
マップグループの登録

- 1 “スタート”メニューで“JSS遠隔監視システムPRO Setup”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。
- 2 “サイト”パネルで“マップ”をクリックした後、左側の“サイト”パネルの下段にある**+**ボタンをクリックします。“マップグループの追加”画面が表示されます。



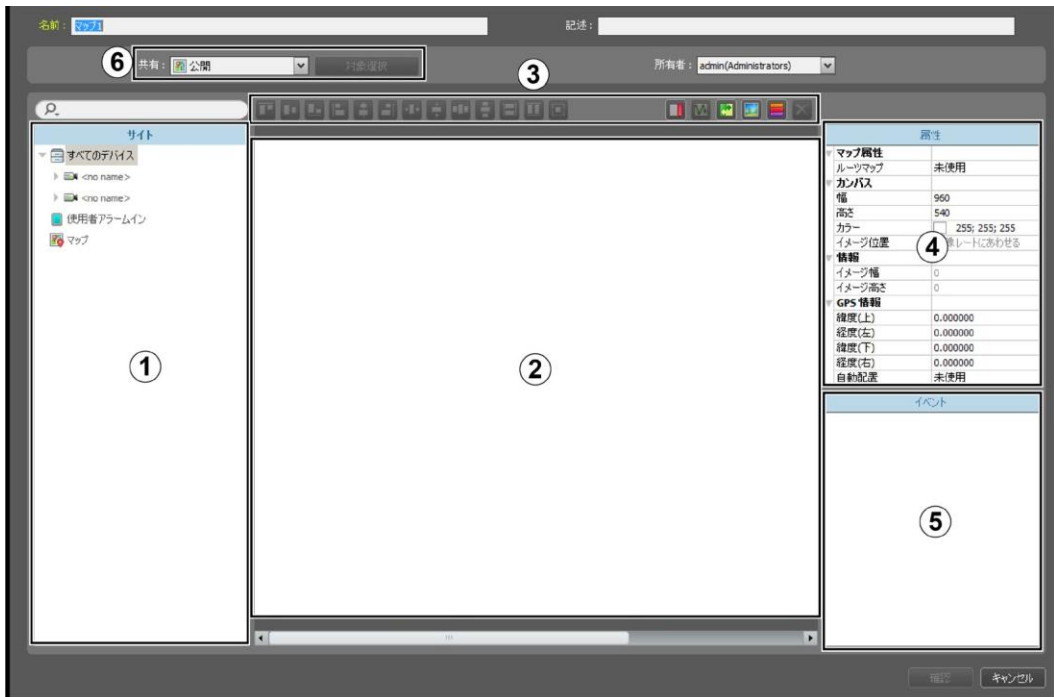
マップの登録

- 1 “スタート”メニューで“JSS遠隔監視システムPRO Setup”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。
- 2 “サイト”パネルで“マップ”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある**+**ボタンをクリックします。“マップエディター”画面が表示されます。



- 3 “サイト”パネルでデバイスに接続された入/出力デバイスおよび下位マップを選択してからキャンバスの任意の位置へマウスでドラック&ドロップします。
- 4 マップを設定します。詳しい内容は、**マップ設定**を参照してください。
- 5 マップ名を入力してから“確認”ボタンをクリックしてマップの登録を終了します。

マップ設定



1	サイト	登録されたデバイス及びマップリストを表示します。🔍ボタンの横に検索語を入力して登録されたデバイス及びマップを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
2	キャンバス	マップの背景イメージを挿入してからサイトリストで希望の入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクを配置してマップを構成します。
3	設定ボタン	<p>マップを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 整列: キャンバスに配置された入/出力デバイスのアイコンまたはマップリンクを使用者が好みで整列します。 • 📄 (テキストボックス): テキストを入力できるテキストボックスを挿入します。 • 📍 (経路順次監視): 順次監視経路を設定します。詳しい内容は、経路順次監視を参照してください。 • 🔄 (マップオブジェクト名の同期化): デバイスの設定によって入/出力デバイスの名前を同期化します。 • 🖼️ (背景イメージロード): キャンバスに希望の背景イメージを入れます。 • 🎨 (状態カラー): マップにイベント感知および入/出力デバイスの状態を固有の色で表示するように設定することができます。 • ✖️ (削除): キャンバスで入/出力デバイスのアイコンまたはマップリンクを選択してボタンをクリックすると選択した入/出力デバイスアイコンまたはマップリンクをキャンバスから削除します。
4	属性	マップ、マップのキャンバスまたはキャンバスに配置された入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクの属性を設定します。
5	イベント	キャンバスに配置された入/出力デバイスアイコンのイベント動作を設定します。マップ監視時イベントが発生すると設定した通りにイベント発生を通知します。

6	共有/所有者	<ul style="list-style-type: none"> 共有：共有する範囲を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 対象選択：共有対象を直接選択します。 所有者：マップの所有者を設定します。
---	--------	--

アイコンの整列

1つ以上の入/出カデバイスアイコンおよびマップリンクを選択してから整列ボタンをクリックしてキャンバスでの配置および大きさを一括で修正することができます。



- / (位置調節): 1つ以上のアイコンに対して選択したアイコンを背景イメージの縦/横の中央整列します。
- / , / , / (位置調節): 2つ以上のアイコンに対して選択したすべてのアイコンを一番後で選択したアイコンを基準に上段/下段、縦/横の中央または左/右に整列します。
- / (間隔調節): 3つ以上のアイコンに対して選択したデバイスの間をすべて同じに整列します。
- / / (大きさ調節): 2つ以上のアイコンに対して選択したアイコンの幅/高さ/大きさをすべて同じに調節します(幅および高さの比率が異なる同じアイコンのみ該当)。


属性



キャンバスまたはキャンバスに配置された入/出カデバイスアイコンおよびマップリンクの属性を設定することができます。キャンバスまたはアイコン、マップリンクを選択してから属性の各項目を選択して希望の値を直接入力したりドロップダウンメニューで希望の値を選択します。

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">属性</td></tr> <tr><td>マップ属性</td><td>未使用</td></tr> <tr><td>キャンバス</td><td></td></tr> <tr><td>幅</td><td>960</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>540</td></tr> <tr><td>カラー</td><td><input type="checkbox"/> 255; 255; 255</td></tr> <tr><td>イメージ位置</td><td>映像レードにあわせる</td></tr> <tr><td>情報</td><td></td></tr> <tr><td>イメージ幅</td><td>0</td></tr> <tr><td>イメージ高さ</td><td>0</td></tr> <tr><td>GPS 情報</td><td></td></tr> <tr><td>経度(左)</td><td>0.000000</td></tr> <tr><td>経度(上)</td><td>0.000000</td></tr> <tr><td>経度(右)</td><td>0.000000</td></tr> <tr><td>経度(下)</td><td>0.000000</td></tr> <tr><td>自動配置</td><td>未使用</td></tr> <tr><td>デバイスの種類</td><td>[カメラ]</td></tr> <tr><td>カメラ</td><td>True</td></tr> <tr><td>VA</td><td>False</td></tr> <tr><td>PIR</td><td>False</td></tr> <tr><td>アラーム・イン</td><td>False</td></tr> <tr><td>アラーム・アウト</td><td>False</td></tr> <tr><td>ネットワークアラーム</td><td>False</td></tr> <tr><td>テキストインデバイス</td><td>False</td></tr> <tr><td>オーディオイン</td><td>False</td></tr> </table>	属性		マップ属性	未使用	キャンバス		幅	960	高さ	540	カラー	<input type="checkbox"/> 255; 255; 255	イメージ位置	映像レードにあわせる	情報		イメージ幅	0	イメージ高さ	0	GPS 情報		経度(左)	0.000000	経度(上)	0.000000	経度(右)	0.000000	経度(下)	0.000000	自動配置	未使用	デバイスの種類	[カメラ]	カメラ	True	VA	False	PIR	False	アラーム・イン	False	アラーム・アウト	False	ネットワークアラーム	False	テキストインデバイス	False	オーディオイン	False	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">一般</td></tr> <tr><td>名前</td><td>Alarm In</td></tr> <tr><td>アイコン</td><td>アラーム・イン センサ</td></tr> <tr><td>倍率</td><td>50</td></tr> <tr><td>X座標</td><td>406</td></tr> <tr><td>Y座標</td><td>99</td></tr> <tr><td>幅</td><td>32</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>32</td></tr> <tr><td>運動カメラ</td><td>対象選択</td></tr> <tr><td>ハロー効果</td><td>未使用</td></tr> <tr><td>情報</td><td></td></tr> <tr><td>名前</td><td>Alarm In</td></tr> </table>	一般		名前	Alarm In	アイコン	アラーム・イン センサ	倍率	50	X座標	406	Y座標	99	幅	32	高さ	32	運動カメラ	対象選択	ハロー効果	未使用	情報		名前	Alarm In	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">一般</td></tr> <tr><td>名前</td><td>BANK 1</td></tr> <tr><td>X座標</td><td>347</td></tr> <tr><td>Y座標</td><td>219</td></tr> <tr><td>幅</td><td>128</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>32</td></tr> <tr><td>テキストカラー</td><td><input type="checkbox"/> 255; 255; 255</td></tr> <tr><td>背景カラー</td><td><input checked="" type="checkbox"/> 85; 110; 215</td></tr> <tr><td>不透明度</td><td>80</td></tr> <tr><td>文字整列</td><td>左</td></tr> <tr><td>情報</td><td></td></tr> <tr><td>名前</td><td>BANK 1</td></tr> </table>	一般		名前	BANK 1	X座標	347	Y座標	219	幅	128	高さ	32	テキストカラー	<input type="checkbox"/> 255; 255; 255	背景カラー	<input checked="" type="checkbox"/> 85; 110; 215	不透明度	80	文字整列	左	情報		名前	BANK 1	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">一般</td></tr> <tr><td>Text</td><td>test</td></tr> <tr><td>Font Face</td><td>Microsoft Sans Serif</td></tr> <tr><td>Font Size</td><td>9</td></tr> <tr><td>テキストカラー</td><td><input type="checkbox"/> 0; 0; 0</td></tr> <tr><td>背景カラー</td><td><input type="checkbox"/> 255; 255; 255</td></tr> <tr><td>文字整列</td><td>左、上</td></tr> <tr><td>Bold</td><td>未使用</td></tr> <tr><td>Italic</td><td>未使用</td></tr> <tr><td>Underline</td><td>未使用</td></tr> <tr><td>Strikeout</td><td>未使用</td></tr> <tr><td>X座標</td><td>149</td></tr> <tr><td>Y座標</td><td>171</td></tr> <tr><td>幅</td><td>61</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>25</td></tr> </table>	一般		Text	test	Font Face	Microsoft Sans Serif	Font Size	9	テキストカラー	<input type="checkbox"/> 0; 0; 0	背景カラー	<input type="checkbox"/> 255; 255; 255	文字整列	左、上	Bold	未使用	Italic	未使用	Underline	未使用	Strikeout	未使用	X座標	149	Y座標	171	幅	61	高さ	25
属性																																																																																																																																			
マップ属性	未使用																																																																																																																																		
キャンバス																																																																																																																																			
幅	960																																																																																																																																		
高さ	540																																																																																																																																		
カラー	<input type="checkbox"/> 255; 255; 255																																																																																																																																		
イメージ位置	映像レードにあわせる																																																																																																																																		
情報																																																																																																																																			
イメージ幅	0																																																																																																																																		
イメージ高さ	0																																																																																																																																		
GPS 情報																																																																																																																																			
経度(左)	0.000000																																																																																																																																		
経度(上)	0.000000																																																																																																																																		
経度(右)	0.000000																																																																																																																																		
経度(下)	0.000000																																																																																																																																		
自動配置	未使用																																																																																																																																		
デバイスの種類	[カメラ]																																																																																																																																		
カメラ	True																																																																																																																																		
VA	False																																																																																																																																		
PIR	False																																																																																																																																		
アラーム・イン	False																																																																																																																																		
アラーム・アウト	False																																																																																																																																		
ネットワークアラーム	False																																																																																																																																		
テキストインデバイス	False																																																																																																																																		
オーディオイン	False																																																																																																																																		
一般																																																																																																																																			
名前	Alarm In																																																																																																																																		
アイコン	アラーム・イン センサ																																																																																																																																		
倍率	50																																																																																																																																		
X座標	406																																																																																																																																		
Y座標	99																																																																																																																																		
幅	32																																																																																																																																		
高さ	32																																																																																																																																		
運動カメラ	対象選択																																																																																																																																		
ハロー効果	未使用																																																																																																																																		
情報																																																																																																																																			
名前	Alarm In																																																																																																																																		
一般																																																																																																																																			
名前	BANK 1																																																																																																																																		
X座標	347																																																																																																																																		
Y座標	219																																																																																																																																		
幅	128																																																																																																																																		
高さ	32																																																																																																																																		
テキストカラー	<input type="checkbox"/> 255; 255; 255																																																																																																																																		
背景カラー	<input checked="" type="checkbox"/> 85; 110; 215																																																																																																																																		
不透明度	80																																																																																																																																		
文字整列	左																																																																																																																																		
情報																																																																																																																																			
名前	BANK 1																																																																																																																																		
一般																																																																																																																																			
Text	test																																																																																																																																		
Font Face	Microsoft Sans Serif																																																																																																																																		
Font Size	9																																																																																																																																		
テキストカラー	<input type="checkbox"/> 0; 0; 0																																																																																																																																		
背景カラー	<input type="checkbox"/> 255; 255; 255																																																																																																																																		
文字整列	左、上																																																																																																																																		
Bold	未使用																																																																																																																																		
Italic	未使用																																																																																																																																		
Underline	未使用																																																																																																																																		
Strikeout	未使用																																																																																																																																		
X座標	149																																																																																																																																		
Y座標	171																																																																																																																																		
幅	61																																																																																																																																		
高さ	25																																																																																																																																		

- マップ属性: マップの属性を設定します。
 - ルーツマップ: “使用”に設定するとマップ監視する時、マップパネルの右側にマップに登録されたデバイスのリストを表示します(マップパネルである場合のみ該当)。
- キャンバス: キャンバスおよびキャンバスに入れた背景イメージの属性を設定します。
 - 幅、高さ、カラー: キャンバスの幅、高さ、カラーを選択します。
 - イメージ 位置: キャンバスに入れた背景 イメージの位置を設定します。
- GPS情報: キャンバスのGPS情報及び自動配置を使用するかどうかを設定します。
 - 経度、緯度: キャンバスの左上、右下にあるGPSの情報を設定します
 - 自動配置: GPSの情報を使用してデバイスの自動配置を使用するかどうかを選択します。
 - デバイスの種類: 自動配置するデバイスタイプを選択します。
- デバイス: 選択した入/出力デバイス アイコンの属性を設定します。
 - 名前: デバイス アイコンの名前を設定します。
 - アイコン、倍率: デバイス アイコンの画像および倍率を設定します。
 - X座標/ Y座標、幅/高さ: デバイス アイコンの位置および大きさを設定します。キャンバスでアイコンをマウスのドラッグ&ドロップにより設定することもできます。
 - 連動 カメラ: デバイスにカメラを連動することができます(アームインまたはオーディオ入力デバイスである場合のみ支援)。カメラを連動するとそのイベント感知時連動したカメラの映像を監視することができます。
 - ハロー効果: アイコンの背景にカラーを設定してマップでそのデバイスを簡単に探せます。
 - 名前: マップリンクの名前を設定します。設定した名前がマップリンクに表示されます。
 - マップリンク: 選択したマップリンクの属性を設定します。
 - X座標/ Y座標、幅/高さ: マップリンクの位置および大きさを設定します。キャンバスでマップリンクをマウスのドラッグ&ドロップにより設定することもできます。
 - テキストカラー、背景カラー: マップリンクのテキストカラーおよび背景カラーを設定します。
 - 不透明度: マップリンクの背景カラーの不透明度を設定します。
 - 文字整列: マップリンクの文字を整列します。
 - 情報: マップの名前を表示します。
- カメラビュー: 画角、パン、距離などを設定します(該当デバイスがカメラに限り対応)。
- 情報: デバイスの情報を表示します。
- テキストボックス: 選択したテキストボックスの属性を設定します。
 - テキスト: テキストを設定します。設定したテキストがマップに表示されます。
 - フォント、フォントサイズ: フォント、フォントサイズを設定します。
 - テキストカラー、背景カラー: テキストのテキストカラーおよびテキストボックスの背景カラーを設定します。
 - 文字整列: テキストを整列します。
 - 太字、イタリック、下線、取り消し線: テキストを太字にすることや、イタリック体、下線、取り消し線を設定します。
 - X座標/ Y座標、幅/高さ: テキストボックスの位置および大きさを設定します。キャンバスでテキストボックスをマウスのドラッグ&ドロップにより設定することもできます。

経路順次監視

順次監視経路を設定してマップ監視する時、多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。経路順次監視のためには、キャンバスで各カメラに順次監視経路が設定されている必要があります( (経路順次監視)ボタンをクリック → キャンバスで各カメラアイコンを監視しようとする順番でクリック → マウス右側ボタンをクリックして設定終了)。経路設定が終わったら経路を選択してから経路の属性を設定します。

▼ 一般	
名前	Path Sequence 1
カラー	 50: 100: 255
不透明度	70
幅	5
形	楕円
背景カラー	 0: 0: 255
不透明度	63
マージン	4: 4: 4: 4
方向転換	
▼ 運動デバイス	
▼ CAM1	接続終了
持続時間	10
▼ CAM2	
持続時間	10

- ・ 名前: 経路の名前を設定します。
- ・ カラー/不透明度/幅: マップに表示される経路のカラー/不透明度/幅を設定します。
- ・ 形: マップ監視する時、経路順次監視が設定されたカメラの映像を表示する時、そのカメラを区別するための標識アイコンの形を設定します。
- ・ 背景カラー/不透明度: マップ監視する時、経路順次監視が設定されたカメラの映像を表示する時、標識アイコンのカラー/不透明度を設定します。
- ・ 方向転換: 経路の方向を転換します。
- ・ 運動デバイス: 経路順次監視が設定されたカメラのリストを表示します。マップ監視する時、リストの順番で設定された“持続時間”の間、順次監視を行います。リストでカメラを選択してから“接続終了”をクリックするとそのカメラを経路順次監視で削除します。

イベント動作

キャンバスに配置された入/出力デバイスについてはイベント感知時行う動作を設定することができます。アイコンを選択してから項目を選択し、ドロップダウンメニューで希望の値を選択します。

イベント	
▼ アクション	
▼ クリック	
インスタント	使用
▼ モーション検知	
ライブポップ	未使用
イベントスポ	使用
▼ オブジェクト	
ライブポップ	未使用
イベントスポ	使用
▼ 映像信号ロス	
ライブポップ	未使用
▼ 映像遮断	
ライブポップ	未使用
イベントスポ	使用

- ・ クリック: マップでデバイス アイコンをクリックする時インスタントビューアウィンドウが表示されるように設定することができます。アラームアウトデバイスである場合、アイコンをクリックしてアラーム 出力を動作させたり解除したりする設定ができます。
- ・ モーション検出、映像ロス、映像遮断、アラームインなど: 各 イベントを検出した場合行う動作 を設定または解除します。ただ、マップ監視する際、入/出力デバイスのイベント動作を無視するように設定した場合は、下記の設定とは関係なくイベントは動作しません(イベント動作無視設定: マウカーソルをマップ入/出力デバイスの上に位置
→ マウス右側ボタンクリック → “イベント動作無視”選択)。
 - ライブポップアップ: そのカメラ(デバイスがカメラではない場合、連動されたカメラ)の映像がポップアップされます。
 - イベントスポット: そのカメラ(デバイスがカメラではない場合、連動されたカメラ)の映像がイベントスポット画面に現れます。
 - イベントのサウンド: オーディオファイル (.wav)を設定するとオーディオを出力します。

第18章 -ビデオウォールサービス

ビデオウォールサービスは複数のモニターの監視を制御し、管制センターでの中央集中管制を容易にできます。

ビデオウォールサービスが管理サービスに登録されている場合、その管理サービスに登録されているデバイスの映像を制御します。

登録可能なビデオウォールサービス、ビデオウォールエージェントシステムおよびモニターの個数は以下のとおりです。

- ビデオウォールサービスの登録：管理サービスあたり最大8個
- ビデオウォールエージェントシステムの登録：ライセンスの個数および種類によって異なり、ビデオウォールサービスあたり最大64個です。
- モニターの登録：ビデオウォールエージェントシステムあたり最大6台：

サービスの起動

ビデオウォールサービスのインストールが完了すると、サービスが自動的に起動します。サービスを 手動でスタートまたは中止するには、WindowsのスタートメニューのJSS遠隔監視システムPROをクリックして、Service Manager プログラムを起動します。



サービス	動作状態	CPUの使用量	メモリ使用量
管理サービス	稼働中	0%	87644 KB
録画サービス	稼働中	0%	151808 KB
IPカメラサービス	稼働中	0%	60000 KB
ストリーミングサービス	稼働中	1%	294624 KB
モニタリングサービス	稼働中	0%	237804 KB
IPネットワークサービス	稼働中	0%	1468920 KB
ビデオウォールサービス	稼働中	0%	23556 KB
モバイルサービス	稼働中	1%	138632 KB

サービスの動作状態を確認します。サービスが動作中ではない場合、手動でサービスを起動させてください。

ビデオウォールサービス登録

ビデオウォールサービスを管理サービスに登録（最大8個）してください。サービスのインストールの際に管理サービスのアドレスを正しく入力していれば、管理サービスにビデオウォールサービスが自動的に登録されています。管理サービスに登録する場合、管理サービスに登録されているデバイスの映像のみ制御できます。ビデオウォールサービスがネットワーク接続によりビデオウォールサービスを登録する管理サービスに接続されている必要があります。サービス管理者プログラムを起動して設定 > サービス設定メニューをクリックします。



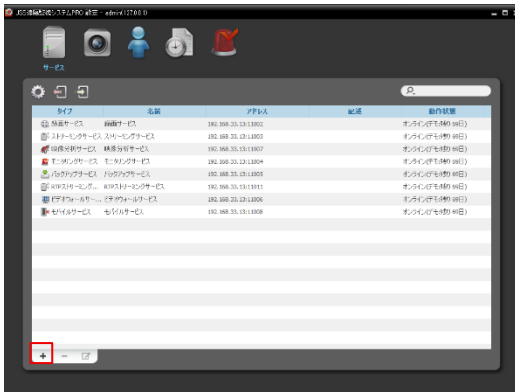
- サービスポート：サービスに接続するためのポート番号を設定します。
- ネットワークキーボードポート：ネットワークキーボードでビデオウォールサービスに接続するためのポート番号を設定します。ネットワークキーボードを使用してエージェントシステムを制御する場合、そのポートを使用します。
- 外部IPアドレス：外部のネットワークから選択したサービスに接続するときに使用する外部IPアドレスおよびポート番号を設定します。

管理サービスに登録

- 1 WindowsのスタートメニューのJSS遠隔監視システムPROを選択してください。
- 2 JSS遠隔監視システムPRO Setup プログラムを起動し、ログイン情報を入力してください。



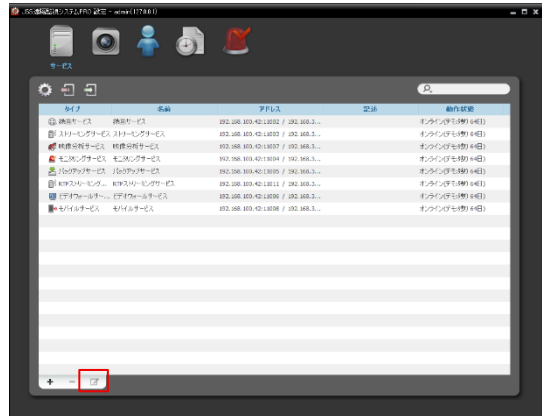
- 3 サービスメニューを選択し、次の説明を参考にしてビデオウォールサービスを管理サービスに登録します。



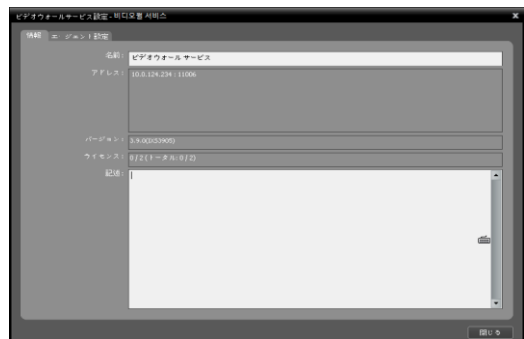
- 4 下部にある + ボタンをクリックします。サービス登録ウィンドウが表示され、登録可能なサービスのリストが各サービスの情報と一緒に表示されます。



- 名前：ネットワーク接続によって現在管理サービスに接続されているサービスを示します。
 - タイプ：サービスのタイプを示します。
 - アドレス：各サービスのIPアドレスとポート情報を示します
- 5 管理サービスに登録するビデオウォールサービスを選択してから確認ボタンをクリックします。



- 6 ビデオウォールサービスを選択して、下部にある ボタンをクリックします。設定 - ビデオウォールサービスウィンドウが表示されたら、情報タブを選択します。



- 7 ビデオウォールサービスの名前を入力して閉じるボタンをクリックします。

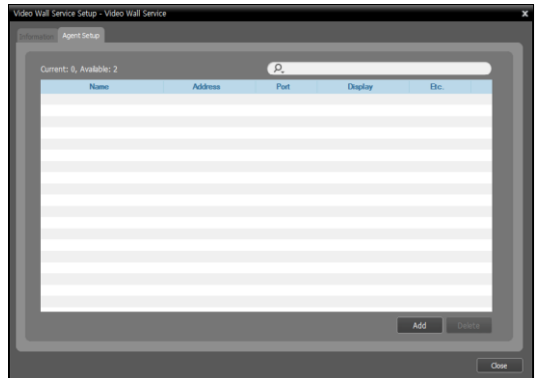
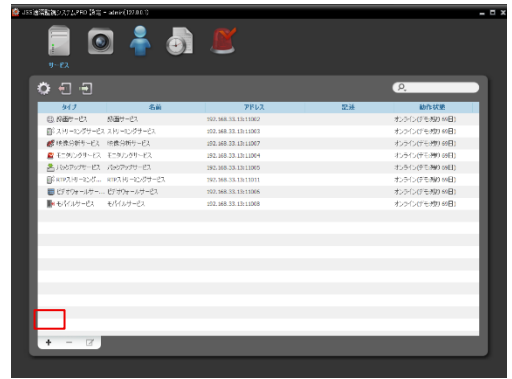
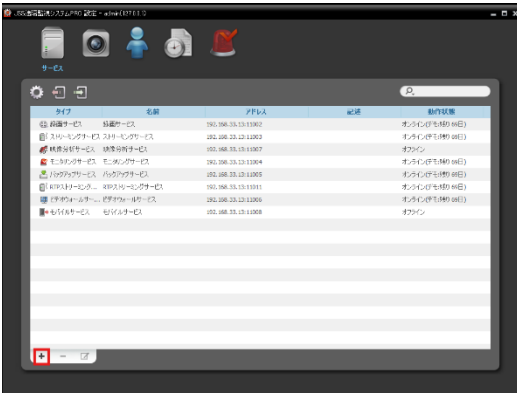
ビデオウォールエージェントシステム登録

複数台のモニターの映像監視を制御することができます。

エージェントシステムで「ユーザーアカウントコントロール」が点灯している場合、ビデオウォールエージェントプログラムが動作していません。この場合、ユーザーアカウントコントロールをOFFにし、ビデオウォールエージェントプログラムを起動してください（「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「ユーザーアカウントコントロール設定変更」：「通知しない」に設定）。

エージェントシステム登録

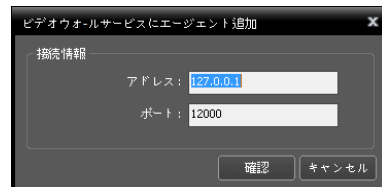
1 WindowsのスタートメニューのJSS遠隔監視システムPROを選択してください。



2 JSS遠隔監視システムPRO Setup プログラムを起動して、ログイン情報を入力してください。


3 ビデオウォールサービスを選択して、下部にある ボタンをクリックします。設定 > ビデオウォールサービスウィンドウが表示されたら、情報タブを選択します。

4 下部の追加ボタンをクリックします。ビデオウォールサービスにエージェント追加ウィンドウが表示されます。



• アドレス、ポート：エージェントシステムのIPアドレスおよびポート番号を入力します。

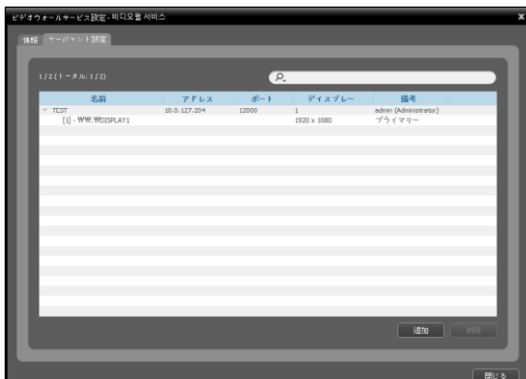
5 確認ボタンをクリックします。エージェント修正ウィンドウが表示されます。

管理サービスにネットワークキーボードを登録します。デバイスメニューを選択します。→ (ネットワークキーボード設定) ボタンをクリックします。ネットワークキーボード検索ウィンドウが表示されます。ネットワークキーボードの登録方法はデバイスの登録方法と同じです。

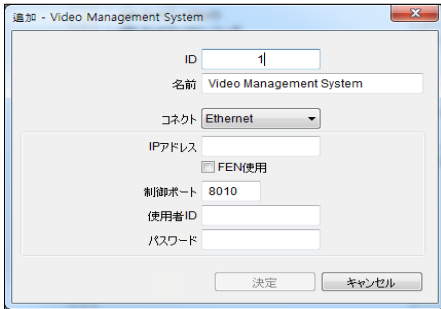


- 名前：エージェントシステムの名前を変更できます。
- アドレス、ポート：エージェントシステムのIPアドレスおよびポート番号を示します。
- 記述：エージェントシステムのOS情報を示します。
- 使用者：管理サービスに登録されているユーザーリストが表示されます。そのエージェントシステムのユーザーを選択します。そのエージェントプログラムを起動したときに選択したユーザーで自動的にログインされます。ユーザーによって接続可能なデバイスまたは各機能に対する権限が異なります。ユーザーのパスワードまたは権限は「JSS遠隔監視システムPRO 設定」プログラム → 「ユーザー」メニューで変更できます。
- 番号：エージェントシステムに接続されている各モニターのIDを示します。IDはネットワークキーボードを使用してエージェントシステムを制御するときに他のエージェントシステムと区別するために使用されますので固有のものである必要があります。
- 解像度：エージェントシステムに接続されている各モニターの解像度を示します。
- 記述：エージェントシステムに接続されている各モニターの情報を示します。

6 確認ボタンをクリックします。登録されているエージェントシステムのリストが表示されます。



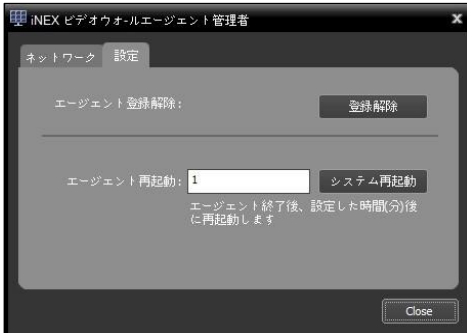
7 ネットワークキーボードにビデオウォールサービスを登録します。



- ID (ビデオウォールサービス ID): ビデオウォールサービスの登録時に自動的に割り当てられ、変更が可能です。設定されたIDは、ネットワークキーボードを使用してクライアントシステムを制御するときに他のクライアントシステムと区別するために使用されるため、一意である必要があります。
- 名前: ユーザーの便宜のためにビデオウォールサービスの名前を設定します。
- IPアドレス: ビデオウォールサービスのIPアドレスを登録します。「UCNを使う」項目を選択しないでください。
- 制御ポート: ビデオウォールサービスで設定した制御ポートを入力します (制御ポートは、「システム」→「環境設定」→「ネットワーク」→「ネットワークキーボード」の設定で確認してください)。
- 使用者ID、パスワード: ビデオウォールサービスに接続するときに使用するユーザーIDとパスワードを入力します。

ビデオウォールエージェント システム設定

WindowsのスタートメニューのJSS遠隔監視システムPROをクリックして、VideoWallAgent Setup プログラムを起動します。



- エージェント登録解除：JSS遠隔監視システムPROをアンインストールしてデータがすべて削除されたにもかかわらず、ビデオウォールサービスでエージェントシステムが削除されていない場合、そのエージェントシステムを再登録できなくなります。このとき、登録解除ボタンをクリックすれば登録できます。
- エージェント再起動：ビデオウォールサービスにエージェントプログラムが登録されると、エージェントプログラムが自動的に起動し、エージェントシステム動作中はエージェントプログラムが常に起動します。エージェントプログラムの起動をしばらく中断しようとする場合は時間を入力して、「システム再起動」ボタンをクリックします。エージェントプログラムの起動が中断され、設定された時間が経過すると自動的に再起動します。



- ポート：エージェントシステムに接続するためのポート番号を変更することができます。

ビデオウォールエージェント システム接続

- 1 ネットワークキーボードでエージェントシステムが登録されているビデオウォールサービスのIDを押します。

Selected Device : 1

2 DEV ボタンを押します。
D001

3 モニターIDを押します。
D001 1

4 MON ボタンを押します。
D001

映像監視および再生

- 1 ネットワークキーボードでF2ボタンを押します。パネルリストが表示されます。→ ネットワークキーボードに接続されているマウスを利用して「Live」(監視)または「Play」(再生)、「DVR Search」(DVR検索)を選択します。

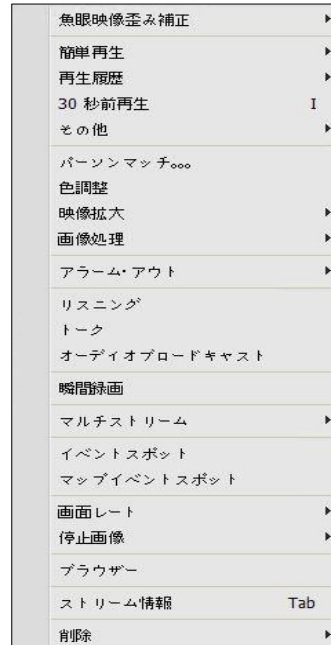


- 2 ネットワークキーボードでF4ボタンを押します。監視または再生/DVR検索パネルにサイトリストが表示されます → ネットワークキーボードに接続されているマウスを利用してサイトリストから接続するサイトを選択して、監視または再生/DVR検索画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。



- 3 ネットワークキーボードで[Menu] (メニュー) ボタンを押します。監視または再生画面メニューが表示されます。

- 4 ネットワークキーボードの矢印ボタンを利用して、メニューに移動した後、エンターボタン(Enter)を押すと、該当メニューを選択、又は選択を解除することができます。現在設定中のメニューを抜ける場合は[Esc] (メニュー) ボタンを押して選択を解除することができます。



第19章 – 録画映像バックアップ

録画サーバーまたはDVRに保存された録画映像は、バックアップサーバーにバックアップできます。

先ず次の内容を確認した後、“設定”プログラムを実行します。

- システムでサービスが実行されていなければなりません。
- 録画サーバーまたはDVRに録画データがなければなりません。
- バックアップサービスが管理サービスに登録されていなければなりません。

サービス実行

サービスのインストールが完了したら、サービスが自動的に実行されます。サービスを手動でスタートしたり停止するには、“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックした後、“Service Manager”プログラムを実行します。



サービスの動作状態を確認します。サービスが動作中でない場合、手動でサービスを実行してください。

バックアップサービス登録

バックアップサービスを管理サービスに登録(最大 64個)しなければなりません。サービスインストール時、管理サーバーのアドレスを正しく入力した場合、管理サービスにバックアップサービスが自動的に登録されています。管理サービスに登録する場合、該当管理サービスに登録された録画サーバーおよびDVRの映像のみバックアップできます。

バックアップサービスがネットワークの接続により、バックアップサービスを登録する管理サービスに接続されていなければなりません。サービス管理者プログラムを実行した後、“設定” – “サーバー設定”メニューをクリックします。



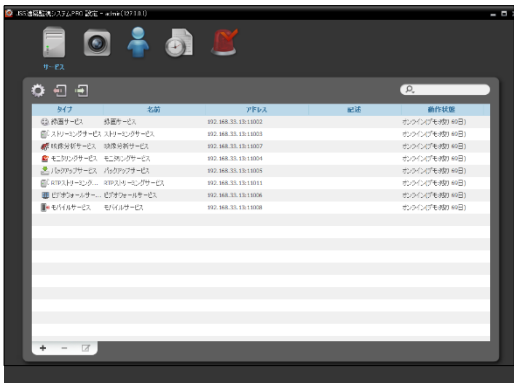
- アドレス、ポート: 管理サービスサービスに接続するため、該当サーバーのIPアドレス及びポート番号(デフォルト値: 11001)を入力します。

管理サービスに登録

- 1 "スタート"メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。 → “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。



2 “サービス”メニューを選択した後、次の説明を参照してバックアップサービスを管理サービスに登録します。

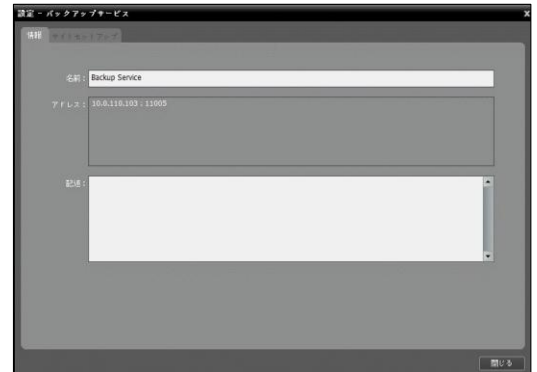
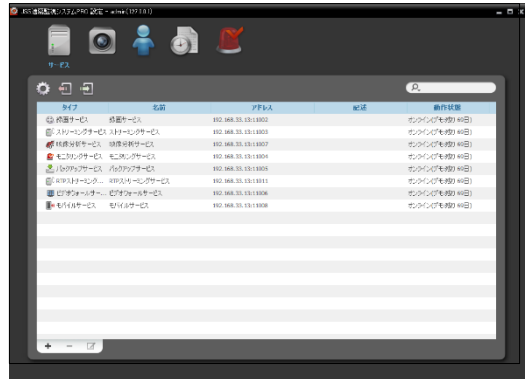


3 下段にある + ボタンをクリックします。“サービス登録”画面が表示され、登録可能なサービスのリストが各サービスの情報と共に表示されます。



4 管理サービスに登録するバックアップサービスを選択した後、“確認”ボタンをクリックします。

5 バックアップサービスを選択した後、下段にある ボタンをクリックします。“バックアップサービス設定”画面が表示されたら“情報”タブを選択します。



6 バックアップサービスの名前を入力した後、“閉じる”ボタンをクリックします。名前: ネットワーク接続によって現在管理サービスに接続されているサービスを表示します。

- 名前: ネットワーク接続によって現在管理サービスに接続されているサービスを表示します。
- タイプ: サービスのタイプを表示します。
- アドレス: 各サーバーのIPアドレスとポート情報を表示します。

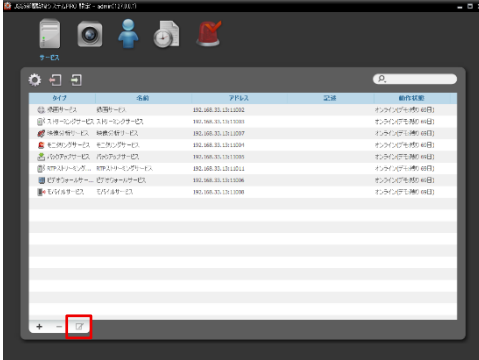
登録するサービスの管理サーバーの情報(“サービス管理者” → “条件” → “サーバー設定”)が現在接続中の管理サーバーと同一の場合のみ登録できます。

バックアップサイト追加

管理サービスに追加

- 1 “スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックします。

→ “JSS遠隔監視システムPRO Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。



- 2 “サービス”メニューでバックアップサービスを選択した後、下段にある ボタンをクリックします。“バックアップサービス設定”画面が表示されたら“サイトセットアップ”タブを選択します。



- 3 下段の“追加”ボタンをクリックします。“バックアップサイト追加”画面が表示され、バックアップ可能な録画サービスおよびDVRのリストが表示されます。



- サイト: ネットワーク接続によって現在管理サービスに接続されている録画サービスおよびDVRを表示します。登録するサービスの管理サーバーの情報(“サービス管理者” → “条件” → “サーバー設定”)が現在接続中の管理サーバーと同一の場合のみ登録できます。

- 4 バックアップする録画サービスおよびDVRを選択した後、“確認”ボタンをクリックします。

バックアップサイト追加



バックアップサイトを追加した後、サイトリストでバックアップする録画サービスまたはDVRを選択します。各録画サービスおよびDVRについてバックアップスケジュールを別に設定しなければなりません。

バックアップカバレッジ

“バックアップカバレッジ” – “設定” ボタンをクリックした後、+ ボタンをクリックしてバックアップカバレッジのプリセットを追加します。

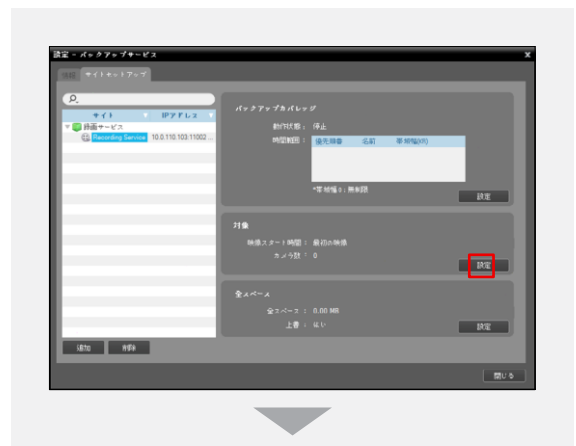


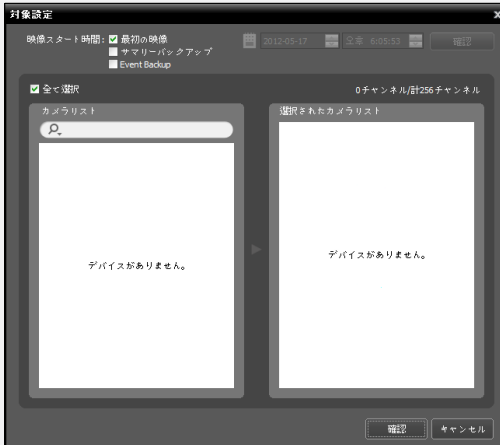
対象

“対象” – “設定”ボタンをクリックした後、映像をバックアップするカメラを選択します。

- バックアップカバレッジのプリセットの優先順番を設定します。▲ または ▼ ボタンを利用して優先順位を変更することができます。
- 名前: バックアップカバレッジのプリセットの名前を表示します。
- 帯域幅: 最大帯域幅を設定します。ネットワークトラフィックの状況によってネットワークバンド幅のコントロールすることができます。最大帯域幅を適切に設定して、映像録画中にバックアップが行われる場合録画速度の低下を最低限に抑えることができます。但し、バックアップ速度はもっと低下することがあります。

“追加”または“修正”ボタンをクリックして新しいプリセットを追加したり保存されたプリセットを修正することができます。バックアップカバレッジのプリセット設定方法は、録画時の設定方法と同じです。





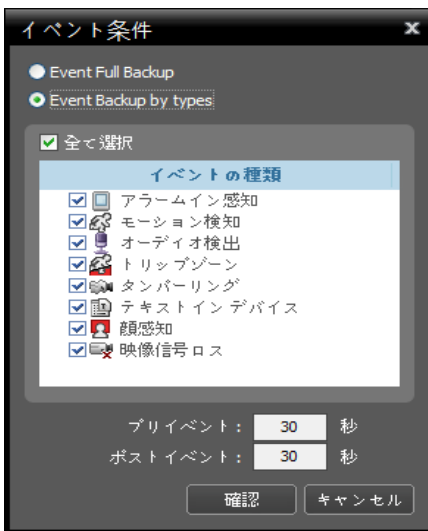
- Event Full Backup: イベント映像全体をバックアップします。
- Event Backup by types: ユーザーが選択するイベントのみをバックアップします。イベント発生時間を基準に設定されたフリー/ポスト時間をバックアップしません。
- カメラリスト: 録画映像のあるカメラ、つまりバックアップ可能なカメラのリストを表示します。
- 選択されたカメラリスト: バックアップが行われるカメラのリストを表示します。

ストレージを割り当てる

USBハードディスクにストレージを割り当てることは出来ません。

- 映像スタート時間: バックアップを開始する録画映像の時間を設定してから“確認”ボタンをクリックします。管理サーバーの時間が過去に変更され、同一時間帯に二つ以上の映像が存在する場合、該当区間の映像を選択しなければなりません。“最初の映像”項目を選択すると録画映像の最初からバックアップを開始します。
- サマリーバックアップ: キーフレーム(核心イメージ)のみ選んでバックアップします。その場合、録画された映像を途切れ途切れにバックアップするため、より長期間の録画映像がバックアップでき、バックアップ速度も速まりますが、バックアップ映像を再生する際に動きが不自然になることがあります。キーフレームの頻度はエンコーディングによって異なることがあり、録画速度が速いほど頻度がアップします。

- バックアップ映像があるハードディスクドライブを他のバックアップサーバーに設置する場合、該当するバックアップ映像の検索及び再生はサポートしません。
- 一つのハードディスクドライブ最大 50,000GBのストレージを割り当てることができます。



- 1 バックアップサイトを追加した後、“全体スペース” – “設定”ボタンをクリックすると“ストレージ設定”画面が表示されます。下段にある“追加”ボタンをクリックします。“ストレージの追加”画面が表示され、各ハードディスクの情報と共に使用可能なハードディスクドライブのリストが表示されます。

- イベントバックアップ: イベントベース録画映像をバックアップします。



- ドライブ: ドライブ名を表示します。
- ディスクタイプ: ハードディスクドライブの種類を表示します。
- 容量: ストレージの総容量と使用可能な容量を表示します。

- 経路: ストレージフォルダーの経路を表示します。
- ドライブの種類: ハードディスクドライブの種類を表示します。
- 使用できるスペース: 使用可能なストレージの容量を表示します。
- ストレージ容量: 割り当てるストレージの容量を設定します (最小20GB)。ハードディスクにJSS遠隔監視システムPROがインストールされている場合、インストール環境によって適切な空き容量を残しておかなければなりません。Windows OSがインストールされたハードディスクドライブの場合、スムーズなシステム運営のために10GB以上の空き容量を残しておかなければなりません。そうでない場合、システムが正しく動作しないことがあります。ハードディスクドライブにファイルシステムが構成されていない場合、使用可能な全体容量に自動的にストレージを全て割り当てます。

2 ストレージを割り当てるハードディスクドライブを選択した後、下段にある“追加”ボタンをクリックします。“ストレージを割り当てる”画面が表示されます。



ストレージの管理

現在バックアップサーバーで使用中のすべてのハードディスクドライブまたは特定のハードディスクドライブのストレージが管理できます。

すべてのハードディスクドライブのストレージ

“設定”ボタンをクリックすると、“ストレージ設定”画面が表示されます。



- すべてのバックアップデータを削除：現在バックアップサーバーで使用しているすべてのハードディスクドライブのバックアップデータをすべて削除します。
- 異常なバックアップのタイムテーブルを復元：バックアップサーバーと録画サーバーまたはDVRのネットワーク接続が遅過ぎたり、バックアップサーバーのハードディスクドライブが傷ついている場合、バックアップデータとバックアップデータのタイムテーブル情報が一致しないことがあり、このため“クライアント”プログラムのタイムテーブルが誤った情報を表示することがあります。この場合、ボタンをクリックすると、タイムテーブル情報を復元し、正しいバックアップデータを表示することができます。

- ディスクの容量が一杯になった場合、バックアップされているデータの上書きを使用：割り当てられたストレージが一杯になった場合、古いデータから削除され、新しいデータがバックアップされます。

特定のハードディスクドライブのストレージ

ハードディスクドライブリストで該当ハードディスクを選択した後、下段にある“修正”ボタンをクリックします。“ストレージ修正”画面が表示されます。



- ストレージ容量を変更：ストレージの容量を増やすことができます。
- 保存データを削除：ストレージを初期化して該当ストレージに保存されたすべてのデータを削除します。

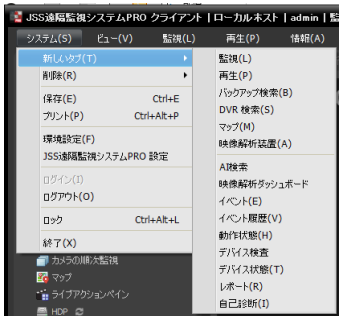
ストレージ容量の調整または初期化中にはバックアップ映像の検索及び再生が停止されます。

ストレージを初期化する場合、ストレージに保存されたすべてのデータが削除され、削除されたデータは復元することができません。

バックアップ映像再生及び動画で保存

バックアップ映像再生

- 1 バックアップサーバーにバックアップされた映像再生及び動画で保存はバックアップ検索パネル(最大4つ)でサポートします。パネルタブにバックアップ検索タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“バックアップ検索”をクリックしてタブを追加します。



- 2 パネルタブでバックアップ検索タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するデバイスまたはカメラを選択した後、バックアップ検索画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したデバイスまたはカメラのバックアップ映像が画面に表示されます。現在再生しているカメラ画面を選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、再生を停止せず該当カメラ画面を再生画面の希望する位置に移動することができます。



レイアウトが管理サービスに登録されている場合、レイアウトリストで希望するレイアウトを選択した後、バックアップ検索画面にドラッグ&ドロップして該当レイアウトで映像を再生することができます。

複数のカメラ画面が1280x720以上の解像度で同時に監視または再生する場合、クライアントシステムの性能が大きく低下することがあります。

- 3 パネルのツールバー、タイムテーブル、制御ツールバー及び画面のメニューを用いてバックアップ映像を再生します。バックアップ映像の再生方法は、録画映像の再生方法と同じです。

バックアップ映像を動画で保存

バックアップ映像をUSB保存デバイスに動画ファイルで保存することができます。

バックアップ映像をHDP playerで再生

バックアップ映像が保存されているハードディスクを別途HDP playerによって再生することができます。バックアップ映像が保存された場所に、バックアップされた装置の名前で生成されているxxxxx.bsdファイルをクライアント側で開いたり、マウスのドラッグ&ドロップで再生することができます。ディスクドライブリストで該当ハードディスクを選択した後、下段にある“修正”ボタンをクリックします。

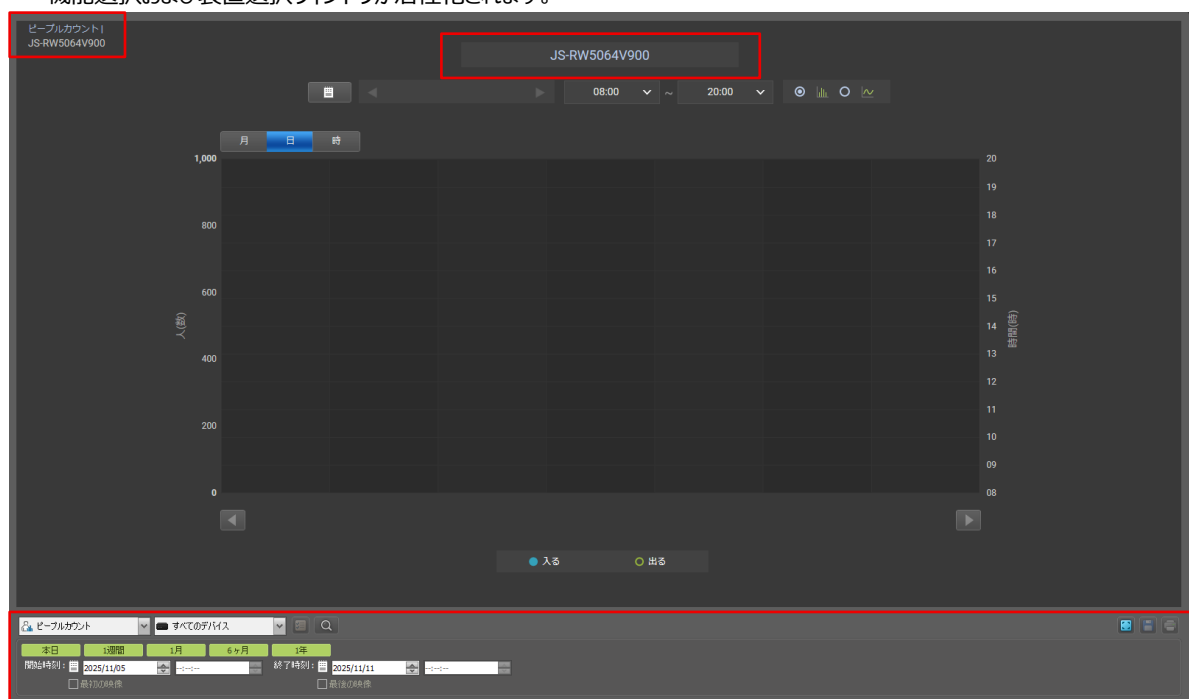
バックアップサービスで当該ストレージを使用していると、当該機能は作動しません。

第20章 –VAボックス

VAボックスが接続された装置を利用して映像分析された情報を検索し、グラフとイメージを利用して分析することができます。映像分析レポートは、映像解析装置パネル（最大3個）でサポートされます。パネルタブにVAボックスタブがない場合、システムメニューで新しいタブを選択した後、VA Boxをクリックしてタブを追加します。

接続と検索

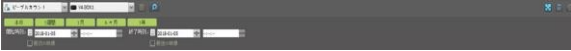
- 1 “サイト” リストからVA Boxが接続されている装置のうち、希望する装置を選択した後、映像解析装置パネルにマウスをドラッグ&ドロップします。接続すると、当該装置の名前がパネル左上段と中央上段に表示され、左下段の時間検索、VA機能選択および装置選択ウィンドウが活性化されます。



- 2 左下段のコンボボックスを利用して希望するVA機能（ピープルカウント、キューマネジメント、ヒートマップ）を選択します。
- 3 希望するVA装置および時間範囲を選択して“検索”ボタン(🔍)を押して映像分析データをグラフおよびイメージとして表示します。
- 4 装置を変更するには、他の装置を映像解析装置パネルにマウスをドラッグ&ドロップします。装置を解除するためには、“システム”メニューの“ログアウト”を選択します。

レポートのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて特定のVAレポートを検索することができます。

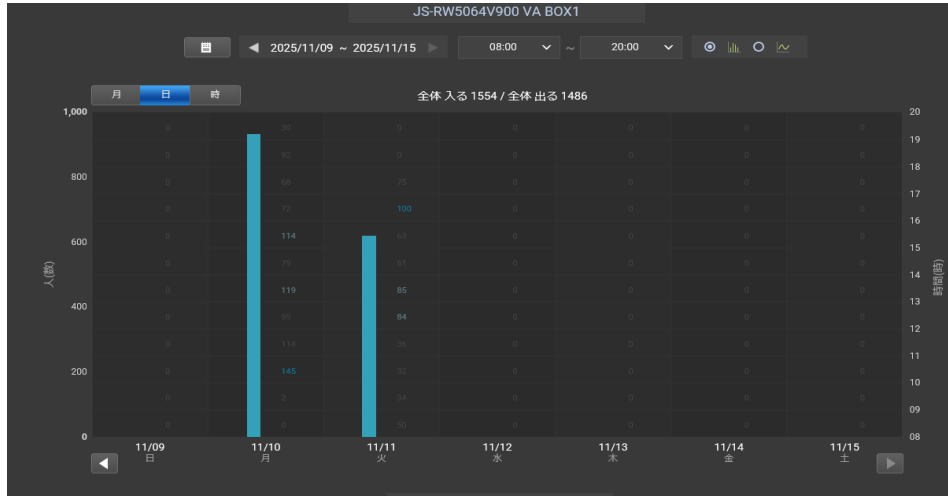


- 開始時刻、終了時刻: 検索するVAレポートの日付および時間を設定します。特定の日付および時間を入力したり、最初の映像または最後の映像オプションを選択して設定することができます。本日、1週間、1月、6ヶ月、1年ボタンをクリックすると、開始時刻と終了時刻の時間間隔を該当する間隔の分調整します。
- (VA 機能): 希望するVA機能のページを選択します。
- (VA 装置選択): 希望するVA Box装置を選択します。
- (全体画面): レポートパネルを全体画面で表示します。
- (保存): レポートページのデータをエクセル (.csv) または画像形式で保存します。

ページ情報

- 現在のVAページの種類
- 現在表示されているVAレポートの検索時間
- VA Boxが接続された装置の名前
- VA Box装置の名前

ピープルカウント

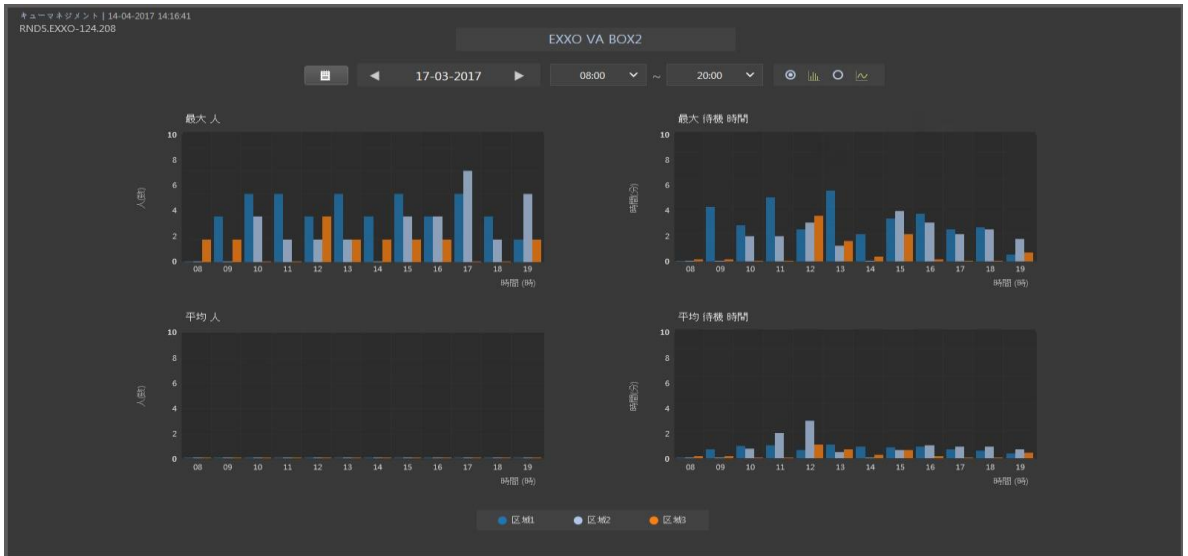


- 全体 入/全体 出: 現在のページに表示されている期間の総 入/出る人数を表します。
- 📅 : カレンダーから希望する日付を選択します。
- 検索期間: 現在のページに表示される期間を表します。
- 📊 📈 : バーとライングラフのどちらかを選択します。
- 月 日 時 : グラフのx軸の基準値(月、日、時)を選択することができます。時間単位の場合、15分、30分、1時間の中から選択することができます。
- 0800 ~ 2000 : 08~23時、24時間、午前、午後を選択してその時間帯の人数を時間単位に合わせてバーまたはライングラフで表します。そして、時間帯別の人数をグラフに数字で表示します。
- 人(数): 左側の縦軸はバー、ライングラフの値を表します。
- 時間(時): 右側の縦軸の値は、グラフに表示された数字の時間帯を表します。
- ⏪ : 検索期間単位によって、月は1年、日は1週間、時は1日単位で以前に移動します。
- ⏩ : 検索期間単位によって、月は1年、日は1週間、時は1日単位で以後に移動します。
- 入る 出る : 入る、出るを選択して必要なデータを表示することができます。
- グラフツールチップ: バー、ライングラフにマウスを当てるとツールチップ情報を確認することができます。



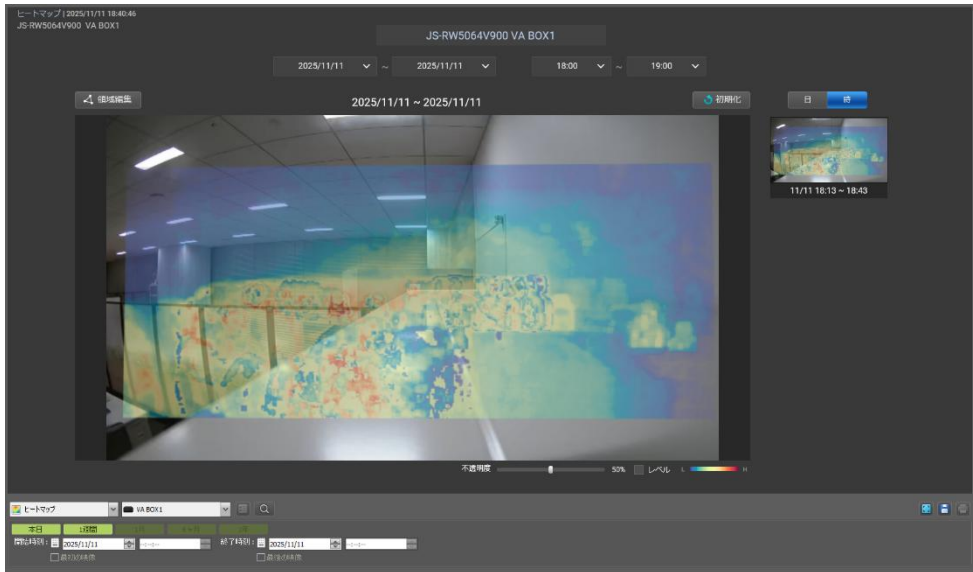
- 入る 620 : 選択されたデータの人数です。
- Busiest 16:00 ~ 17:00 : 選択したデータの最も混雑する時間です。
- 人 100 : 選択されたデータの最も混雑する時間の人数です。

キューマネジメント



- : カレンダーから希望する日付を選択します。
- : 以前のデータがある日付に移動します。
- : 以後のデータがある日付に移動します。
- 検索期間: 現在のページに表示される期間を表します。
- : 開始時間と終了時間を選択してその時間帯のグラフを表示します。
- : バーとライングラフのどちらかを選択します。
- : 希望する領域を選択してデータを表示することができます。
- グラフツールチップ: バー、ライングラフにマウスを当てるとツールチップ情報を確認することができます。
 - : 選択されたデータの時間帯を表示します。 .
 - : 選択された人数および待機時間のデータを領域別に表示します。

ヒートマップ



- 特定の日付および時間の検索: 開始の日付および最後の日付と開始時間および終了時間を選択して期間に合ったヒートマップイメージを停止イメージとサムネイルイメージの上に表示します。
- **領域編集**: ヒートマップ領域を編集します。オプションが選択されていると、マウスクリックで領域を指定することができます。停止イメージの上でマウス左ボタンで領域を指定し、最初のポイントを押すかマウスの右ボタンを押すと領域指定が完了します。領域を描く途中で一つ前の地点をキャンセルしたい場合は Deleteキーを押し、全体をキャンセルしたい場合には Escキーを押します。
- **歪み補正**: 静止画が魚眼映像であればボタンが有効になります。ボタンをクリックして、静止画で魚眼映像歪み補正をします。Dewarpingが無効になってからコントロール+マウスボタンを使用して、クイックコントロールをします。
- **初期化**: 停止イメージを日付/時刻のナビゲーションに表示された領域のデータで初期化させ、NVRに設定された領域に変更します。
- **サムネイル**: サムネイル1枚の単位を表します。
- 停止イメージ: 選択されたVA Boxが接続されているカメラの最新イメージを表示します。
- サムネイルのイメージ: 上段の選択された日付と時間の区間を一定の時間単位に分けて表示します。サムネイルを選択すると、サムネイル画像を停止イメージとして大きく表示します。停止イメージを再指定した時間範囲に変更するには、時間の単位を変更したり、“初期化”ボタンをクリックします。静止画を再指定した時間範囲に変更するには、選択したサムネイルをクリックします。
- 不透明度: ヒートマップの透明度を設定します。
- レベル: ヒートマップイメージに等高線の形で値を表示します。
- カラースキーマ: ヒートマップのカラースキーマを表示します。4つのカラースキーマを選択することができます。

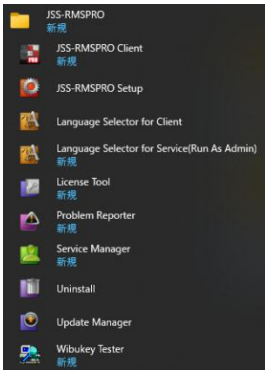
第21章 -RTPストリーミングサービス

RTPストリーミングサービスは、ストリーミングサービスに接続されているデバイスの映像や音声データをRTSPプロトコルを用いてリレーできるサービスです。

RTPストリーミングサービスの場合、デバイスがストリーミングサービスに登録されていなければ接続できません。

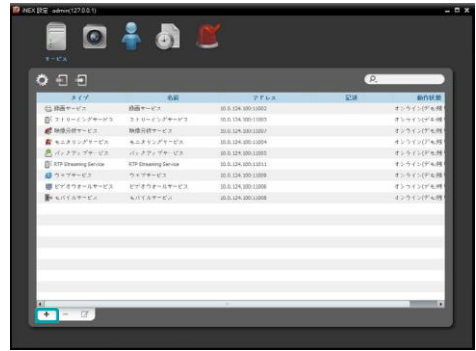
サービス実行

サービスのインストールが完了したら、サービスが自動的に実行されます。サービスを手動でスタートしたり停止するには、“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システムPRO”をクリックした後、“Service Manager”プログラムを実行します。



サービス登録

“サービス”メニューを選択した後、次の説明を参照してRTPストリーミングサービスを管理サービスに登録します。



下段にある + ボタンをクリックします。“サービス登録”画面が表示され、登録可能なサービスのリストが各サービスの情報と共に表示されます。



サービスの動作状態を確認します。サービスが動作中でない場合、手動でサービスを実行してください。

- 名前: ネットワーク接続によって現在管理サービスに接続されているサービスを表示します。
- タイプ: サービスのタイプを表示します。
- アドレス: 各サーバーのIPアドレスとポート情報を表示します。

登録するサービスの管理サーバーの情報(“サービス管理者” → “条件” → “サーバー設定”)が現在接続中の管理サーバーと同一の場合のみ登録できます。

RTSP URL のルール

RTSP クライアント接続時のご注意

RTPストリーミングサービスのRTSP URLのルールは、次のように構成されています。

```
rtsp://[RTP Streaming Service
IP]:[rtsp port]/idis?trackID=[device
identifier number]& streamID=[stream
index]&audio=[0 or 1]
```

- 1 RTPストリーミングサービス IP : RTPサービスの IPアドレスを入力します。
- 2 RTSP Port : RTSPポートを入力します。デフォルトのRTSPポートは554であり、Service ManagerからRTSPポート番号を修正することができます。
- 3 RTSP URLの必須パラメータ値は次のように構成されています。
 - trackID=[device identifier number]: Configuration Toolsで確認できるデバイスの識別番号

NVR/DVRIに接続されているカメラに接続する時には、Configuration ToolsでNVR/DVRの下にあるカメラの識別番号を使用する必要があります。 .
- 4 RTSP URLの追加パラメータ値は次のように構成されています。
 - streamID=[stream index]: デバイスのストリーム番号 (デフォルト: 1)
 - audio=[0 or 1]: オーディオデータを要請するかどうか(0 : 要請しない、1 : 要請)
- 5 RTPストリーミングサービスで対応できるコーデックは次のように構成されています。
 - Video: H.264, H.265
 - Audio: G711U(64K), G711A(64K), G726(16K, 24K, 32K, 40K)

オーディオコーデック名の後ろにある数字はビットレート値です。カメラの識別番号を使用する必要があります。 .

- 6 RTSP URLのパラメータ (trackID, streamID, audio)は大文字・小文字を区別しません。

- RTPストリーミングサービスの場合、TCP接続のみ対応します。RTPストリーミングサービスから映像/音声情報を受けて出力するプレイヤーは、RTP over TCPを設定してからRTSPに接続する必要があります。
- クライアントからRTPストリーミングサービスに RTSP接続する時、アカウント情報(JSS遠隔監視システムPROのユーザーアカウント情報)の入力が必要です。当該アカウントは接続するデバイスに対するアクセス権限、リアルタイム監視権限、アクセス可能時間及びアクセスが許可されたIPに対する条件を満たす必要があります。
- RTPストリーミングサービスはtrackIDと streamIDに適するコーデック情報を保存し、これを利用してRTSP接続を行っています。最初に RTSP接続を試すtrackIDと streamIDの場合、保存されているコーデック情報がないため、基本コーデック情報(H.265、G711U)を保存し、これを利用してRTSP接続を行います。
- もし受信したコーデック情報が保存されているコーデック情報と異なる場合、RTPサービスはコーデック情報をアップデートし、クライアントのRTSP再接続のためにRTSP接続を切断する動作を行います。例えば、最初にRTSP接続を試したtrackIDとstreamIDの実際ビデオコーデックがH.264の場合、RTPストリーミングサービスは基本コーデック情報のH.265を利用してRTSP接続を行います。しかし受信したビデオコーデック情報がH.264であるため、ビデオコーデック情報をH.264にアップデートした後、RTSP接続を切断します。その後、クライアントが当該trackIDとstreamIDにRTSP接続を試すと、正しいコーデック情報(H.264)を利用して RTSP接続を行い、正常動作します。

第22章 -A-カット監視パネル

画面構成

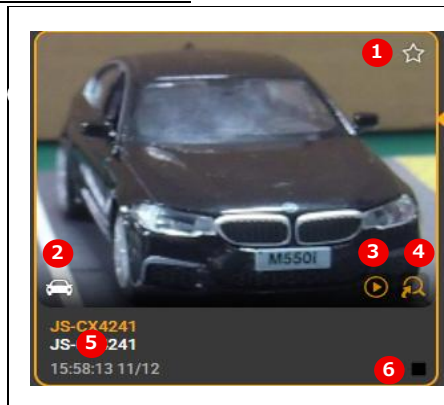
監視タビに登録されているカメラデバイスから受信したA-カットを確認できます。

ポップアップの構成



- 1 ポップアップの設定および機能一覧エリア
- 2 フィルタリング設定エリア
- 3 A-カット項目数および表示ウィジェットおよびすべての項目削除ボタン
- 4 アップデートロックステータスバー

A-カット項目の構成



- ① ブックマークの指定/解除を選択します。
- ② A-カット項目のプロパティを表示します。
- ③ 選択したA-カット区間の簡易再生を実行します。
- ④ 選択したカメラを再生タビに登録し、A-カット区間の開始サイトに時間移動します。
- ⑤ A-カット項目の録画サイト、カメラ名と録画時間を表示します。
- ⑥ 色情報表示します。

A-カット項目コンテキストメニュー

	<p>削除：選択したA-カット項目を削除します。</p> <p>お気に入りとしてマーク：選択したA-カット項目をお気に入りに登録/解除します。</p> <p>すべてのお気に入りをリセット：すべてのA-カットのブックマーク項目を指定解除します。</p> <p>お気に入り以外のものを削除する：すべてのA-カット項目のうちブックマークに指定されていない項目を削除します。</p> <p>属性の配置：属性の表示形式を設定します。（自動/横/縦）</p>
--	---

A-カット項目のツールチップ

	<p>① A-カット項目の物体のタイプを表示します。</p> <p>② A-カット項目のプロパティを表示します。</p> <p>③ A-カット項目の録画サイト名、カメラ名および録画時間を表示します。</p>
--	---

フィルタリング

1 テキストフィルターの対象範囲を指定します。

2 テキストを入力します。

- 3 物体のタイプフィルターを初期化します。
- 4 物体のタイプ別フィルターのプロパティ選択ウィジェットを表示します。マウスの右クリックで最後のプロパティ設定ですぐにフィルタリングできます。
- 5 ブックマークを設定した項目のみ表示します。他のフィルターオプションと同時に使用できます。
- 6 選択した物体のタイプに対するフィルタープロパティを選択できます。

アップデートロック

A-カット項目をクリックすると、アップデートがロック状態になります。アップデートのロック状態が維持されている間、追加されるA-カット項目の表示を延期します。アップデートのロック状態を解除すると、アップデートが延期されたA-カット項目を一括表示します。アップデートのロック状態が選択されたA-カット項目をクリックするか、ポップアップのアップデートロックバーをクリックして解除できます。ポップアップの設定で指定したアップデートのロック維持時間が経過すると、自動的にステータスが解除されます。

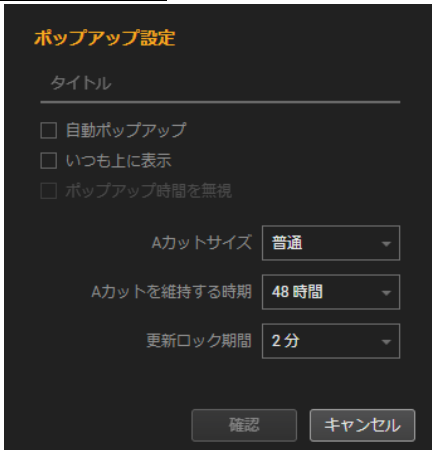


機能集約

- ① (ツールチップ使用): A-カット項目にマウスハバーツールチップを表示します。
- ② (モザイクモード): サイト名、カメラ名、録画時間表示を省略します。
- ③ (側面配置): IRASの設定- [画面分割]- [側面パネルの位置] に設定された位置にウィンドウの位置とサイズを変更します。
- ④ (設定): ポップアップ設定ウィジェットを表示します。

設定

ポップアップの設定

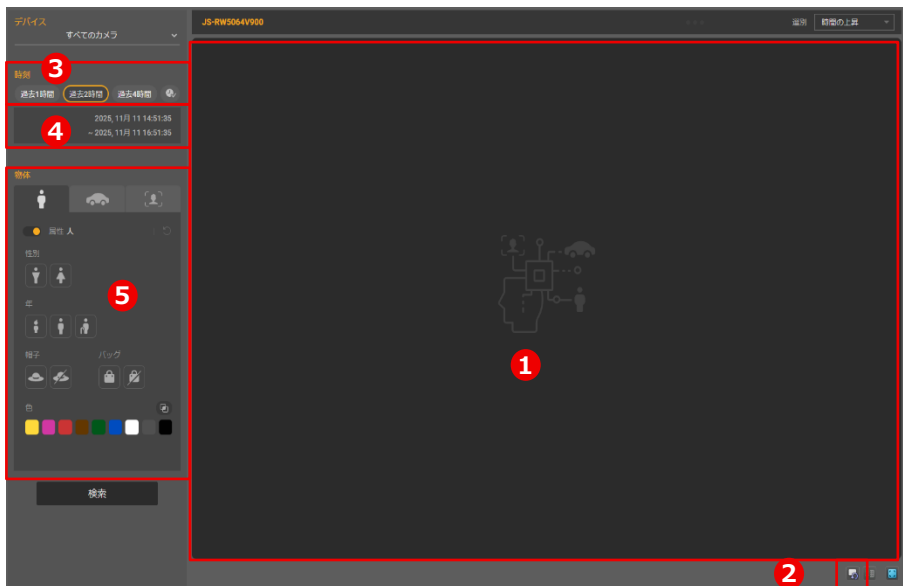


- タイトル：ポップアップのタイトルを設定します。
- 自動ポップアップ：A-カットを受信したときのポップアップのウィンドウを自動実行します。
- 常に上に表示：A-カットのライブポップアップウィンドウをスクリーンの一番前に表示します。
- A-カット維持時間：A-カット項目を維持する時間を設定します。A-カット維持時間が経過すると、そのA-カットを削除します。
- アップデートロック維持時間：アップデートのロック状態の維持時間を設定します。設定した時間が経過すると、アップデートのロック状態が解除されます。

サイト登録および検索

登録

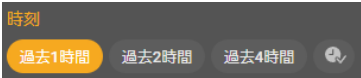
- 1 サイトリストからデバイスを選択し、中央のパネルあるいは左の検索設定パネルにドラッグします。サイト登録が可能かどうかによって中央パネルに次の図のように枠が表示されます。



1 パネルの枠表示

青色	サイト接続が可能な状態	赤色	AI検索機能をサポートしていないサイト
灰色	既に登録されているサイトと同じサイトの接続を試みる	黄色	検索中などの理由でサイト登録が不可能な状態
オレンジ色	既に登録されているサイトと異なるサイトの接続を試みる	X	ズームアウト

- 2 (サイト登録の解除): 登録されているサイトを登録解除します。
- 3 検索デバイス: 入力した文字列でデバイスをフィルタリングします。個別のデバイスに対する検索をするかどうかを選択します。
- 4 検索範囲: 現在の時点から特定の期間を選択するプリセットモードと検索区間をユーザーが直接選択するユーザー指定モードで、検索区間を設定します。下には現在選択されている区間が表示されます。



- 過去1時間: 現在の時間を基準に1時間までのデータを検索します。
- 過去2時間: 現在の時間を基準に2時間までのデータを検索します。
- 過去4時間: 現在の時間を基準に4時間までのデータを検索します。
- ユーザー指定: 検索範囲をユーザーが選択します。日、週単位でカレンダーから選択するか、開始範囲と終了範囲を入力して検索区間を指定します。

5 検索設定



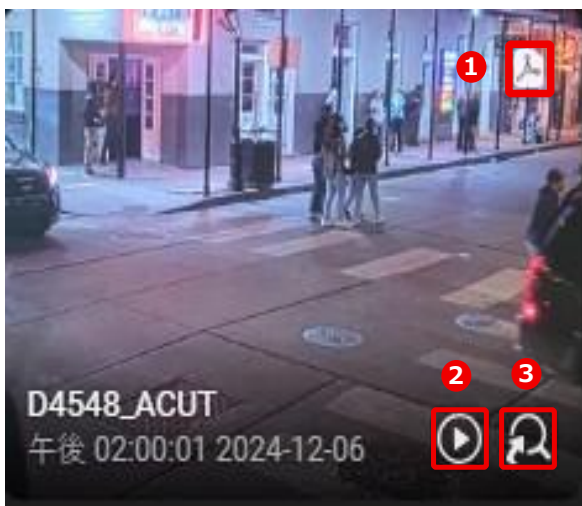
- ① 検索対象物体のタイプを選択します。
- ② 属性の検索/インターバル検索をするかどうか選択します。
- ③ 検索間隔と最小正確度を指定します。
- ④ 選択されたプロパティの設定をすべて選択解除します。
- ⑤ 検索するプロパティを選択します。色を選択すると一般モードと複合モードを選択でき、複合モードを使用すると2色のみ選択することができます。

検索結果

検索結果

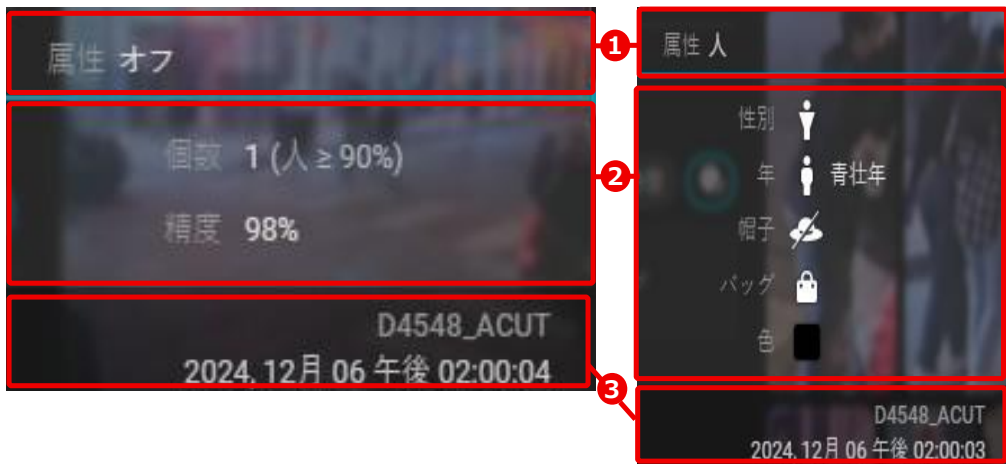


- 1 検索またはエクセルファイル保存中に有効になります。
- 2 検索結果の個数を表示します。
- 3 検索データ削除ボタン: 検索が完了するとボタンが有効になり、クリックするとデータを削除します。
- 4 選択された順序で検索データを並べ替えます。
- 5 検索の進行状況を表示します。



- ① 選択したA-カット項目の画像とデータをPDF形式で保存します。
- ② 選択したA-カット区間の簡易再生を実行します。
- ③ 選択したカメラを再生タブに登録し、A-カット区間の開始サイトへ時間移動します。

検索結果ツールチップ



- 1 プロパティを検索するかどうか、プロパティを検索する場合の物体の種類を表示します。
- 2 その項目のデータを表示します。
- 3 カメラ名と録画された時間を表示します。

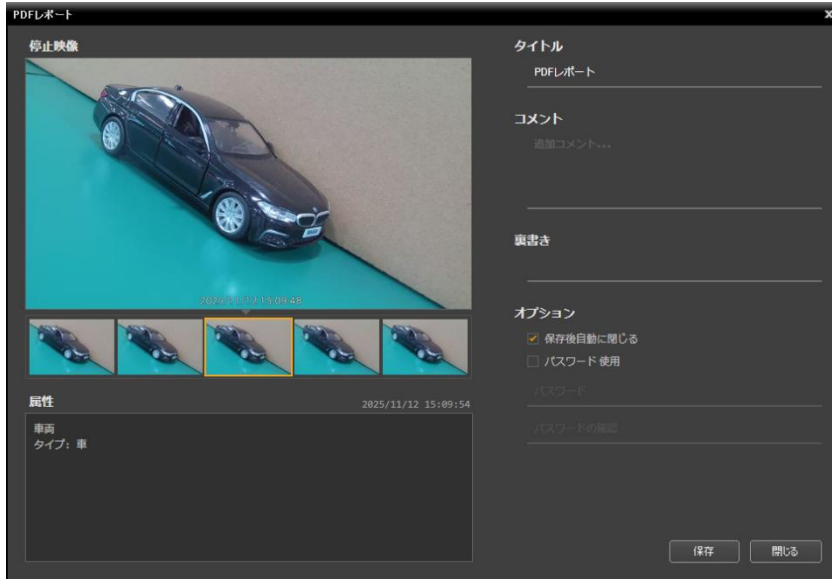
検索結果表示オプション



- ① カメラ、録画時間情報をデフォルト表示するかどうかを変更します。
- ② サムネイル画像のサイズを変更します。
- ③ ツールチップを使用するかどうかを変更します。

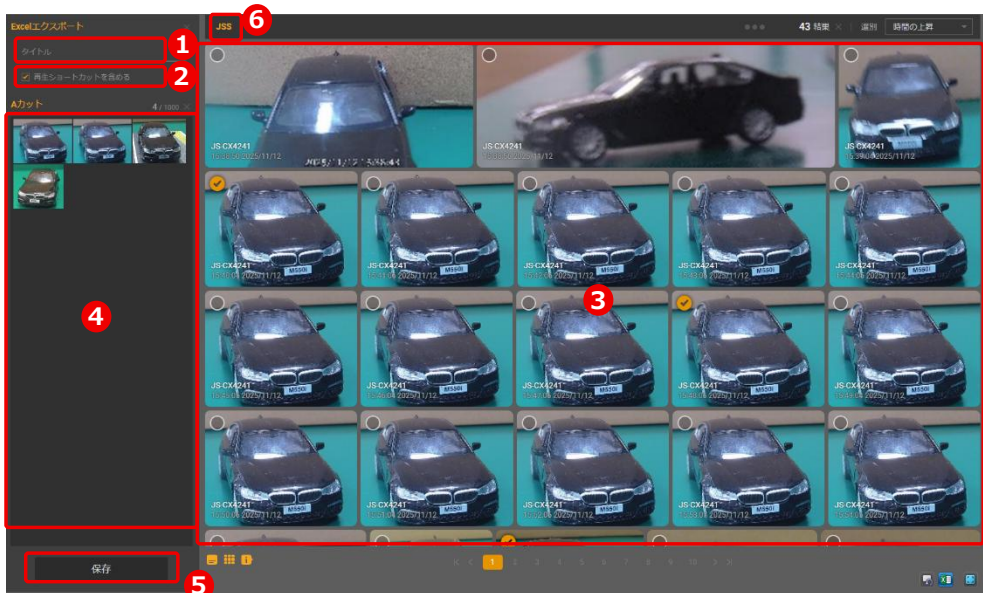
保存

PDFで保存



- タイトル：PDFレポートのタイトルを指定します。
- コメント：PDFレポートに追加するコメントを作成します。
- フッター：PDFレポートに追加するフッターを作成します。
- 保存後自動的に閉じる：PDFレポート保存後、ポップアップを自動的に閉じるかどうかを選択します。
- パスワードの使用：パスワードを使用するかどうかを選択し、パスワードを設定します。

エクセルファイルで保存



- 1 エクセルファイルのタイトルを指定します。
- 2 再生ショートカットを含む：エクセルファイルに再生ショートカットのリンクを含めます。含まれているリンクは保存した PCでのみ使用が可能です。
- 3 エクセルファイルに含まれる項目を選択します。最大1000項目を選択できます。
- 4 選択した項目のプレビューを表示します。表示されたプレビューをクリックすると、検索結果のその項目に移動します。選択項目数表示ウィジェットの右のXボタンをクリックしてすべての項目を選択解除できます。
- 5 エクセルファイルの保存を実行します。
- 6 エクセル保存ウィジェットのXボタンまたはエクセルファイル保存ボタンをクリックして保存モードを終了できます。

第23章 -付録

ショートカットキー

システムメニュー

1) システム

ショートカットキー	動作
Ctrl + E	• スクリーンキャプチャ画像ファイルの保存、これ以外にログの保存に対応している場合はログファイルの保存を実行。
Ctrl + Alt + P	• スクリーンキャプチャ画像の出力、これ以外にプリンター出力に対応しているタブではプリンター出力を実行。
Ctrl + Alt + L	• クライアントのS/Wロック機能手動実行。
Ctrl + Shift + P	• Preference Device ページを実行。

2) 画面

ショートカットキー	動作
Ctrl + Enter	• 選択したタブの全画面トグル。
Ctrl + Alt + Enter	• 選択したタブのツールバーを含む全画面トグル。
Ctrl + F	• 画面分割の選択/作成ダイアログボックスポップアップ。
Ctrl + PgDn	• 画面分割の前のグループに移動。
Ctrl + PgUp	• 画面分割の次のグループに移動。
Shift + Enter	• 選択したカメラペイン1 x 1分割トグル。
PgDn	• 選択したカメラペインの前のペインを選択。
PgUp	• 選択したカメラペインの次のペインを選択。
F3	• 拡大実行。
Ctrl + Q + ROI-Drag	• 選択したカメラペインの映像画像をドラッグして指定し、エリアのピクセルカウンターを表示。
Ctrl + Alt + E:	• 緊急イベントパネルポップアップトグル。
Alt + F6	• メインフレームにドッキングされているタブの右側のタブを選択
Alt + Shift + F6	• メインフレームにドッキングされているタブの左側のタブを選択

3) 監視

ショートカットキー	動作
T	• 選択したタブの全画面トグル。
Shift + Home	• 選択したタブのツールバーを含む全画面トグル。
Home	• 画面分割の選択/作成ダイアログボックスポップアップ。
Pause(Break)	• 画面分割の前のグループに移動。

4) 再生

ショートカットキー	動作
Ctrl + Space	• 選択したカメラペインの再生セッション再生/停止トグル。
Ctrl + Shift + Space	• 選択した再生スクリーンの再生セッション一括再生/停止トグル。
Ctrl + L	• シャトルステップ速度を上げる/ステップ別制御/キー入力の間連続実行。
Ctrl + J	• シャトルステップ速度を下げる/ステップ別制御/キー入力の間連続実行。
Ctrl + K	• シャトルステップリセット（再生停止）。
Ctrl + P	• 順方向1 x 再生。
Ctrl + H	• 順方向高速再生/ステップ別制御。
Ctrl + G	• 逆方向高速再生/ステップ別制御。
Ctrl + T	• 時間移動の時間設定ダイアログボックスポップアップ。
Home	• 最初の時点に移動。
End	• 最後（直近）の時点に移動。
F	• フレーム単位で次に移動
D	• フレーム単位で前に移動
Ctrl + キーボードの右矢印ボタン	• 1秒単位で次に移動/キー入力の間連続実行。
Ctrl + キーボードの左矢印ボタン	• 1秒単位で前に移動/キー入力の間連続実行。
Shift + キーボードの右矢印ボタン	• 1分単位で次に移動/キー入力の間連続実行。
Shift + キーボードの左矢印ボタン	• 1分単位で前に移動/キー入力の間連続実行。
Alt + キーボードの右矢印ボタン	• 10分単位で次に移動/キー入力の間連続実行。
Alt + キーボードの左矢印ボタン	• 10分単位で前に移動/キー入力の間連続実行。
（再生ボタンの上）マウスホイールボタンをスクロール	• ジョグフレーム単位で移動。
（前/次ボタンの上）マウスホイールボタンをスクロール	• 保存されている時間単位で移動。
（シャトルの上）マウスホイールボタンをスクロール	• シャトルステップを制御。
（シャトルの上）マウスの右ボタンをクリック	• シャトルロックトグル。
（シャトルの上）マウスホイールボタンをクリック	• シャトルリセット（再生停止、ロック解除）

監視

ショートカットキー	動作
L	• 双方向オーディオのプレビュー再生トグル。
Tab	• カメラペイン映像のストリーム情報OSD表示トグル。
(ライブポップアップの上) F4	• ライブポップアップタイムアウトタイマーのキャンセル (解除)。

スクリーン

ショートカットキー	動作
ペイン(A)をドラッグしてペイン(B)にドロップ	• ペインの位置変更/A、Bすべてのデバイスが登録されている場合、2つのペインのデバイスを互いに変更。
C + ペイン(A)をドラッグしてペイン(B)にドロップ	• Aに登録されているデバイスをBに複製。
ペイン(A)をドラッグして別のスクリーンのペイン(B)にドロップ	• Aに登録されているデバイスをBとして複製/Aが単再生であり、Bが再生スクリーンの場合、デバイス登録およびその時点で GoTo。

シーケンス

ショートカットキー	動作
Shift + PgDn	• 次のレイアウトに移動。
Shift + PgUp	• 前のレイアウトに移動。
Ctrl + Shift + PgDn	• カメラ順次監視の次の項目に移動。
Ctrl + Shift + PgUp	• カメラ順次監視の前の項目に移動。

ホバーツールバー

ショートカットキー	動作
(ホバーツールバーの上) マウスホイールボタンをスクロール	• ホバーツールバー項目の左/右スクロール移動。

メッセージボックス

ショートカットキー	動作
Ctrl + C	• メッセージボックスのダイアログボックスの内容文字列をクリップボードにコピー、テキストエディタ (メモ帳) に Ctrl + V すると内容を貼り付け。

デバイス

ショートカットキー	動作
Numeric, Ins	• 選択したカメラペインに NumericIDデバイスを登録（ルートデバイス、カメラに対応）。
Numeric, L + Ins	• 選択したスクリーンにNumericIDのレイアウトを登録。
Del	• 選択したカメラペインに登録されているデバイスの登録（接続）解除。
Ctrl + Del	• 選択したカメラペインに登録されているデバイスのルートデバイスに関連するカメラペインデバイスの登録（接続）解除。
Shift + ドラッグ&ドロップ	• 選択したカメラペインに登録されているデバイスの登録（接続）解除。
Shift + A + ドラッグ&ドロップ	• スクリーンに登録されているデバイスの一括登録（接続）解除。
Ctrl + Alt + A + デバイスをカメラペインにドロップ	• スクリーン分割自動拡張デバイスの登録。
ライブポップアップパネルにドロップ	• 地点ツリーの下のライブポップアップでデバイスをドラッグ&ドロップすると、ライブポップアップを強制実行
マップペインにドロップ	• マップページのペインにデバイスをドラッグ&ドロップすると、そのデバイスの位置にフォーカス

スマートUX

1) 簡単再生

ショートカットキー	動作
I	• 以前に実行した時間感覚で簡単再生トグル。
Shift + I	• 1分簡単再生トグル。
Space	• 再生/停止トグル。
L	• 再生速度を上げる/ステップ別制御/キー入力の間連続実行。
J	• 再生速度を下げる/ステップ別制御/キー入力の間連続実行。
K	• 再生速度の初期化。
H	• 順方向高速再生/ステップ別制御。
G	• 逆方向高速再生/ステップ別制御。
P	• 順方向1 x 再生。
Home	• 最初の時点に移動。
End	• 最後（直近）の時点に移動。
F	• フレーム単位で次に移動
D	• フレーム単位で前に移動
キーボードの右矢印ボタン	• 1秒単位で次に移動/キー入力の間連続実行。
キーボードの左矢印ボタン	• 1秒単位で前に移動/キー入力の間連続実行。
Shift + キーボードの右矢印ボタン	• 1分単位で次に移動/キー入力の間連続実行。
Shift + キーボードの左矢印ボタン	• 1分単位で前に移動/キー入力の間連続実行。
Tab	• ウィジェット表示トグル。
Shift + Tab	• ウィジェット表示モード（垂直/水平）変更トグル。
B	• ブックマーク追加。
R	• 現時点を基準に更新/録画時間範囲のアップデート。

Shift + PgUp	• 録画時間範囲の<時間間隔> 前に移動。
Shift + PgDn	• 録画時間範囲の<時間間隔> 次に移動。
(キャプションタイムバーの上) マウスの右ボタンをクリック	• サムネイルモードトグル。
(再生ボタンの上) マウスホイールボタンをスクロール	• ジョグフレーム単位で移動。
(前/次ボタンの上) マウスホイールボタンをスクロール	• 1秒単位で移動。
(前/次ボタンの上) Shift + マウスホイールボタンをスクロール	• 1分単位で移動/録画時間区間が3分以下の場合は5秒単位で移動。
(キャプションタイムバーの上) マウスホイールボタンをスクロール	• 1秒単位で移動。
(キャプションタイムバーの上) Shift + マウスホイールボタンをスクロール	• 1分単位で移動/録画時間区間が3分以下の場合は5秒単位で移動。

2) クイックPTZ

ショートカットキー	動作
Ctrl + マウスの左ボタンドラッグ	• ポインターオフセット速度ベースのペン/チルト制御。
Ctrl + マウスの右ボタンドラッグ (上/下)	• ポインターオフセット速度ベースのズームイン/アウト制御。
Ctrl + マウスホイールボタンをスクロール	• ズームイン/アウト制御。
Ctrl + Shift+ マウスホイールボタンをクリック	• 最大ズームアウト実行。
Ctrl + Shift+ マウス左ボタンドラッグ	• 映像に保存されている位置が中央になるようにPan/Tilt 移動。
Ctrl + Alt+ マウス左ボタンエリアドラッグ	• 映像に保存されているエリアに Pant/Tilt/Zoom移動。
Ctrl + Alt+ マウスホイールボタンをクリック	• エリアズームヒストリーポップアップトグル。
Esc	• PTZ 制御モードで実行中の場合、制御モード解除。
キーボードの方向キー	• PTZ 8方向制御。
テンキー1~4、6~9	• PTZ 8方向制御。
テンキー5	• PTZプリセットポップアップ
+	• ズームイン。
Z	• ズームイン。
-	• ズームアウト。
X	• ズームアウト。
/	• 焦点を遠くに。
*	• 焦点を近くに。
テンキー0	• 絞りを開く。
.	• 絞りを閉じる。
S	• PTZ制御速度の設定。

3) クイックデワープ

ショートカットキー	動作
(オリジナル映像で) Ctrl + マウスの左ボタンエリアドラッグ	• 映像に保存されているエリアにデワープ。
Ctrl + マウスの左ボタンドラッグ	• 映像に保存されているエリアに Pant/Tilt移動。
Ctrl + マウスの右ボタンドラッグ (上/下)	• ズームイン/アウト微細制御。
Ctrl + +マウスホイールボタンをスクロール	• ズームイン/アウト制御。
Ctrl + マウスホイールボタンをクリック	• デワープ初期化。
Esc	• ePTZ。制御モードで実行中の場合、制御モード解除。

4) クイックダイナミックズーム

ショートカットキー	動作
(オリジナル映像で) Ctrl + マウスの左ボタンエリアドラッグ	• 映像に保存されているエリアに拡大。
Ctrl + マウスの左ボタンドラッグ	• ズームエリアに移動。
Ctrl + マウスホイールボタンをクリック	• ズーム初期化。
Ctrl + +マウスホイールボタンをスクロール	• ズームイン/アウト制御。
Esc	• ダイナミックズームモードで実行中の場合、ズームモード解除。

5) クイックセーブ

ショートカットキー	動作
Ctrl + S	• 設定 - 保存 - 停止映像に設定したパスおよびファイル名で停止映像自動作成。
Ctrl + Shift + S	• 停止映像を別の名前で保存。
Ctrl + C	• クリップボードに保存。

イベント録画モードのスケジュール設定例

デバイスが使用するプロトコルの種類及びデバイスモデルによってイベント録画に対応しないことがあります。
 (サポートプロトコル: JSS遠隔監視システムPROプロトコル、一部バージョンのAxis/Panasonic BB/Panasonic WV (DG)/RTSP/RTP/ONVIFプロトコル)

例1

“Inside 1”デバイスの1番カメラでモーション検知イベント発生時、該当映像を録画するには次のように設定します。

The configuration process is shown in four steps:

- プリセット選択 (Preset Selection):** A dialog box titled "プリセット選択" (Preset Selection) with the instruction "使用するプリセットを選択してください。" (Please select the preset to use.). It contains a table with columns "名前" (Name) and "記述" (Description). The entry "Always" with "毎日" (Daily) is selected. Buttons for "追加..." (Add...), "削除..." (Delete...), "修正..." (Edit...), and "確認" (Confirm) are present.
- 条件設定 (Condition Setting):** A dialog box titled "条件設定" (Condition Setting) with the instruction "以下から対象デバイスを選択してください。" (Please select the target device from the following.). It shows a tree view of devices. "Inside 1" is selected, and "CAM1" is highlighted. The "イベントの種類" (Event Type) section is expanded, and "CAM1 モーション検知" (CAM1 Motion Detection) is selected and circled in red. Buttons for "保存" (Save) and "キャンセル" (Cancel) are at the bottom.
- プリセット選択 (Preset Selection):** A dialog box titled "プリセット選択" (Preset Selection) with the instruction "使用するプリセットを選択してください。" (Please select the preset to use.). It contains a table with columns "名前" (Name), "記述" (Description), and "持続時間:" (Duration:). The entry "普通" (Normal) with "録画動作" (Recording Action) is selected. The duration is set to "30" seconds. Buttons for "確認" (Confirm) are present.
- 対象選択 (Target Selection):** A dialog box titled "対象選択" (Target Selection) with the instruction "以下から対象デバイスグループを選択してください。" (Please select the target device group from the following.). It shows a tree view of device groups. "Inside 1" is selected, and "イベントが発生したカメラ" (Camera where event occurred) is checked and circled in red. Buttons for "確認" (Confirm) and "キャンセル" (Cancel) are at the bottom.

- “時間条件”プリセット: “Always”のプリセットを選択します。
- “条件”プリセット
 - 条件の種類: “イベント条件”を選択します。
 - イベント発生デバイスと種類を選択してください: “すべてのデバイス” → “Inside 1” → “CAM1” を選択します。
 - イベントの種類: “モーション検知”を選択します。
- “アクション”プリセット: 希望するプリセットを選択します。
- “対象”プリセット: “イベントが発生したカメラ”オプションを選択します。

例2

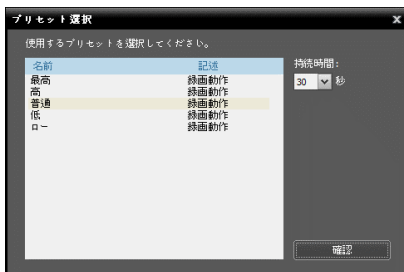
“Inside 1”デバイスの1番カメラでモーション検知イベント発生時、該当するカメラ及び“Inside 2”デバイスの1番カメラの映像を録画するには次のように設定します。

The following steps illustrate the configuration process:

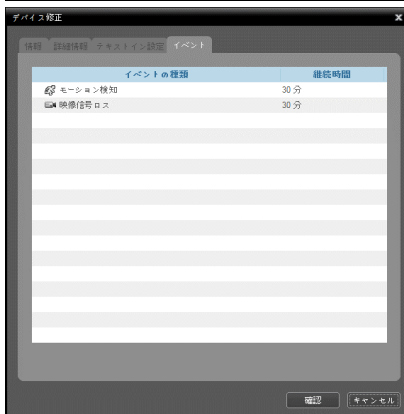
- プリセット選択 (Preset Selection):** The 'Always' preset is selected under the '名前' (Name) column.
- 条件の種類 (Event Condition):** The event type is set to 'モーション検知' (Motion Detection) and the device is set to 'CAM1'.
- 対象デバイス (Target Selection):** The target devices are 'CAM1' and 'CAM2'.
- アクション (Action):** The '録画動作' (Recording Action) preset is selected.

- “時間条件”プリセット: “Always”プリセットを選択します。
- “条件”プリセット
 - 条件の種類: “イベント条件”を選択します。
 - イベント発生デバイスと種類を選択してください: “すべてのデバイス” → “Inside 1” → “CAM1”を選択します。
 - イベントの種類: “モーション検知”を選択します。
- “アクション”プリセット: 希望するプリセットを選択します。
- “対象”プリセット: “イベントが発生したカメラ”オプションを解除します。 → “すべてのデバイス”リストで“Inside 1”デバイスの“CAM1”と“Inside 2”デバイスの“CAM1”を選択します。

イベント録画時間の例



- “録画スケジュール”メニュー > “アクション”スケジュール画面 - 持続時間: 30秒



- “デバイス”メニュー - ボタン > “デバイス修正” > “イベント”タブ - 継続時間: 30分

* 該当継続時間設定はJSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用しないデバイスの中イベント関連機能 に対応するデバイスの

イベント録画継続時間を30秒、イベント継続時間を30分に設定してから、1時にイベントが発生させた場合、録画時間は下記の通りになります。

プロトコル	デバイスからのイベント解除通報時間	録画時間
JSS遠隔監視システムPRO	該当なし	1:00:00 ~ 1:30:00
	X	1:00:00 ~ 1:30:30
JSS遠隔監視システムPRO以外	1:30:00	1:00:00 ~ 1:30:40
	1:40:00	1:00:00 ~ 1:30:30

OSD情報

“JSS遠隔監視システムPROクライアント”プログラム監視画面の各カメラ画面にOSDが表示されます。



- カメラ名: JSS遠隔監視システムPROで設定したカメラ名を表示します(画面の左上段)。
- (リスニングまたはトーク): デバイスのオーディオを受信したり、デバイスでオーディオを送信していることを示します(画面右上段)。
- (PTZ): PTZ制御が可能であることを示します(画面右上段)。
- (カメラの順次監視): カメラが順次監視中であることを示します(画面右)
- (赤色: 一般録画)、 (オレンジ色: 緊急録画)、(青色: 瞬間録画): 録画サーバーに映像が録画中であることを示します(画面右上段)。
- (映像拡大): 映像が拡大されたことを示します(画面右上段)。
- 日付、時間: JSS遠隔監視システムPROの日付及び時間を示します(画面下段)。
- イベント警告: イベントが検知されたことを示します(カメラ名バーの赤色表示)。
- モーションブロック: モーションイベントが検知されたエリアを表示します(映像上)(JSS遠隔監視システムPROプロトコルを使用するネットワークビデオエンコーダの場合にのみ対応)。
- (自動追跡) : 自動追跡機能が有効になっていることを示します。(画面右上段)
- (ローカルオーディオ) : ローカルオーディオが再生中です。(画面右上段)
- (映像分析) 現在の映像が映像分析中であることを示します。(画面右上段)
- (魚眼映像のオリジナル映像) (魚眼映像のデワーピング): 魚眼映像のデワーピングに対応していることを示します。(画面右上段)

ハードディスクの状態表示

ハードディスク状態が表示されます(“サービス”メニュー → 録画サービス選択 → マウス右ボタンをクリックすると現れるメニューで、“サービス設定”選択 → “ストレージ設定”タブ選択)。



- (ディスクエラー): ハードディスクに設定した比率以上の損傷があり、これ以上使用できないことを表します。ディスクエラーの比率設定は“サービス、システム設定”を参照してください。

ネットワーク接続解除ログ

ID	説明	ID	説明
0	原因を把握できないエラー	15	録画サービスに接続されない
1	ログアウト	16	デバイスに接続されない。ネットワークが停止する
2	デバイスのすべての通信チャンネル使用中	20	ユーザーが接続をキャンセルする
3	サポートしていないバージョン	26	接続に使われるRTPポートがすでに使用中である
4	ユーザーID及びパスワードのエラー	27	SSL連結失敗
10	デバイスが実行されない	28	ネットワーク連結時間超過
11	ネットワークが停止する	29	ホスト連結時間超過
12	デバイスが連結したネットワークに接続できない	30	RTP over TCPをサポートしないデバイス
13	接続時間超過。ネットワークビデオデバイスが応答しない		

映像分析検知のための正しいカメラ設定

映像分析検知が正しく動作するためには指示に従ってカメラが正しく設置されている必要があります。

位置

- 室内：照明を確認します。
 - 暗い照明：ビデオ分析機能の性能を低下します。明るい照明：下段の照明部分をご確認ください。
- 室外：天気を確認します。
 - 雨/雪：雨または雪をオブジェクトと区別し難く、雨または雪をオブジェクトとして検知する場合があります。
 - 光：虫または鳥が光に集まる場合に虫または鳥をオブジェクトとして検知する場合があります。カメラを光からできるだけ遠く設置し、できればブラケットを使用して設置する事をお勧めします。

照明

- 太陽：カメラが太陽に直接向けられている場合、ビデオ分析機能が動作しません。
 - 東または西の方向に設置しないでください。日の出、日の入り時に太陽がカメラの画角に入る恐れがあります。
 - サンシールド使用して太陽、光、埃などからレンズを守る事をお勧めします。
- 照明：カメラが照明に直接向けられている場合、ビデオ分析機能が動作しません。
 - カメラが照明のすぐ前に来る場合、カメラの角度を調節して照明が直接カメラを照らしたり、反射された光がカメラを照らさないようにしてください。

カメラ位置

- 高さ/角度：平面と垂直に近ければ近いほど検知領域の動きがはっきり認識されます。カメラは人の頭の高さより高いところに設置しなければなりません。


背景

- 床：床の光がカメラに反射される場合、カメラをできるだけ床と並行に設置してください。
- 窓：窓が太陽あるいは照明をカメラに反射する場合、カメラをできるだけ窓と並行に設置してください。

カメラ 設定

- 焦点：オブジェクト検知が可能な焦点は昼と夜でそれぞれ違う場合があります。昼と夜両方に最適化された焦点をテストして焦点を調節します。
- BLC：カメラが自動照明機能を支援する場合、その機能を使用しないように設定します。
- シャッタースピード調節：カメラが夜には自動的にシャッタースピードを減らす自動シャッタースピード調節機能を支援する場合、その機能を使用しないように設定します。

トラブルシューティング(Q&A)

症状	確認内容
サーバーが応答しなくてログインが失敗します。	<ul style="list-style-type: none"> ログインのスクリーンで  ボタンをクリックしてから管理サーバーの情報 が正しく設定されているか確認します。
映像監視を行うことができません。	<ul style="list-style-type: none"> デバイスグループにデバイスが追加されているか確認してください。 監視の権限があるのか確認してください。
映像監視中に接続が解除されてから再接続を繰り返す。	<ul style="list-style-type: none"> デバイスの状態及びデバイスとJSS遠隔監視システムPROのネットワークの接続状態を確認します。 ストリーミングサービスが動作中であるか確認します。ストリーミングサービスが動作しない場合にも映像の監視はできますが、この場合、そのデバイスで支援する最大同時接続ユーザー数によって監視することができるユーザー数が制限されます。
監視映像が見えません。	<ul style="list-style-type: none"> デバイスのカメラの接続状態を確認してください。 システムまたはネットワークの負荷によって監視映像が多少遅く見えることがあります。
双方向オーディオ通信を行うことができません。	<ul style="list-style-type: none"> デバイスとJSS遠隔監視システムPROのスピーカー及びマイクの接続状態を確認してください。 デバイスのオーディオ入力/出力の設定を確認してください。 双方向オーディオ通信は1:1でのみ行われます。デバイスが異なるシステムとすでに双方向オーディオ通信中の場合、該当する通信が解除された後に再び試みます。
録画がおこなわれません。	<ul style="list-style-type: none"> ストレージが割り当てられており、録画スケジュールが設定されているか確認してください。 デバイスの登録情報を確認します。“admin”ユーザーで登録されたデバイスに対してのみ録画機能をサポートします。 デバイスの録画状態を確認してください。一つのデバイスが他の管理サービスに登録された録画サービスにも登録されている場合、先に接続された一つの録画サーバーでのみ録画が行われます。最初の録画サービスとの接続が解除されない限り、他の録画サーバーではそのデバイスの映像を録画しません。現在の録画サーバーで映像を録画するには、他の録画サービスの管理サービスでデバイス登録を削除するか、デバイス情報を修正してデバイスを使用しないように設定します。
録画OSDが表示されません。	<ul style="list-style-type: none"> システムの負荷によって録画が遅れ、録画OSDがスケジュールで設定された時間より遅れて、または長く表示されることがあります。
WIBUキーが認識されません。	<ul style="list-style-type: none"> 該当USBポートからWIBUキーを取り除いた後、別のUSBポートに接続します。WIBUキーが接続されている管理サーバーに別のUSBデバイスを接続する場合、このような問題が生じることがあります。
ユーザーIDとパスワードを忘れてしまい、JSS遠隔監視システムPROを実行することができません。	<ul style="list-style-type: none"> JSS遠隔監視システムPROをアンインストールしてから再インストールします。ただし、アンインストール時、システムに保存されたすべてのデータを削除しなければならず、削除されたデータは復元することができません。
ポート番号エラーによりJSS遠隔監視システムPROが実行できません。	<ul style="list-style-type: none"> 該当ポート番号がセキュリティ上の理由で遮断されているか、別のプログラムで使用中の場合、“サービス管理者”プログラムでポート番号を変更します。ポート番号の基本値は管理サービスの場合11001、録画サービスの場合 11002、モニタリングサービスの場合 11004、ストリーミングサービスの場合11003、映像分析サービスの場合11007です。

<p>JSS遠隔監視システムPROのインストール中に問題が(システムの電源オフなど)発生してインストールもしくはアップグレードに失敗しました。</p>	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft® Windows®で提供するツールを使ってJSS遠隔監視システムPROの削除を試みます。 (URL 参照: https://support.microsoft.com/en-us/help/17588/fix-problems-that-block-programs-from-being-installed-or-removed) .当該ツールを使ってJSS遠隔監視システムPROプログラムを削除してから、再インストールします。
<p>クライアント監視タブでAI画像解析中JSS遠隔監視システムPROカメラの“映像分析表示”の実行時に映像が見えません。</p>	<ul style="list-style-type: none">• AI設定の“画像解析ストリーム”に設定されたストリームが、そのデバイスで使用していることを確認します。
<p>Wibukey Testerを起動すると、“WKWIN32.dllがないため、コード実行を行うことができません。”というエラーメッセージが表示されず。</p>	<ul style="list-style-type: none">• Wibukeyドライバーをインストールすると、正常動作します。